東京成徳大学

学修調査（行動・成果調査）報告書

企画・ＩＲ室

平成 28 年 12 月 14 日

目　次

はじめに ･･･ 2
Ⅰ　調査の目的と概要 ･･･ 3
　1　調査の目的　3
　2　調査の概要　3

Ⅱ　調査の結果と考察 ･･･ 4
　1　大学全体 ･･･ 4
　　1‐1　調査結果の概要　4
　　1‐2　課題と対応　9
　　1‐3　集計結果　14
　2　各学科の結果と考察 ･･･28
　　2‐1　人文学部　28
　　・日本伝統文化学科　28
　　・国際言語文化学科　49
　　2‐2　応用心理学部　70
　　・福祉心理学科　70
　　・臨床心理学科　89
　　・健康・スポーツ心理学科　107
　　2‐3　子ども学部　131
　　・子ども学科　131
　　2‐4　経営学部 147
　　・経営学科　147

Ⅲ　資　料 ･･･ 166
　1　アンケート票 ･･･ 166
　2　回答用紙 ･･･ 171
　3　回収状況 ･･･ 173

はじめに

自らの受けてきた教育訓練がベースになって、子どもたちの教育訓練は行われる。それが教育の確固たる伝統と文化を作りだす。

しかし、そのような考えで行われる教育がもっとも成果をあげるのは、社会が安定しゆるやかに変化する場合である。グローバル化とＩＣＴ技術の発展は、社会変化のスピードを激しいものとした。こんなとき、教育は、時代と社会から取り残されがちになる。今の日本は、そんな情勢のなかにいるのは間違いない。

こんな日本社会の中で大学に入学し４年間の学生生活をする学生諸君は、一体何を考え、どのような学修行動をしているのか、大学で何を身に着けて卒業していくのかをきちんと把握することは、大学での指導を効果的なものにし、さらに激変する社会で活躍できる人材を送り出すためには、きわめて重要である。

毎年７月に定期的に行わる本調査結果が本学の学生指導をより効果的なものにするために役に立つことを衷心より願うものである。

「謝辞」本調査にあたり、次の方々にご尽力いただいた。感謝します。
長谷部孝司（主査）、池田善英、石黒万理子、岩瀬弘和、岡本和彦、小林雅央、深山静夫、三輪晋督、内田善浩

平成 28 年 12 月 14 日

東京成徳大学
学長　海保　博之

Ⅰ　調査の目的と概要

1　調査の目的

本調査は、全学生を対象に、一人ひとりの学修行動・学修成果について毎年調査することで、4 年間を通した教育の成果がどの程度上がっているかを調べるものである。これによって、今後の教育プログラムのあり方や FD・SD の進め方、さらには学生指導のあり方等の見直しのために役立つ情報を得ようとするものである。IR の主要課題は DP の達成度を検証することであるが、その意味から本調査は、IR 活動の重要課題に応えるものである。

なお、本調査は、事実・実績面の調査も含むが、多くは学生自身の主観的な判断を求める方式で行われた。それには独自の意義があるが、調査の確度をさらに高めるためには、意識面のデータを実績面のデータ（入試の成績、GPA、進路など）と接合し分析することが不可欠である。今後の課題としたい。

2　調査の概要

（１）実施期間

2016 年 7 月 1 日～21 日

（２）調査対象者

東京成徳大学の全学生

（３）調査方法

アンケート用紙と記名式の回答用紙（マークシート方式）の配布と回収

（４）調査内容

・学修行動

学修環境、通学時間、アルバイト、部活、登校・出席状況、授業興味度・難易度、授業への取組姿勢、予修・復修・関連学習、授業以外の学修活動など

・学修成果

教育理念、外国語能力、ICT リテラシー、教養･基礎的スキル、専門知識・専門的スキル、社会で活躍する力、総合力、大学満足度

（５）実施主体

・企画・IR 室

・学修調査（行動・成果調査）ワーキンググループ

長谷部孝司（主査）、池田善英、石黒万理子、岩瀬弘和、内田善浩、岡本和彦、小林雅央、深山静夫、三輪晋督

（６）回収状況

学部・学科	回収数	在籍者数	回収率（%）
人文学部	146	184	79.3
応用心理学部	495	616	80.4
子ども学部　子ども学科	476	575	82.8
経営学部　経営学科	253	344	73.5
合　　計	1370	1719	79.7

（注）詳細は「Ⅲ　資料」の「3　回収状況」を参照せよ。

Ⅱ　調査の結果と考察

本調査は、学生の４年間を通した学修行動・学修成果の変化を調べることで、教育の成果がどの程度上がっているのかを明らかにしようとするものである。調査は毎年実施し、最終的には同一学生の 4 年間の変化を観察することになる。しかし、今回は第一回目の調査であるため、経年変化を見ることができない。そこで今回は、以下の二つの視点から調査結果を見ていくことで、教育成果の達成度を明らかにしていく。

① 各調査項目について、回答結果や到達度の全体的な状況および特徴を見る。

② 経年比較に代えて学年間の比較を行う。

なお、本文および図表の数字は割合表示とした。実際の人数や回答数は、本学ホームページの「企画・IR 室－報告書等－教職員の方々へ」（http://www.tsu.ac.jp/guide/tabid/842/Default.aspx）に掲載しているので、参照されたい。

1　大学全体

1－1　調査結果の概要

（1）学修行動

①あなた自身について

学修環境：全体では「実家で自分だけの部屋がある」が 68.1%で最も多い。「アパートで一人暮らし・シェアハウス・寮」を合わせると、約８割の学生が自宅で学修に集中できる環境にある。

通学時間：全体では「30～60 分程度」が 41.6%で最も多い。「30 分未満」と「60～90 分程度」を合わせると、9 割弱の学生が 90 分以内の通学圏におり概ね無理のない状況と言える。

アルバイト：全体では 83.9%と多数の学生がアルバイトをしている。時間別では「15 時間～20 時間」が 23.4%で最も多い。「10～15 時間・15～20 時間・20～25 時間・25 時間以上」を合わせると 66.2%となり、7 割弱が 10 時間以上となる。学年間の比較では、1～3 年生で増え、4 年生でも高水準である。

部活・サークルや学外のクラブ活動：全体では「なし」が 57.2%で最も多く、活動している場合でも「1～2 日」が 31.4%と最も多い。学年が上がるにつれて参加する割合は減っている。

休日の過ごし方：全体では「アルバイト」が 38.3%で最も多いが、「決まった予定はない」も 36.0%と同程度である。「研究・勉強」、「部活動」は 2.2%、5.1%と低調である。学年間の比較では、1～3 年生で「アルバイト」が増え「決まった予定はない」が減っている。

- **学修環境、通学時間**についてはおおむね適切な状況にある。
- 授業外・大学外での過ごし方は、**アルバイト**が多く**部活・サークル活動**は活発ではない。この関係は、学年が上がるにつれて進む傾向にある。

②1 週間（平均的な）における大学内での学修について

登校日数：全体では「5～6 日」が 53.5%で最も多く、次いで「3～4 日」が 29.8%である。学年が上がるにつれて登校日数は急速に減り、4 年生では「5～6 日」は 11.1%、「3～4 日」が 31.7%となっている。

授業への出席：全体では「80～100%」が 66.8%で最も多い。「60～80%」と合わせると 91.5%となり、9 割強の学生が出席率 6 割以上である。学年が上がるにつれて出席率は下がり、特に「80～100%」が大きく減っている。

授業への興味：全体では「40～60%」が 36.9%で最も多く、次いで「60～80%」が 29.3%である。4 割以上の授業に興味がある学生が 7 割 5 分、6 割以上では 4 割弱である。学年間の比較では、「80～100%」が 2 年生で相対的に少なく 4 年生で多いが、全体として学年進行との関連性は必ずしも明確ではない。

授業の難易度：全体では「普通」が 61.2%で最も多い。「普通・やや・非常に易しい」を合わせると 78.3%であり、8 割弱の学生は授業を難しいとは考えていない。学年が上がるにつれて「やや・非常に難しい」の合計が減る傾向にあり、3･4 年生では約 11%となっている。

卒業への自身：全体では「80～100%」が 61.7%で最も多く、学年が上がるにつれて「80～100%」が増え、4 年生では 80.2%となっている。

授業への積極的取り組み：全体では「ある程度できている」が 34.5%で最も多い。

本調査では到達度の測定を 6 段階で行っていることが多いので、その場合は、後半の 3 段階（ある程度・ほぼ・よくできている）を一定のレベルに達したものと見なすこととする（以下の考察でもこの見方を用いる）。

これによれば、ここで「ある程度・ほぼ・よくできている」の合計は 61.4%であり、6 割強の学生はまずまずの取り組み姿勢にあると言える。学年間の比較では、2 年生で「ほぼ」が相対的に少なく、4 年生で「よく」が相対的に多いが、全体として学年進行との関連性は必ずしも明確ではない。

- **登校日数、授業への出席**は、学年が上がるにつれて減少・低下する。
- **授業への興味**は、6 割以上の授業に興味がある学生が 4 割弱で、学年進行との関連は不明確。
- **授業の難易度、卒業への自信**は、8 割弱の学生が授業を難しいとは思っておらず、卒業への自信も学年進行に伴い強くなり 4 年生では 8 割強が強い自信を持っている。
- **授業への積極的取り組み：**6 割強の学生がある程度以上できている。学年進行との関連は不明確。

③1 週間（平均的な）における教室外での学修時間について

指示された授業発表の準備、課題・レポート、宿題：全体では「90 分～3 時間」が 37.1%で最も多い。「90 分未満」の 32.0%と合わせると約 7 割が 3 時間未満である。学年間の比較では、1～2 年生で時間数が増え、2～4 年生では時間数が減っている。

自発的な授業の予修：全体では「やっていない」が 61.3%で最も多い。取り組んでいる場合でも「90 分未満」が 28.8%でほとんどである。学年間には差異があるが、学年が上がることに伴う傾向性はない。

自発的なノート整理や復修：全体では「やっていない」が 49.6%で最も多い。やっていても「90 分未満」が 37.0%でほとんど。学年が上がるにつれて「やっていない」が増え、3･4 年生では約 55%となる。

授業に関連する資料・文献調べ：全体では「やっていない」が 47.3%で最も多い。やっていても「90 分未満」が 37.3%でほとんど。学年が上がるにつれて「やっている」が増える傾向にあり、4 年生では時間数を措けば「やっている」学生が 60.2%となり、90 分以上でも約 25%となる。

指示された発表準備や宿題は多少はやっているが、**自発的な**予修、復修、関連学修はあまりやってはいない。全体としてみれば、学年が上がるにつれて時間数が増えているとも言えない。

④授業以外の学修活動や普段の行動

美術館・博物館・コンサートなどの学外での学修活動：全体では「たまに行く」が 43.1%で最も多く、「行ったことはない」が 30.8%である。学年が上がるにつれて「行ったことはない」は減る傾向にあり、3･4 年生では約 27%となっている。

新聞を読む：全体では「読まない」が 61.5%で最も多く、次いで「たまに読む」が 29.4%である。学年間の比較では､4 年生の読む割合（49.1%）が 1～3 年生（約 35%）に比べて高い。

定期的に読む雑誌：全体では「読まない」が 60.4%で最も多く、次いで「漫画雑誌を読む」が 22.2%である。学年が上がるにつれて「読まない」がやや減る傾向にある。

インターネット：全体では 98.6%が使っている。時間別では 1 日「90 分～3 時間」が 28.5%で最も多く、次いで「3～4 時間 30 分」が 20.3%である。学年間の比較では、1～3 年生で 3 時間以上がやや増えるが 4 年生では減っている。

ゲーム：全体では「やっていない」が 37.2%で最も多く、次いで「90 分未満」が 33.8%である。学進行に伴う変化はほとんどない。

読書：全体では「読まない」が 53.3%で最も多く、次いで「月に 2 冊」が 34.6%である。学年間の比較では、4 年生の読む割合（54.7%）が 1～3 年生（約 41～46%）に比べて高い。

・学外の学修活動	「行く」が全体の約 7 割、学年が上がるにつれて行く割合が増えている。
・新聞、雑誌、読書	「読む」が全体の約 4～5 割、学年間の比較では、新聞と読書は 4 年生で読む割合が高く、雑誌は学年が上がるにつれて読む割合がやや増える傾向にある。
・インターネット	ほぼ全員が使用、1～3 年生で使用時間数がやや増え、4 年生では減っている。
・ゲーム	「やっている」は全体の 6 割強、学年間の違いはほとんどない。

（２）学修成果

①教育理念について

全体では「ほとんど知らない」が 31.7%で最多､「まったく知らない」と合わせると 57.7%。半数以上が知らない状態。学年間の比較では、上位学年ほど「まったく知らない」が増える傾向にある。

②外国語能力について

外国語の選択：全体では「英語」が 61.7%で最も多く、「中国語」､「韓国語」は 10.8%、11.5%である。「選択していない」は 14.8%である。学年間の比較では、4 年生で「選択していない」がやや少ない。

読む力：全体では「多少はある」が 42.1%で最も多い。「ある程度・ほぼ・大いにある」の合計は 20.0%である。学年間の比較では、三者の合計にほとんど違いはない。

会話力：全体では「ほとんどない」が 38.1%で最も多い。「ある程度・ほぼ・大いにある」の合計は 14.8%である。学年間の比較では、三者の合計が 2･3 年生では若干少ないが大差はない。

書く力：全体では「ほとんどない」が 35.2%で最も多いが、それに次ぐ「多少はある」も 35.0%と同程度である。「ある程度・ほぼ・大いにある」の合計は 12.2%である。学年が上がるにつれて「ほとんどない」がやや増え、「多少はある」が減っている。「ある程度・ほぼ・大いに」の合計はほぼ同じ。

資格・検定：全体では「ない」が 81.0%で最も多い。学年間の比較では、「目指している」が 1･2 年次では 2 割程度あるが、3･4 年次では 1 割弱に減る。

・**外国語を選択**している学生は8割5分で、ほとんどが**英語**である。
・**読む力、会話力、書く力**は、全体では「ある程度・ほぼ・大いに」の合計が12.2～20.0%の範囲内にとどまる上に、学年が上がるにつれて力がやや落ちるケースも見られる。**資格・検定**もほとんど保持・受験していない。外国語教育については、**学修成果がほとんど確認できない**状況である。

③ICTリテラシー（＝情報機器やインターネットを使う能力）について

文章作成：全体では「ある程度できる」が30.1%で最も多く、「ほぼ・よくできる」と合わせると62.8%である。学年が上がるにつれて三者の合計は増える傾向にあり3･4年生では7割前後となる。

表計算：全体では「多少はできる」が39.3%で最も多い。「ある程度・ほぼ・よくできる」の合計は34.6%である。学年が上がるにつれて三者の合計は増える傾向にあり、3･4年生では4割前後となる。

プレゼンテーション：全体では「多少はできる」が34.7%で最多。「ある程度・ほぼ・よくできる」の合計は51.5%である。学年が上がるにつれて三者の合計は増加傾向にあり、3･4年生で6割前後となる。

アプリ作成：全体では「まったくできない」が62.1%で最も多い。「ある程度・ほぼ・よくできる」の合計は4.2%である。学年が上がるにつれて三者の合計は若干増えるが4年生でも6.7%である。

資格・検定：全体では「ない」が86.1%で最も多い。学年が上がるにつれて「ある」が増え、4年生では8.2%となる。

ICTリテラシーは、全体では「ある程度・ほぼ・よく」の合計が34.6～62.8%の範囲内にある。学年が上がるにつれて三者の合計が増え、3･4年生では4～7割前後となる。六つの学修領域の中では、**相対的には学修成果が上がっている**ものの一つである。

④教養・基礎的スキルについて

知識と教養：全体では「ほとんどない」が39.3%で最も多い。「ある程度・かなり・大いにある」を合わせると13.3%である。学年が上がるにつれて「多少はある」が増えている。また、1年生の「ある程度ある」が上級生に比べてやや少ない。

論文・文献・統計の検索スキル：全体では「多少はある」が41.2%で最も多い。「ある程度・かなり・大いにある」の合計は19.6%である。学年が上がるにつれて三者の合計は増え、4年生では27.8%となる。

レポート・論文作成スキル（書式、作法）：全体では「多少はある」が48.5%で最も多い。「ある程度・かなり・大いにある」の合計は20.7%である。学年が上がるにつれて三者の合計は増える傾向にあり、4年生では26.1%となる。

ディスカッション：全体では「多少はできる」が43.7%と最も多い。「ある程度できる・ほぼできる・よくできる」の合計は34.0%である。学年が上がるにつれて三者の合計は増える傾向にあり、4年生では39.3%となる。

教養・基礎的スキルは、全体では「ある程度・ほぼ・よく」の合計が13.3～34.0%の範囲内にある。学年が上がるにつれて三者の合計は若干高まるが、4年生でも15.7～39.3%であり、**十分な学修成果が出ているとは言えない**状況にある。

⑤専門知識・専門的スキルについて

専門知識の理解：全体では「多少は理解している」が51.6%で最も多い。「ある程度・ほぼ・よく理解している」の合計は25.0%である。学年が上がるにつれて三者の合計は増え、4年生では31.6%となる。

専門知識の使用：全体では「多少は理解している」が 44.2%と最も多い。「ある程度・ほぼ・よく理解している」の合計は 17.5%である。学年が上がるにつれて三者の合計は増える傾向にあり、3･4 年生では 22.3～23.8%となる。

専門的スキル：全体では「多少は理解している」が 53.4%で最も多い。「ある程度・ほぼ・よく理解している」の合計は 15.6%である。学年が上がるにつれて三者の合計は増え、4 年生では 23.2%となる。

専門分野の資格：全体では「ない」が 69.2%で最も多い。学年が上がるにつれて「ある」とする割合が増え,4 年生では 18.2%となる。

> **専門知識・専門的スキル**は、全体では「ある程度・ほぼ・よく」の合計が 15.6～25.0%の範囲内にある。学年が上がるにつれて若干高まっていくが、4 年生でも 22.3～31.6%であり、**十分な学修成果が出ているとは言えない**状況にある。

⑥社会で活躍するための力（キャリア教育、社会人基礎力）について

「働く」ことのイメージ：全体では「多少はできている」が 37.1%で最多。「ある程度・ほぼ・よくできている」の合計は 50.7%。学年が進むにつれて三者の合計は若干増え、4 年生では 53.9%となる。

将来の進路：全体では「多少は決まっている」が 27.8%と最多。「ある程度・ほぼ・すでに決まっている」の合計は 40.3%。三者の合計は、1～3 年生では減っているが、4 年次には増え 55.8%となる。

目標に粘り強く取り組む：全体では「多少はできる」が 35.5%で最も多い。「ある程度・ほぼ・すでに決まっている」の合計は 52.0%。学年が上がるにつれて三者の合計は増え、4 年生では 60.9%となる。

課題発見と解決：全体では「多少はできる」が 46.2%で最も多い。「ある程度・ほぼ・よくできる」の合計は 38.5%である。学年が上がるにつれて三者の合計は増え、4 年生では 50.6%となる。

意見交換による協働：全体では「多少はできる」が 34.9%で最も多い。「ある程度・ほぼ・よくできる」の合計は 56.3%である。学年が上がるにつれて三者の合計は増え、4 年生では 62.9%となる。

> **キャリア教育**は、全体では「ある程度・ほぼ・よく」の合計が 40.3～50.7%の範囲内にあり、学年が上がるにつれて三者の合計は増え、4 年生では 53.9～55.8%になる。
>
> **社会人基礎力**は、全体では「ある程度・ほぼ・よく（すでに）」の合計は 38.5～56.3%の範囲内にある。学年が進むにつれて三者の合計は増え、4 年生では 50.6～62.9%となる。
>
> 両者とも、六つの学修領域の中では、**相対的には学修成果が上がっている**ものの一つである。

⑦総合力について

ものの見方・考え方：全体では「多少はできている」が 49.7%で最多。「ある程度・ほぼ・よくできている」の合計は 36.7%である。学年が上がるにつれて三者の合計は増え、4 年生では 52.9%となる。

自分の考えを説明する：全体では「多少はできている」が 44.4%で最も多い。「ある程度・ほぼ・よくできている」の合計は 38.6%である。学年が上がるにつれて三者の合計は増え、4 年生では 48.3%となる。

仕事・社会的活動に必要な力：全体では「多少はできている」が 49.4%で最も多い。「ある程度・ほぼ・よくできている」の合計は 32.4%である。学年が上がるにつれて三者の合計は増え、4 年生では 51.4%となる。

他者との相互理解：全体では「多少はできている」が 41.4%で最も多い。「ある程度・ほぼ・よくできている」の合計は 48.3%である。学年が上がるにつれて三者の合計は増え、4 年生では 60.0%となる。

大学満足度：全体では「多少は思っている」が 31.6%で最も多い。「ある程度・ほぼ・大いに思っている」の合計は 56.3%である。学年進行との関連性は必ずしも明確ではない。

総合力は、全体では「ある程度・ほぼ・よく」の合計が 32.4～48.3%の範囲内にあり、学年が上がるにつれて三者の合計は増え、4 年生では 48.3～60.0%となる。六つの学修領域の中では、**相対的には学修成果が上がっている**ものの一つである。 **大学満足度**は、全体では「ある程度・ほぼ・大いに」の合計が 56.3%である。学年の進行との関連性は明確ではない。

1－2　課題と対応

（1）学修行動

①結果の要約

登校日数・授業への出席率	学年が上がるにつれて減少・低下する。
授業外・学外の過ごし方	学年が上がるにつれてアルバイトが増え、部活等は減る。 予修、復修、関連学習はあまりやっていない。
授業への興味・取り組み、難易度・卒業への自信	授業への興味は、6 割以上の授業に興味がある学生が 4 割弱、授業への積極的取り組みは、6 割強の学生がある程度以上できている。ともに学年進行との関連は不明確。 授業の難易度、卒業への自信は、8 割弱の学生が授業を難しいと思っておらず、卒業への自信も学年進行に伴い強まる。
発表準備・課題、予修、復修、関連学修	指示されれば多少はやるが、自発的にはあまりやらない。
授業以外の学修活動	学年が上がるにつれて美術館・コンサート等へ行く学生が増える。新聞・雑誌・読書を行うのは全体の4～5割程度。

②登校日数・授業への出席率

登校日数は、1 年生では 9 割が「5～6 日」であるが、学年が上がるにつれて減少していく。3･4 年次で大きく減ることから、基本的には履修科目数の自然減の結果と見ることができるが、他方で、**授業への出席率**も学年が上がるにつれて低下している。出席率の低下が登校日数減少の原因となっている可能性がある。

出席率低下の原因はいろいろ考えられるが、一例として、アルバイトの影響が考えられる。後述のように、学生の学外・授業外の過ごし方としてアルバイトは大きな比重を占め、しかも、学年が上がるにつれてその比重が増している。「アルバイト時間別の学修行動・成果の動向」（大学 HP 内の「企画・IR 室－教職員の方々へ」所収）によれば、アルバイトの時間数が増えるにつれて登校日数、授業への出席率が下がっている。

登校日数・出席率を減少・低下させないためには、出欠管理をさらに厳密化していくなどの対策（それにより登校日数も改善）が必要である。

③授業外・学外の過ごし方

ほとんどの学生が**アルバイト**をしており、その時間数は学年が上がるにつれて増える傾向にある。他方、**部活・サークル活動**に取り組むのは1年生でも5割強で、学年が上がるにつれて減って行く。また、**予修･復修、関連学習**などはあまりやっていない。これらから、授業外・学外での時間の過ごし方として、アルバイトが大きな比重を占めている。

アルバイトの学修行動･成果への影響は、先の「アルバイト時間別の学修行動・成果の動向」によれば、まったくアルバイトをしていない学生よりも適度にしている学生の方が、「キャリア教育・社会人基礎力」、「総合力」において良い成果が得られる傾向にあり、「ICT リテラシー」、「教養・基礎的スキル」、「専門知識・専門的スキル」でも、後者が前者に劣る傾向はまったくない。アルバイトをする学生はしない学生に比べてもともとエネルギッシュである可能性もあるが、アルバイト自体に一定の教育効果があることも間違いない。ただし、先述のように「登校日数・授業への出席率」については負の影響が明確であり、また、「発表準備・課題」、「予修・復修」についても時間数が多い場合には同様の傾向が見られるので、適度な時間数にとどめるよう指導することも必要である。

④授業への興味・取り組み、難易度・卒業への自信

授業への興味、授業への積極的取り組みは、前者については、6割以上の授業に興味がある学生が4割弱で、後者については、6割強の学生がある程度以上できているとしている。両者とも学年進行との関連性は必ずしも明確ではない。

大学教育が学部・学科単位で行われていること踏まえると、専門分野の授業が増えるにつれて授業への興味関心が高まり取り組みの姿勢もより積極的になっていく形が望ましい。専門分野の授業への興味・関心を高めることをFDの課題とし、工夫・改善に努めることが必要であろう。

授業の難易度、卒業への自信は、8割弱の学生が授業を難しいとは思っておらず、それを反映して、卒業への自信も学年進行に伴い強くなり 4 年生では 8 割強が強い自信を持つに至っている。授業の難易度については、学生自身の努力もあるが、学生の反応を見ながら教員が授業の進め方を工夫していることにもよると思われる。概ね適切な状況にあると言えよう。

⑤発表準備・課題、予修、復修、関連学修

指示された発表準備や宿題は多少はやっているが、**自発的な**予修、復修、関連学修はあまりやってはいない。全体としては、学年が上がるにつれて時間数が増えているとも言えない。教室外での学修時間については、不十分と言える。

昨今、大学教育では、新たな問題の発見とそれを解決するための高度な思考力などを育成する教育方法として、アクティブラーニングの導入が求められている。これを効果的に進めていくには学生の授業への積極的参加が必要であり、そのためには、教室外での事前学修・調査などが不可欠である。教室外での学修時間を増やす必要がある。

これについては、例えば、「自発的な」学修と「指示された」学修を比べると、時間数を措くとすれば、後者では9割強が取り組んでおり前者よりもかなり多い。指示を与えれば学生はそれに応える用意があると言える。他方、その場合でも時間数があまり多くない点については（「90 分未満・90 分～3 時間」がほとんど）、学生の意欲の問題と同時に、教員が宿題や課題をあまり出していないことによる可能性もある。課題や宿題の出し方についてもFDの課題とし、適度な量を課すことで教室外での学修時間の増加を促すことも必要であろう。

⑥授業以外の学修活動

美術館、博物館、講演会、コンサートなどに行く学生は全体の約 7 割で、学年が上がるにつれて「行く」割合が増えており、興味・関心の広がりが見られる。

インターネットはほぼ全員が利用し、**ゲーム**は全体の 6 割強が「やっている」。社会の情報化の進展状況から見て、一般的な範囲内と思われる。

新聞、雑誌、読書については、読んでいるのは全体の約 4～5 割である。昨今の活字離れを反映して、十分なレベルとは言い難い。

「読書量別の学修行動・成果の動向」（「企画・IR 室－教職員の方々へ」参照）によれば、読書量が多くなるにつれて「授業の発表準備、課題・レポート」、「予修・復修」、「関連学習」などの学修行動とともに、「ICT リテラシー」、「教養・基礎的スキル」、「専門知識・専門的スキル」などの学修成果においても、正の影響がかなり明確に現れている。学生の読書量を増やすための工夫が必要である（「学部・学科推薦図書」の学生への周知徹底、「ゼミ推薦図書」の新設、授業内での「教員推薦図書」の紹介、春期・夏期休暇時の読書の課題化、人気作家による「学内講演会」の開催、図書館による「推薦・話題図書の紹介」促進など）。

その他、入学試験（AO、推薦入試の面談・面接）の際に、選抜基準の一つとして読書状況を考慮すること（読書について質問する際には、個人情報保護への十分な配慮を要する）なども考えられる。

（２）学修成果

①結果の要約

教育理念	半数以上が知らない
外国語	学修成果がほとんど確認できない
ICTリテラシー	相対的には学修成果が上がっている
教養・基礎的スキル	十分な学修成果が出ているとは言えない
専門知識・専門的スキル	十分な学修成果が出ているとは言えない
キャリア教育・社会人基礎力	相対的には学修成果が上がっている
総合力	相対的には学修成果が上がっている

②教育理念

全体の半数以上が知らない。教育理念については、学生募集時の大学紹介や入学式では説明されるが、入学後には説明される機会がほとんどなく、その結果であろう。入学後にも折に触れ、教育理念を語る機会を作ることが必要である。

③外国語

読む力、会話力、書く力が、ある程度以上あるとする学生は全体の 12.2～20.0%にとどまり、書く力などは学年が上がるにつれて落ちている。**資格・検定**もほとんど保持・受験していない。外国語教育については、**学修成果がほとんど確認できない**状況である。

大学における外国語教育については、かなり以前からその形骸化、機能不全化が進んでいると考えられる。それに対して各大学は、第二外国語からの撤退、英語の必修から選択への切り替えなど、現状追認型

の対応に追われるケースも少なくなかった。このような消極的な対応を続けることはもはや限界と言える。大学における外国語教育の目的と目標水準を改めて問い直し、そのための新たな教育方法を工夫することが必要である。

例えば、従来は外国語が得意な教員が教える方式であったが、単に得意であるというのではなく、「教え方」自体に高いスキルを持つ「外国語教育の専門家」による指導に切り替えるとともに、それを全学的に可能とする教育体制への再編を図るなどが考えられる。

④ICT リテラシー

文書作成、表計算、プレゼンテーションスキルが、ある程度以上あるとする学生は全体の 34.6～62.8%であり、学年が上がるにつれてその割合は高くなる。六つの学修領域の中では、**相対的に学修成果が上がっている**ものの一つである。

ただし、ICT リテラシーの重要性は、情報化の進展とともにますます高まると思われる。また、具体的に見ると、表計算についてはできるとする学生の割合は、他のスキルに比べて低い。現状の「34.6～62.8%」の水準では十分とは言い難い。ICT リテラシーをさらに高めることが必要である。

例えば、**文書作成、表計算、プレゼンテーションスキル**は、学部・学科の違いを超えた共通スキルであるので、これらスキルの育成を全学的に担う教育体制への再編なども選択肢の一つであろう。

⑤教養・基礎的スキル

教養・基礎的スキルの各項目については、ある程度以上身に付いているとする学生は全体の 13.3～34.0%であり、学年が上がるにつれてその割合は高くなるが、4 年生でも 15.7～39.3%であり、**十分な学修成果が出ているとは言えない**。

大学教育において、専門知識の他に幅広い教養や基礎的スキルを培う必要性は大方が認めるところであるが、実際に実施してみると、学生の興味や関心を十分に引きつけ成果を上げることは容易でなはない。また、教養教育・導入教育を専門的に担う組織がない学部・学科では、優先的な課題とはなりにくいと言える。教養・基礎的スキルについても、学部・学科の違いに十分配慮しつつ、外国語や ICT リテラシーの場合と同様にこれらの育成を全学的に担う教育体制を検討する余地があろう。

⑥専門知識・専門的スキル

専門知識・専門的スキルの理解、利用等について、ある程度以上身に付いているとする学生は全体の 15.6～25.0%であり、学年が上がるにつれてその割合は若干高まっていくが、4 年生でも 22.3～31.6%であり、**十分な学修成果が出ているとは言えない**。

資格取得などを前提に専門的職業への従事を目指す実学系の学部・学科の場合はともかく、その他の文科系の学部・学科では、卒業後の職業生活において、大学で学んだ専門知識や専門的スキルをそのまま用いることはごく稀である。そのため、それらを学ぶ実用的な意味を感じにくいところもある。

しかし、専門知識・専門的スキルの修得が大学教育の最重要課題である以上、さらなる改善が必要である。そのために、授業評価、FD 等を通した改革の努力が行われているが、多くの場合、具体的な課題設定がなされないままに行われる傾向にある。授業評価、FD のあり方・進め方自体を見直しつつ改革を進めることが必要である。

⑦キャリア教育・社会人基礎力

キャリア教育・社会人基礎力の各項目については、ある程度以上身に付いているとする学生は、それぞれ全体の 40.3～50.7%、38.5～56.3%であり、学年が上がるにつれてその割合が増え、4 年生では 53.9～55.8%、50.6～62.9%となる。両者とも、六つの学修領域の中では、**相対的に学修成果が上がっている**ものの一つである。

キャリア教育・社会人基礎力については、大学の独自の教育プログラム（授業）による効果と同時に、部活・サークル活動、アルバイトなどを通じて養われる部分も少なくないと思われる（「アルバイト時間別の学修行動・成果の動向」参照）。

アルバイトについては、ほとんどの学生が行っており、過剰の時間を割くケースもあるので、これ以上増やすことは総合的に見て好ましくない。

他方、教育プログラムについては、その効果だけを見ることは今回の調査ではできないが、4 年生で「53.9～55.8%、50.6～62.9%」という水準からすれば、さらに改善の余地があると思われる。

最後に、部活・サークル活動については、もともと参加者が少なくその上学年が進むにつれて減少している。社会人基礎力を高めるためには、これらを活性化することも必要であろう。

⑧総合力

総合力の各項目については、ある程度以上身に付いているとする学生は全体の 32.4～48.3%であり、学年が上がるにつれてその割合は増え、4 年生では 48.3～60.0%となる。六つの学修領域の中では、**相対的には学修成果が上がっている**ものの一つである。

ただし、4 年生で「48.3～60.0%」という水準は、逆に言えば、４～５割の学生の総合力が不十分と言うことである。さらに高める必要がある。

そのための方法を考えるために、再度上記五つの学修領域を見ると、相対的に学修成果が上がっているのは「ICT リテラシー」、「キャリア教育・社会人基礎力」、十分な学修成果が出ているとは言えないのが「教養・基礎的スキル」、「専門知識・専門的スキル」であり、学修成果が確認できないのが「外国語」であった。授業以外では、アルバイトや部活・サークル活動にも一定の効果があると言える。

これらを踏まえると、「教養・基礎的スキル」、「専門知識・専門的スキル」の学修は、現状では総合力の涵養に十分につながっておらず、教育の内容面も踏まえると、「キャリア教育・社会人基礎力」やアルバイトなどが相対的には重要な役割を果たした可能性がある。自分独自の「ものの見方・考え方」を作り上げ、それを「文章や口頭で他者に説明する」力は、「専門知識・専門的スキル」、「教養・基礎的スキル」の学修によって培われる部分が大きいと思われる。両分野の学修成果を高めることが、総合力をさらに高める上で重要なポイントになると言えよう。

最後に、**大学満足度**は、ある程度以上満足している学生は全体の 56.3%である。この数字は低いとまでは言えないが、十分とも言えない。大学が学びの場である以上、大学満足度を高める方策は何よりも学修成果の改善である。各学修領域の課題を確認し、学修成果の改善を継続的に進めることが必要である。

学修調査（行動・成果調査） 大学全体【割合】

【回答者数】（人）

	1年	2年	3年	4年	計
日本伝統文化学科	19	23	17	18	77
国際言語文化学科	19	21	9	14	63
観光文化学科	－	－	－	6	6
福祉心理学科	22	19	20	34	95
臨床心理学科	69	38	48	42	197
健康・スポーツ心理学科	68	38	42	55	203
子ども学科	117	131	120	108	476
経営学科	67	82	47	57	253
計	381	352	303	334	1370

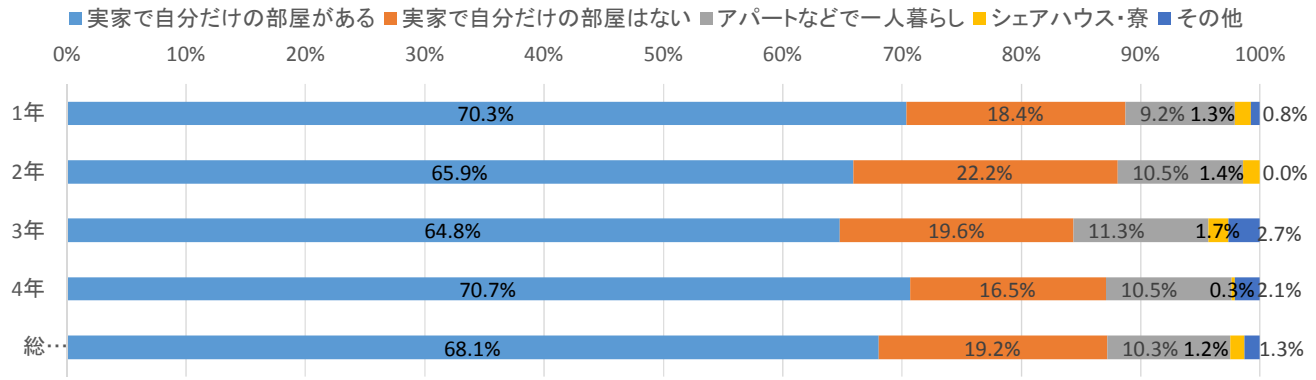
	男性	女性	計
1年	145	236	381
2年	127	225	352
3年	109	194	303
4年	130	204	334
計	511	859	1370

	AO	推薦（公募・指定）	一般	センター	社会人 外国人	編入	計
1年	129	173	61	15	3	0	381
2年	115	134	76	21	6	0	352
3年	93	117	74	11	6	2	303
4年	93	136	87	15	2	1	334
計	430	560	298	62	17	3	1370

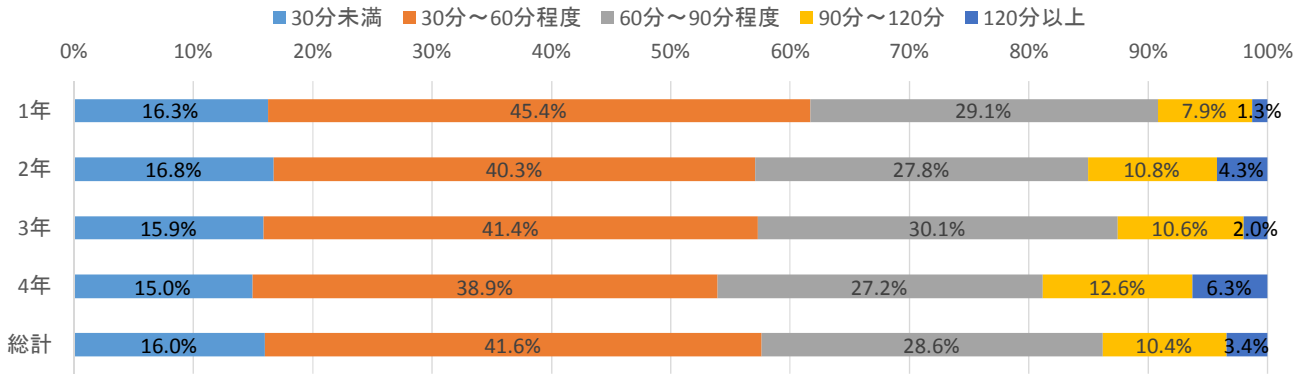
【学修行動調査】（%）

1.あなた自身について

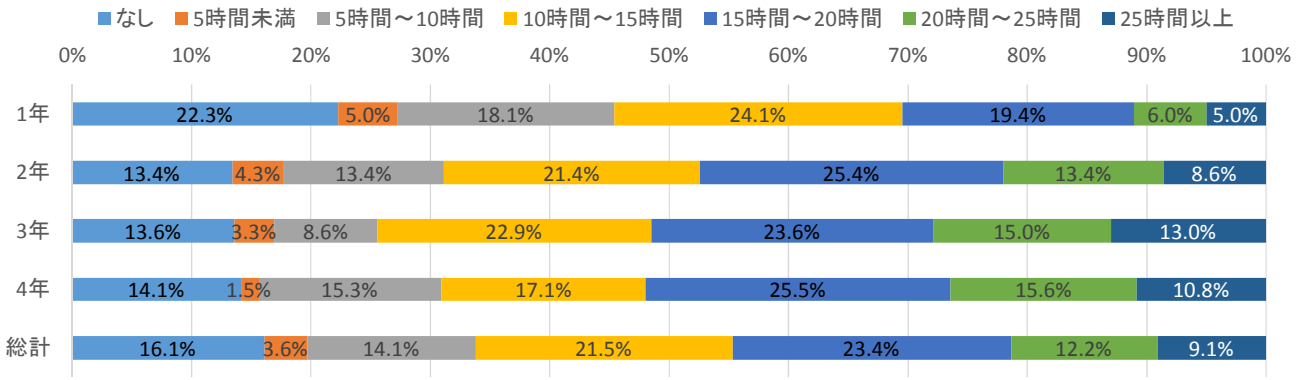
(1)学修環境　（無効回答　3年：2　）



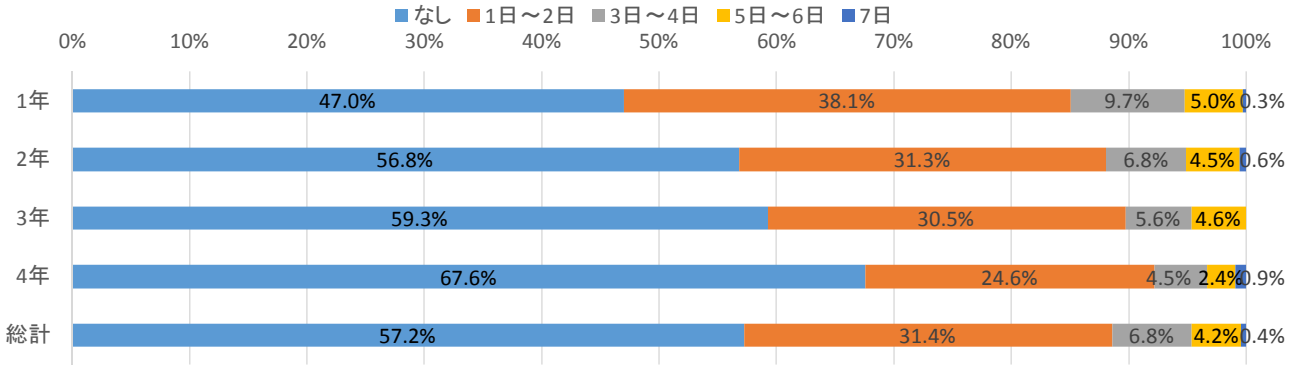
(2)通学時間（家から大学まで）　（無効回答　3年：1　）



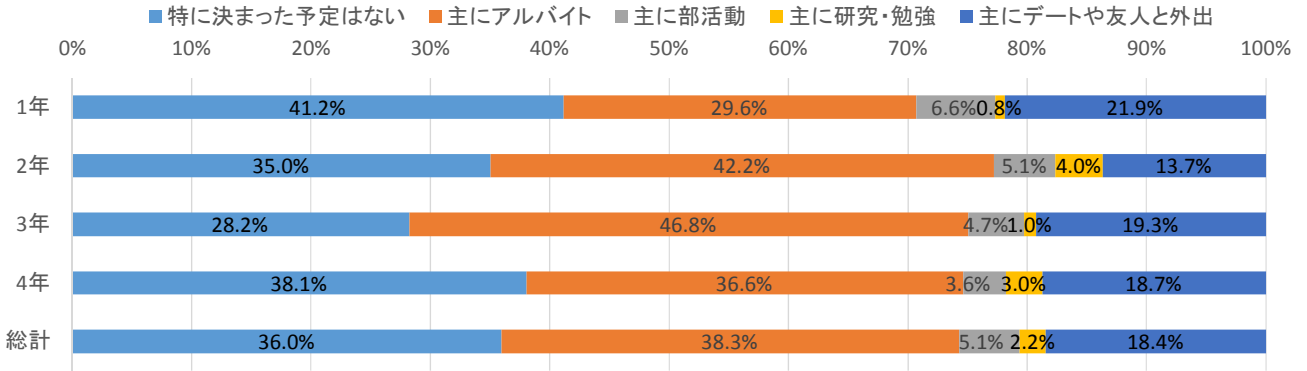
(3) 1週間あたりのアルバイト（時間）　（無効回答　2年：2　3年：2　4年：1　）



(4)1週間あたりの部活・サークル活動や学外のクラブなどの活動　（無効回答　3年：1　4年：1　）

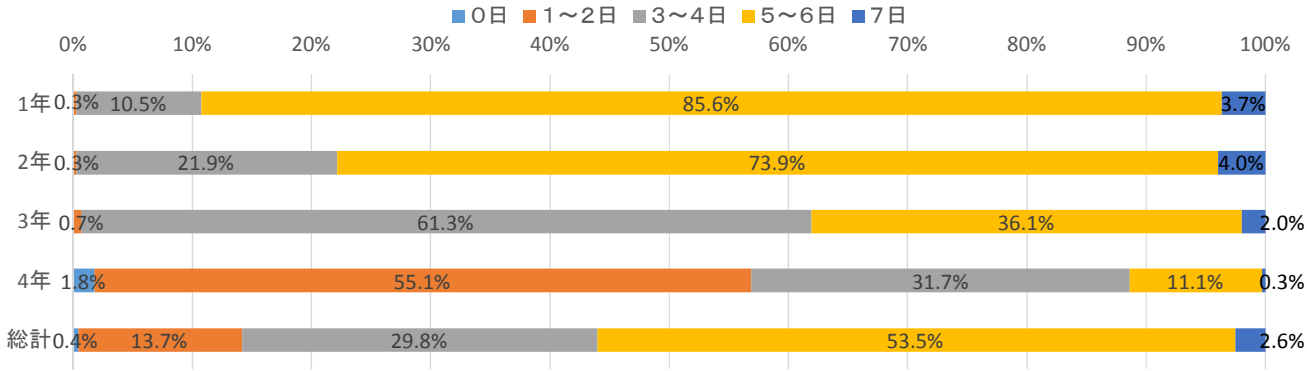


(5)休日の過ごし方　（無効回答　1年：2　2年：1　3年：2　4年：3　）

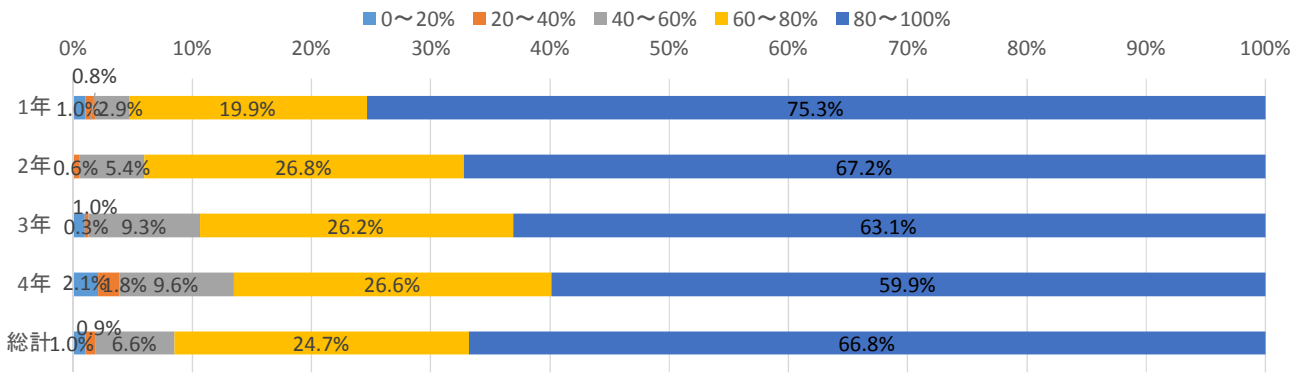


2. 1週間（平均的な）における大学内での学修について

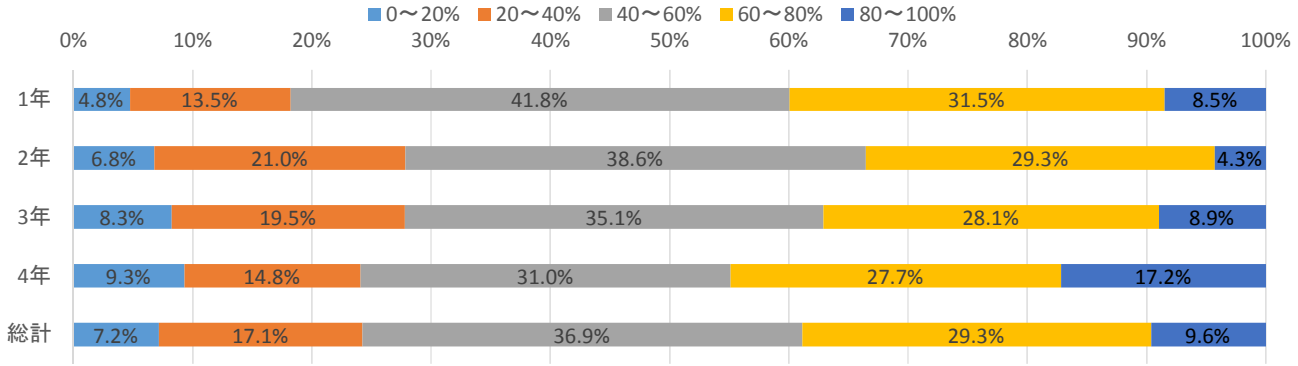
(6) 大学に何日登校しましたか　（無効回答　3年：1　）



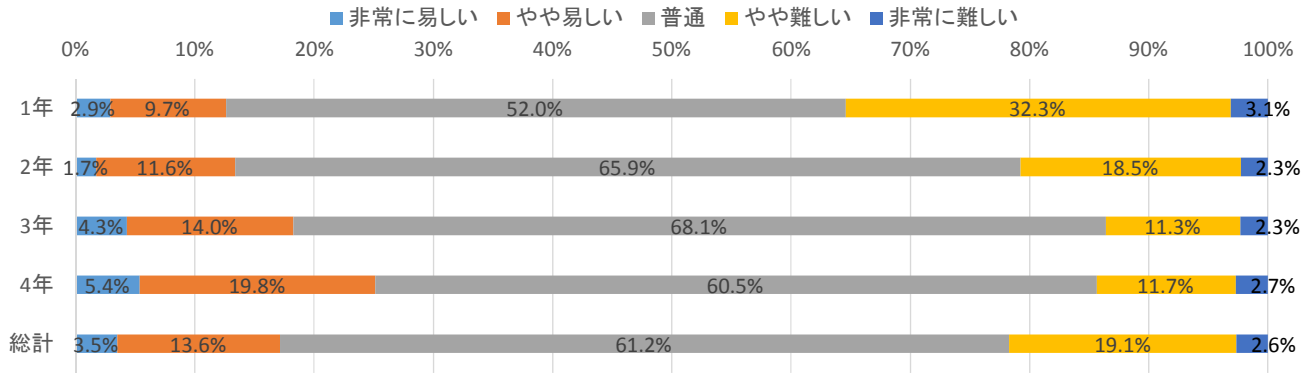
(7) 授業に出席した割合は　　（無効回答　2年:1　3年:2　）



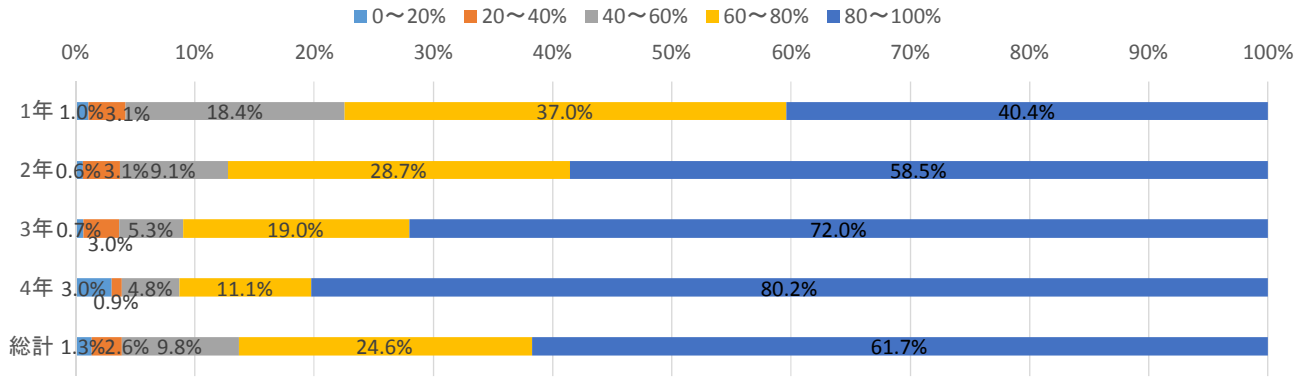
(8) 興味のある授業の割合は　　（無効回答　1年:3　3年:1　4年:2　）



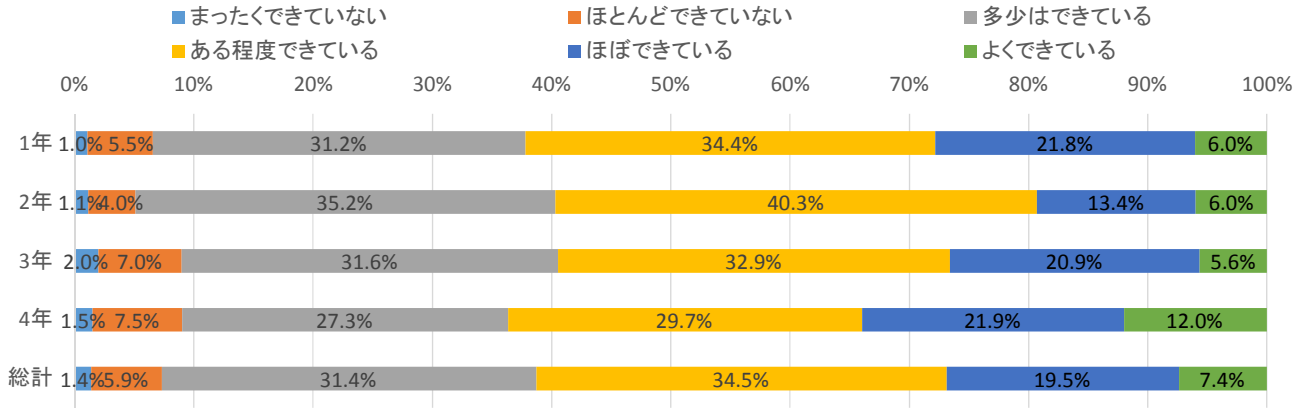
(9) 授業全体の難易度は　　（無効回答　3年:2　）



(10) 4年間で卒業できる自信は　　（無効回答　3年:3　）

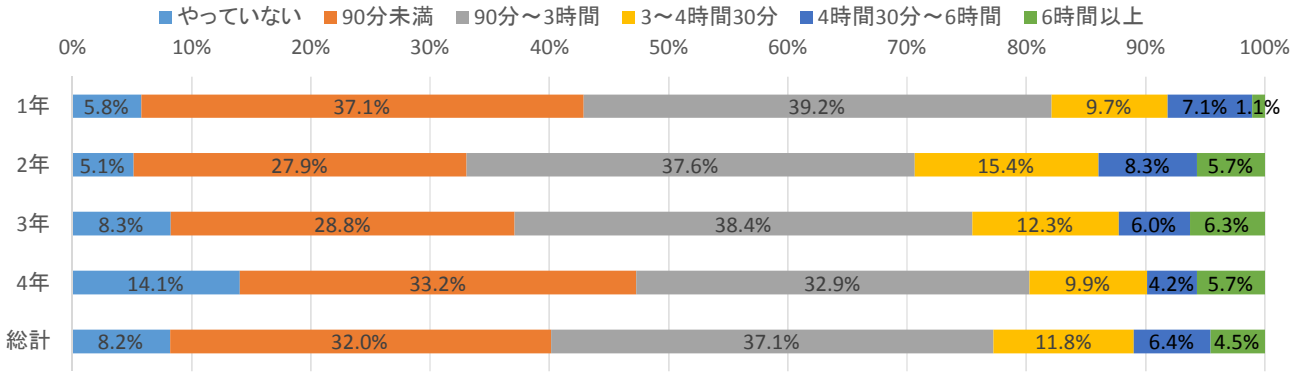


(11) 授業には積極的に取り組みましたか　（無効回答　3年：2　4年：1　）

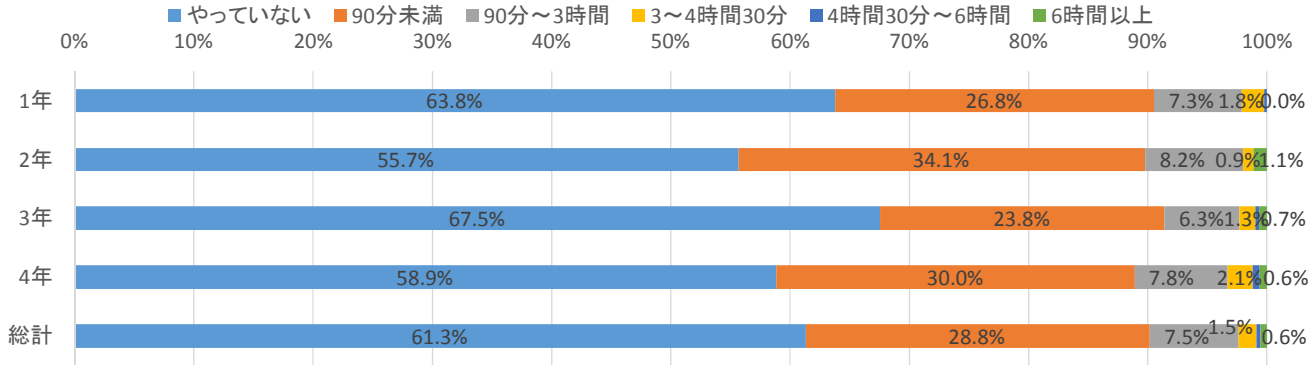


3．1週間（平均的な）における教室外での学修時間について

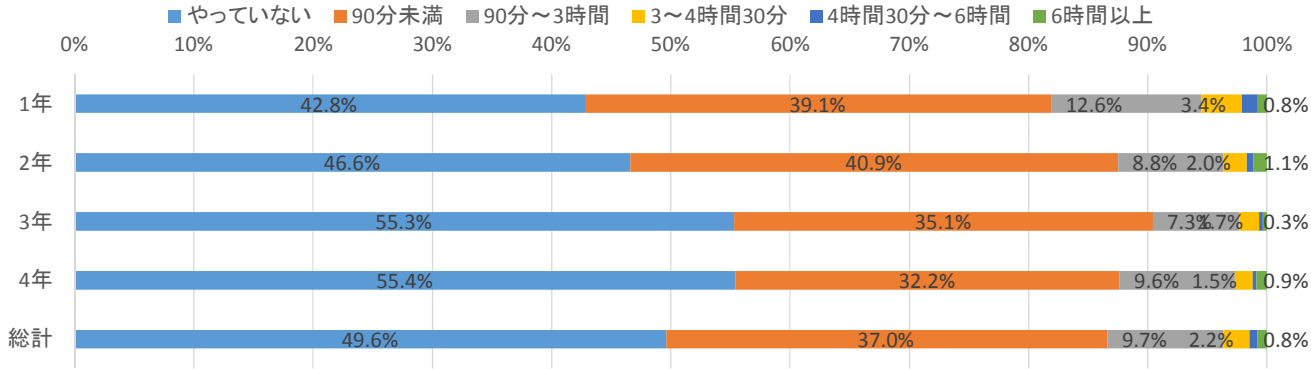
(12) 先生に指示された授業の発表の準備、課題やレポート、宿題を1週間合計でどのくらいやりましたか
（無効回答　1年：1　2年：1　3年：1　）



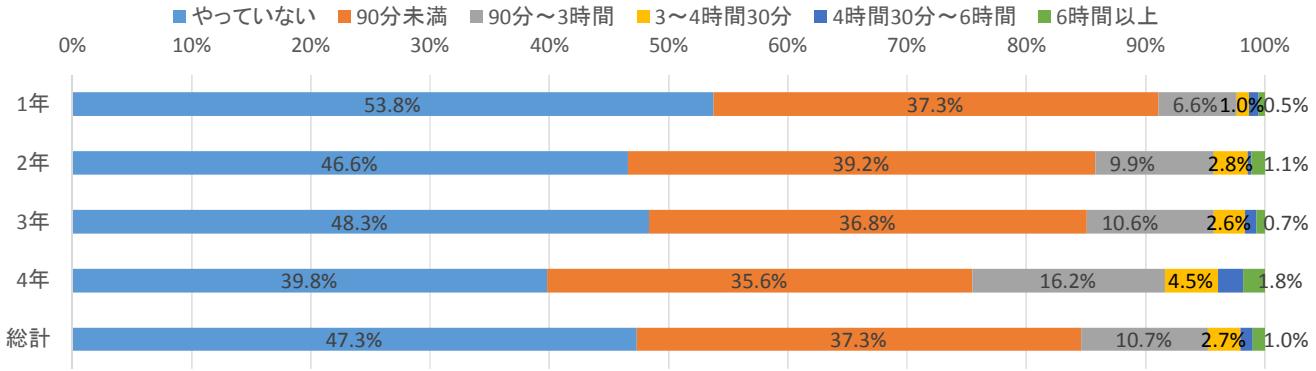
(13) 授業の予修を自発的に1週間合計でどのくらいやりましたか　（無効回答　3年：1　4年：1　）



(14) 授業のノートの整理や復修を自発的に1週間合計でどのくらいやりましたか　（無効回答　3年：1　4年：2　）

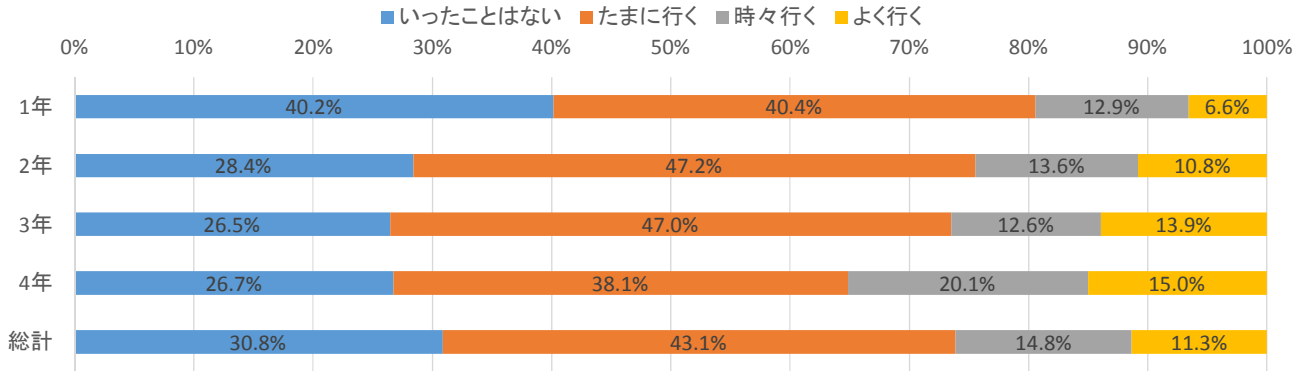


(15) 授業に関連する資料や本を探したり、調べたりすることを1週間合計でどのくらいやりましたか　（無効回答　3年：1　）

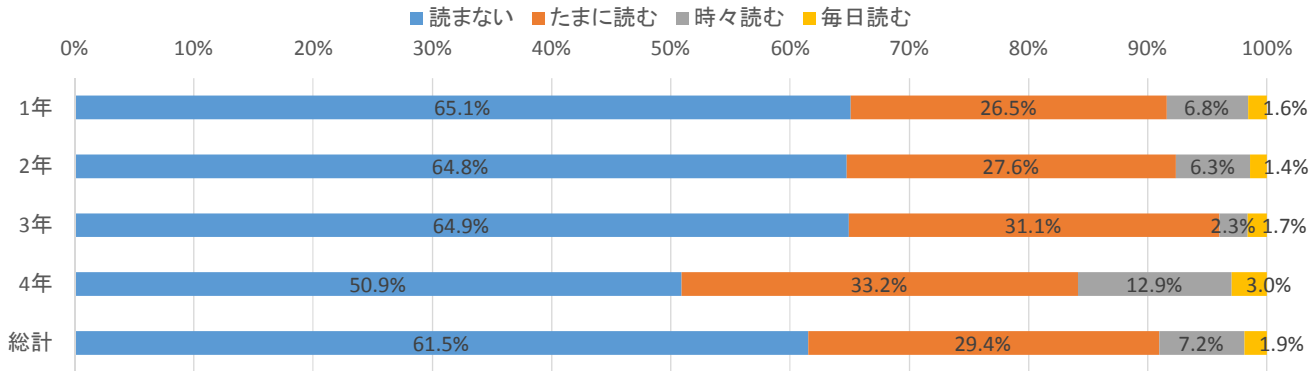


4. 授業以外の学修活動や普段の行動

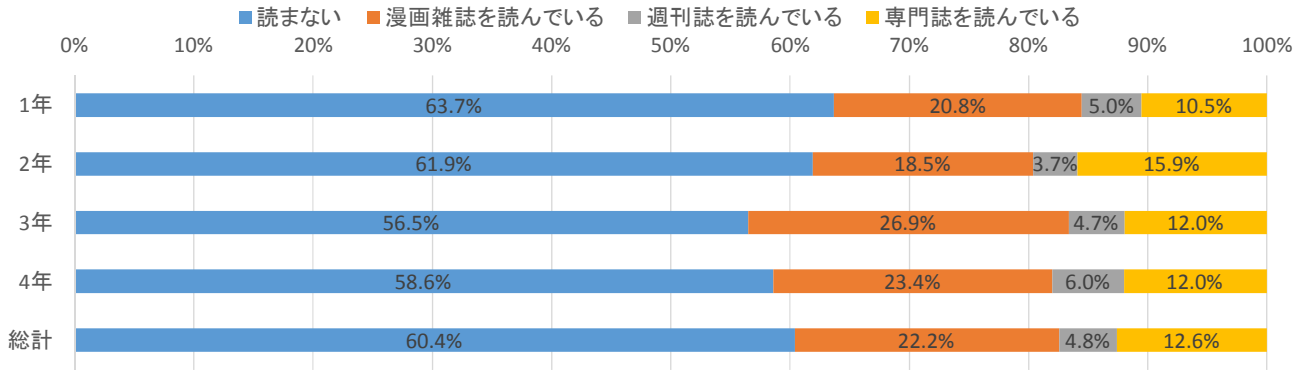
(16) 大学外の図書館や美術館・博物館等の文化施設、研修会・講演会などへの参加、音楽会・コンサート、スポーツの大会などや、サークル活動や授業以外でのボランティア活動に　（無効回答　3年：1　4年：1　）



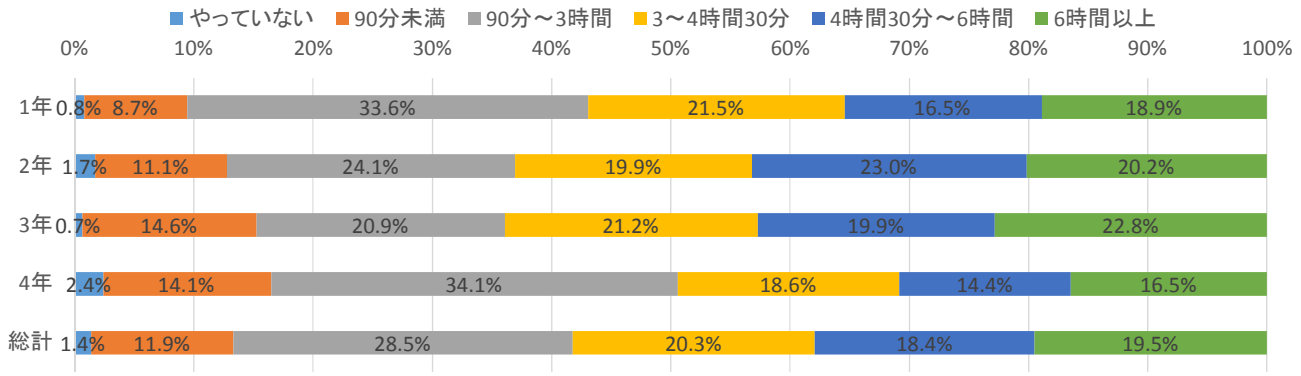
(17) 新聞を読んでいますか　（無効回答　3年：1　）



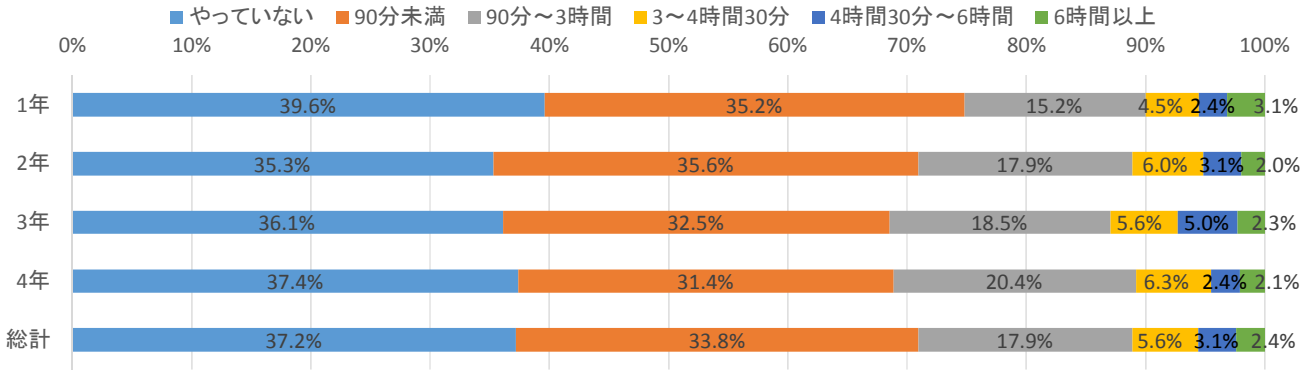
(18) 定期的に読んでいる雑誌、週刊誌は　（無効回答　1年：1　3年：2　4年：1　）



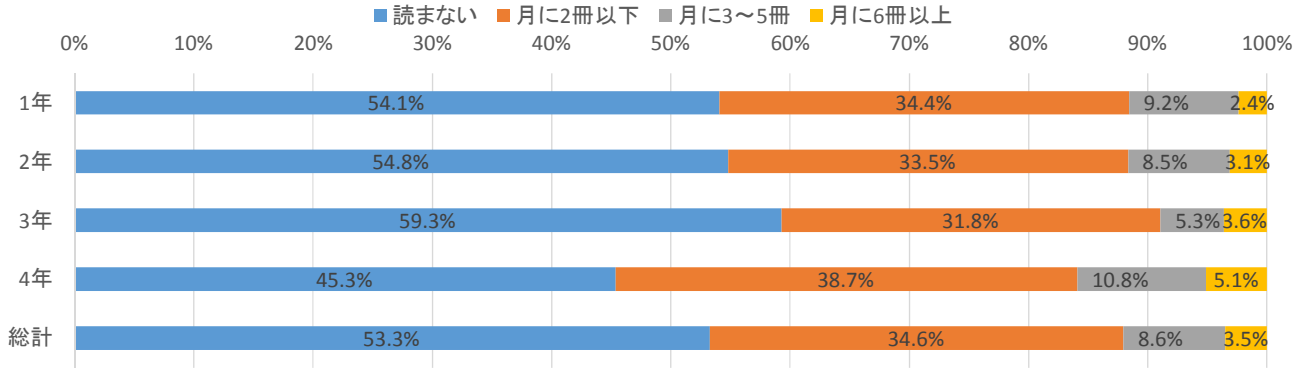
(19) インターネット（LINEやその他SNSを含む）を1日にどのくらい使っています;　（無効回答　3年：1　）



(20) ゲーム（オンラインゲームを含む）を1日にどのくらいやっていますか　（無効回答　2年：1　3年：1　）



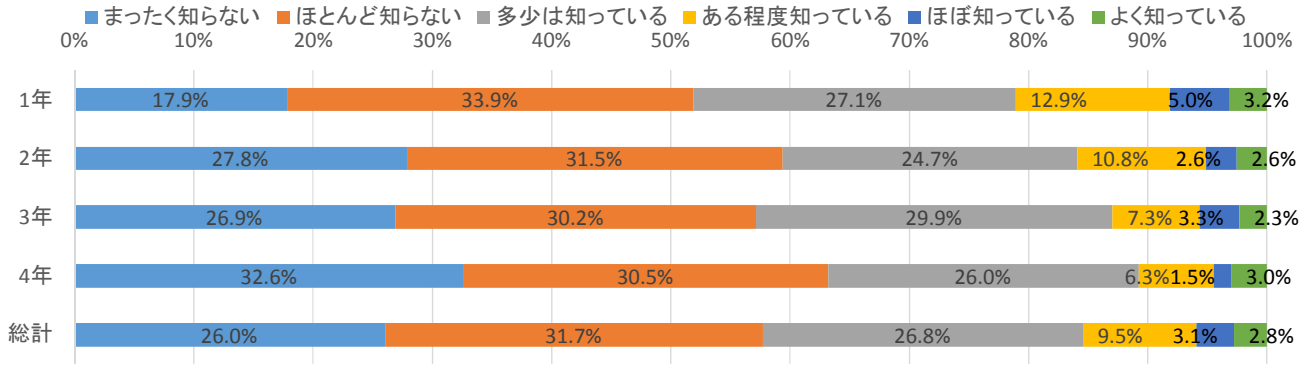
(21) 本をどのくらい読んでいますか　（無効回答　3年：1　4年：1　）



【学修成果調査】(%)

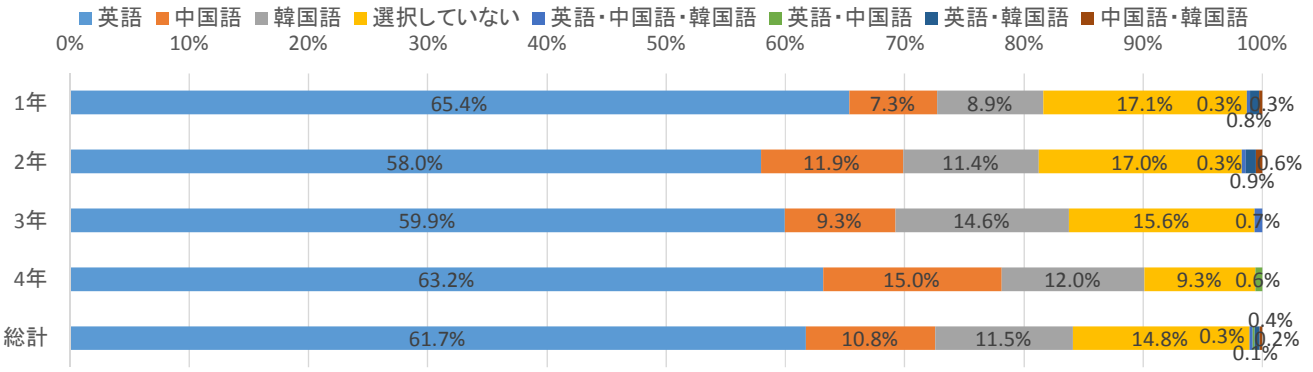
1. 教育理念について

(1)本学の教育の基本理念「共生とコミュニケーション」を知っていますか。　（無効回答　1年:1　3年:2　）

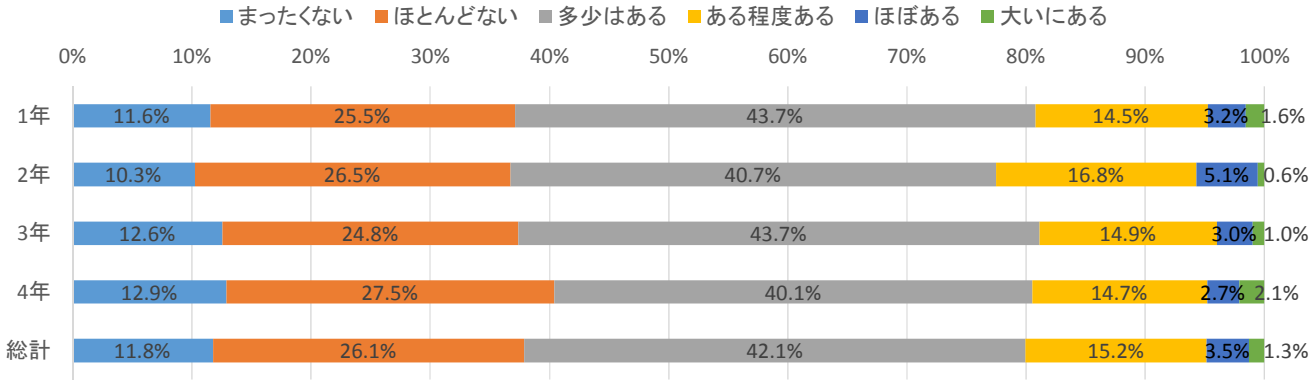


2. 外国語能力について

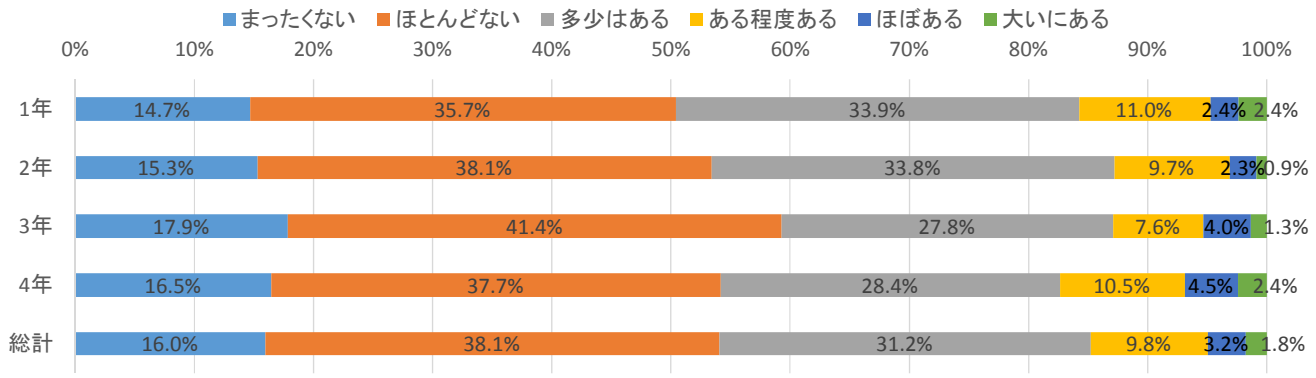
(2)外国語の授業を選択していますか・いましたか。　（無効回答　3年:1　）



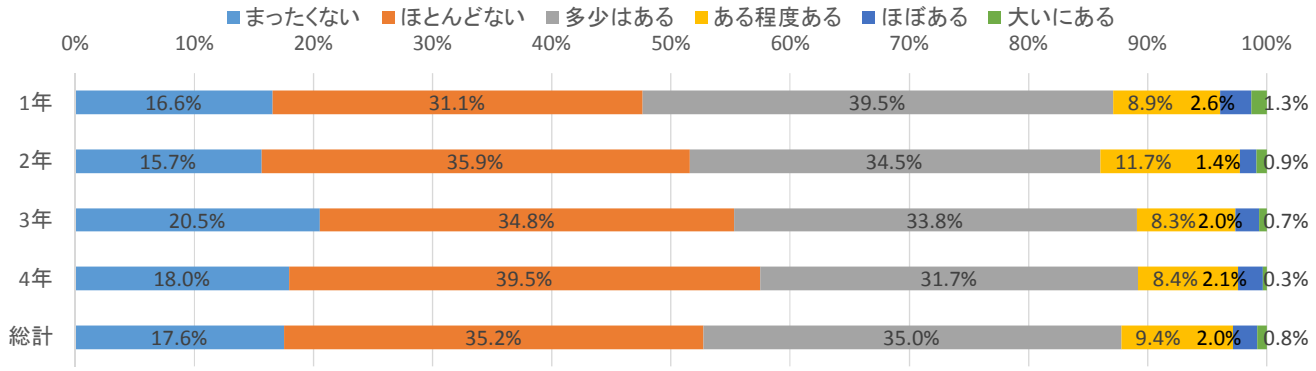
(3)読む力がある。　（無効回答　1年:1　2年:1　3年:1　）



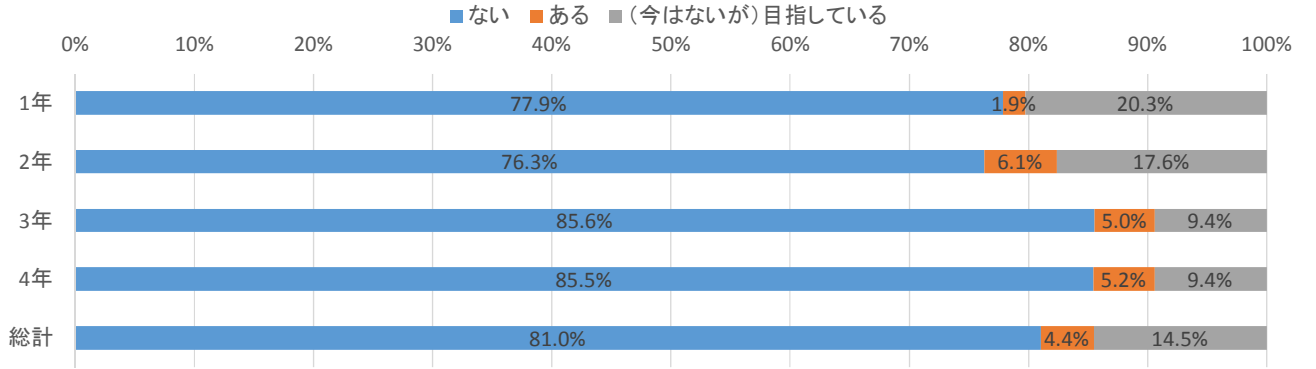
(4)会話力（話す、聞く）がある。



(5)書く力がある。　（無効回答　1年：1　2年：1　3年：1　）

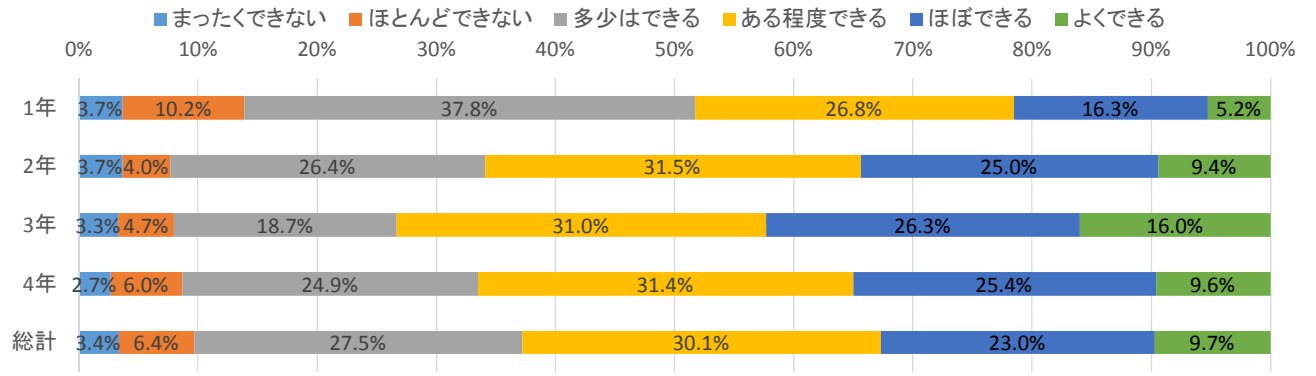


(6)大学入学後に取得した語学の資格がありますか、あるいは検定試験で一定　2年：6　3年：5　4年：4　）

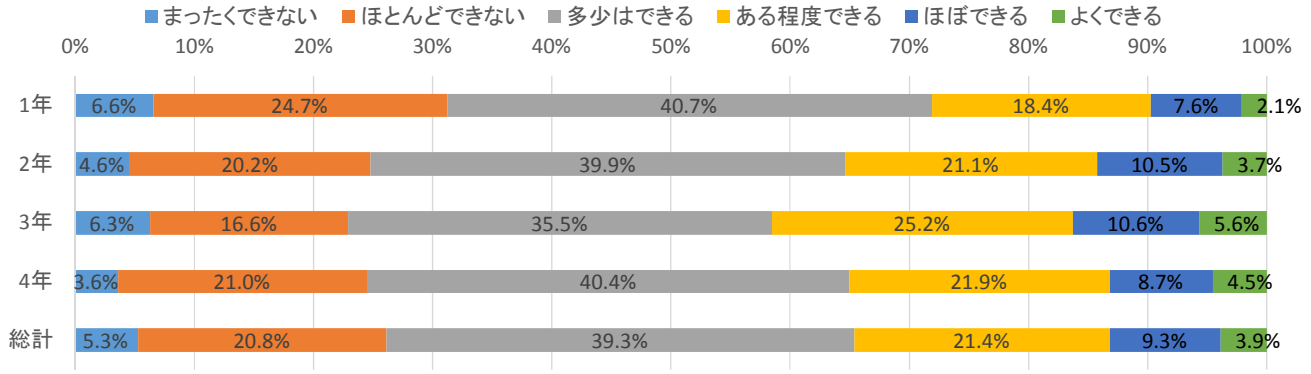


3. ICTリテラシー（＝情報機器やインターネットを使う能力）について

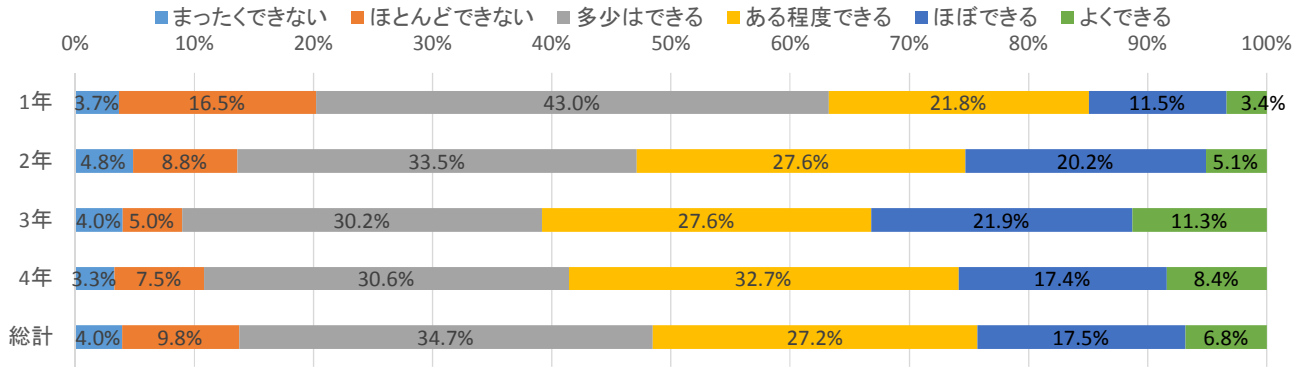
(7)文章作成ソフト（Wordなど）を使って文章を作成することができる。　（無効回答　3年：3　）



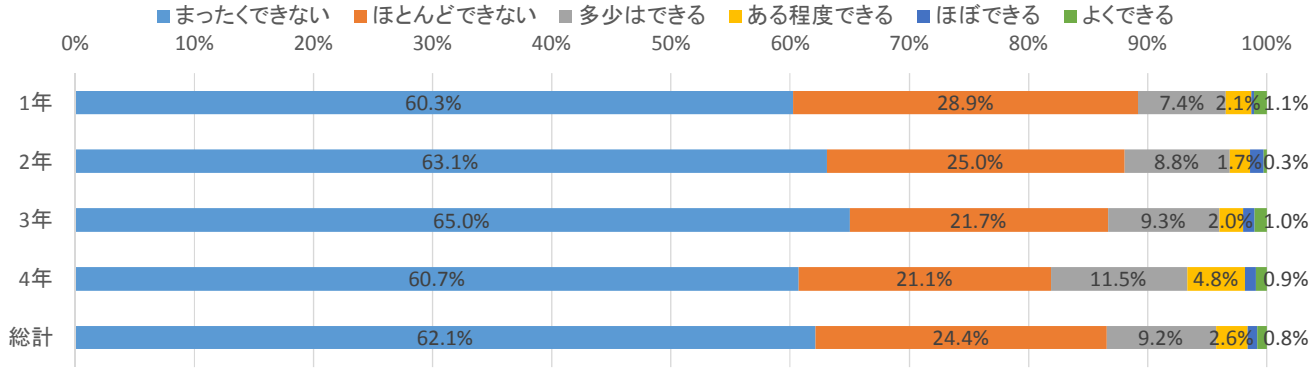
(8)表計算ソフト(Excelなど)を使って図表を作成することができる。　（無効回答　2年:1　3年:2　）



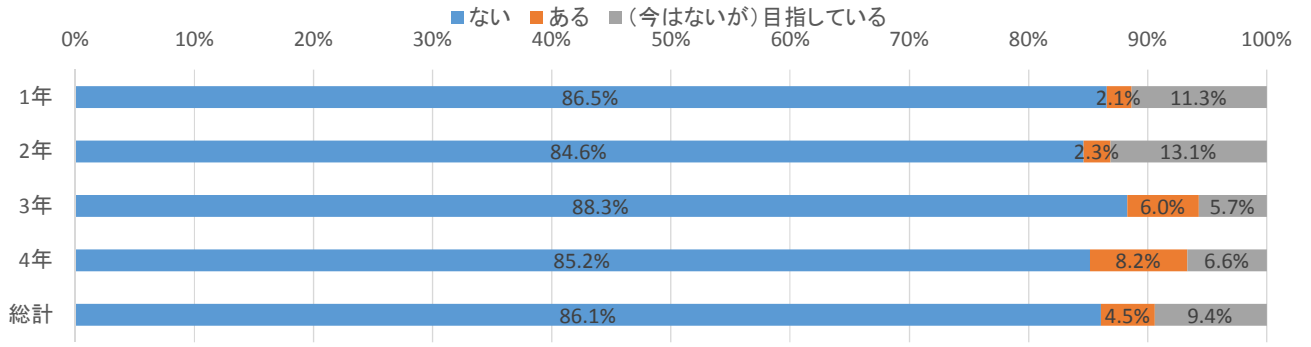
(9)プレゼンテーションソフト(Power Pointなど)を使ってプレゼンテーション用の資料を作成することができる。
（無効回答　3年:2　4年:1　）



(10)アプリケーションソフトを作成することができる。　（無効回答　1年:1　3年:3　4年:3　）

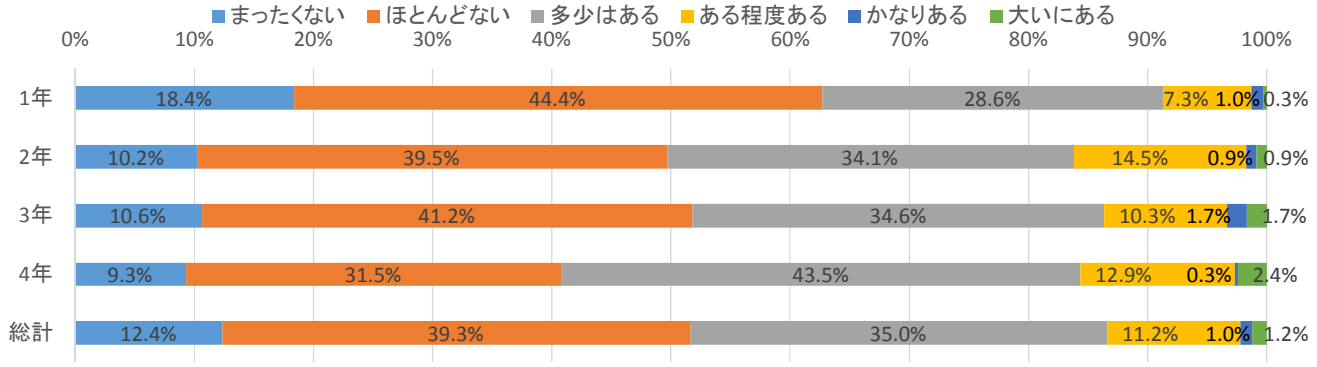


(11)大学入学後に取得したICT関連の資格がありますか、あるいは検定試験で一定の点数を取ったことがありますか。
（無効回答　1年:2　2年:1　3年:4　4年:3　）

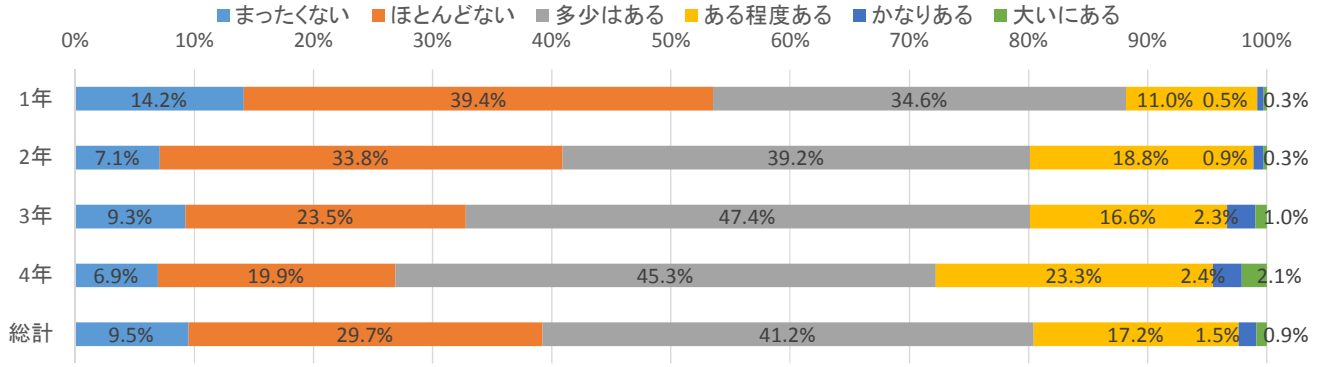


4. 教養・基礎的スキルについて

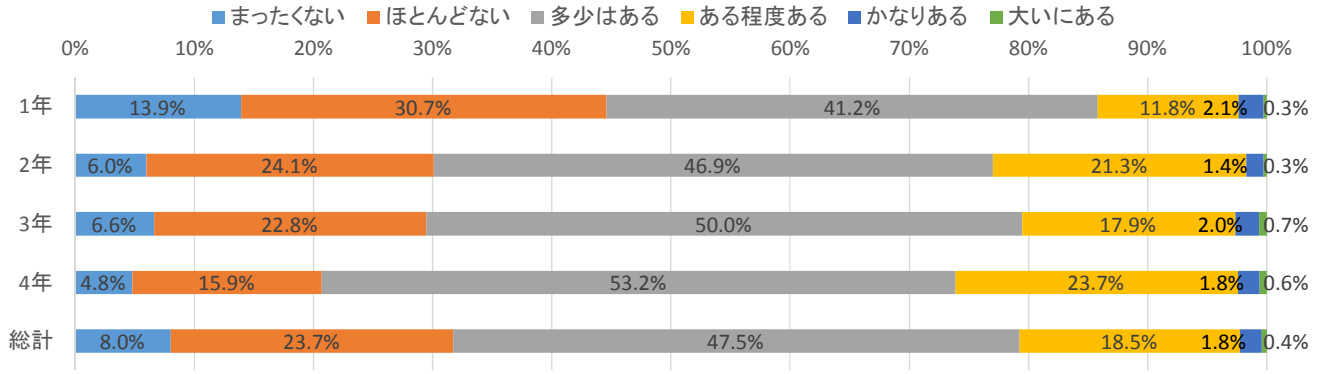
(12)専門分野の知識とは別に幅広い知識や教養がある。　（無効回答　3年：2　4年：1　）



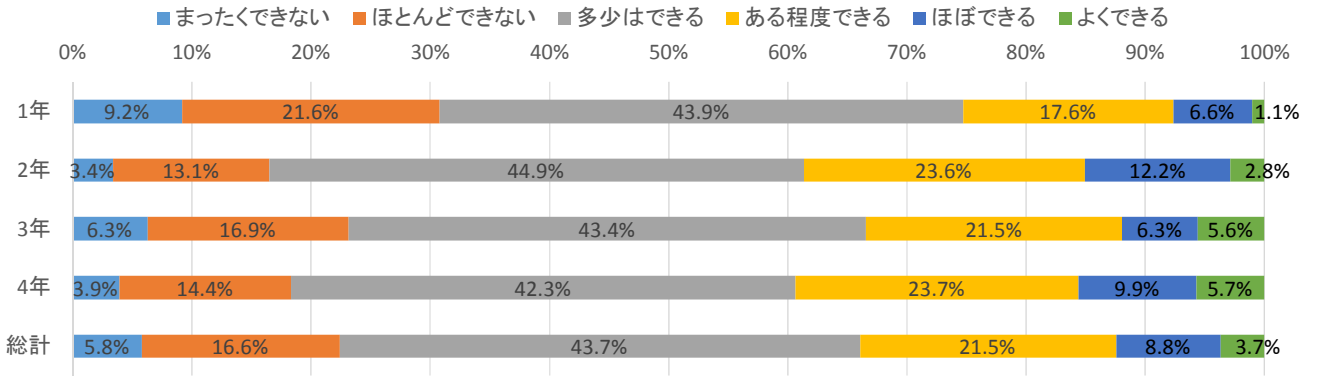
(13)レポートや論文作成に必要な情報収集のスキル（論文、文献、統計などの検索方法など）がある。
（無効回答　3年：1　4年：3　）



(14)レポートや論文などを書くために必要なスキル（書式や作法など）がある。　（無効回答　3年：1　4年：1　）

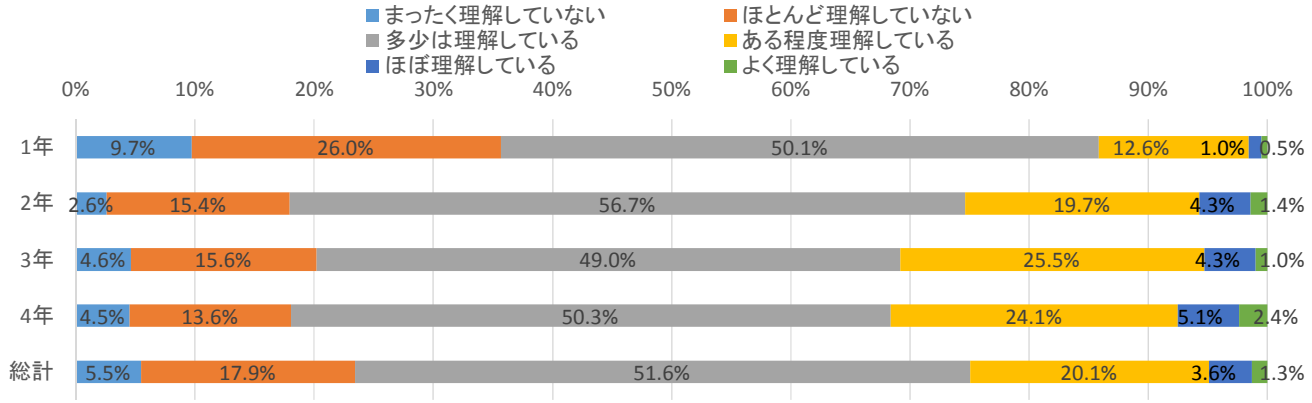


(15)ディスカッションの中で他者の意見をきちんと聞きながら自分の意見を述べることができる。
（無効回答　1年：1　3年：1　4年：1　）

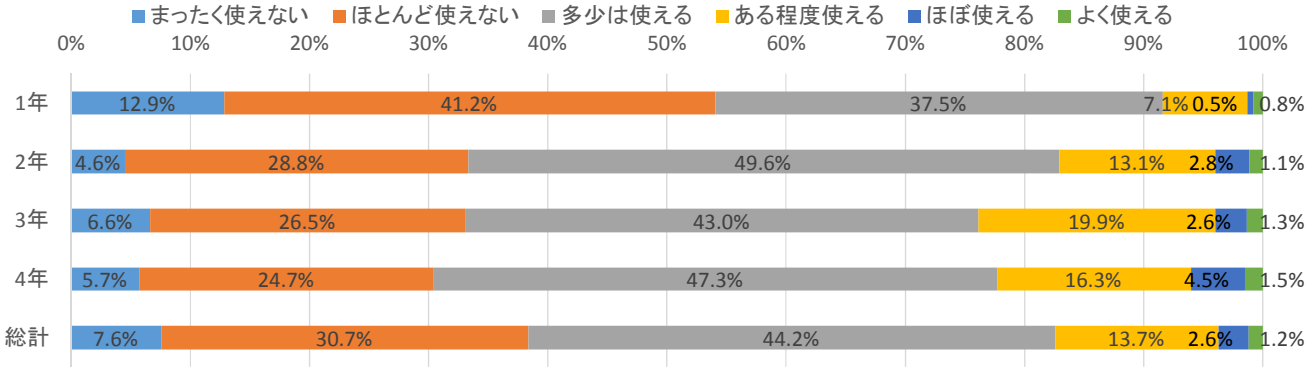


5. 専門知識・専門的スキルについて

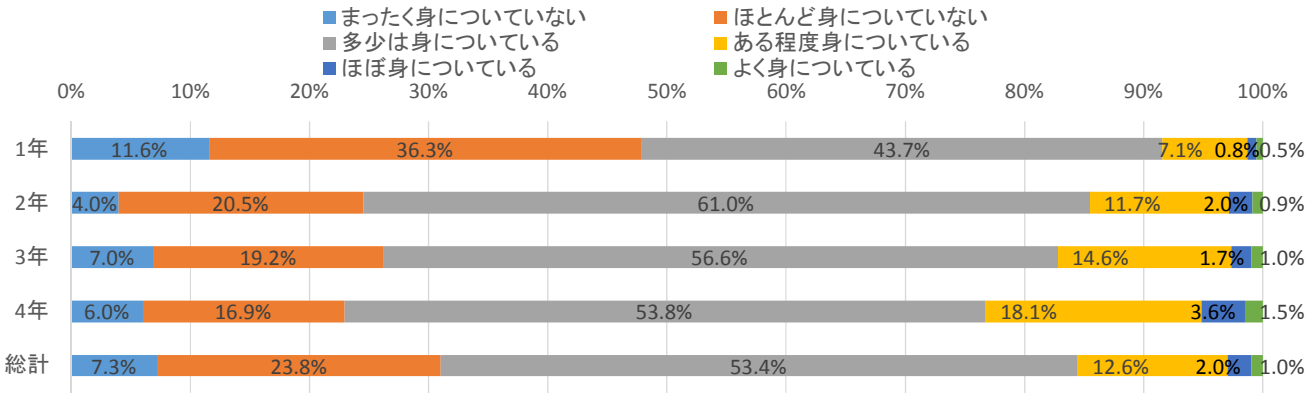
(16)専門知識を理解している。　（無効回答　2年：1　3年：1　4年：2　）



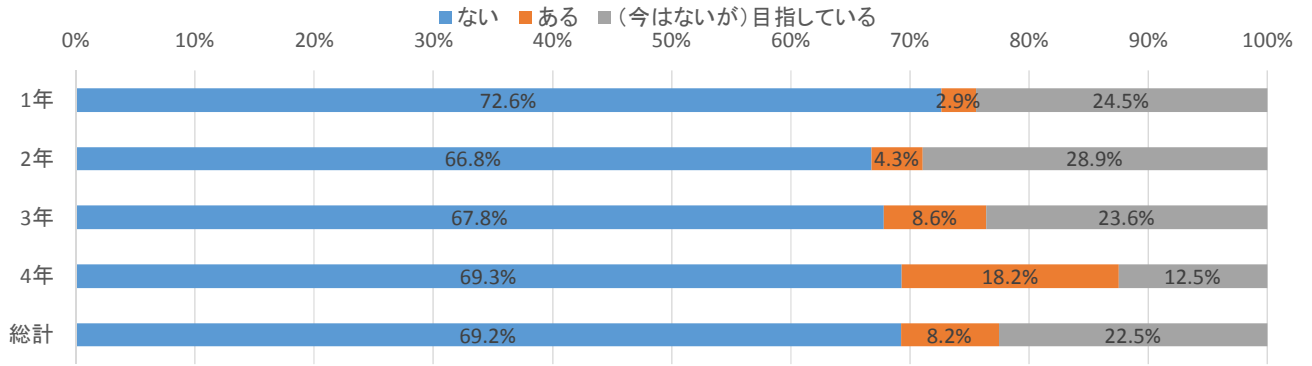
(17)専門知識を実際の場面で使うことができる。　（無効回答　2年：1　3年：1　4年：2　）



(18)専門的スキルが身についている。　（無効回答　1年：1　2年：1　3年：1　4年：3　）

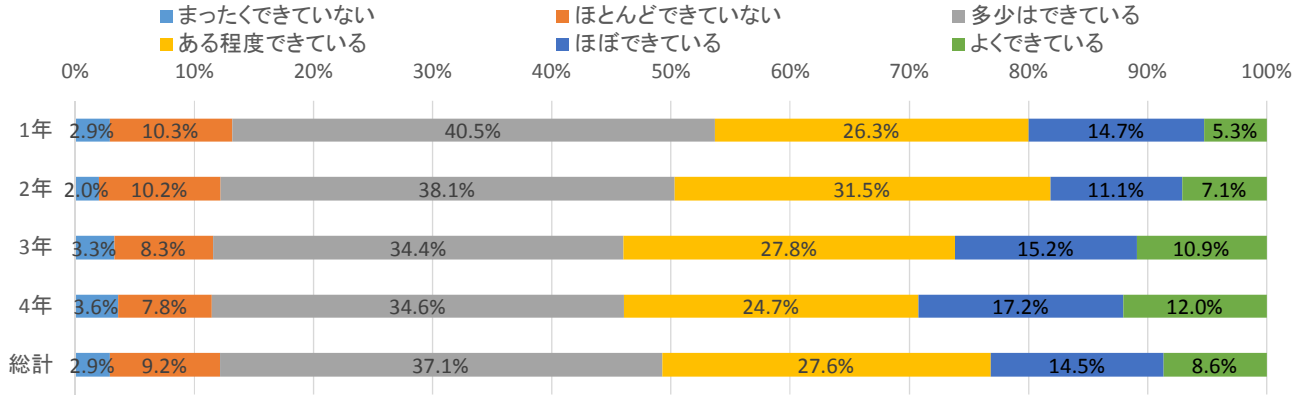


(19)大学入学後に取得した専門分野に関連する資格がありますか、あるいは検定試験で一定の点数を取ったことがありますか。　（無効回答　1年：1　2年：3　3年：2　4年：5　）

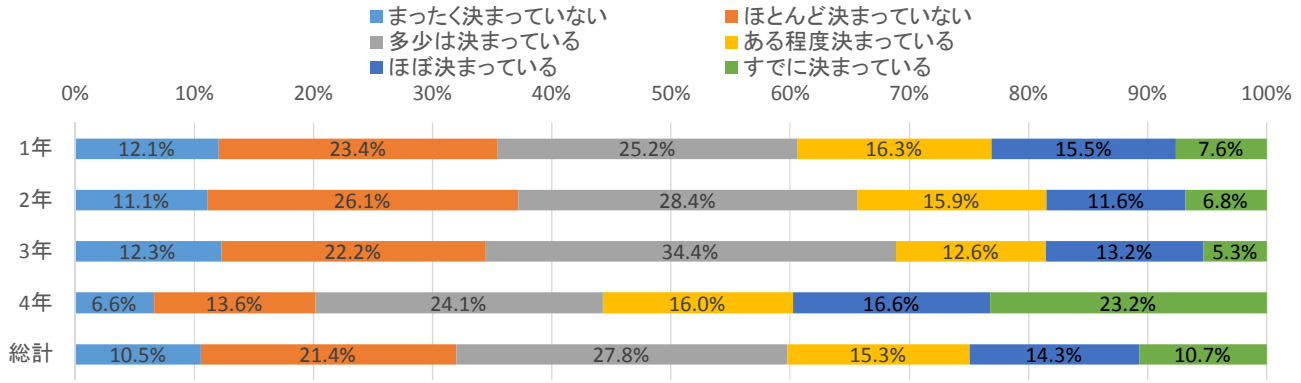


6. 社会で活躍するための力（キャリア教育、社会人基礎力）について

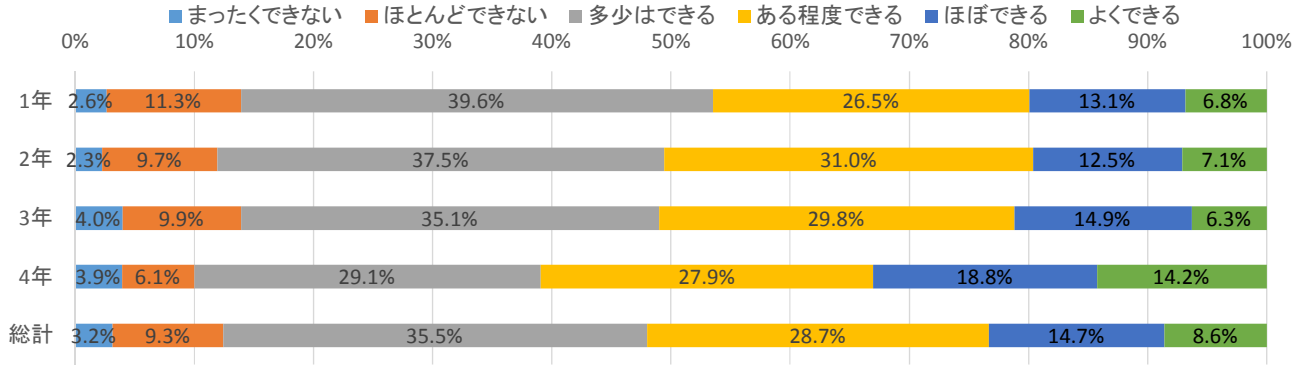
(20)「働く」とはどのようなことかイメージできている。　（無効回答　1年：1　3年：1　4年：2　）



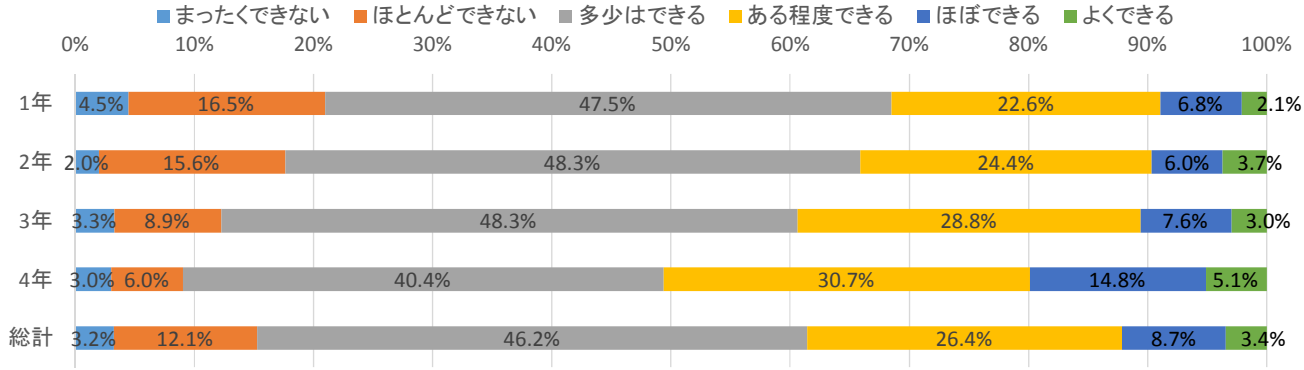
(21)将来の進路が決まっている。　（無効回答　3年：1　4年：2　）



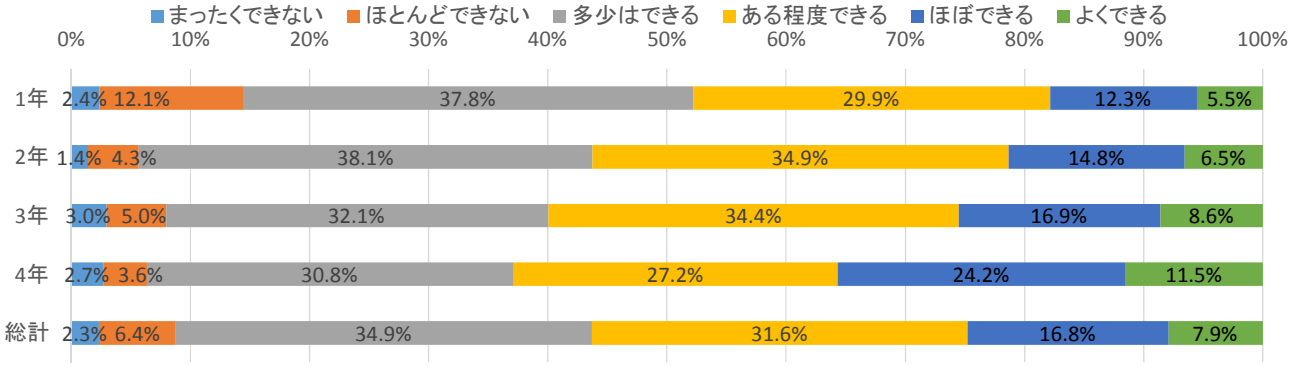
(22)自ら目標に向かってものごとに粘り強く取り組むことができる。　（無効回答　3年：1　4年：4　）



(23)課題を見つけ出しそれに対する最善の解決方法を考えることができる。　（無効回答　3年：1　4年：2　）



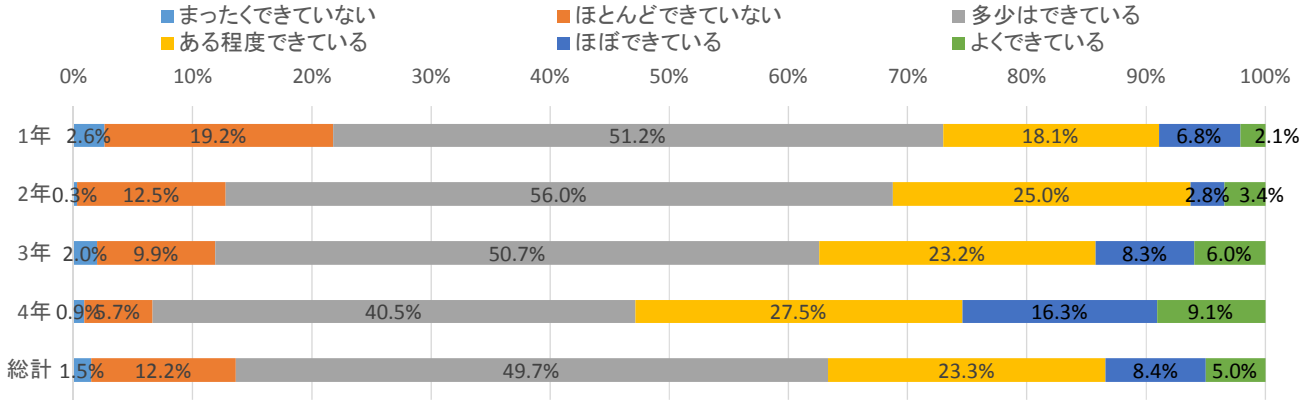
(24)さまざまな考えを持つ人々と意見を交換しながら力を合わせて働くことがで　（無効回答　3年：1　4年：3　）



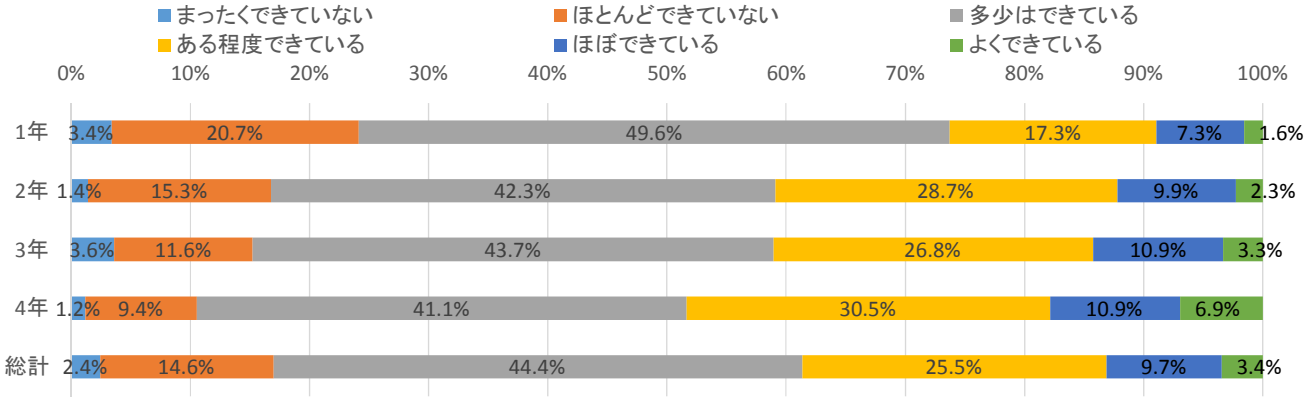
7. 総合力について

・上記の「2」～「6」の学びを通して、以下の力がどの程度身についていると思うかお答え下さい。

(25)自分自身の「ものの見方・考え方」をつくり上げることができた。　（無効回答　3年：1　4年：3　）

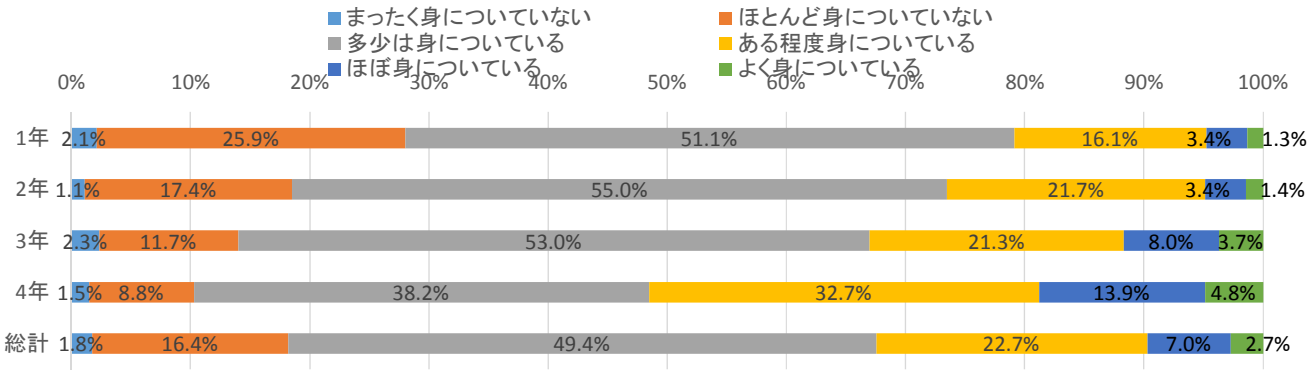


(26)自分の考えを文章や口頭で他者にきちんと説明することができるようにな　（無効回答　3年：1　4年：3　）



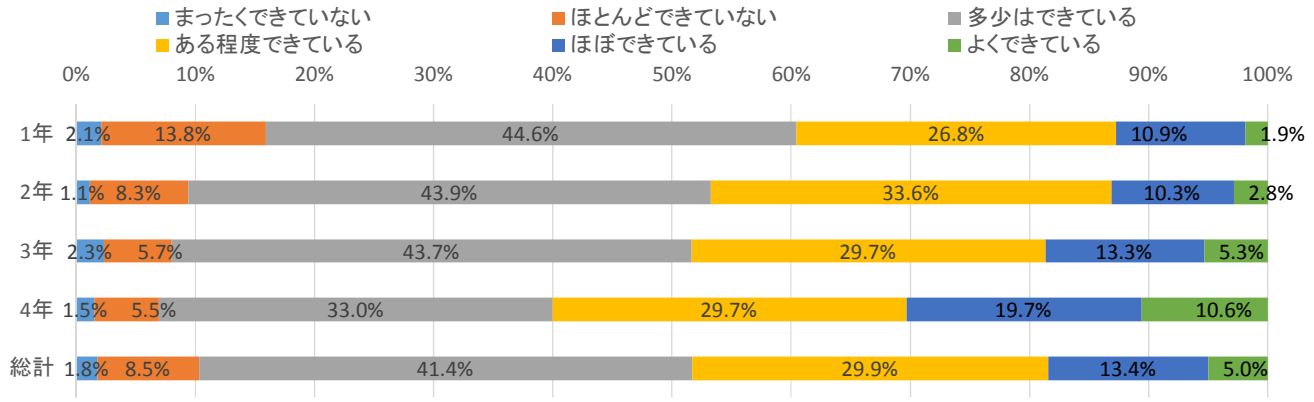
(27)社会に出て仕事や社会的活動を行うために必要な力を身につけることができた。

（無効回答　1年：3　2年：1　3年：3　4年：4　）



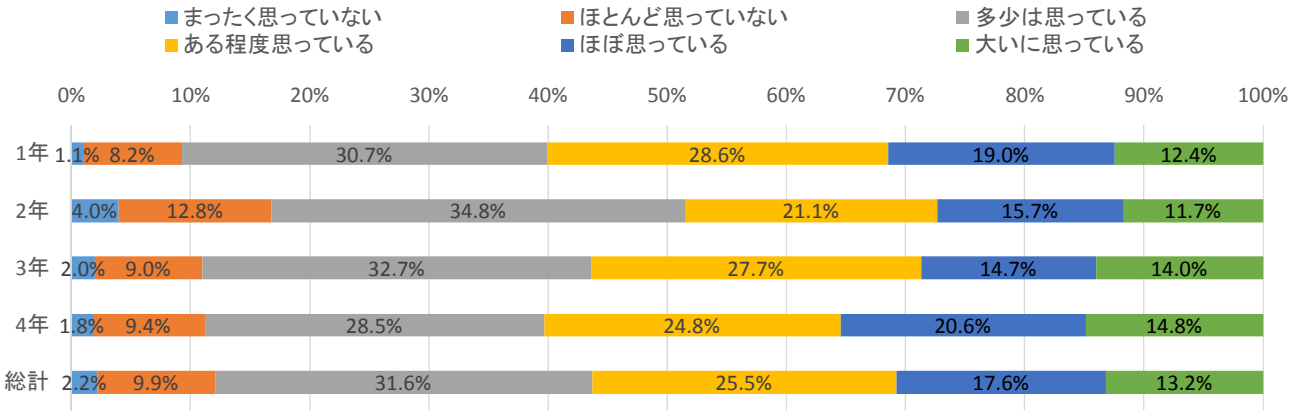
(28)他者とコミュニケーションを図りながら相互理解を深めていくことができるようになった。

（無効回答　1年：4　2年：1　3年：3　4年：4　）



(29)東京成徳大学に入学してよかったと思っていますか。

（無効回答　1年：3　2年：1　3年：3　4年：4　）



2　各学科の結果と考察

2－1　人文学部

●日本伝統文化学科

（1）調査結果の概要－他学科との比較を中心に－

①あなた自身について

アルバイトそしていない学生の割合がやや高いが、全学的に見て平均的な学生像である。

②1 週間（平均的な）における大学内での学修

興味のある授業がやや多く、非常に難しいと感じる授業がほとんどない。理解できるから出席が困難ではないとみられる。

卒業する自信がやや低いのが気になるが、学習時間は多いほう。これは演習の準備に力を入れているためと思われる。

③授業以外の学習活動や普段の行動

伝統の学生は上記の結果に見られるようにやや活動的でないと考えられ、これは日ごろ接していて感じていることと合致している。

そのような学生像であるが、授業以外の活動も割合行っていて、新聞も読み、社会への関心もある点は安心材料である。

④教育理念について

これは他学科と変わりがない。

⑤外国語について

苦手意識が強いかと考えていたが、平均的であった。

⑥ICT リテラシー

これも苦手かと考えていたが、平均的であった。

⑦教養・基礎的スキル

幅広い知識を持っていると考えている割合が比較的多いのは、学科の学びが幅広いためとも考えられる。レポートを書くスキルにわりあい自信があるのは日ごろレポートを課す授業が多いためと考えられる。ディスカッションについてもわりあい高い数値であることはやや意外。

⑨専門知識・専門的スキル

平均的。資格について低いのは学科の性格上致し方ないか。

⑩社会で活躍するための力（キャリア教育、社会人基礎力）

資格を目指す学科に伍して平均的なのは、専門科目の学びで自信を持ったものかと考えられ、この結果はうれしい。協同にやや弱いのは学科を志望する学生の資質か。

⑪総合力

平均的であるが、入学してよかったと考える学生がやや多いのは少人数で行き届いたかかわりを持てているためかと思われる。

（2）各学年の分析

◆1 年生（森下）

①アルバイト

・回答した 19 名中、6 名が「なし」。「15～20 時間」が 2 名、それ以上はなし

⇒少なくとも回答者の中には、そこまで長時間労働をしている学生はいない。このことが、後述する登校日数の多さにも繋がっているのだと思われる

②大学内での学修

・回答者はすべて「5～6 日登校」。出席も、「60～80%」が 2 名いるほかはすべて「80～100%」。大学での勉強に真面目に取り組んでいる

・ただし、興味のある授業は、「80～100%」が 4 名、「60～80%」が 7 名、「40～60%」が 7 名、「20～40%」が 1 名。日本伝統文化学科の中では、授業に対する見方がかなりシヴィアな方と思われる

・難易度については、「やや難しい」が 8 名、11 名が「普通」

・4 年間で卒業できる自信がない学生が多いのは、一年生に顕著な特徴。「80～100%」はわずかに 4 名。「60～80%」が 10 名、「40～60%」が 3 名、「20～40%」が 2 名

⇒授業を敬遠する感覚がやや強い、という印象。とはいえ、高校からの変化に対する戸惑いもあり、仕方のない側面もある。そのことが「大学に来ない」という選択に繋がっているような例は、少なくとも回答者の中にはいないようなので、そこまで憂慮すべき状況ではないだろう。後述するとおり、大学への満足度も低くはない。今後、選択の授業が増えていく中での意識改善に期待したい

③社会人スキル

・働くイメージを「できている」と感じている学生が多い。「よくできている」が 1 名、「ほぼできている」が 2 名、「ある程度できている」が 9 名、「多少はできている」が 5 名、「ほとんどできていない」が 2 名

⇒本学のキャリア教育の成果があがっているのか、よくイメージできていないがゆえの楽観視なのか、データだけでは判断がつかない。もっとも、自らのスキルに対する評価も比較的高く、働くことに積極的な点は評価したい

④満足度

・「大いに思っている」が 4 名、「ほぼ思っている」が 4 名、「ある程度思っている」が 9 名、「多少は思っている」が 2 名。「まったく思っていない」「ほとんど思っていない」を選んだ学生がいないのは、一年生の特徴と思われる

⇒比較的満足度は高い。この点から見ても、2 で触れた、興味のある授業の少なさや卒業への不安は、大学への不満の表明としてのみ解釈されるべきではないと考える

◆2 年生（小薗）

アンケートは全員（23 人）回答

①アルバイト

なし	～5 時間	5～10 時間	10～15 時間	15～20 時間	20～25 時間	25～
4 人	3 人	3 人	6 人	2 人	3 人	2 人

⇒25 時間以上の 2 人は遠隔地からの下宿。

20～25 時間の 3 人の登校日数は、いずれも 5～6 日であるが、興味授業は 0～20%が 2 人いる。学生生活の面白さを大学よりバイトに見出している。バイトの場合は職場環境がよく、続けていれば熟練度

が上がり、周りから支持される。さらに労働の対価として収入を得られる。それによって大学では得られない承認欲求を満たす（学校では先生に褒められない・成績悪いが、仕事場では仲間に褒められ、収入を得られる）という学生は私の学生時代にもいた。

バイト→承認→楽しい→バイト増→大学は適当→承認されない→大学遠のく→バイト…という循環。

15～20 時間の 2 人の学生は、大学の授業・授業外の活動も熱心。

②大学内での学習

・登校日数

３～4 日／5～6 日／7 日

3 人　　／19 人　／1 人

・出席

40～60%／60～80%／80～100%

2 人　　／　6 人　／　15 人

・興味授業

0～20%／20～40%／40～60%／60～80%／80～100%

5 人　／　2 人　／　10 人　／　6 人　／　0 人

・難易度

やや易しい／普通／やや難しい

4 人　　／13 人／　6 人

・卒業自信

20～40%／40～60%／60～80%／80～100%

2 人　　／　0 人　／　8 人　／　13 人

⇒出席は比較的良い。

興味ある授業については、40～60%が最も多い。成績の優秀な学生も多々おり、出ている授業の半分はおもしろいけれど、半分はつまらないと感じているといったところだろう。それ自体はそんなに問題はないかもしれない。ただし、0～20%の学生が 5 人もいる方が重要。

そのうち 3 人は出席率が悪くはないがよいとも言えない学生で、大学でも 1 人で授業を受けている（そのなかの 1 人は卒業の自信も低い）。つまり、孤立している学生。

ほか 2 人は、授業中の私語が多いと学生や教員の間でよく話を聞く学生。大学に対してモチベーションは低いものの、成績はともかく出席はいい。教員免許を希望しているが、それが最低限のモチベーションになっている。

難易度自体には問題がなさそうなので、授業の難易度をどうこうする必要はないように感じるが、個々のケアを大切にする必要はありそう。

③社会人スキル

・働くイメージ

ほとんどできていない…3 人

多少はできている…10 人

ある程度できている…7 人

ほぼできている…1 人

よくできている…2 人

⇒2 年生だからあまりイメージできないものかもしれない。ほとんどできていない 3 人のうち、1 人は粘

り強く取り組むこと、課題の解決がほとんどできないと回答。他者と協働することはまったくできないを回答。この学生は上記孤立している学生でもある。

④満足度

・入学満足

まったく思っていない…3 人
ほとんど思っていない…5 人
多少は思っている　　…5 人
ある程度思っている　…4 人
ほぼ思っている　　…4 人
大いに思っている　　…1 人
（無効回答 1 人）

⇒まったく思っていない学生とほとんど思っていない学生を足した 8 人は、授業に興味がない学生 5 人と重複する。ほか 3 人の学生は、出席がいまいちな学生、一人で授業を受けている学生、モチベーションの低い学生。

⑤総合的な感想

・授業に興味がない学生は入学後の満足が低い。
・難易度に不満があるわけではないので、授業自体に不満がある可能性があるものの、それがわかるアンケートではない。学生がどういう授業を望んでいるのか引き出す問いがアンケートに必要だと思う。
・少人数の大学としてのメリットとして、教員と学生の垣根が低い、授業の人数が少ないので集中できる等あるが、一方でデメリットとして孤立した学生が目立つ。孤立していることを気にして大学自体に来づらいというのを感じる。
・留学生のケアが弱いので、同級生とコミュニケーションが取れず、また、授業に関する不満も生まれ、入学後の満足が低い点もある（これは 2 年生にはいないが聴覚障害者にも言えること）。
・大学の関心は授業だけではなく、部活やサークル活動、友人関係にも左右されるので、そういうことも含めたアンケートをやる必要があると思う（外国語や ICT リテラシーうんぬんよりも）。

◆3 年生（山下）

①アルバイト

・回答した 17 名中、6 名が「なし」。「5～10 時間」2 名、「10～15 時間」5 名、「15～20 時間」2 名、「25 時間以上」2 名。

⇒アルバイトをしていない学生も多いが、長時間労働をしている学生（留学生）もいる。

②大学内での学修

・登校日は、「3～4 日」6 名、「5～6 日」10 名、「7 日」1 名。出席は、「40～60%」2 名、「60～80%」3 名、「80～100%」12 名。出席率は、若干名を除いて高い。
・興味のある授業は、「80～100%」5 名、「60～80%」5 名、「40～60%」4 名、「20～40%」3 名。カリキュラムのなかには学生に興味を持たれないものも含まれる。
・難易度については、「やや難しい」4 名、「普通」8 名、「やや易しい」4 名、「非常に易しい」1 名。
・4 年間で卒業できる自信については、「80～100%」12 名、「60～80%」4 名、「40～60%」1 名で、ほとんどの学生が 4 年間で卒業可能と考えている。

⇒回答者においては、出席率も高く、興味を持って授業に臨んでおり、授業への理解度も高い。

③社会人スキル

・働くイメージは、「よくできている」0 名、「ほぼできている」5 名、「ある程度できている」4 名、「多少はできている」7 名、「ほとんどできていない」1 名。

⇒働くイメージが、「できている」と感じている学生が 3 年生の段階としてはやや少ない。

④満足度

・「大いに思っている」4 名、「ほぼ思っている」5 名、「ある程度思っている」4 名、「多少は思っている」4 名。「まったく思っていない」「ほとんど思っていない」を選んだ学生はいない。

⇒比較的満足度は高い。ただし、さらに満足度を上げるためには、興味のある授業を増やすことと、授業の難易度を下げることが必要と考えられる。

◆4 年生（青柳）

①アルバイト

・回答した 18 名中、5 名が「なし」。「15～20 時間」7 名、「25 時間以上」も 1 名いる。

⇒最終学年ということで、他の学年に比べてアルバイトの勤務時間が圧倒的に多い。登校日が少ないことで、その分をアルバイトに充てている傾向がある。ただし、「休日の過ごし方」でみると、「特に決まった予定はない」が 11 名と圧倒的なので（「アルバイト」は 4 名）なので、当人たちの認識としては、アルバイト中心と考えているわけでもないことがわかる。

②大学内での学修

・回答した 18 名中、登校日数は「１～2 日登校」（7 名）「３～４日登校」（8 名）と少ない。出席も「80～100%」が 8 名で、１-2-3-4 年で 17-15-12-8 名と漸減している。

・４年生になってからでも「4 年間で卒業できる自信」は全員 100%にはなっていない。「80～100%」が 9 名。「60～80%」が 4 名、「40～60%」が 1 名、「20～40%」が 3 名となっている。

・授業の準備、レポート等に要した時間が、4 年生になっても他の学年と変わらず多い。「6 時間以上」が 3 名いる。

⇒登校日数がシステム上激減するので、大学に来なくなるのは致し方ないが、授業出席率が自覚ベースでも悪くなるというのは問題である。卒業論文が必修になった初めての学年ということもあるが、こういった大学との乖離感も、「卒業できる自信」のなさにつながるのではなかろうか。いっぽうで、演習などにおける準備やレポートに追われる実情がある。

③大学外での学修

・大学外の文化施設や音楽会、ボランティア活動などへの参加率が、「よく行く」4 名、「時々行く」8 名と、他の学年に比べて比較的高い。

⇒当該学年の特徴かも知れないが、大学以外の文化的な催しへの積極的参加傾向が認められることは、4 年間の教育の積み重ねの成果であるということができよう。

④社会人スキル

・スキルへの意識について、他の学年に比べて特段の有意差がない。「働くということ」についてのイメージができているかどうかについても、4 年生であるにもかかわらず、「まったくできていない」が２名、「ほとんどできていない」が 4 名いるのが特徴的である。（「よくできている」が 2 名、「ほぼできている」が３名、「ある程度できている」が 4 名、「多少はできている」が 3 名）。

⇒4 年間の積み重ね、という側面がほとんど見られないのが特徴で、外国語、ICT、コミュニケーション能力等でも、他の学年と大きな差がない。これは、キャリア教育が系統だっていないことのあらわれ

であろう。結果として、就職が目の前にあっても、「働く」というイメージが持てない4年生ができてしまうことになる。

⑤満足度

・東京成徳大学に入学してよかったと思っているか、については、他の学年よりも満足度は高い。「大いに思っている」が6名、「ほぼ思っている」が5名、「ある程度思っている」が5名、「多少は思っている」が1名、「ほとんど思っていない」が1名。

⇒4年生として振り返って、本学への満足度が高かったというのは救いであるけれども、それがどの部分においてのものなのかはさまざまであろうし、本調査の結果からは、学生のニーズがどこにあるのか、をつかむところまでの明瞭な結果は出なかったように思われる。

（3）課題と対応

①アルバイト

・1年生を除く全学年に、1～2名「25時間以上」のアルバイトを行っている者が存在。また三年生には、「15～20時間」のアルバイトを行う者の数が7人と多い

⇒これだけでは断言できないが、アルバイト時間の少ない／多いが授業に対する熱意と相関している印象はある。

時間のない者には効果的な自学自習は望めないので、私自身は、最低限授業中に「お客様」状態にならないよう、問いを投げかけて考えさせることを心がけている。もっとも、効果のほどはよくわからない。いかにして授業への熱意を確保するかは、学科全体の課題になりそう

②大学内での学修

・「興味のある授業」については、1年生・2年生はそこまで傾向が変わらない。一方、3年生は比較的授業に興味を持っているよう

・1年生の、卒業に対する自信のなさが顕著

・2年生に、興味のある授業がほとんどない（「0～20%」）学生が多い

⇒1年生の件については、環境の変化が最大の理由だと考えられ、大学に対する満足度も高いため問題視するほどではないと思う（大学ならではの学びの大切さを受け取ってくれているがゆえの不安だ、と思いたい）。

「興味のある授業」の、3年生でのポイント上昇は、好きな授業を選べるようになったことが理由としては大きいか？　1年生は特に、教員免許取得のため、「好きではないが必要」という動機で授業を履修している学生が多いので、「興味のある授業」の割合が低いからといって学修に積極的ではないとはいえないのが難しいところ。

興味のあるなしだけではなく、「受講していて楽しい／楽しくない」、「受講していてためになる／ためにならない」などの質問項目も設ければ、学生の学修実態がさらによくわかるのでは。来年度のアンケートでは項目を増やした方がよいかもしれない

③社会人スキル

・3年生・4年生のポイントがそれほど高くない中で、1年生には、働くイメージを描けていると感じる学生が多い

⇒まだよくわかっていないだけ、という可能性は捨てきれないが、今年からのキャリア教育の新しい試みが効果を上げている、と解釈することも可能。この点は、翌年度以降のアンケート結果と付き合わせることではっきりするだろう。現時点では、1年生に対しては、仕事に対する積極性を評価しながら

見守っていくという方針で臨みたい

④満足度

・これも、大学内での学修と同様、2年生のポイントの低さが顕著

⇒ポイントに反映するだけの意志がない、あるいはアンケートを出していないだけで、授業に興味がない学生は、私見ではどの学年にも存在するように思われる。彼らが積極的に授業に取り組めるような環境づくりが、学科としても急務。

「基礎ゼミB」では、グループでの課題解決学習のスタイルを採用したところ、休みがちだった学生が比較的真面目に大学に来るようになった事実もある。学生たちは対人関係に気を遣う傾向があるので、授業内でも人間どうしの繋がりをつくってやれば、ある程度の効果はあるはずである（ただし、孤立する学生が出ないような配慮は必要になる）

授業に対して積極的でない学生は、どちらかというと能力面よりも精神面で不安や問題を抱えている学生が多い。部活や友人関係などにも踏みこんだ質問項目があった方が、学生の考えをよりよく把握することができるだろう。次回以降のアンケート改善のための提案としたい。授業への不満や、大学への満足度についても、どこが不満でどこに満足しているのか、具体的にわかるような質問項目を設けておいた方がよいと思われる

学修調査（行動・成果調査） 日本伝統文化学科 【割合】

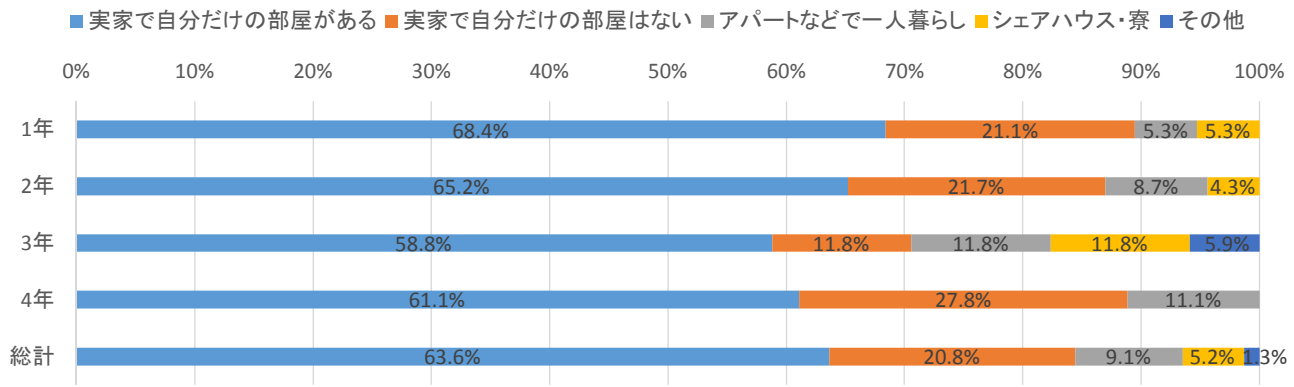
【回答者数】（人）

	男性	女性	計
1年	6	13	19
2年	10	13	23
3年	9	8	17
4年	11	7	18
計	36	41	77

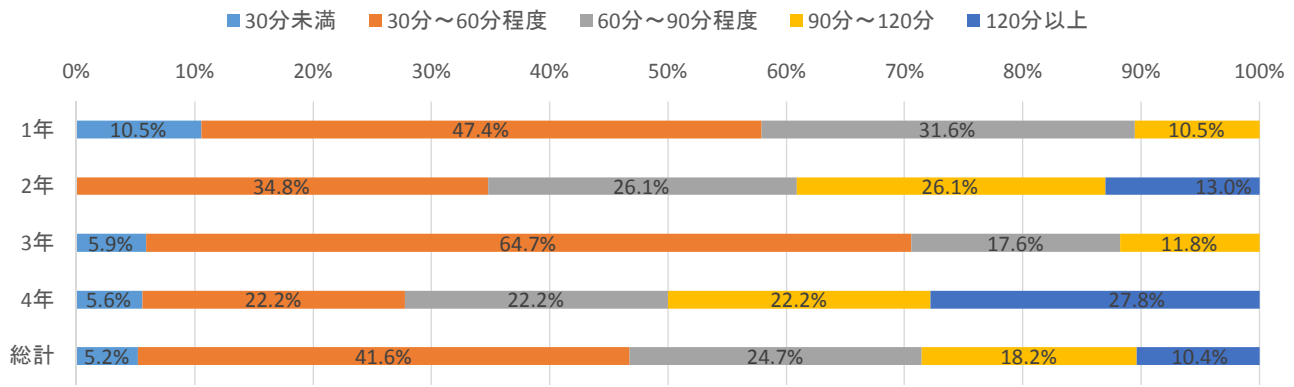
	AO	推薦（公募・指定）	一般	センター	社会人 外国人	編入	計
1年	0	14	2	3	0	0	19
2年	3	8	6	5	1	0	23
3年	5	5	2	2	2	1	17
4年	7	4	4	2	0	1	18
計	15	31	14	12	3	2	77

【学修行動調査】（%）

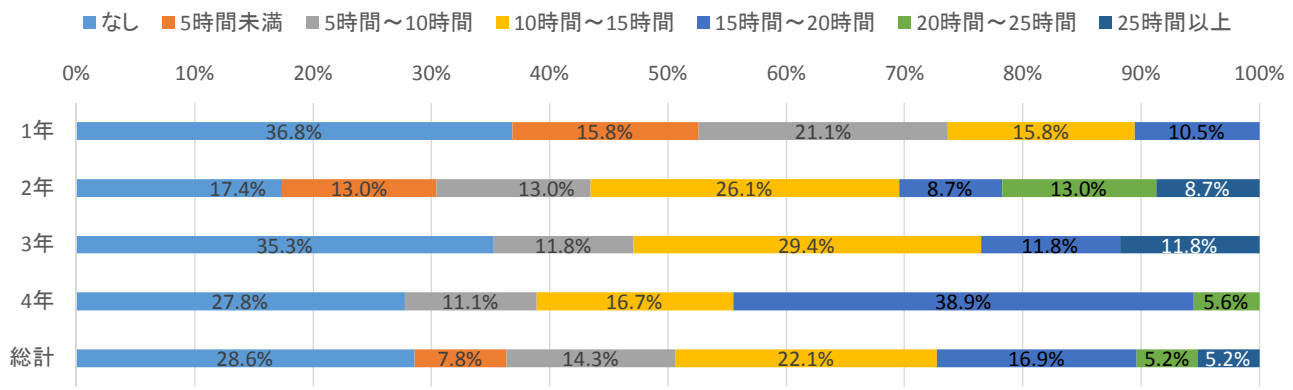
1.あなた自身について
(1)学修環境



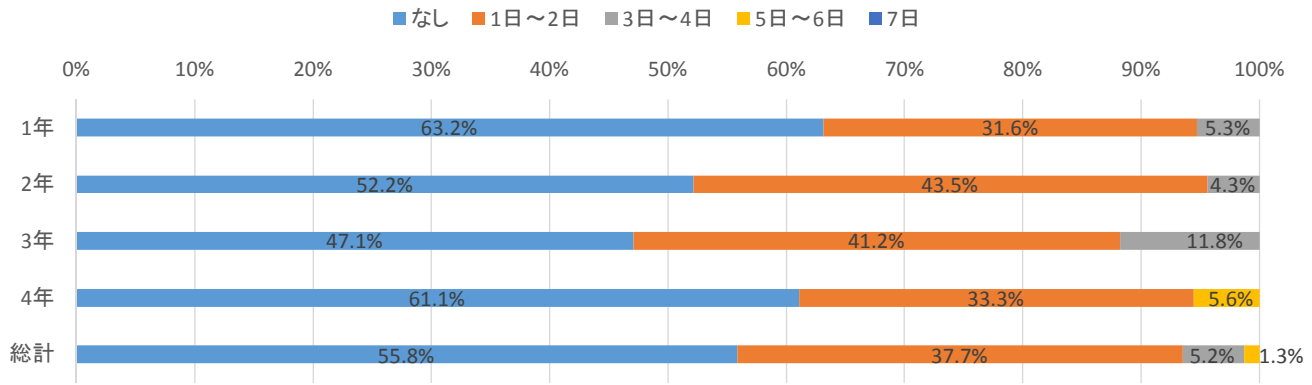
(2)通学時間（家から大学まで）



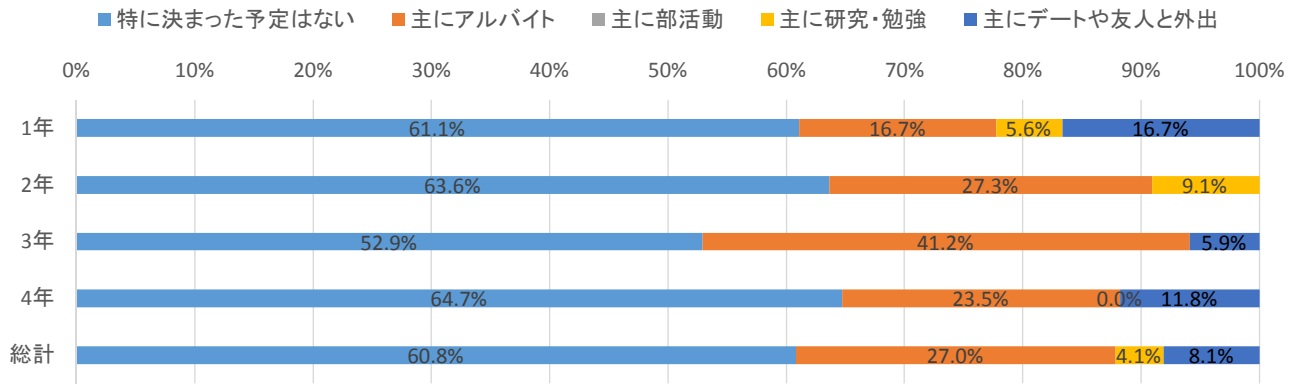
(3) 1週間あたりのアルバイト（時間）



(4)1週間あたりの部活・サークル活動や学外のクラブなどの活動

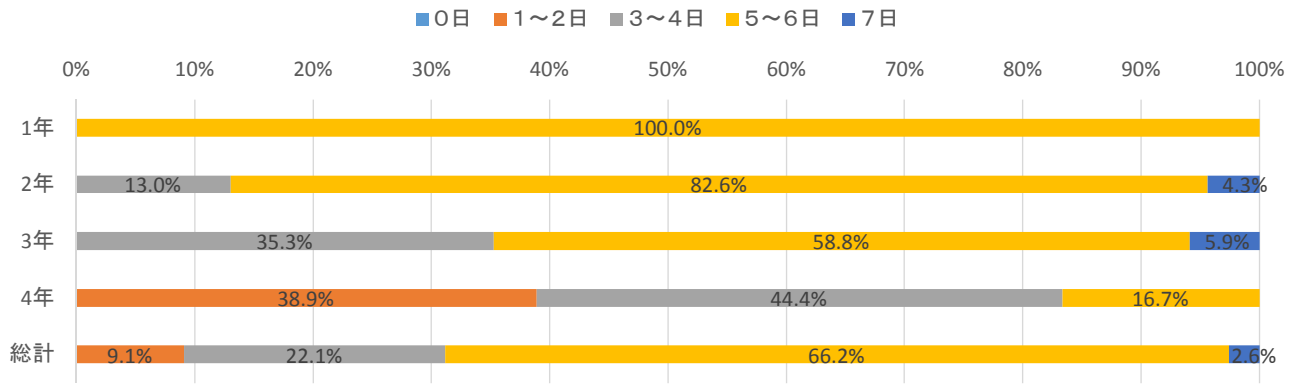


(5)休日の過ごし方　　（無効回答　1年：2　2年：1　4年：1　）

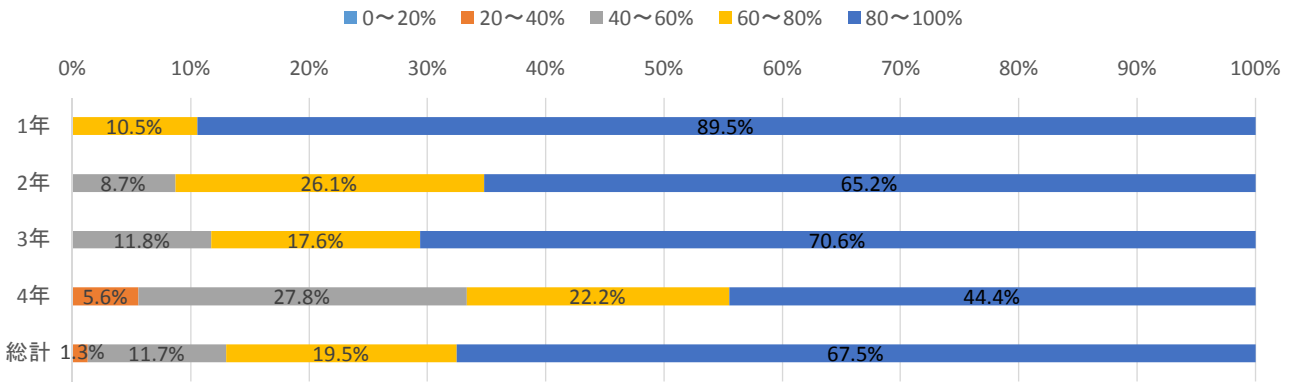


2. 1週間（平均的な）における大学内での学修について

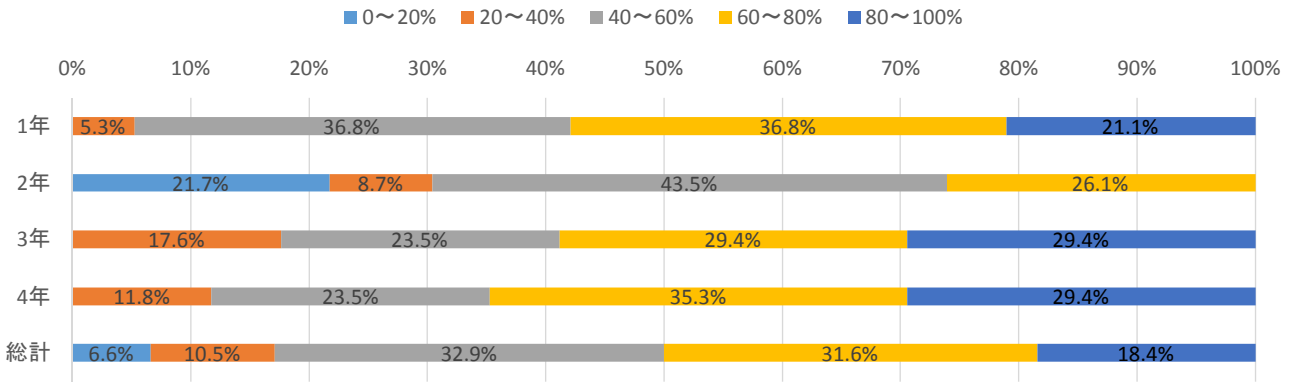
(6) 大学に何日登校しましたか



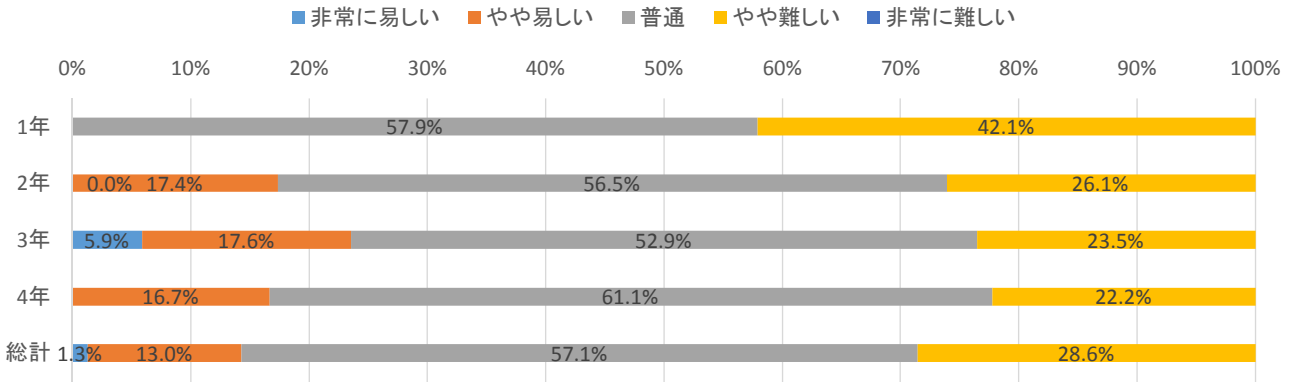
(7) 授業に出席した割合は



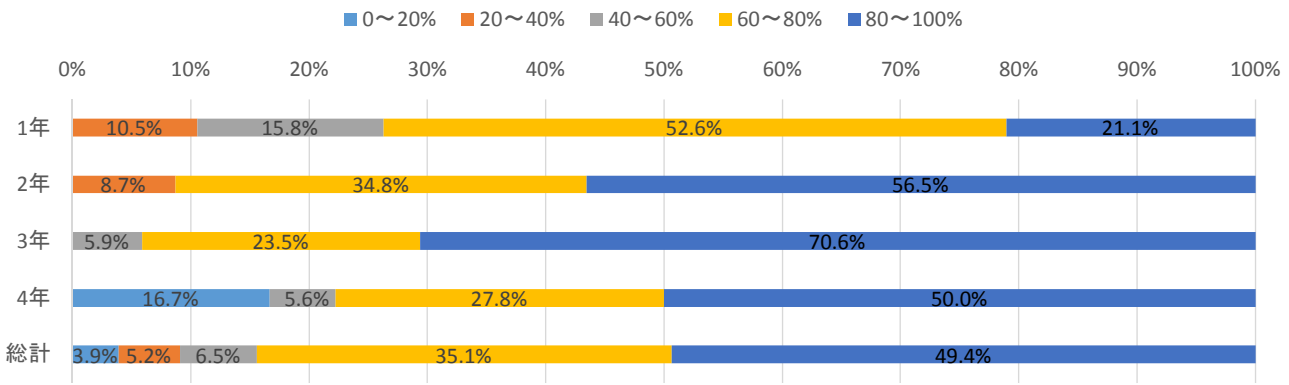
(8) 興味のある授業の割合は



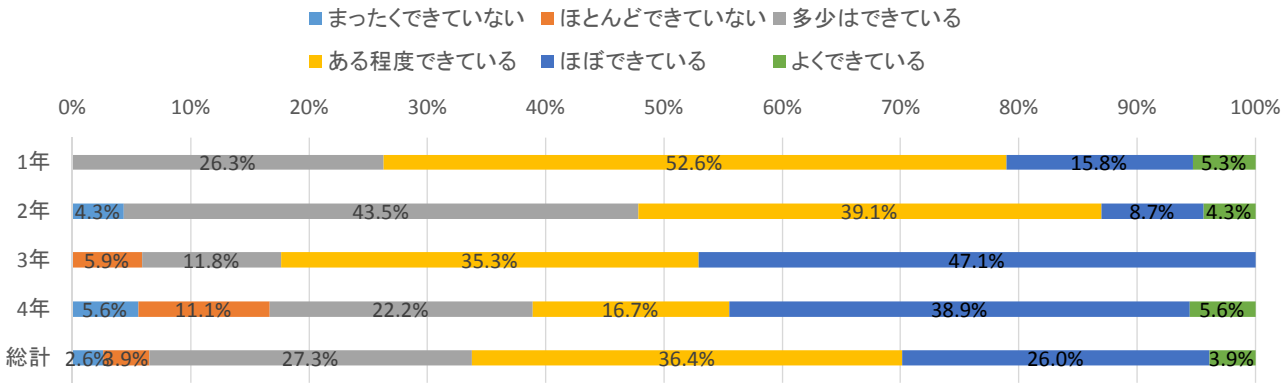
(9) 授業全体の難易度は



(10) 4年間で卒業できる自信は

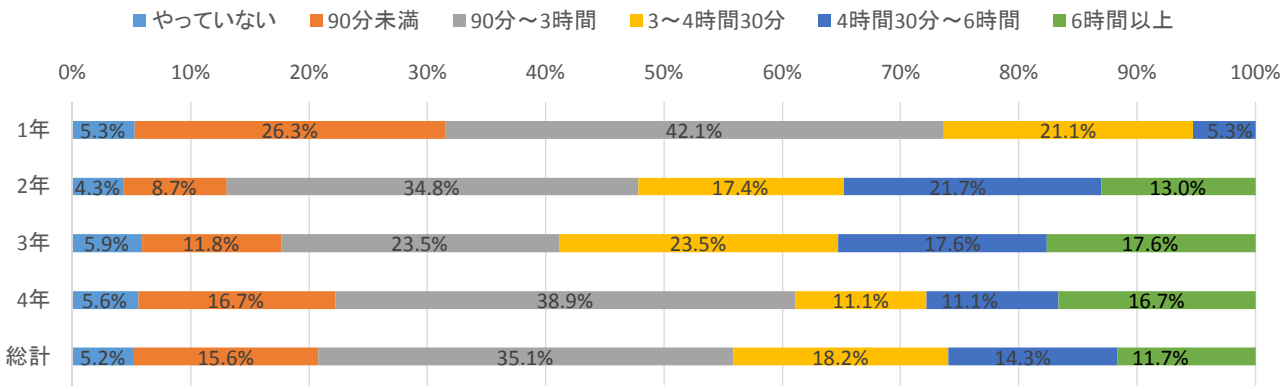


(11) 授業には積極的に取り組みましたか

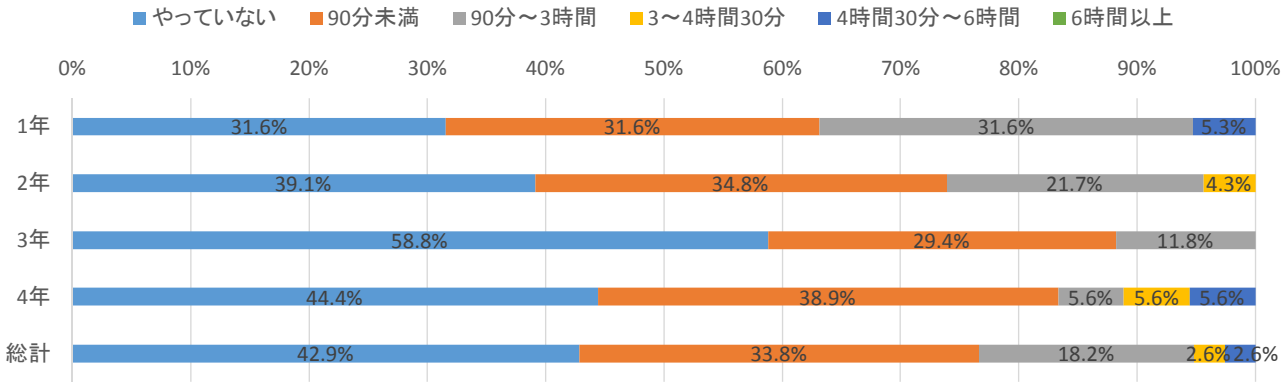


3. 1週間（平均的な）における教室外での学修時間について

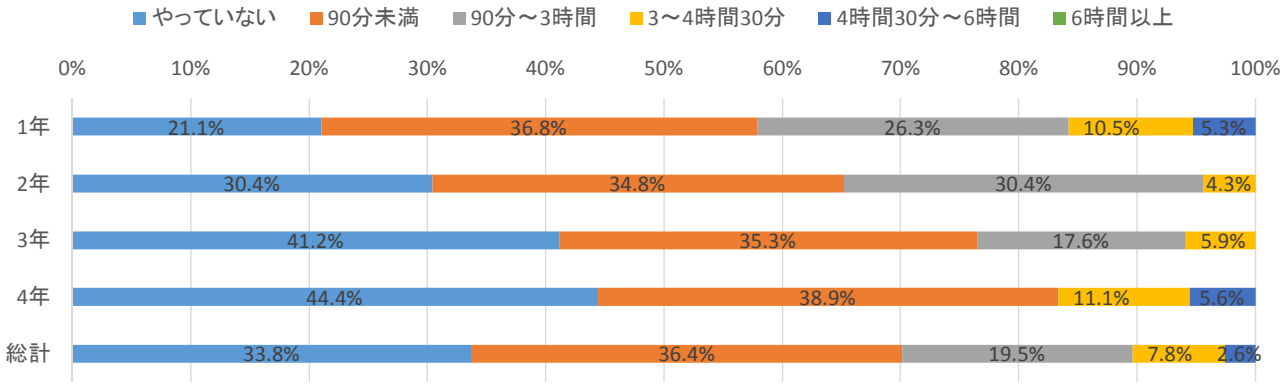
(12) 先生に指示された授業の発表の準備、課題やレポート、宿題を1週間合計でどのくらいやりました



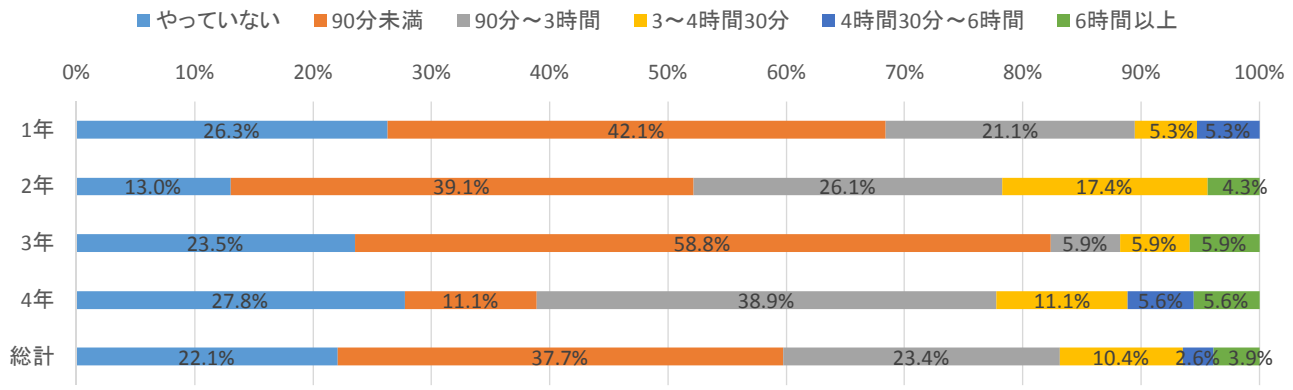
(13) 授業の予修を自発的に1週間合計でどのくらいやりましたか



(14) 授業のノートの整理や復修を自発的に1週間合計でどのくらいやりましたか

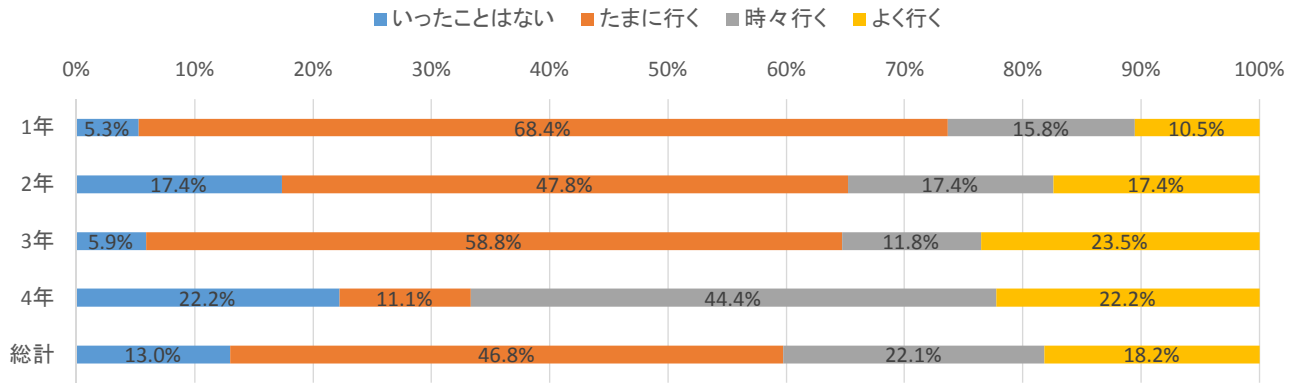


(15) 授業に関連する資料や本を探したり、調べたりすることを1週間合計でどのくらいやりましたか

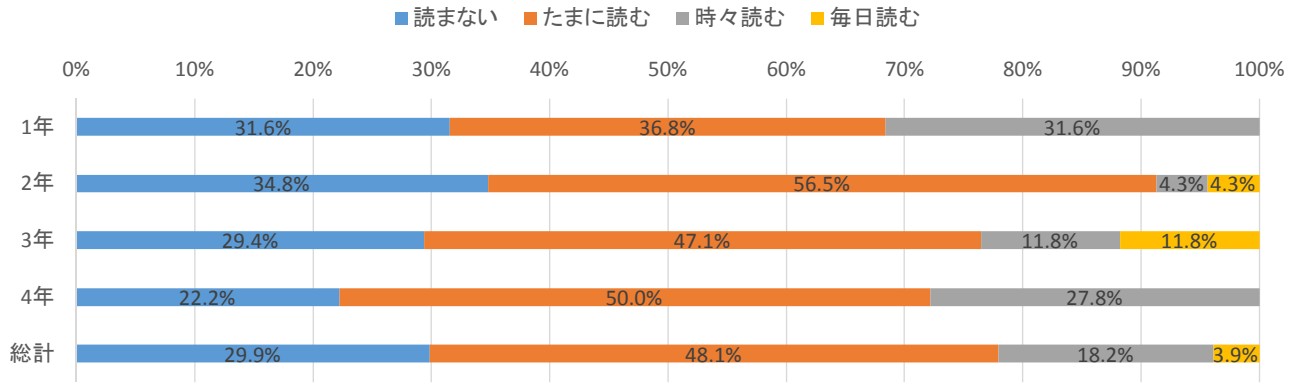


4. 授業以外の学修活動や普段の行動

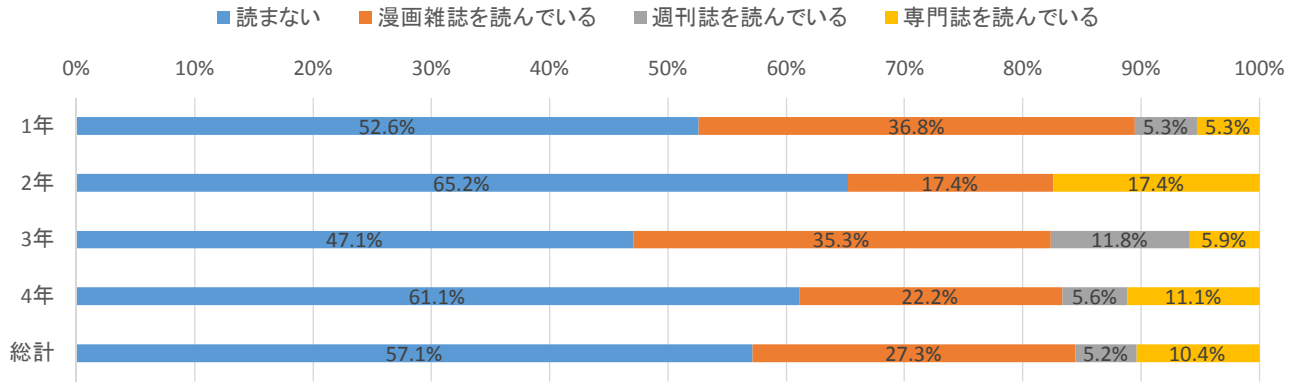
(16) 大学外の図書館や美術館・博物館等の文化施設、研修会・講演会などへの参加、音楽会・コンサート、スポーツの大会などや、サークル活動や授業以外でのボランティア活動に



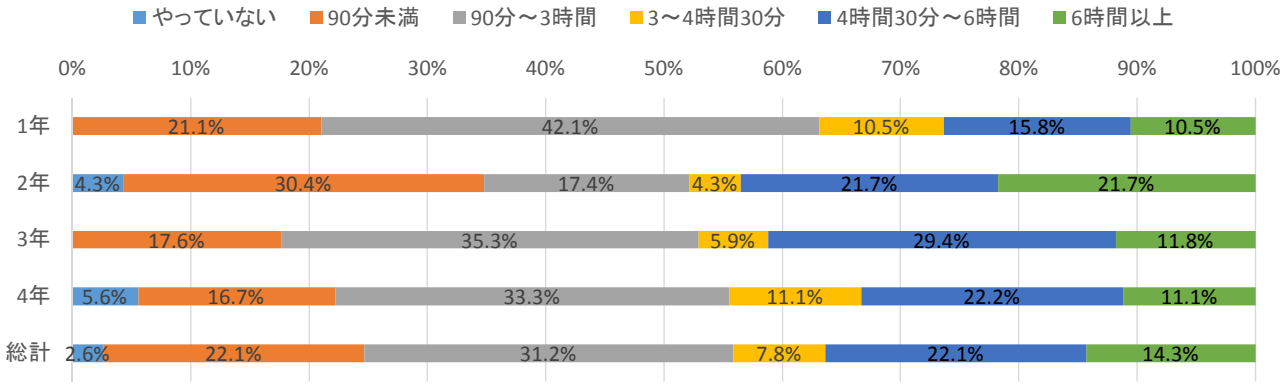
(17) 新聞を読んでいますか



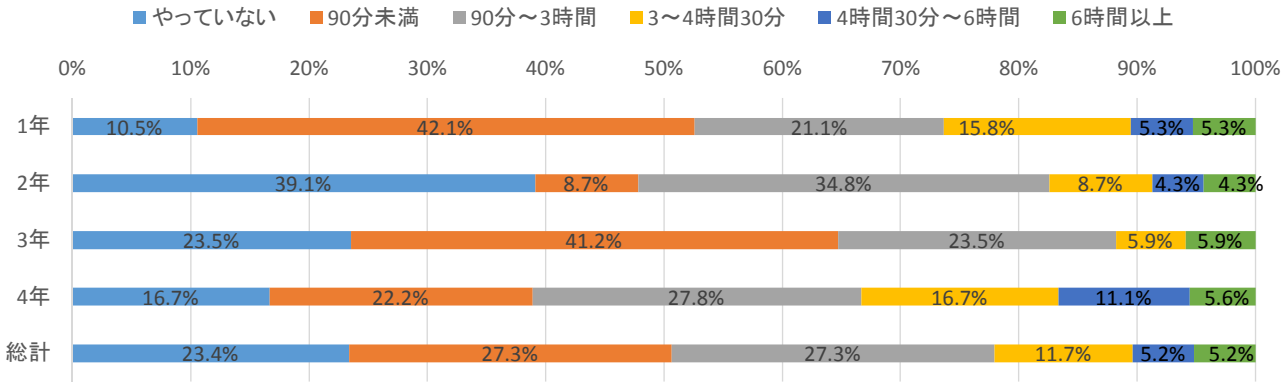
(18) 定期的に読んでいる雑誌、週刊誌は



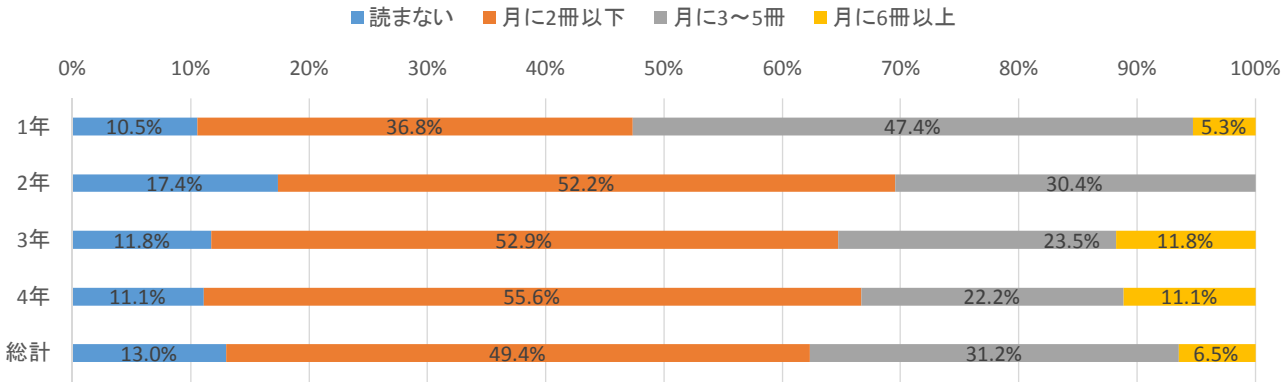
(19) インターネット（LINEやその他SNSを含む）を1日にどのくらい使っています;



(20) ゲーム（オンラインゲームを含む）を1日にどのくらいやっていますか



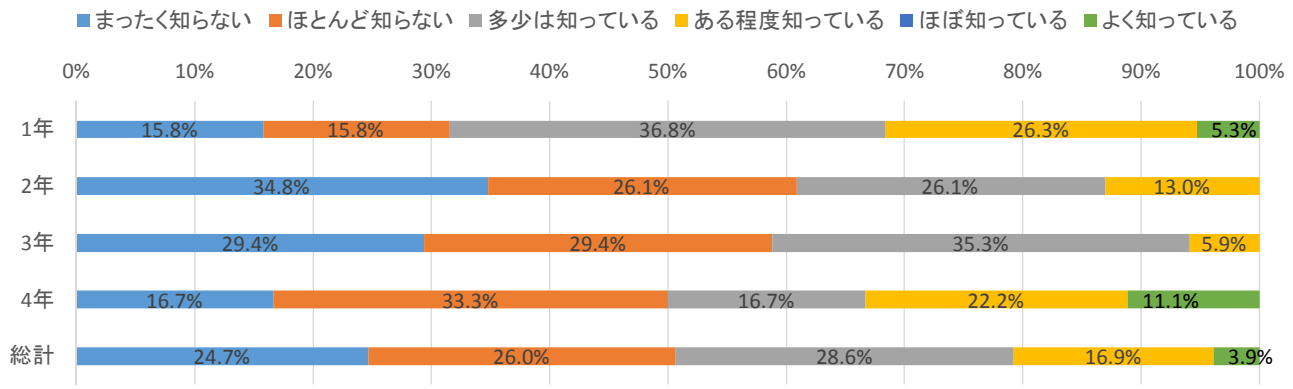
(21) 本をどのくらい読んでいますか



【学修成果調査】(%)

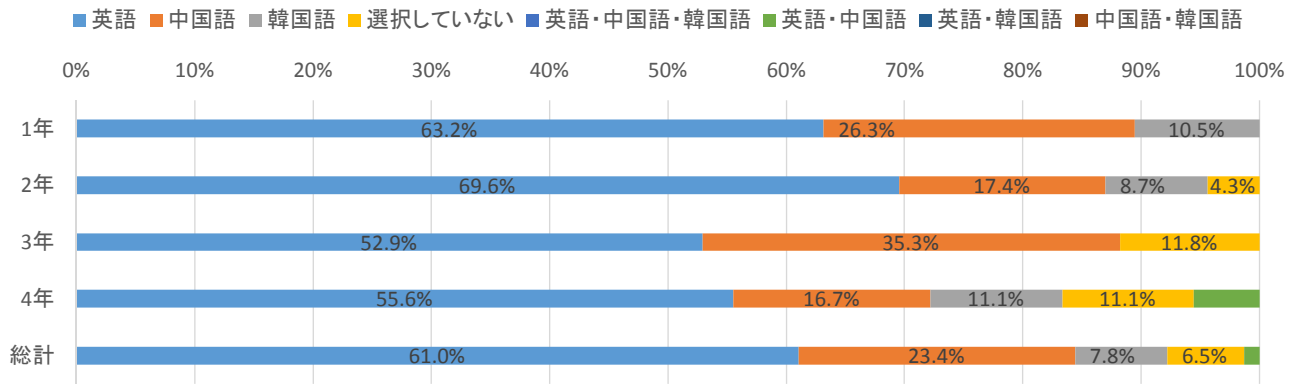
1. 教育理念について

(1)本学の教育の基本理念「共生とコミュニケーション」を知っていますか。

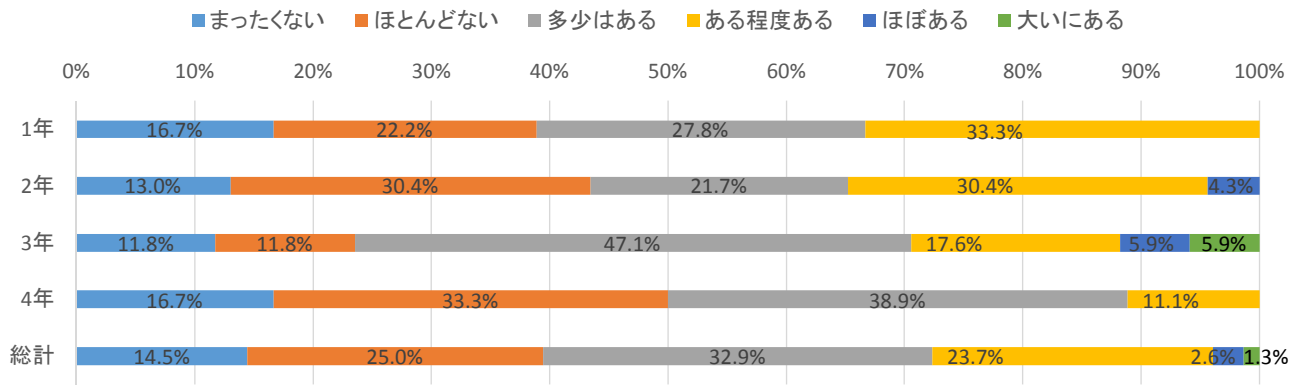


2. 外国語能力について

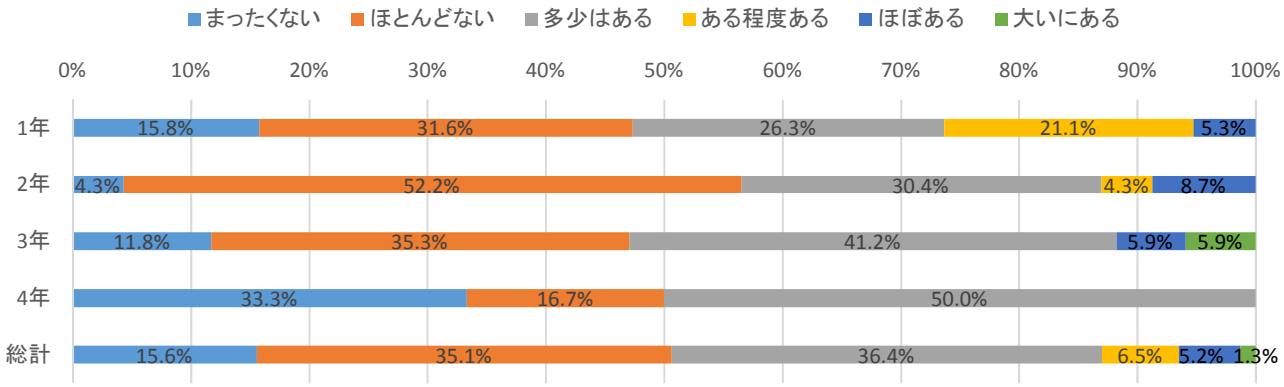
(2)外国語の授業を選択していますか・いましたか。



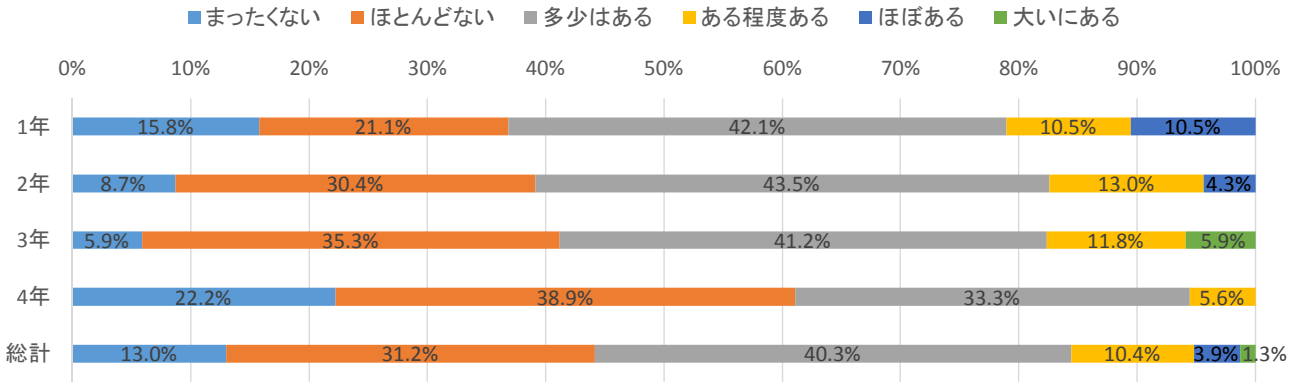
(3)読む力がある。 (無効回答 3年:1)



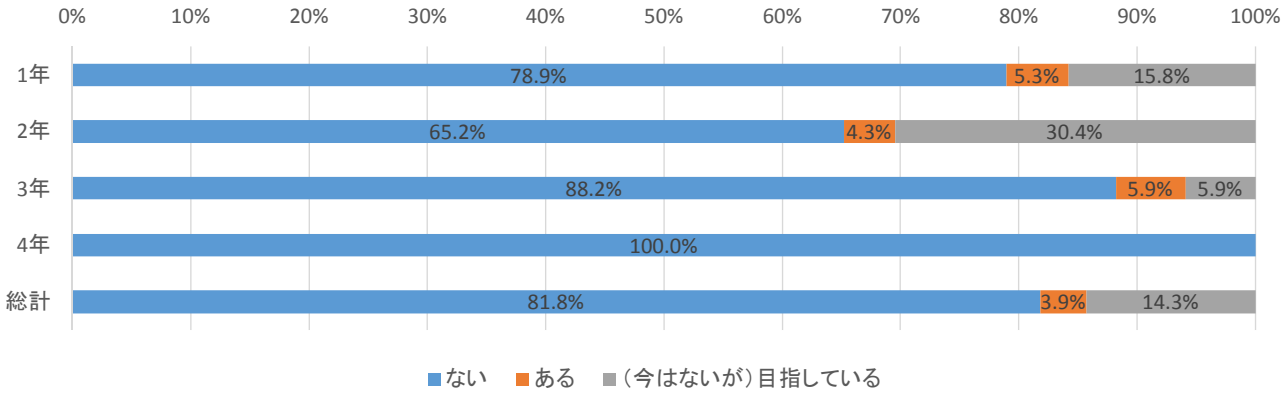
(4)会話力（話す、聞く）がある。



(5)書く力がある。

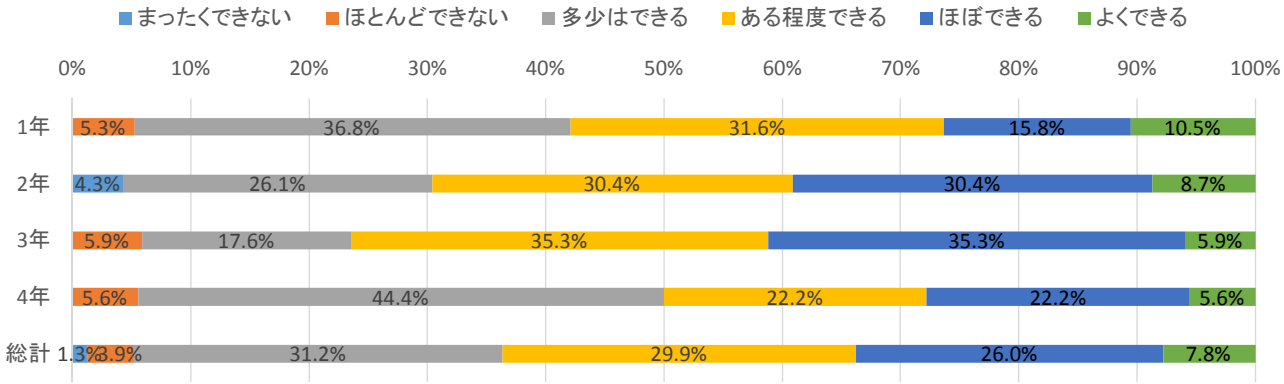


(6)大学入学後に取得した語学の資格がありますか、あるいは検定試験で一定の点数を取ったことがありますか。

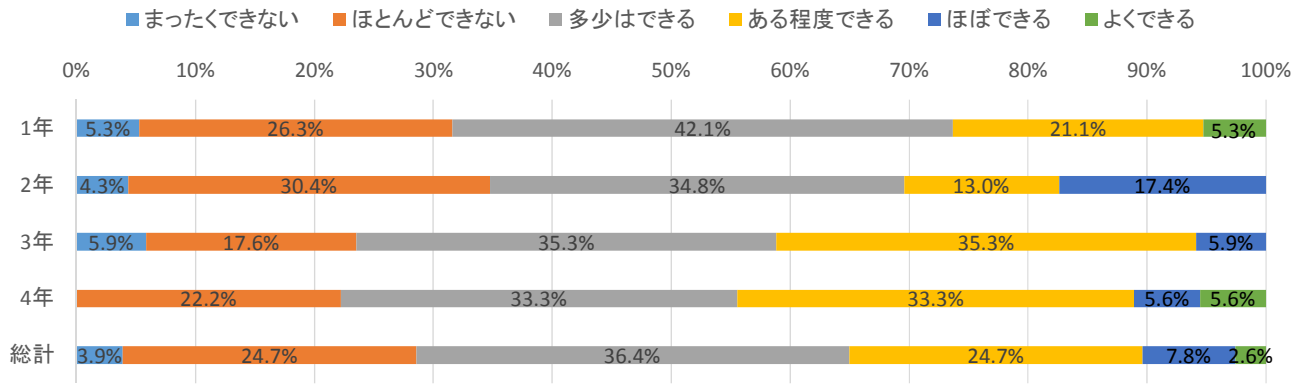


3. ICTリテラシー（＝情報機器やインターネットを使う能力）について

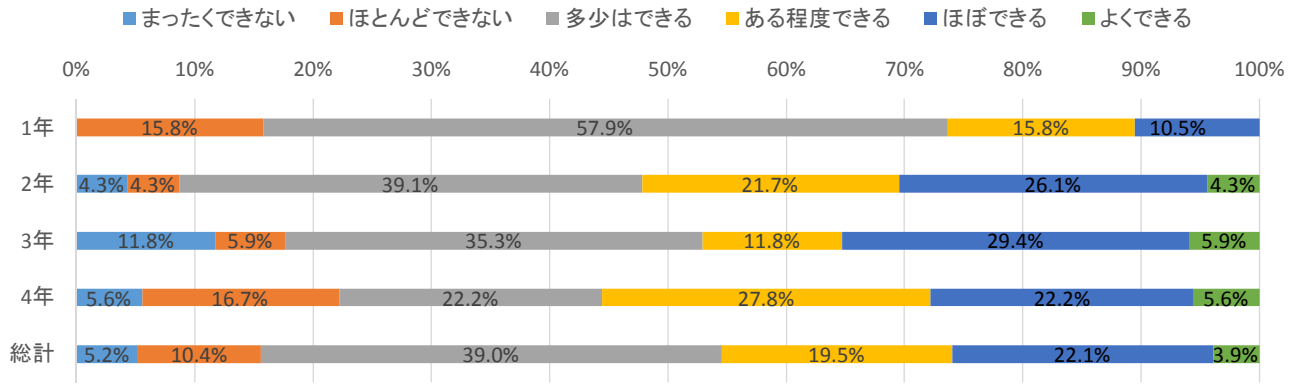
(7)文章作成ソフト（Wordなど）を使って文章を作成することができる。



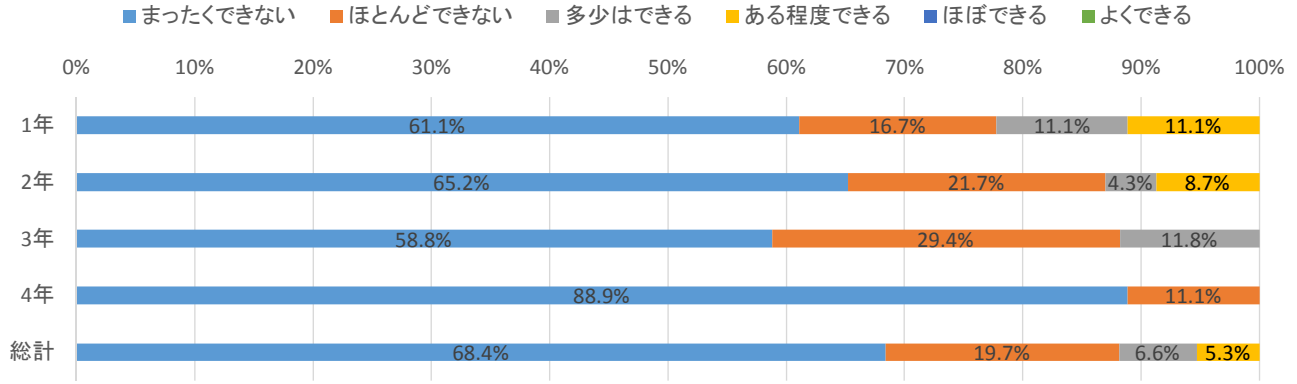
(8)表計算ソフト(Excelなど)を使って図表を作成することができる。



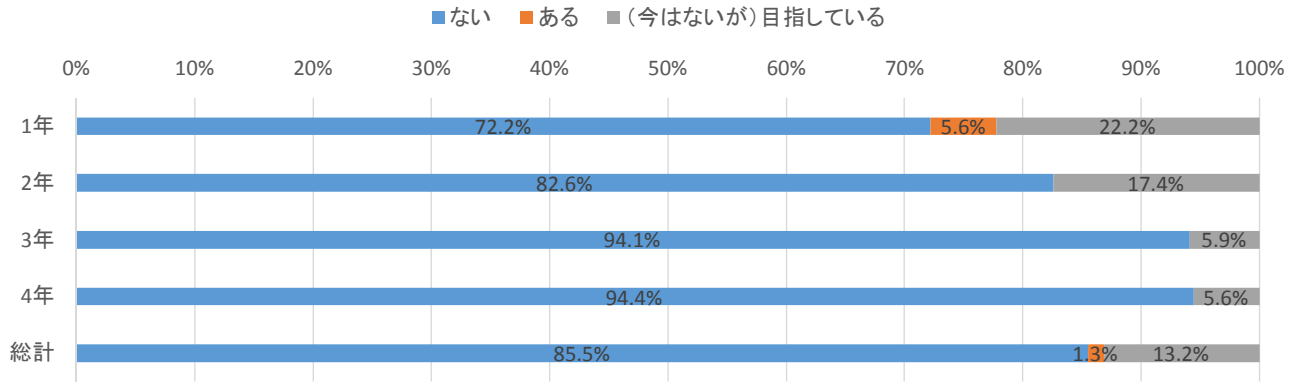
(9)プレゼンテーションソフト(Power Pointなど)を使ってプレゼンテーション用の資料を作成することができる。



(10)アプリケーションソフトを作成することができる。 (無効回答 1年:1)

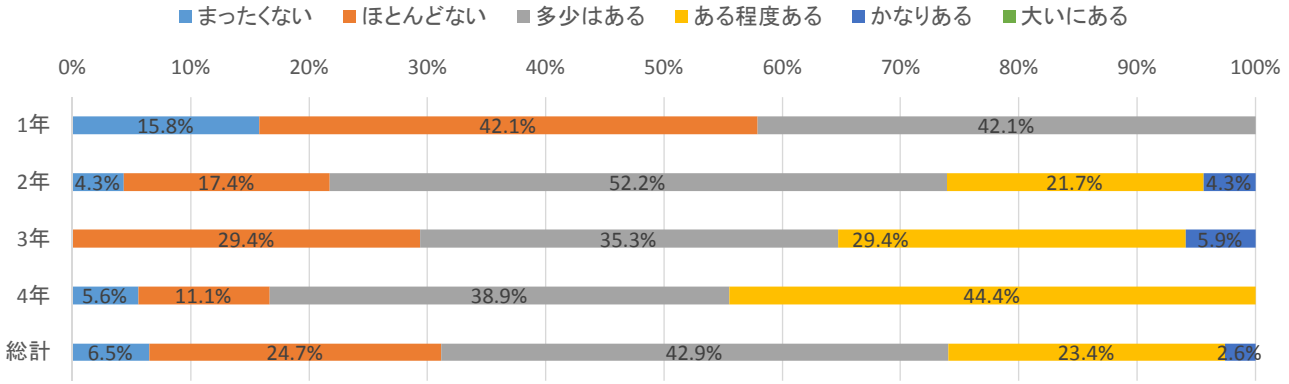


(11)大学入学後に取得したICT関連の資格がありますか、あるいは検定試験で一定の点数を取ったことがありますか。
(無効回答 2年:1)

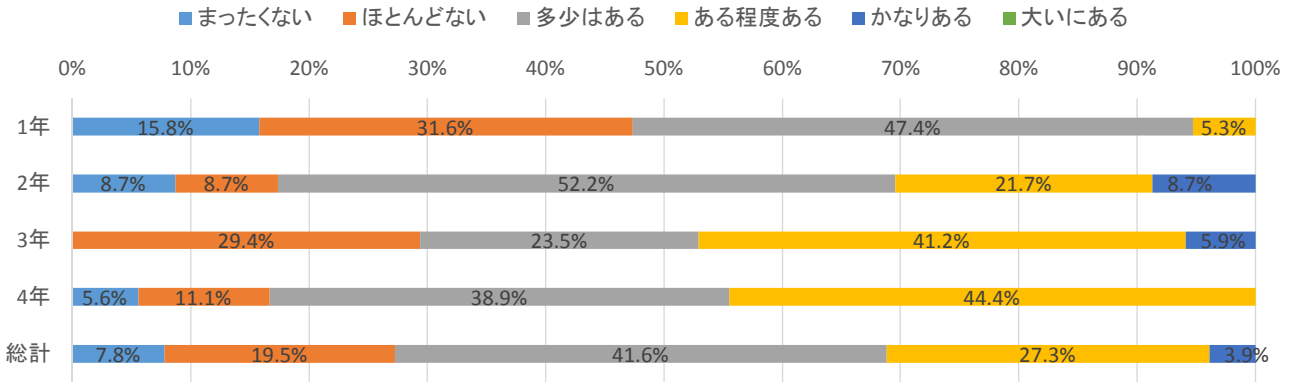


4. 教養・基礎的スキルについて

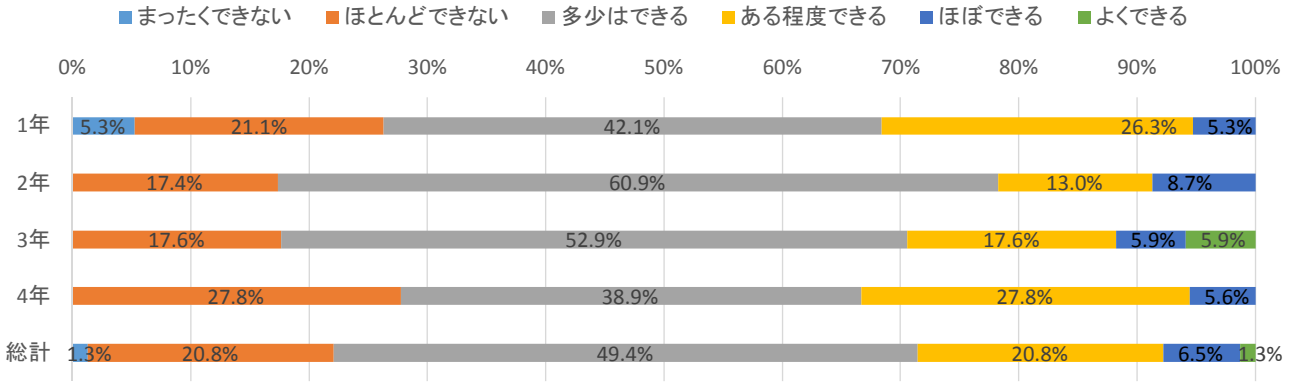
(12)専門分野の知識とは別に幅広い知識や教養がある。



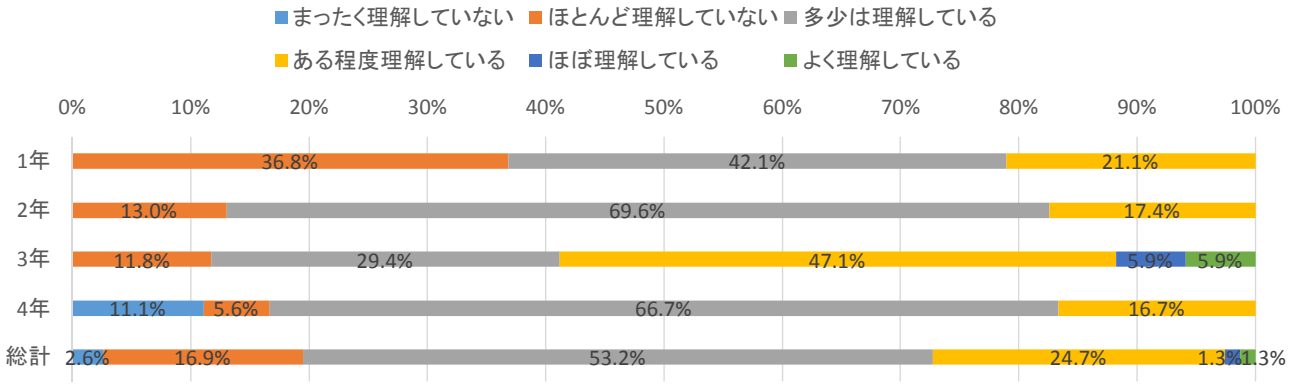
(13)レポートや論文作成に必要な情報収集のスキル(論文、文献、統計などの検索方法など)がある。



(14)レポートや論文などを書くために必要なスキル(書式や作法など)がある。

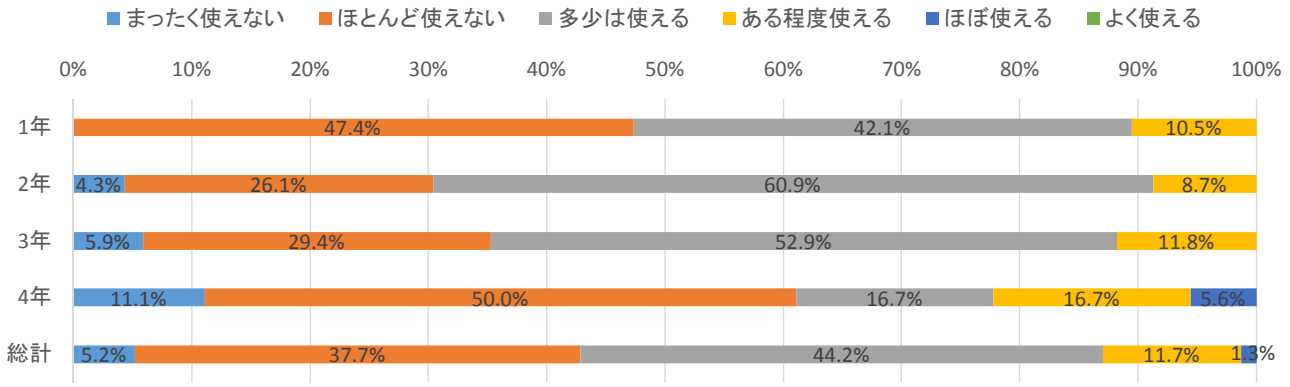


(15)ディスカッションの中で他者の意見をきちんと聞きながら自分の意見を述べ

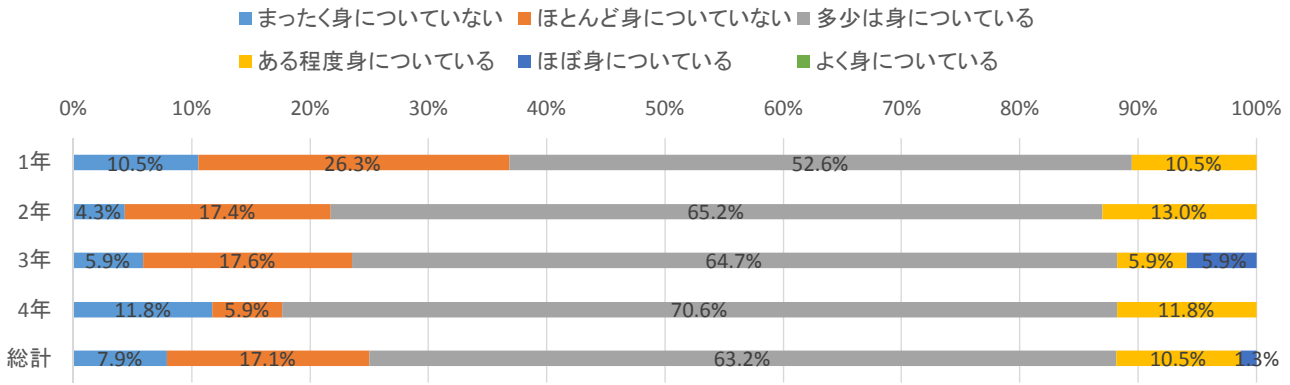


5. 専門知識・専門的スキルについて

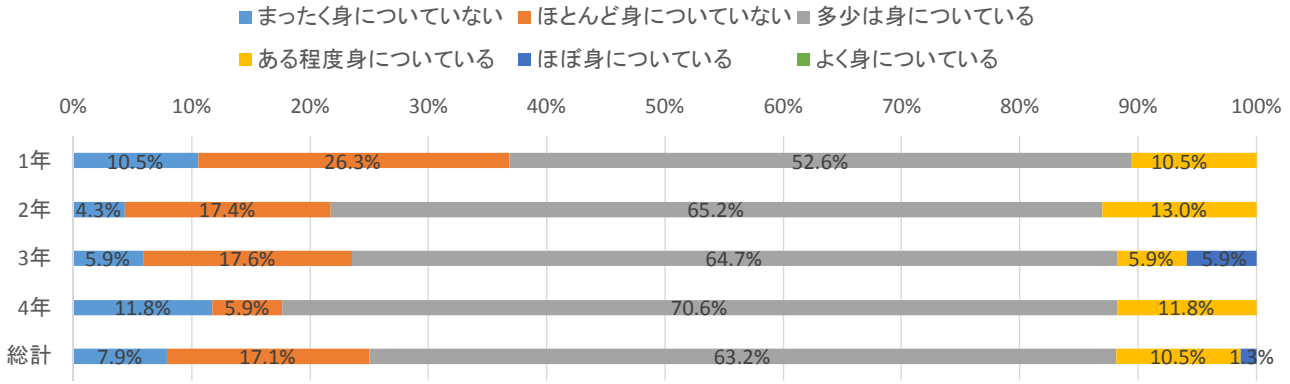
(16)専門知識を理解している。



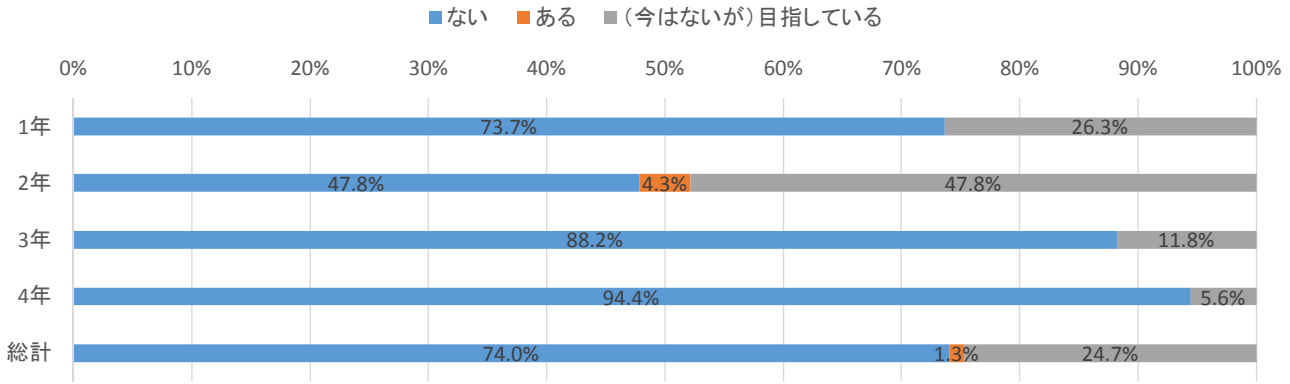
(17)専門知識を実際の場面で使うことができる。



(18)専門的スキルが身についている。　　（無効回答　4年：1　）

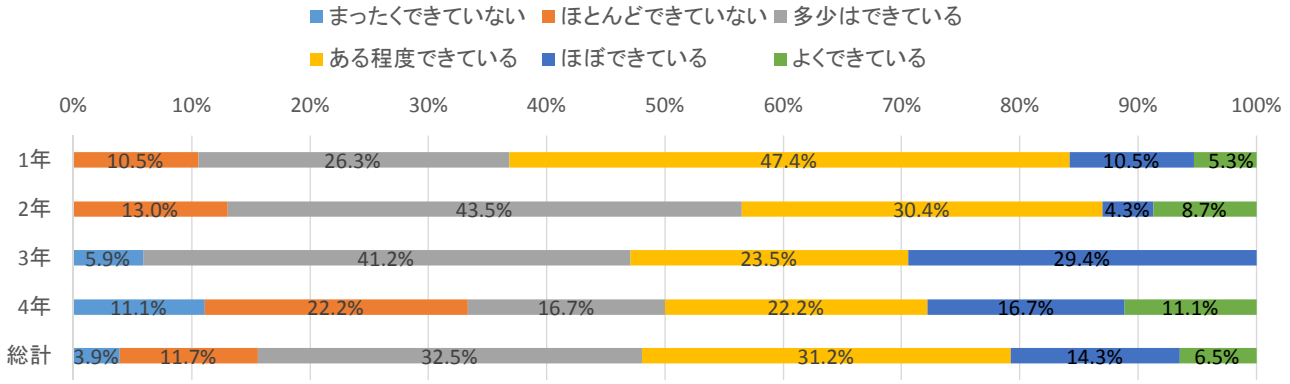


(19)大学入学後に取得した専門分野に関連する資格がありますか、あるいは検定試験で一定の点数を取ったことがありますか。

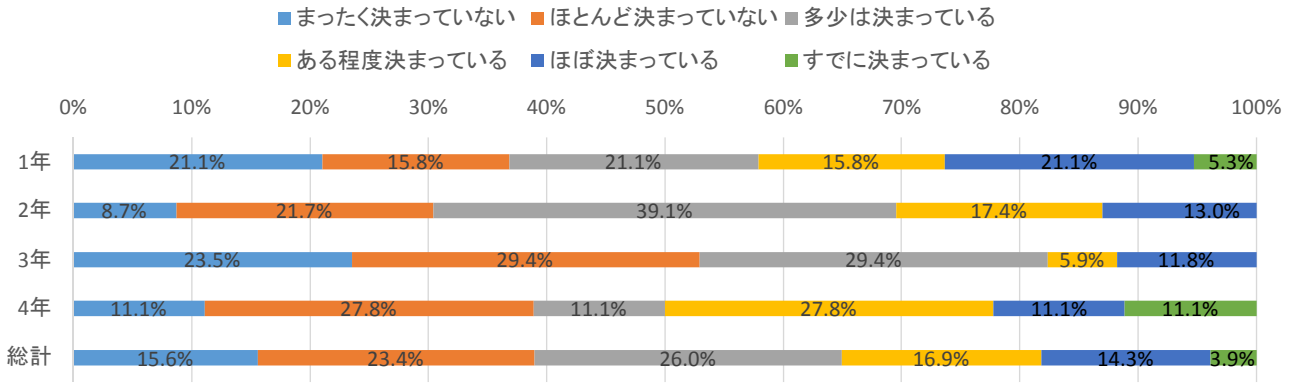


6. 社会で活躍するための力（キャリア教育、社会人基礎力）について

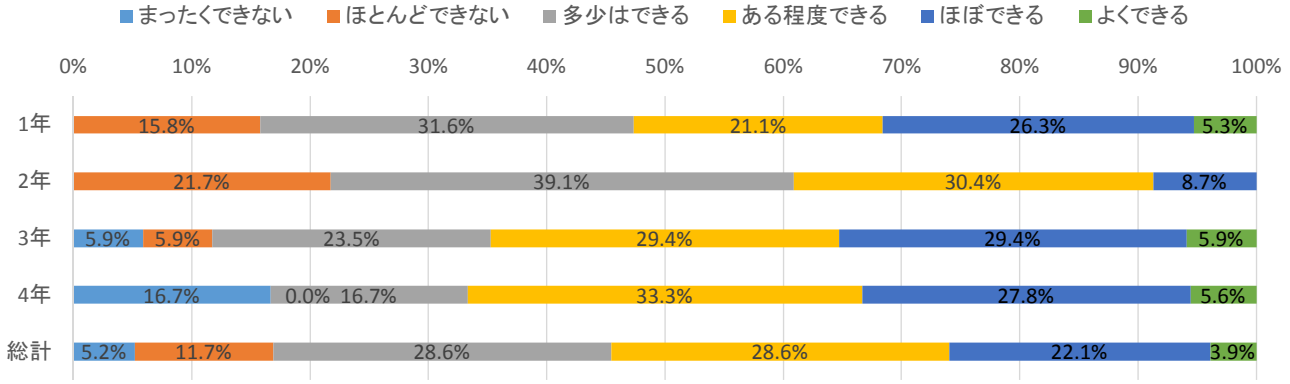
(20)「働く」とはどのようなことかイメージできている。



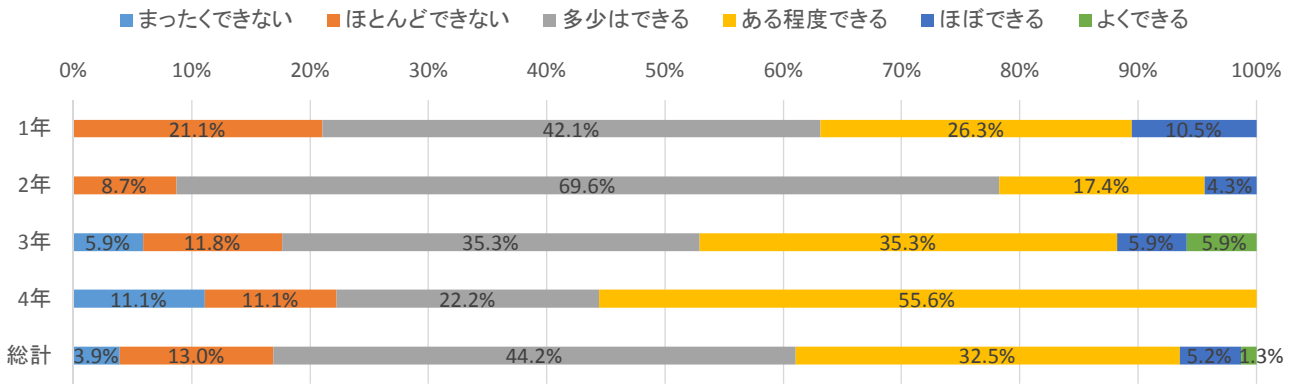
(21)将来の進路が決まっている。



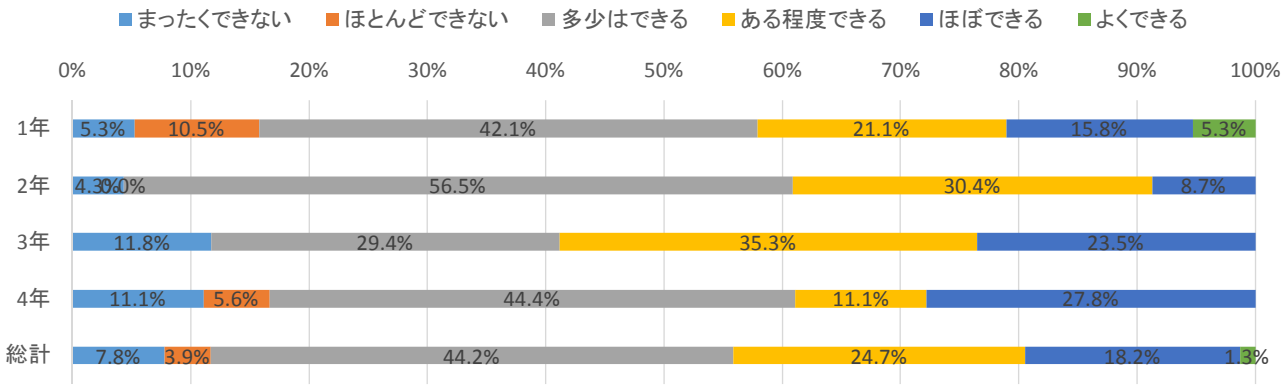
(22)自ら目標に向かってものごとに粘り強く取り組むことができる。



(23)課題を見つけ出しそれに対する最善の解決方法を考えることができる。



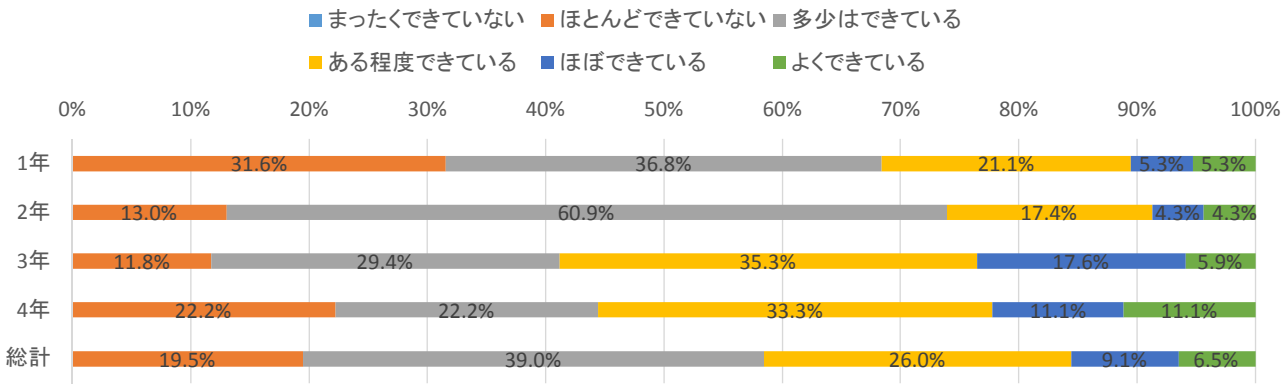
(24)さまざまな考えを持つ人々と意見を交換しながら力を合わせて働くことがで



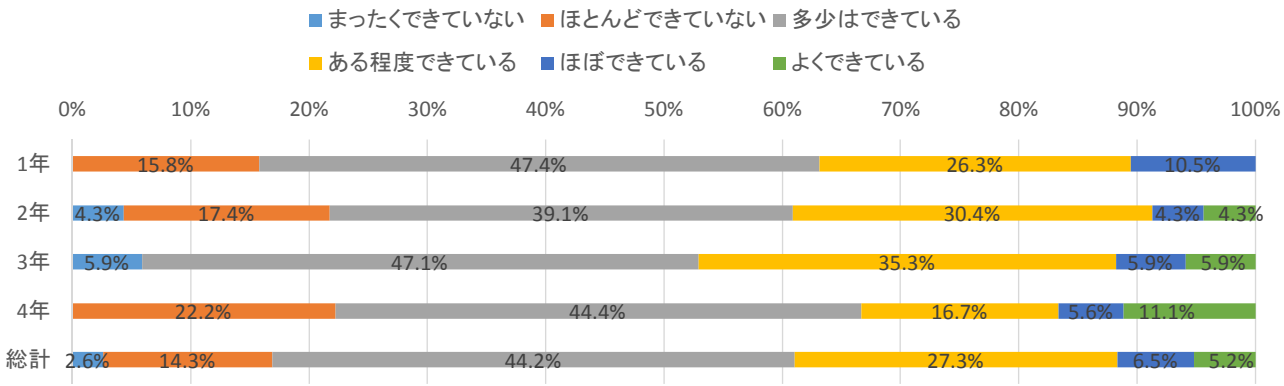
7. 総合力について

・上記の「2」～「6」の学びを通して、以下の力がどの程度身についていると思うかお答え下さい。

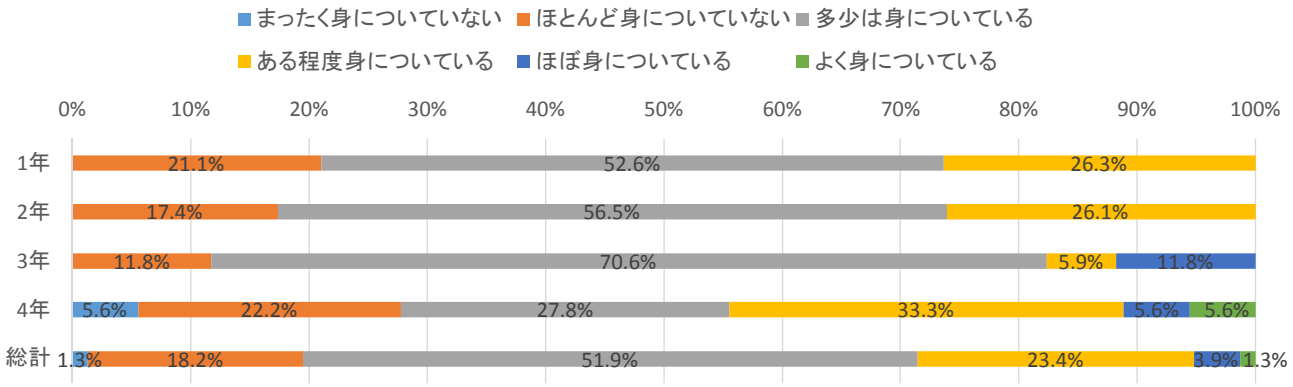
(25)自分自身の「ものの見方・考え方」をつくり上げることができた。



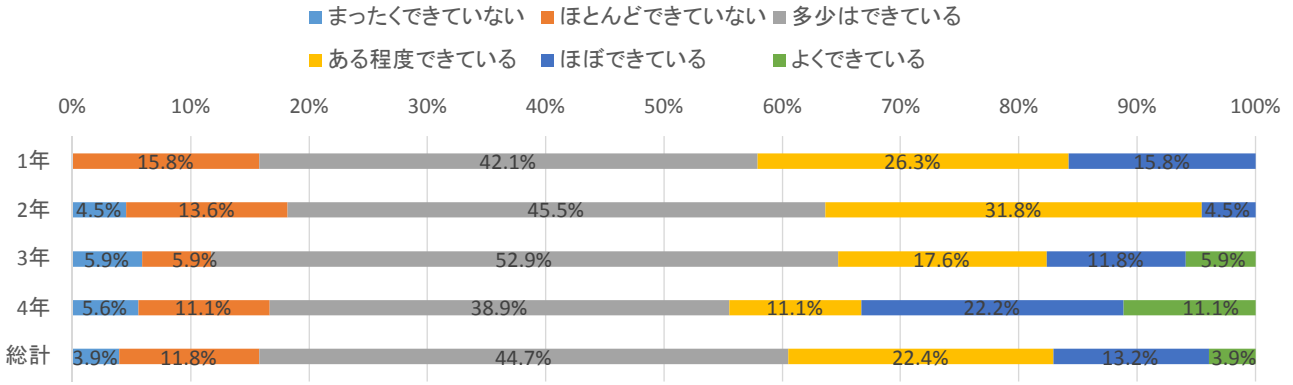
(26)自分の考えを文章や口頭で他者にきちんと説明することができるようになった。



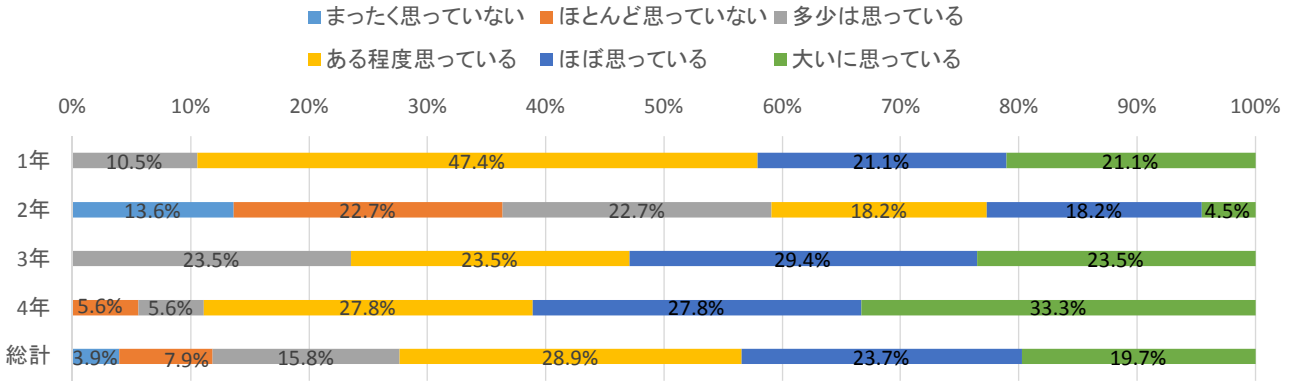
(27)社会に出て仕事や社会的活動を行うために必要な力を身につけることができた。



(28)他者とコミュニケーションを図りながら相互理解を深めていくことができるようになった。　（無効回答　2年：1　）



(29)東京成徳大学に入学してよかったと思っていますか。



●国際言語文化学科

（１）調査結果の概要

①今回の調査結果から見えてくる学生の学修への取り組み状況

・授業については積極的に取り組んでいると自覚している学生は多い一方で、学修方法が身についてない学生が多いようである。
・新聞や書籍を読まない学生が多く、世界情勢への関心や一般常識が不十分である学生が多いようである。

②学生が自ら認識する学びの成果の状況についてどう捉えるか

・専門的知識や資格の点で、学年が上がるにつれ、ある程度成果を認識できているようである。しかし、本学科の場合、語学検定資格はもれなく全員が目指すようにさせることが望ましい。留学しなくとも検定資格を目指すことの重要性（就職等から見て）を認識させる必要がある。
・数値として見ると、平均的な値に収まっているようにも見えるが、個別の学生に目を向けると、できる層とできない層の上下二つの層に分かれている。

③今回の調査結果を受けて、学科として今後どのような取り組みを展開していくか

・学科基本図書をはじめ、論文やリポートに必要なもの以外でも、読書を奨励する。
・語学運用能力などの実践の場を、より多く提供し、モチベーションを維持させる。
・学生に関する情報を共有し、教員間の連携を強化して授業に活かす。

④調査の様式や質問項目等に対する要望等

・「専門スキル」など本学科の場合は語学か語学以外か迷う学生もいたと思われるので、明確な設問が望まれる。
・留学中の学生にも回答させられる方法はないであろうか。
・「社会で活躍する力」のところの設問項目は、学生がどのような状況を想定して回答したか、今ひとつ数字だけでははっきりしない。例えば、PROG テストのような外部の専用のテスト等による客観的評価を実施した方が良いかも知れない。

（２）各学年の分析

◆1 年生（直井）

【学修行動】

①学生自身について

自宅で通学時間 30 分～90 分が 6 割であるが、120 分以上も 2 名いる。アルバイトは他学年より時間が少なめであるが、25 時間以上も 2 名。部活等なしが 7 割強で 2、3 年生より少なく、3～4 日が 2 割強で多い。適度か。休日の過ごし方は決まっていないかアルバイトが 3，4 割で学科全体と同じ。

②1 週間における平均的な学内学修

ほぼ毎日登校し、授業も約 8 割がほぼ出席し、2 年生以上と比較すると真面目と言える。しかし興味のある授業は 40%以下が 4 割。必修が多く、入学前の興味と異なる授業が多いのであろうか。以前の調査でも 1 年生はこのような結果であったか、確認してみたい。授業の難易度は「やや難しい」が 4 割で、他の学年と比べて多い。興味が 20%以下の 2 名は難易度「普通」「非常に易しい」で興味 80%以上の 3 名は難易度「普通」「やや易しい」で、範囲を広げてもあまり相関関係が感じられない。「やや易しい」「非常に易しい」と回答した学生の GPA は必ずしも高くない。卒業自信は 60%までが 4 割でやや自信がないようである。しかし 80%以上も 4 割おり 2 年生 2 割より多い。授業への積極的取組は 1 名を除いて他の学年と同様、「多少」以上できているという自覚があるようである。

③教室外学習時間

指示課題は学科の平均的な 90 分～3 時間と 4 時間半～6 時間の割合が同じ 4 割で、後者は他の学年より多い。予習にかける時間は 90 分未満が 8 割で、他の学年より少ない。復習は 90 分未満が約半数で学科平均と同じであるが、6 時間以上も 1 名いる。関連資料調査は 90 分未満が約 6 割、「やっていない」2 割と合わせて 8 割近い。ここまでを総合すると 1 年生は、まだ大学での学習方法がよくわかっていないのではないかと思われる。

④授業以外の学習活動や普段の行動

学外施設は「たまに行く」が多い。新聞は他学年よりはやや読んでいるようである。定期的雑誌等は「読まない」が 9 割であるが、この質問項目の重要性があまりはっきりしないようである。インターネットは 6 時間以上が 3 割強で他学年より多い。しかしゲームはやっていないが 8 割。本は読まない人が 7 割強で他学年より多い。読書の習慣をつける方策が必要である。

【学修成果】

①教育理念

まったく～ほとんど知らない人が 7 割強。

②外国語能力

複数言語を履修しているのに単言語のみマークしている者がいた。読む・会話・書く力共に「ほぼ」「大いにある」者がなく、1 年生ではまだ自信がないようで、ある。取得した資格もまだなく、6 割以上が「目指している」。これはほぼすべて目指すように指導するべきである。

③ICT リテラシー

Word と PPT は多少以上できる者が大多数であるが Excel やアプリケーション作成は全く出来ないものも多く、情報以外の授業や研修等での使用頻度の差が出ていると思われる。関連資格もない者が多く、目指していると答えたのは 1 名で、あまり関心がないようである。

④教養・基礎的スキル

まだ「まったく」「ほとんどない」が大多数で学年進行とともに上がることが望ましい。

⑤専門知識スキル

「まったく」「ほとんどない」が多いが専門的スキルは「多少は身についている」が半数近くいる。本学科の場合は「専門分野」を 2.-(6)外国語ととらえるかどうかも回答者によってばらつきが見られる。

⑥社会で活躍する為の力

1 年生ではまだ自信の無さが見えるが、(22)目標に向かって取り組む自信は 6 割近くが持っており、期待できる。

⑦総合力

まだ自信が無いようであるが相互理解は「多少できている」が多いのは語学学習という本学科の特性が関係していると思われる。入学満足度で男子 2 名が「全く思っていない」のは、クラスで男子の人数が少ないことが関係していると思われる。

☆総じて自己評価的設問では回答者の性格も大きく影響する為、なるべく実際に近い回答を導き出せるような質問の仕方が必要になる。

◆2 年生（岡本）

【学修行動】

①1 週間（平均的な）における大学内での学修について

・21 人中 10 人が 80～100%、8 人が 60～80%と回答し、出席状況は悪くない。回答しなかった 3 人はほぼ学校に来ていない状況の学生である。

・興味のある授業は、80～100%が 1 人、60～80%が 6 人で、40～60%が 10 人と最も多かった。全体と

して尋ねてもあまり意味がないように感じた。興味のある授業、興味のない授業を、具体的に数科目ずつ記述させるなどによって、もう少し具体的な内訳がわかるとよいのではないか。
・難易度は、普通が 14 人、やや・非常に易しいが 3 人、やや・非常に難しいが 4 人と、じゃっかんばらつきはあるがある程度妥当な状況にも見えるが、判断は難しい。
・卒業に自信があるかどうかについては、80～100%が 5 人しかおらず、60～80%も 8 人で、意外な結果と感じた。単位をしっかりとっているような学生も 80～100%とは回答していない例が見られた。
・積極的取り組みについては、よく、ほぼ、ある程度が 13 人、多少が 8 人で、自己評価としては頑張っていると思っているようだ。

②1 週間（平均的な）における教室外での学修時間について

いずれも回答にそれほど偏りはない。復習、関連資料の勉強となるにつれて、やっていない人数が増えるが、半分の学生はどちらもやっているようで、それを多いとみるか少ないとみるか判断は難しい。

③授業以外の学修活動や普段の行動

・学外施設：いったことはないが 7 人。3 分の 2 はいっているということで、これも多いのか少ないのか判断は難しい。
・新聞：読まないが 13 人。これは改善したい点である。
・雑誌等：読まないが圧倒的に多く、マンガ雑誌も 1 人いた。この質問項目はどれくらい重要性があるのか、よくわからない。
・ネット：90 分未満が 4 人、90 分～3 時間が 1 人で、大半がかなりの時間を費やしていることがわかる。
・ゲーム：やっていないが 13 人と多く、意外とゲームに時間を取られてはいないようだ。
・読書：読まないが 14 人もいる。読んでもみな月に 2 冊以下である。ここも要改善である。

【学修成果】

①外国語能力について

・学生によっては、成績や教員の評価とは異なり、かなり謙遜、ないし自己評価を低くしている様子も見える。
・語学資格：たんに、ない、とだけ答えた学生は 4 人で、あとは、ある、ないし目指す、と回答。全員、目指して、なおかつ結果を出していけるよう持っていく方法を考える必要があるが、一定程度、いくら言ってもしないものもいるのも事実で、これをどうしたらよいかは悩ましいところである。

②教養・基礎的スキルについて

・知識・教養：14 人が、ほとんど、まったくないと回答。自己評価としてはある程度客観的に見ているのかもしれない。
・情報収集スキル：11 人が、ほとんど、まったくないと回答。
・論文執筆スキル：まったくないが 1 人、ほとんどないが 7 人。基礎ゼミや他の授業で課題レポートなど書く経験をしているからか、必ずしも否定的にはとらえていないようである。
・ディスカッション：8 人が、ほとんど、まったくできないと回答。
・これら 3 つのスキルは、およそ同じ学生がいずれの項目も同じように否定的にとらえている傾向がみられた。

③専門知識・専門的スキルについて

専門知識の理解：まったくないが 1 人、ほとんどないが 5 人。

専門知識の利用：まったく使えないが 3 人、ほとんど使えないが 4 人。

専門的スキル：全く身についていないが 2 人、ほとんど身についていないが 4 人。ここでも、およそ同じ学生がいずれも否定的に回答していることが多い。

④社会で活躍するための力（キャリア教育、社会人基礎力）について

・将来の進路：ある程度、多少、決まっている学生が 6 人、あとは決まっていない。まずは語学習得の段階であるだろうから、このくらいの数字になるのは本学科の特徴であるかもしれない。
・粘り強く取り組む・課題の解決方法・他者と協働という 3 つの設問に対する回答にかんして、学生がどのような状況を想定してのものなのか、いまひとつ数字だけではわからない気がする。これらの回答から、すぐにコンピテンシーの有無等導き出せるとは考えにくい。PROG テストのような、専用のテスト等による客観的な評価のほうがよいような気がする。

⑤総合力について

入学満足：ほとんど思っていないが 4 人。この項目で否定的に答えた 4 人だが、意外な学生がそう回答していることに少し驚いた。ふだん接している感じからは、そのような受け止め方をしているとは見えない、どちらかというとがんばっている学生が 2 人、そう回答している。どのような観点での回答か興味深く感じた。

＊今年度の結果だけではどう判断してよいか難しいと感じる項目が多い。今後、どのように回答が推移していくのか、経年変化による分析を待ちたい。

◆3 年生（大和田）

【学修行動】

①学生自身

通学時間は半数以上 30～60 分程度。アルバイトは週 10-15 時間がほぼ半数で、していないものも 2 名、部活動はせず、休日には半数以上が主にアルバイト。

②学内学修

3-4 日の登校が多数で、半数以上が概ね出席。興味ある授業は、必ずしも多いとはいえないが、8 割以上が興味あるという学生が 2 名。難易度は、概ね普通。卒業の自身は多数があると解答。積極的な取り組みは「多少」も含めれば全員ができている。

③1 週間（平均的な）における教室外での学修時間について

指示された課題に対してかける時間は大多数が 1.5 時間以上。6 時間以上も 1 名。ただし、90 分未満も 1 名あり。予習にかける時間は半数強が 1.5～3 時間、復習に対しては、予習より多少少なく（90 分未満が 4 名）、関連資料に対してかける時間は 1.5～3 時間が半数強で、やっていないも 1 名。

④授業以外の学修活動や普段の行動

学外施設には、たまに行くが多数派だが、いったことがないも 2 名。新聞は大多数がたまに読む程度で、読まないも 1 名。雑誌は読まないが半数強。専門誌は 1 名。ネットに関わる時間は 4.5-6 時間が半数強で、6 時間以上も 2 名。ゲームはやっていないが半数弱 4 名。書籍も読まないが 2 名に月 2 冊以下が多数 6 名。

⇒ 授業には出席しているものの、積極的に授業以外での学修活動を行なっている様子は伺えない。授業に関わることで手一杯であるのか、あるいは、クラブ活動、アルバイト等にかける時間が多くなっているあたりが推測されるが、授業以外でも自ら活動を行う方向が期待される。
⇒ 1・2 年と比べると出席状況は多少劣るが、興味のある授業の割合は多数。授業関連での調査時間は、1・2 年に比べると長時間で、授業の内容が関係していると考えられる。

【学習成果】

①教育理念について

まったく知らない、ほとんど知らないで 3 名。多少知っている程度が多数

②外国語能力について

・外国語能力については、単一言語をあげたものが大多数。3 言語をあげたものが 2 名

・読む力は多少ある程度が多数で、ほとんどないも 1 名。会話力はほぼある、ある程度あるで半数強。ただし、ほとんどないも 2 名。書く力は多少ある程度が多数派で、ほぼ・ある程度で 4 名。ほとんどないも 2 名。

・語学資格は半数弱が取得済みで、目指してもいないも 2 名。内容的には不明点もあるが、日常における聴き取り結果も踏まえると、かなり上位の級の取得には至っていない状況。

⇒ 外国語能力について、調査結果からは会話はある程度できる割合が多いが、読み書きは会話程の自信は伺えない。個人別にみると、一定の能力が備わっている判断しているものもがいる一方、学習時間等とも併せて、学習が進まず、語学力が身についていないといった状況。

⇒ ただし、1・2 年に比べると語学に関しては力が付いているという認識をしているのは、一定以上の時間をこれまでに費やしているからと考えられる。今回の調査に半年以上の留学にいった学生が含まれていないので、その学生が入れば、1･2 年との差は顕著になるとも考えられる。

③ICT リテラシー（＝情報機器やインターネットを使う能力）について

Word, PowerPoint はできるものが比較的多いが、Excel ではその数は低め。アプリ作成はまったくできないが半数強。おそらくは、利用する頻度等の関係が大きな要素になっていると考えられる。(資格については、未取得が多数。)

④教養・基礎的スキルについて

知識や教養は多少ある、ある程度あるが多数派。情報収集については、多少はある程度が多数。論文執筆も多少はある程度。ディスカッションは多少できるが多数。十分な形で活かせる状況になっているかについては、不安要素が残る。

⇒ICT や教養については、実際の使用・活用があるかどうかによって差が出ている可能性あり。授業関係も含めて、ICT や教養関連の活用の場を提供することで、数値に変化がみられる可能性あり。

⑤専門知識・専門的スキルについて

専門知識の理解は、ほぼとある程度で半数を超え、スキルとなると全般的には低くなり、利用では、さらに一段低くなる。理解しているものとそうでないものとの差があると考えられる状況。

⇒ 国際言語文化学科の場合、外国語に関わるスキルを専門知識と考える場合もありうるので、はっきりしない面があり。調査段階で、具体的に示すことで、実態把握がより正確にできるようになると考えられる。

⑥社会で活躍するための力（キャリア教育、社会人基礎力）について

働くイメージはある程度以上にできているようだが、進路についてははっきりしていない状況。粘り強い取り組み、課題解決、協働作業も、多少できるが半数以上で、十分な自信がうかがえず。

⑦総合力について

ものの見方考え方、説明力、社会で必要な力、相互理解など多少はできているが半数以上の多数派で総合力が適正に使える状況にあるとは自身で判断していない。

⇒ キャリアについては、かなり考えているものとそうじゃないものの差があるように考えられる。取り組みにしても、課題解決、協働作業にしても、具体的なイメージを持って回答しているかどうかが、はっきりしていない。
⇒ キャリアについての意志が高まることで、総合力についての数値にも変化が生まれると考えられる。

⑧入学満足度
ある程度以上が多数派だが、まったく思っていないも 1 名。

⇒ 満足度に対して否定的な学生は、自分自身の取組等において、低い評価をし、大学で提供されていることに興味がもてず、興味が持てないから取り組みもおろそかになり、結果として、力が付いたという認識がなく、満足ができない、といった循環になっているようにも感じられる。
⇒ キャリア関連、その他で、上向きの何かをつかむことができれば、全体としての満足度ももっと上がっていく可能性もあると考えられる。

◆4 年生（水谷）
4 年生の場合、授業がほとんどなく、就職活動に多くの時間を割かれるため学修行動や生活パターンがこれまでとは変化する学生が多く、他の学年とも異なる可能性がある。そこでアンケート調査時は 4 年前期ではあるが、4 年間の学修から得た成果として形として分かりやすい検定や資格の取得と進路状況、入学満足について考察した。

①語学検定取得者
全体の 64%（9 名）である。TOEIC 等点数式のものを受験した場合、検定取得としては記入できなかったのかもしれないが、国際言語文化学科であるにも関わらず低い数値であると言える。語学検定を取得しなかった学生の状況を見ると、アンケートには記入がないが、全て短期研修を含め留学をしていない学生（うち 2 名は外国人）である。留学と語学検定取得には大きな関連性があることが分かった。

②専門分野資格取得者
あると答えた学生が全体の 35.7%（5 名）である。しかしそのうち 2 名は記述欄に語学検定取得を記入していたので、それを抜くと 21%（3 名）となり非常に少ないことが分かる。

これらの取得状況を比較すると、語学検定も専門分野資格も取得している学生が 21%（3 名）である。しかしそのうち 2 名は語学検定取得のため実際には 7%（1 名）となる。語学検定のみ取得している学生が 28%（4 名）、専門分野資格のみ取得している学生が 14%（2 名）、どちらも取得していない学生が 14%（2 名）となった。語学検定のみ取得している学生が多いものの、語学または専門分野資格を取得した学生は 85%（12 名）で、何らかの成果を得て卒業に至る学生が多いことが分かった。また、学科の 1～4 年生全体からすると大学入学後に資格を取得した割合は 4 年生が 35.7%で最も多かった。学年を経るにつれて資格取得の割合が高くなるものの、やはり先にも述べたようにこの数字は決して高いとは言えない。
以上の結果を進路と照らし合わせてみると、特徴的な傾向が見られる分けではないようである。しかし、入学満足も照らし合わせてみると進路がすでに決まっている学生は入学満足度が高い傾向にある。具体的には、進路がすでに決まっている学生は 42%（6 名）でそのうち 66%（4 名）が入学満足を「大いに思っている」と答えている。一方、進路はすでに決まっているものの満足度の低い学生は、授業興味が 0～20%、20～40%で授業難易度も非常に易しいと答えている。そこで学生の入学満足度は大学で得た学びが進路に繋がることにより高まる傾向にあるものの、授業への興味の低さ、難易度の低さを感じている学生にとっては入学満足度が非常に低くなるということが分かった。進路決定と入学満足度の関係は、

進路検討中の他の学年には見えにくいようである。

国際言語文化学科 4 年生は在籍学生数が非常に少ないため一般化することは難しいが、以上の簡単な分析から気づいた点及び改善（学生自身、学科）が必要な点を挙げる。

・国際言語文化学科の学生でありながら語学検定取得率が非常に低いので、高めるためのバックアップが必要である。語学検定を取得していない学生は留学を経験していないということが明らかになったので、積極的に留学をすすめることが学生の成果を生む手段の一つであると言える。
・授業が難しい～普通と感じるほど授業への興味が高まり、それが入学満足度にも反映されることが分かった。よって授業の難易度を上げたり、積極的に課題を出すなど授業内容や方法にも工夫が必要である。そこから自発的に学習する態度も身につけることができるのではないかと考える。

学修調査（行動・成果調査） 国際言語文化学科 【割合】

【回答者数】（人）

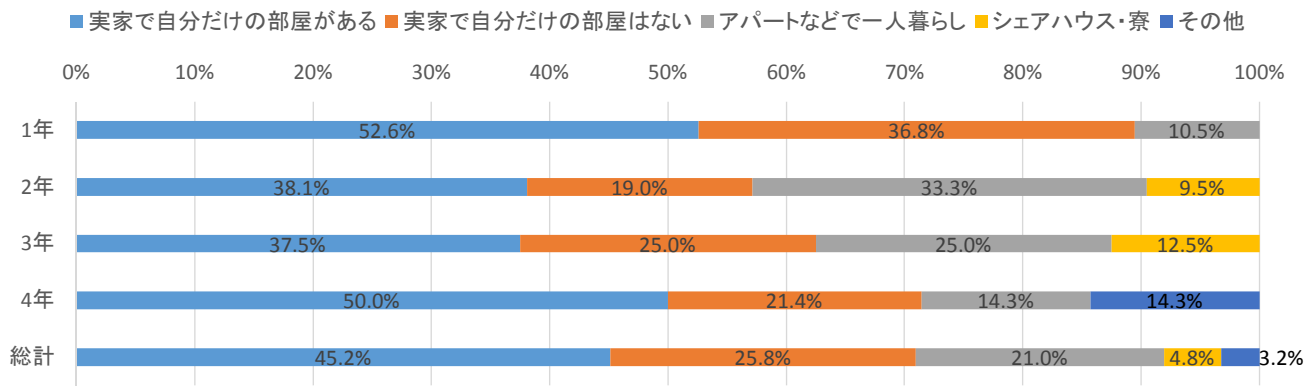
	男性	女性	計
1年	2	17	19
2年	3	18	21
3年	0	9	9
4年	6	8	14
計	11	52	63

	AO	推薦（公募・指定）	一般	センター	社会人 外国人	編入	計
1年	4	11	2	0	2	0	19
2年	6	9	1	2	3	0	21
3年	0	4	1	1	3	0	9
4年	6	4	3	0	1	0	14
計	16	28	7	3	9	0	63

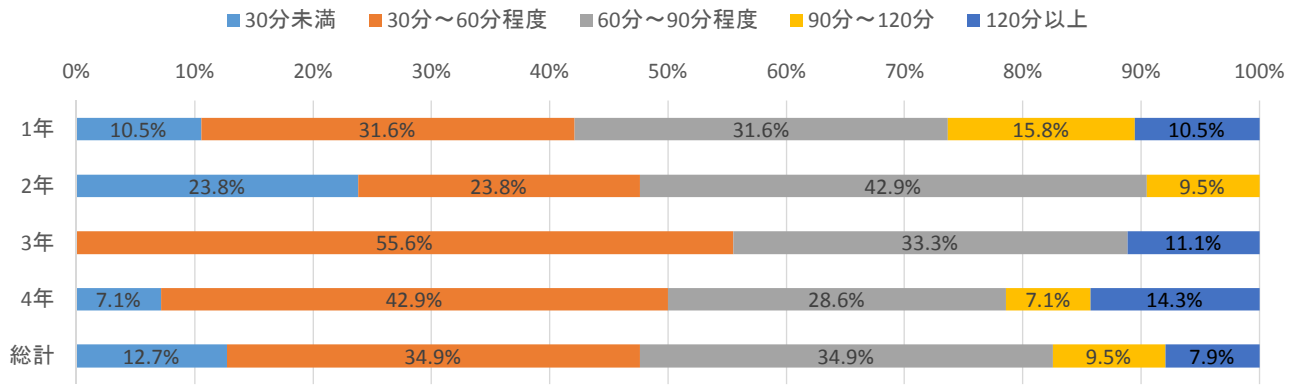
【学修行動調査】（%）

1.あなた自身について

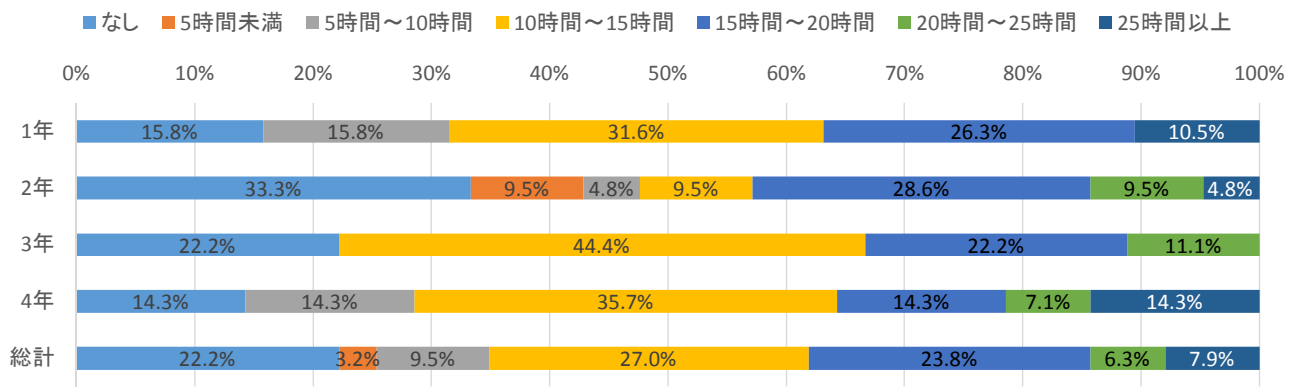
(1)学修環境　　（無効回答　3年：1　）



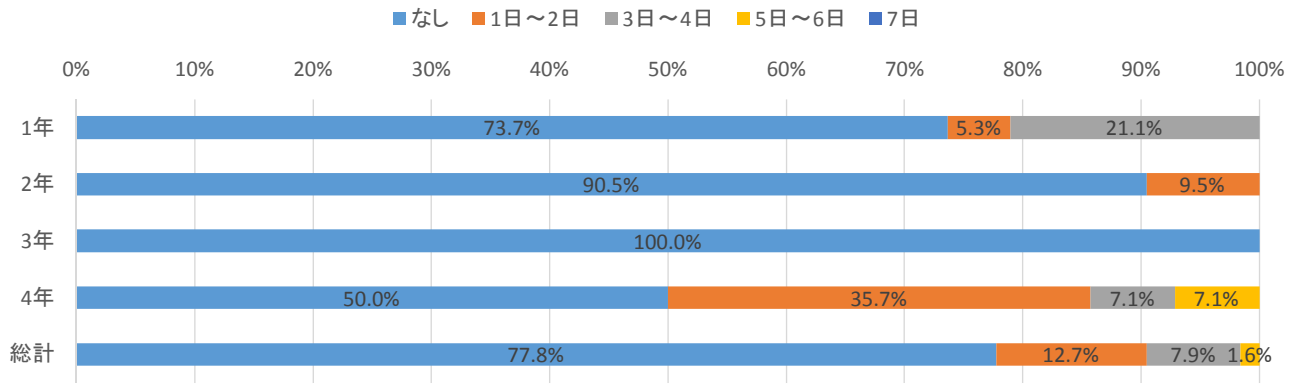
(2)通学時間（家から大学まで）



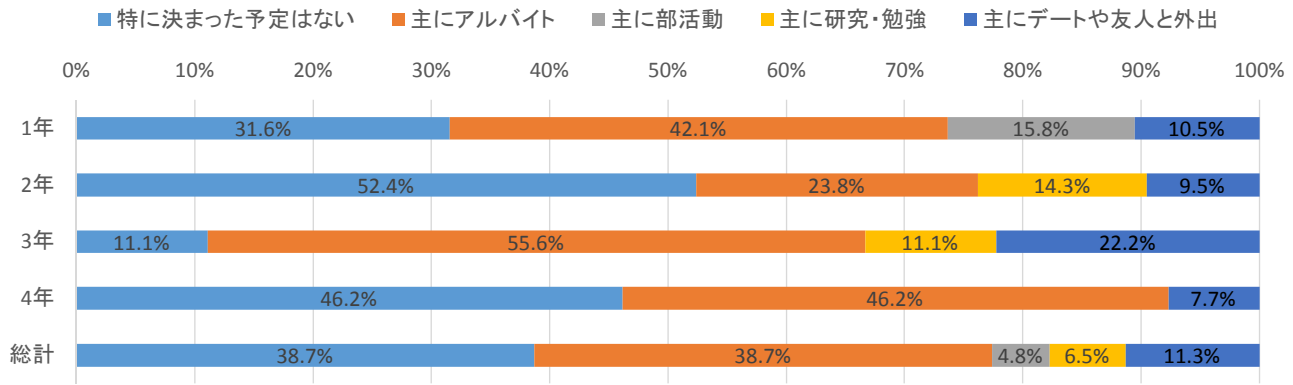
(3) 1週間あたりのアルバイト（時間）



(4)1週間あたりの部活・サークル活動や学外のクラブなどの活動

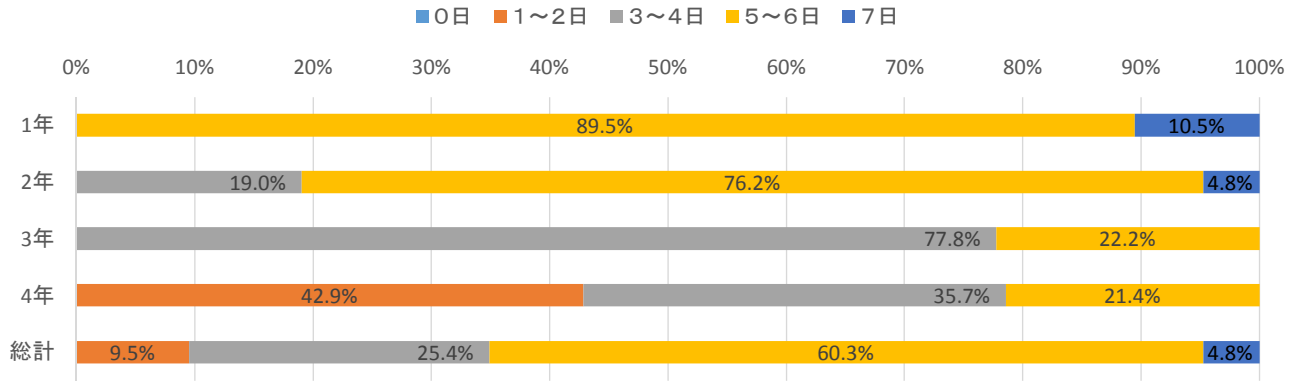


(5)休日の過ごし方　　（無効回答　4年：1　）

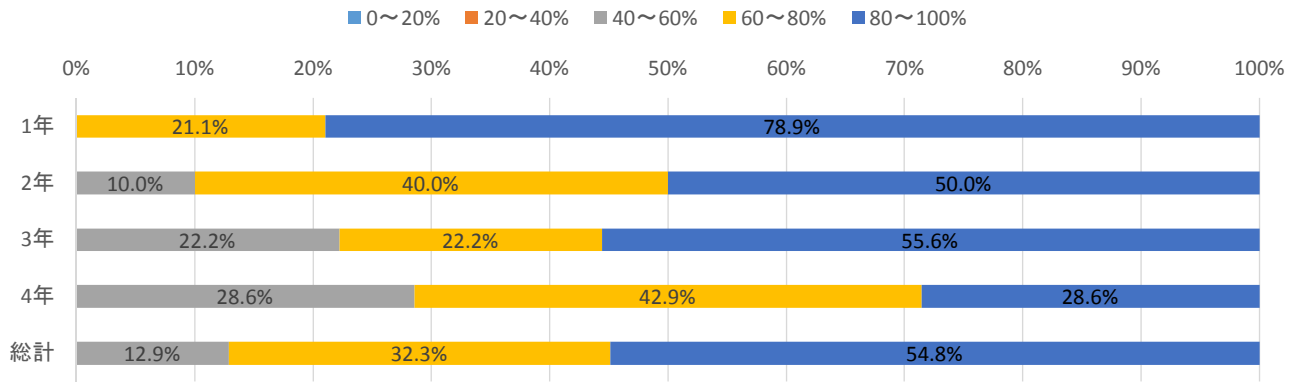


2．1週間（平均的な）における大学内での学修について

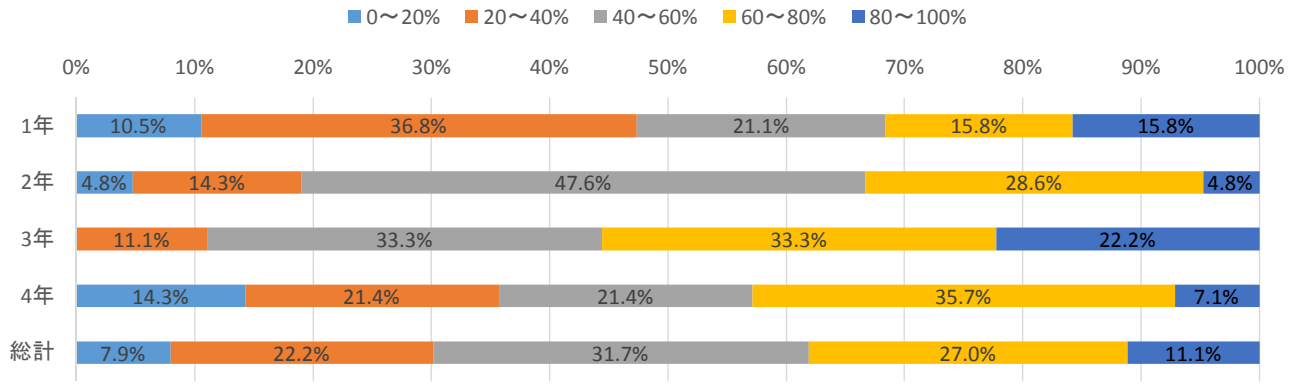
(6) 大学に何日登校しましたか



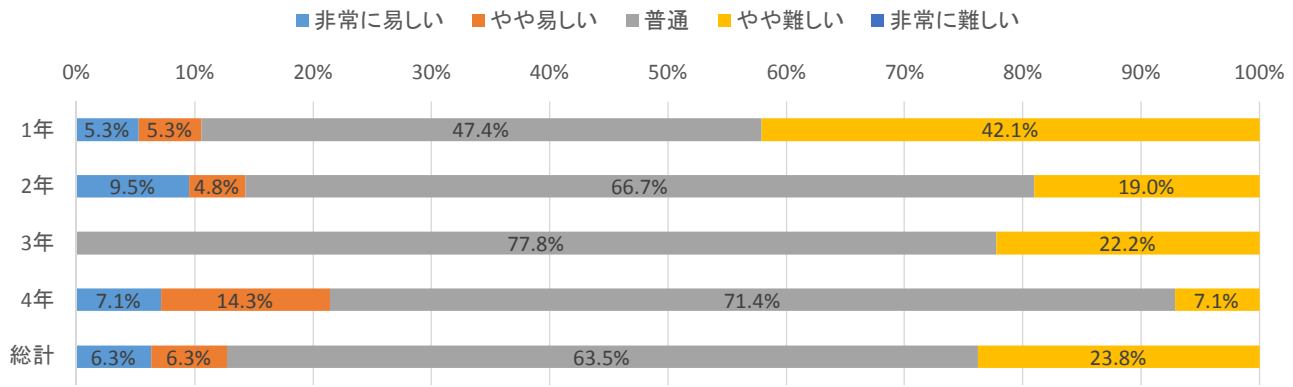
(7) 授業に出席した割合は　　（無効回答　2年：1　）



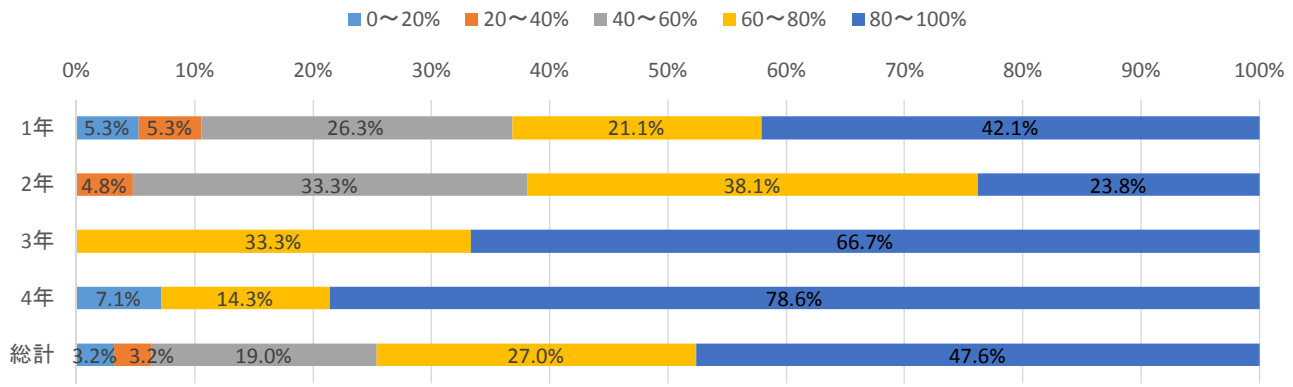
(8) 興味のある授業の割合は



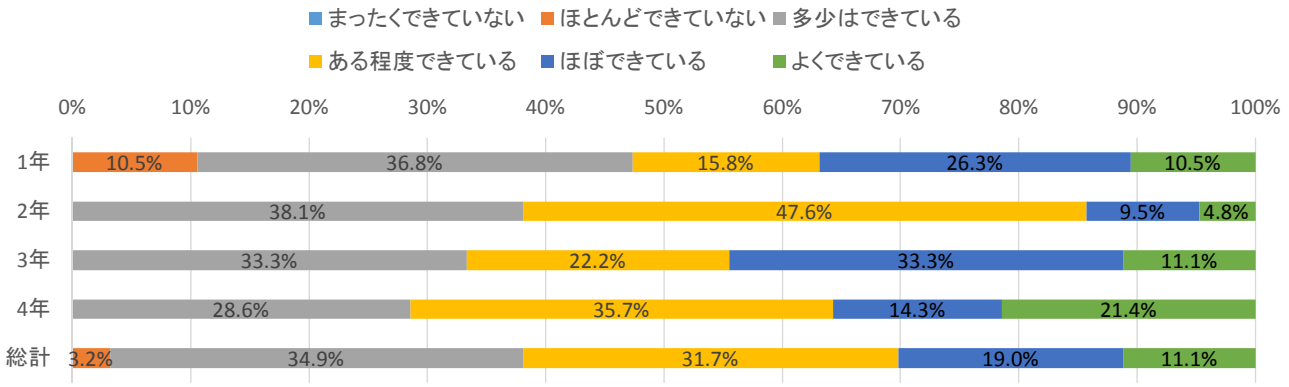
(9) 授業全体の難易度は



(10) 4年間で卒業できる自信は

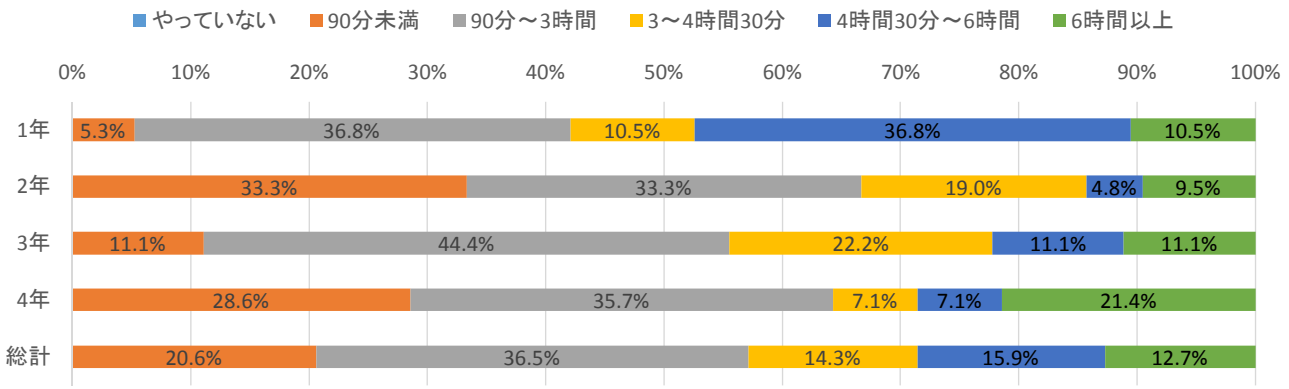


(11) 授業には積極的に取り組みましたか

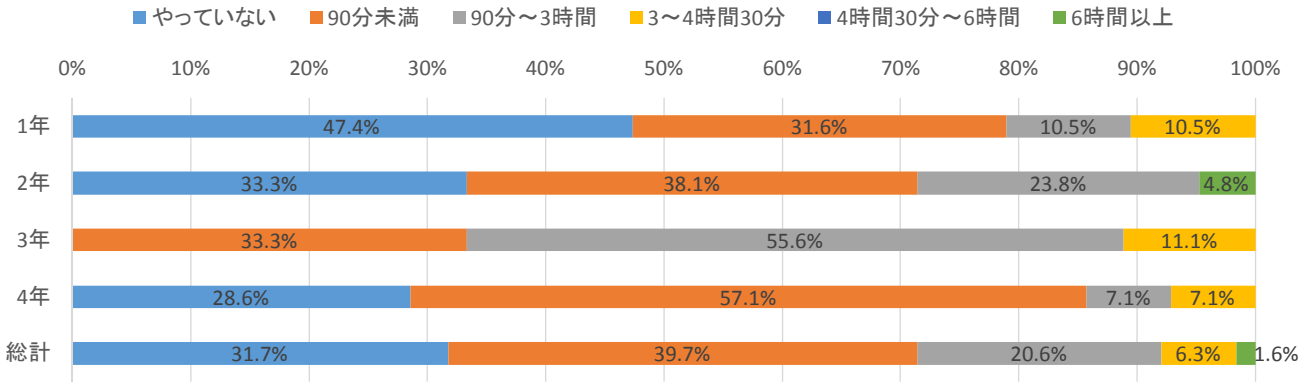


3. 1週間（平均的な）における教室外での学修時間について

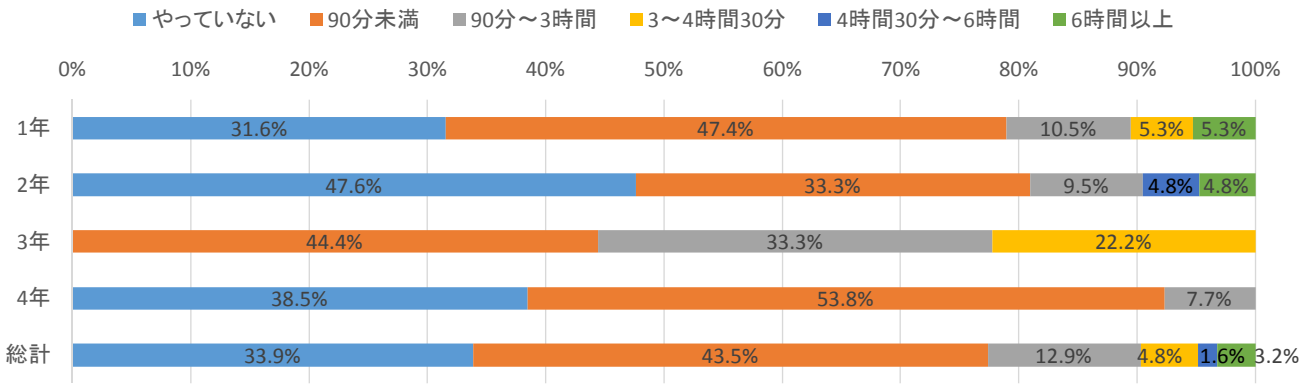
(12) 先生に指示された授業の発表の準備、課題やレポート、宿題を1週間合計



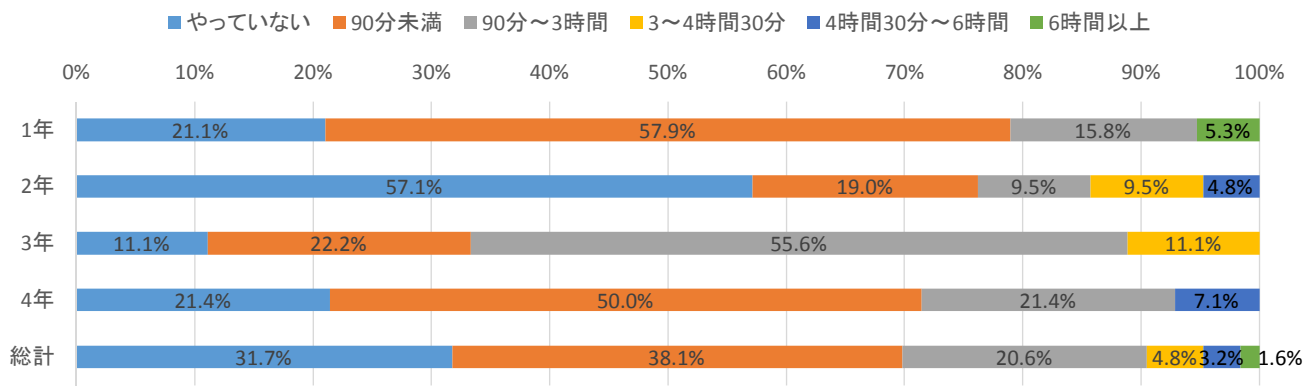
(13) 授業の予修を自発的に1週間合計でどのくらいやりましたか



(14) 授業のノートの整理や復修を自発的に1週間合計でどのくらいやりましたか　（無効回答　4年：1　）

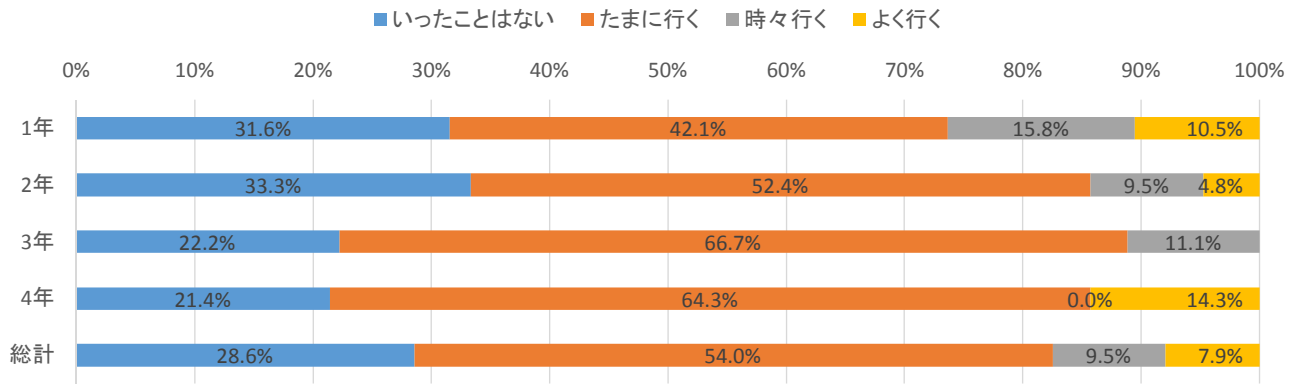


(15) 授業に関連する資料や本を探したり、調べたりすることを1週間合計でどのくらいやりましたか

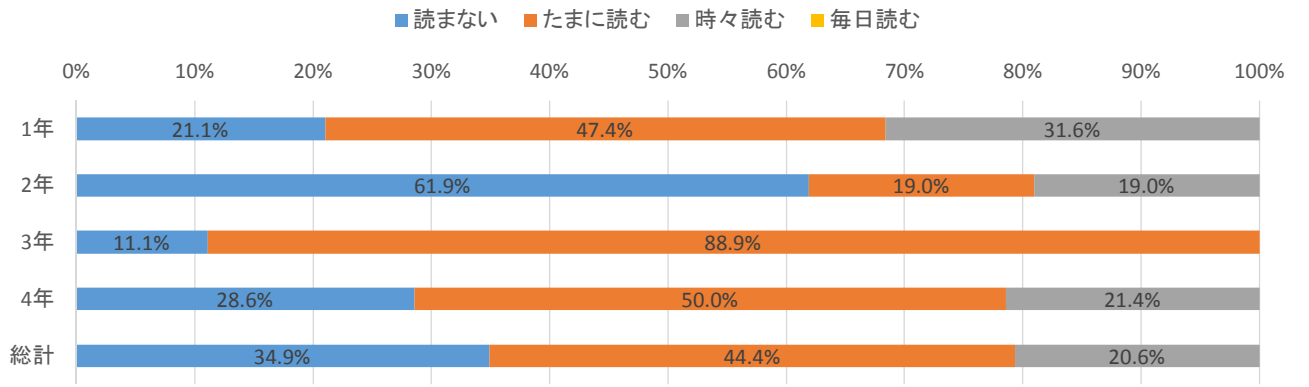


4. 授業以外の学修活動や普段の行動

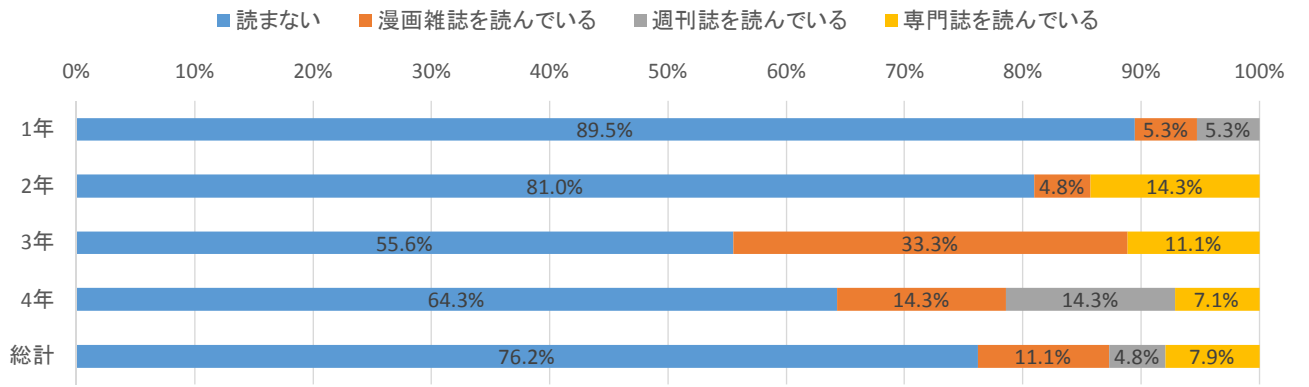
(16) 大学外の図書館や美術館・博物館等の文化施設、研修会・講演会などへ
スポーツの大会などや、サークル活動や授業以外でのボランティア活動に



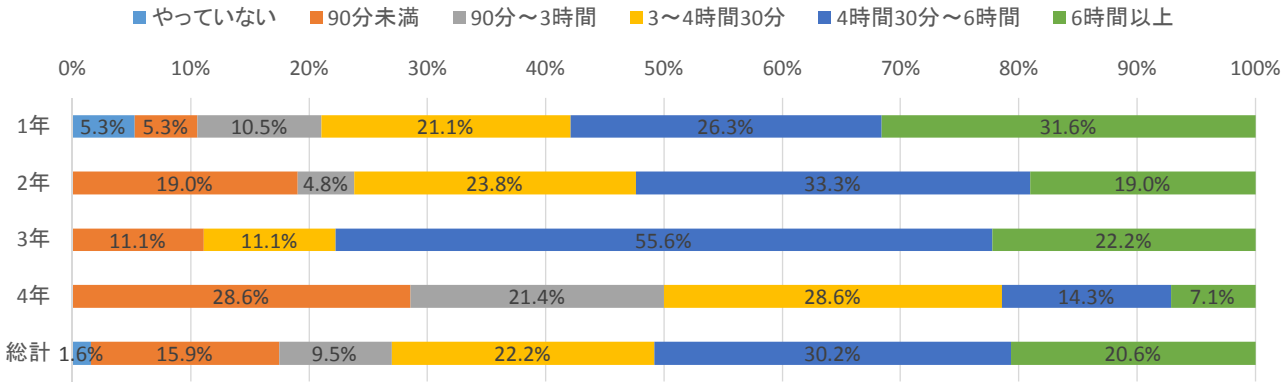
(17) 新聞を読んでいますか



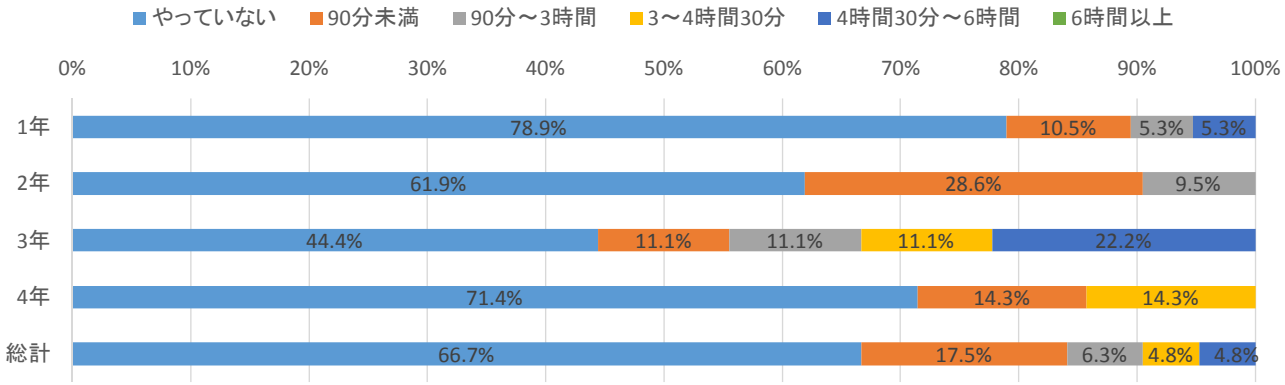
(18) 定期的に読んでいる雑誌、週刊誌は



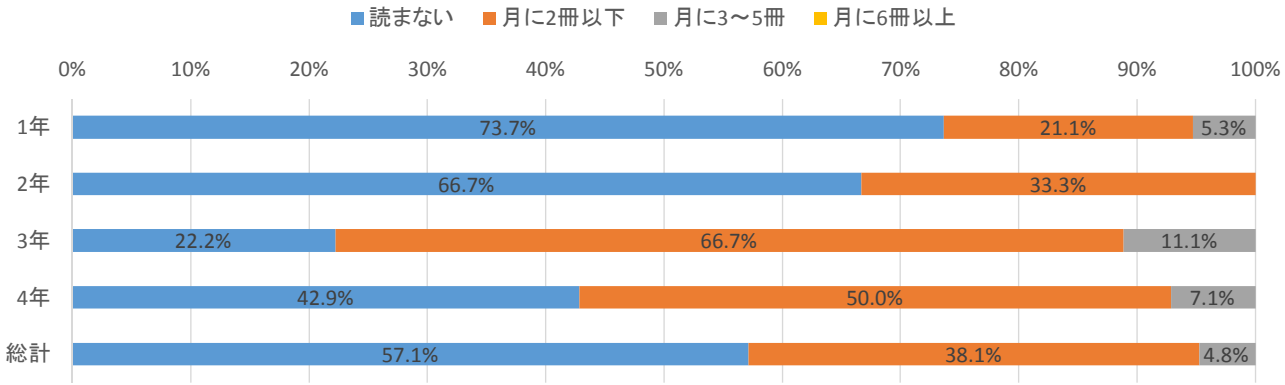
(19) インターネット（LINEやその他SNSを含む）を1日にどのくらい使っています;



(20) ゲーム（オンラインゲームを含む）を1日にどのくらいやっていますか



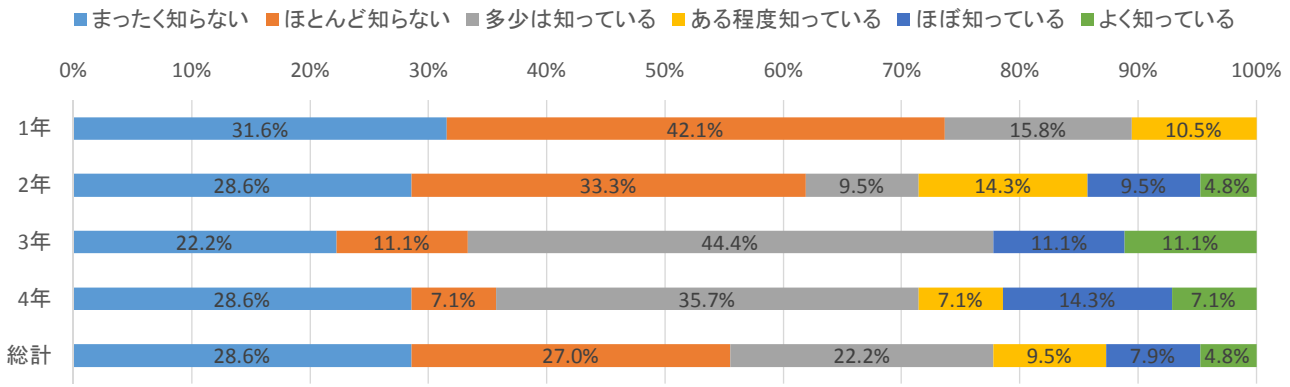
(21) 本をどのくらい読んでいますか



【学修成果調査】(%)

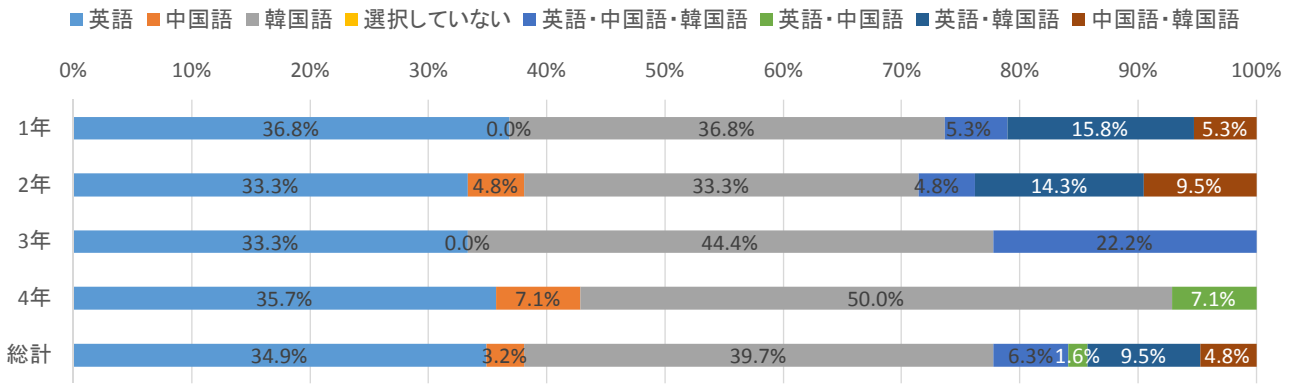
1. 教育理念について

(1)本学の教育の基本理念「共生とコミュニケーション」を知っていますか。

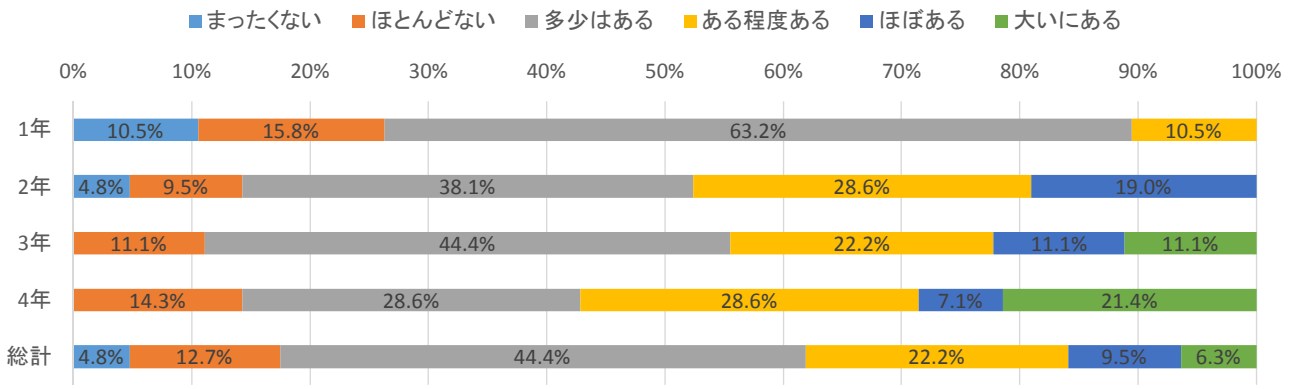


2. 外国語能力について

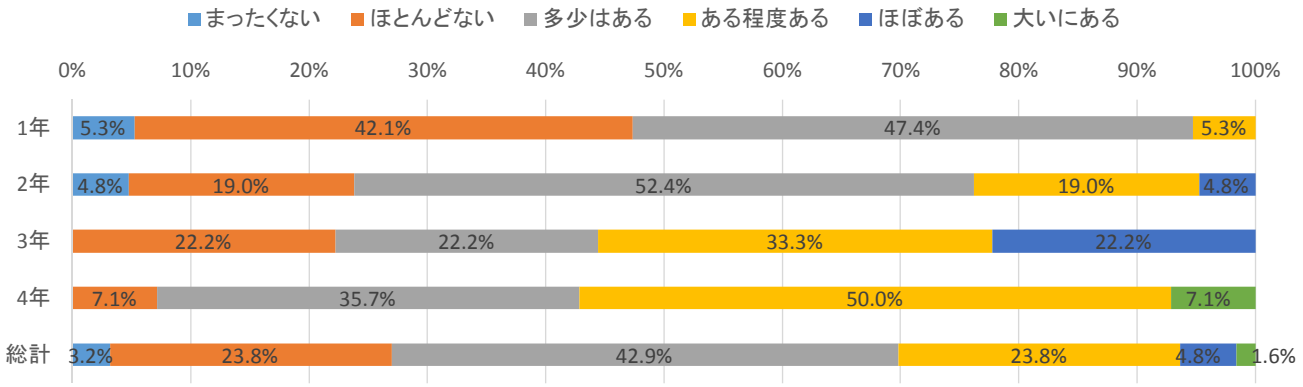
(2)外国語の授業を選択していますか・いましたか。



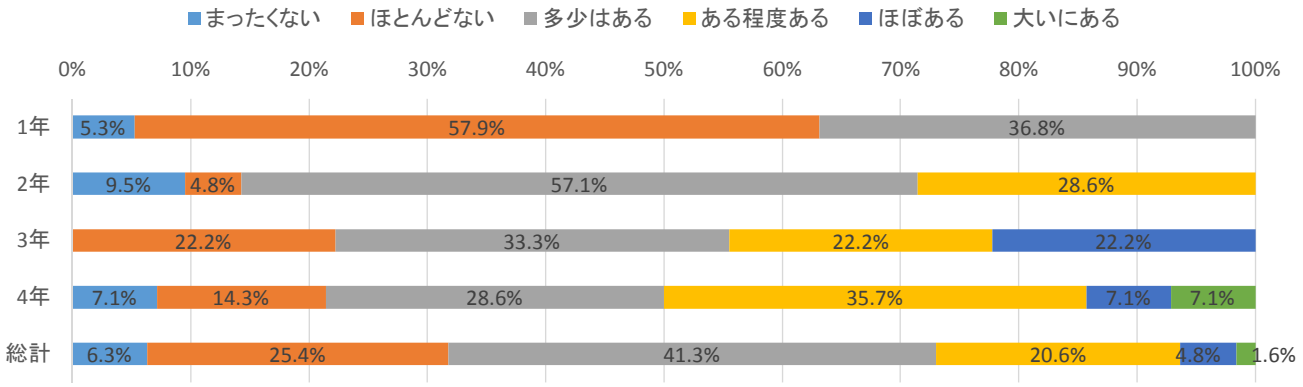
(3)読む力がある。



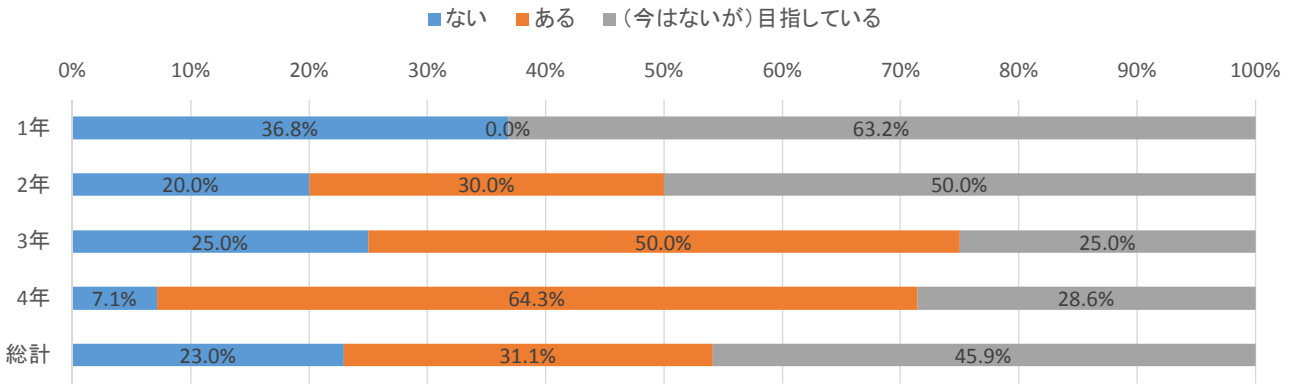
(4)会話力（話す、聞く）がある。



(5)書く力がある。

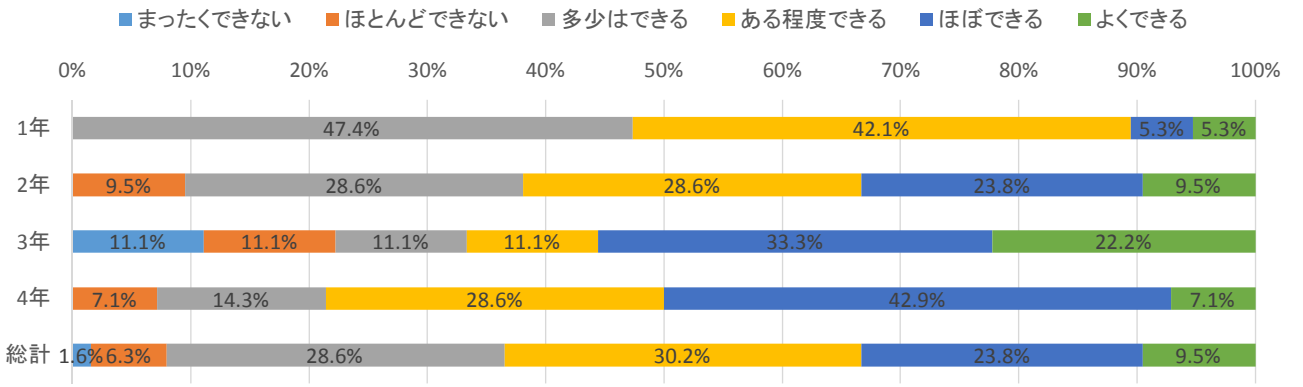


(6)大学入学後に取得した語学の資格がありますか、あるいは検定試験で一定効回答　2年：1　3年：1　）

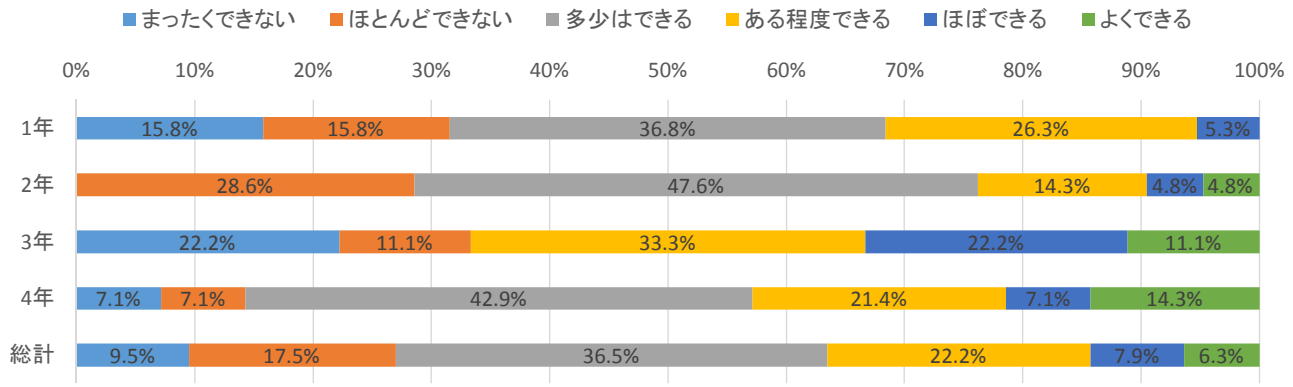


3. ICTリテラシー（＝情報機器やインターネットを使う能力）について

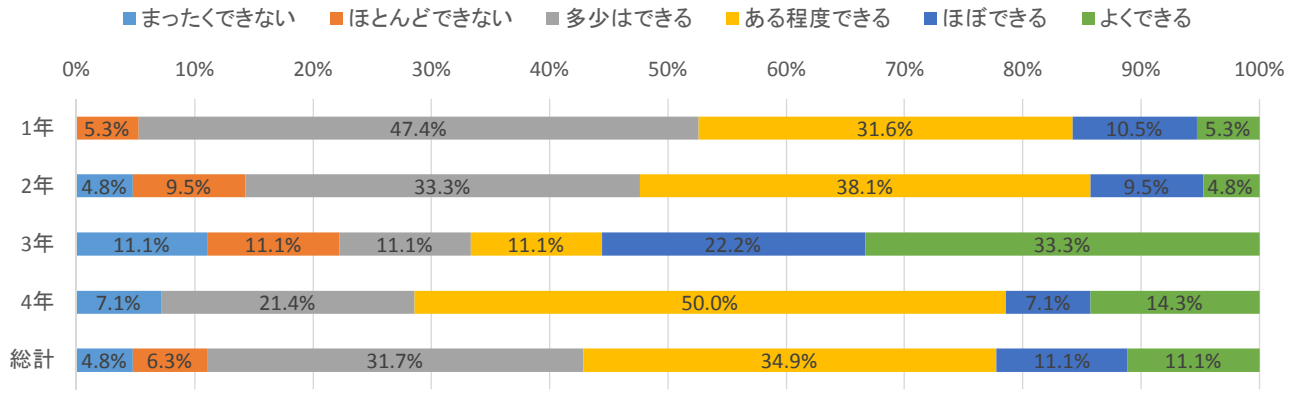
(7)文章作成ソフト（Wordなど）を使って文章を作成することができる。



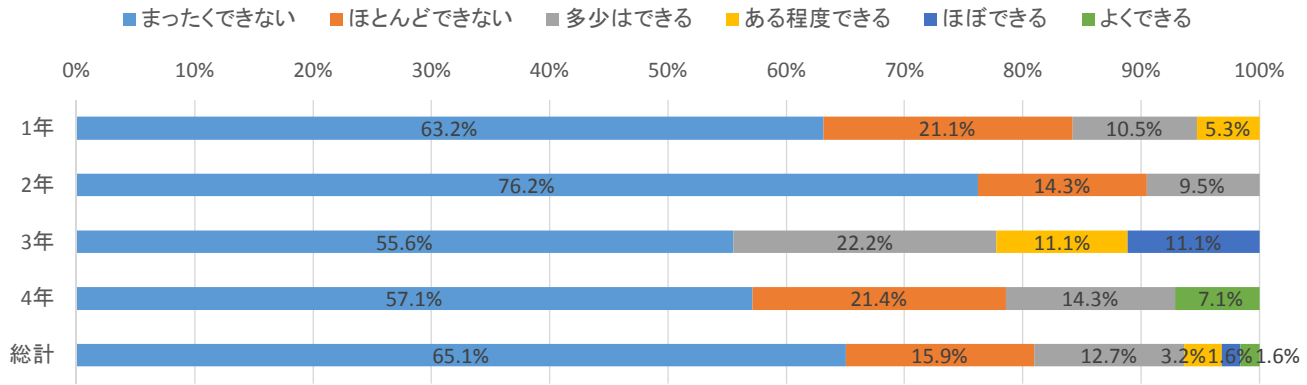
(8)表計算ソフト（Excelなど）を使って図表を作成することができる。



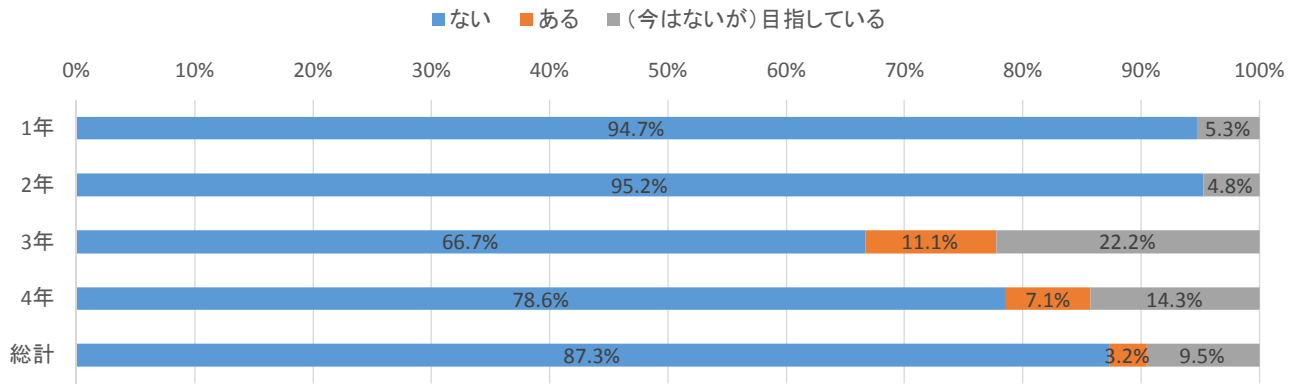
(9)プレゼンテーションソフト（Power Pointなど）を使ってプレゼンテーション用の



(10)アプリケーションソフトを作成することができる。

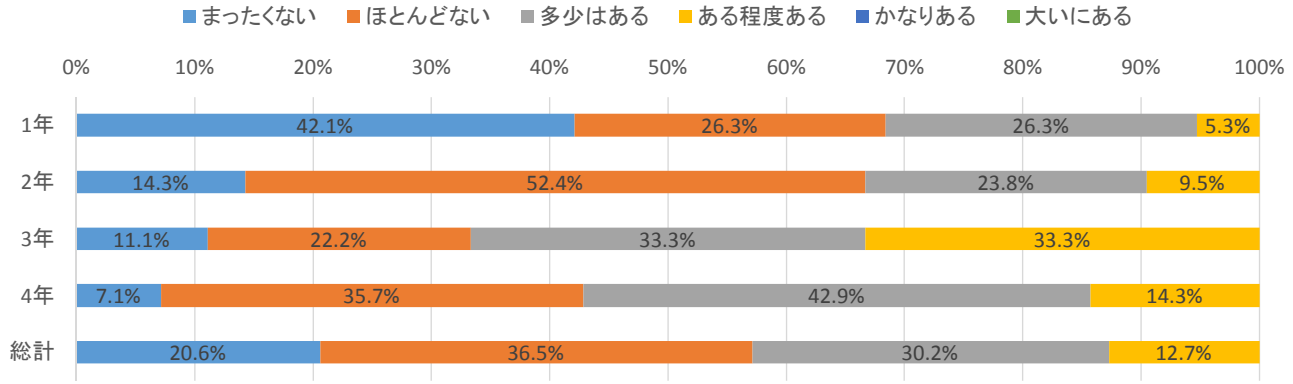


(11)大学入学後に取得したICT関連の資格がありますか、あるいは検定試験で一定の点数を取ったことがありますか。

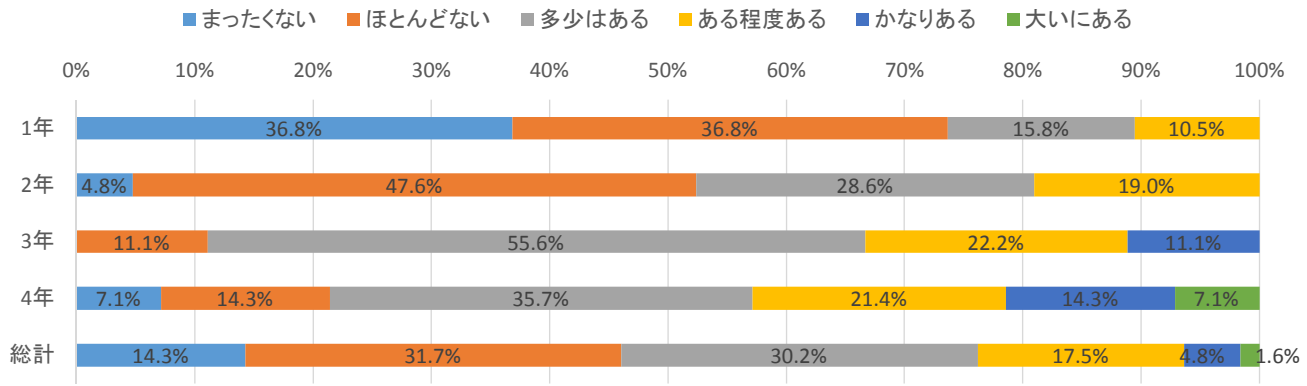


4. 教養・基礎的スキルについて

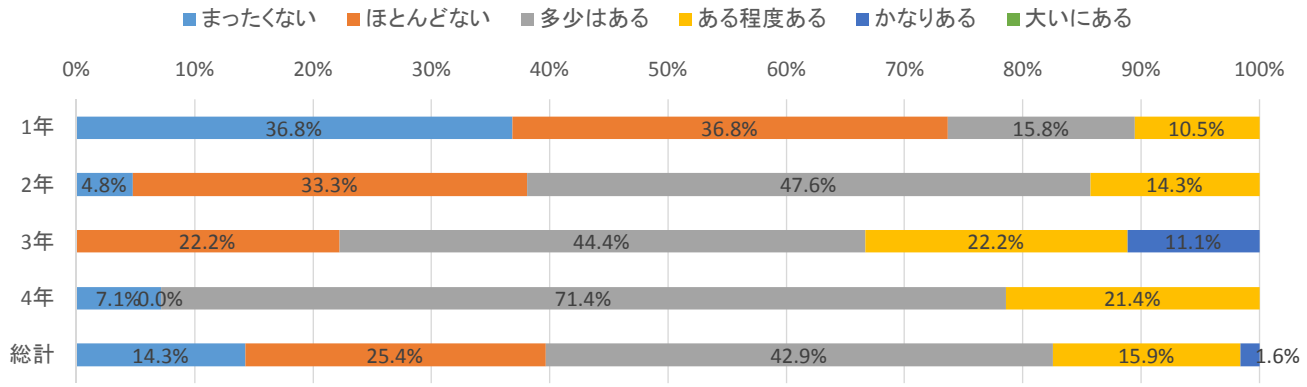
(12)専門分野の知識とは別に幅広い知識や教養がある。



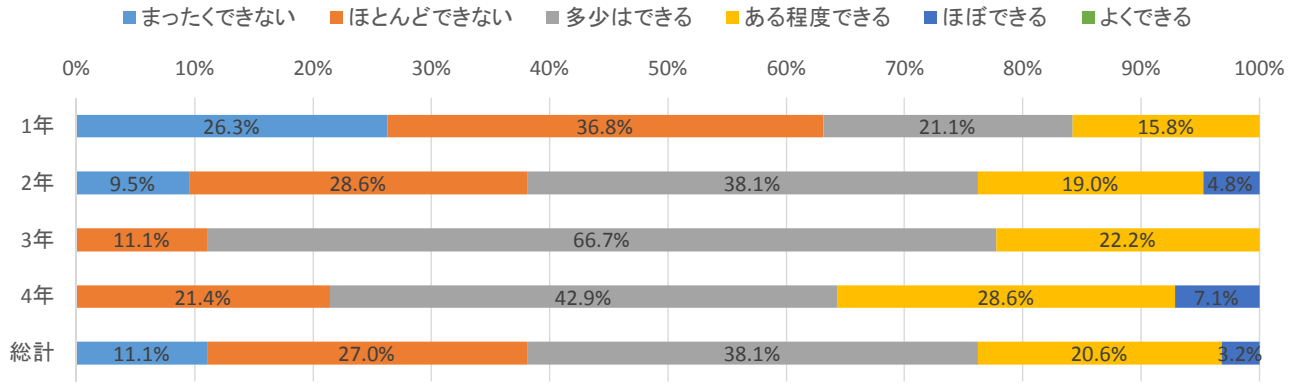
(13)レポートや論文作成に必要な情報収集のスキル(論文、文献、統計などの



(14)レポートや論文などを書くために必要なスキル(書式や作法など)がある。

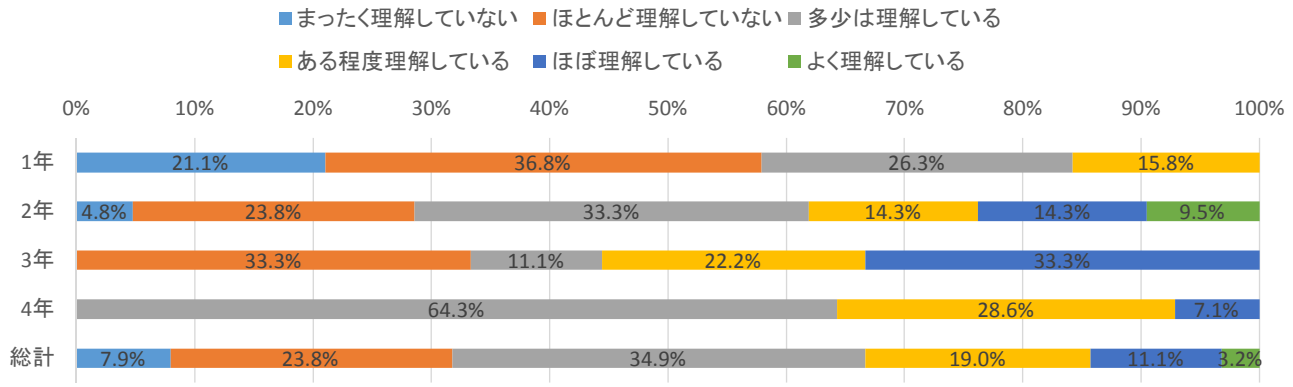


(15)ディスカッションの中で他者の意見をきちんと聞きながら自分の意見を述べることができる。

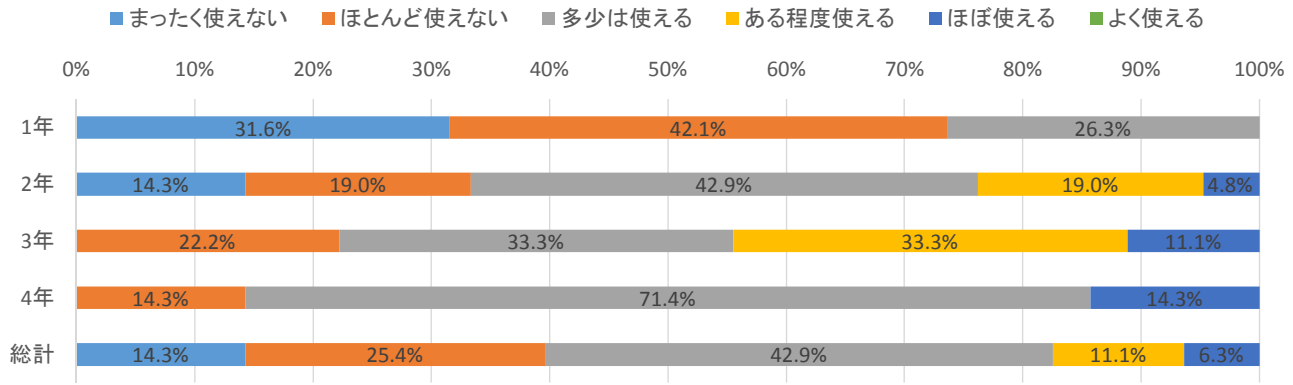


5. 専門知識・専門的スキルについて

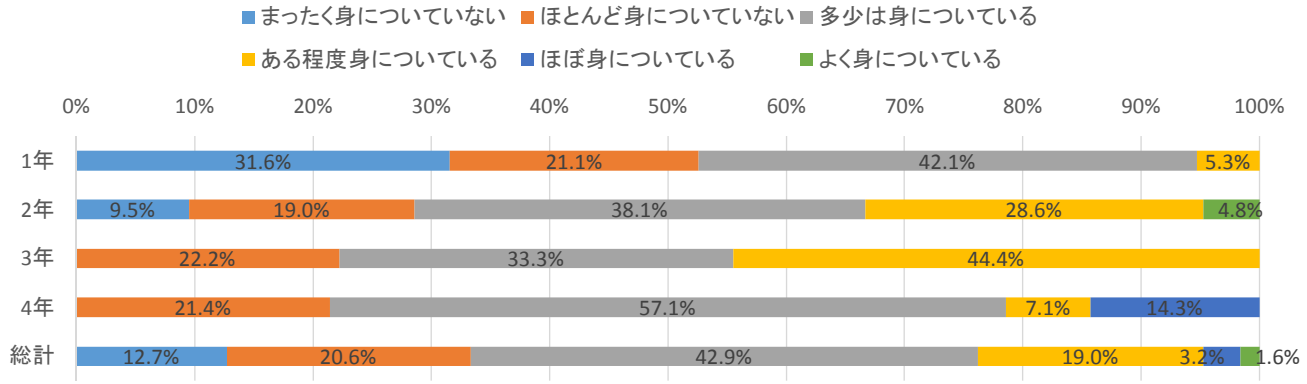
(16)専門知識を理解している。



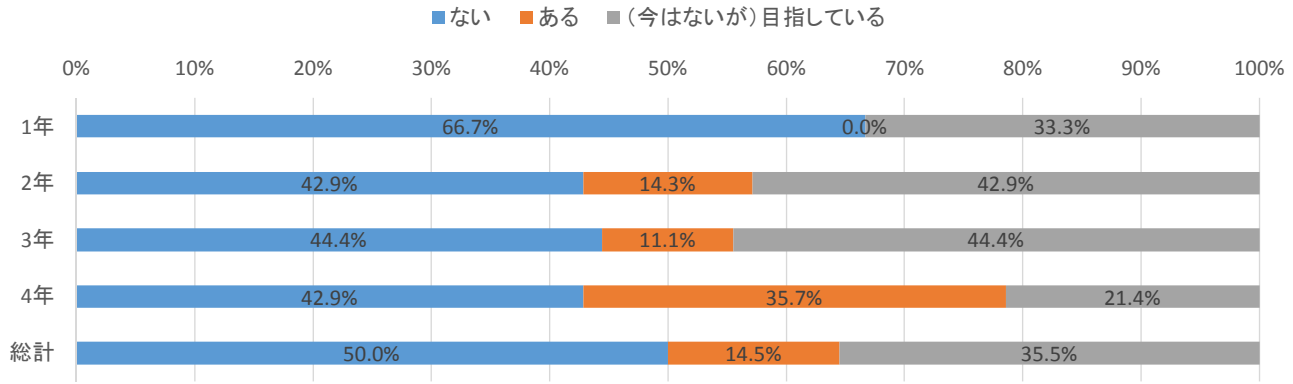
(17)専門知識を実際の場面で使うことができる。



(18)専門的スキルが身についている。

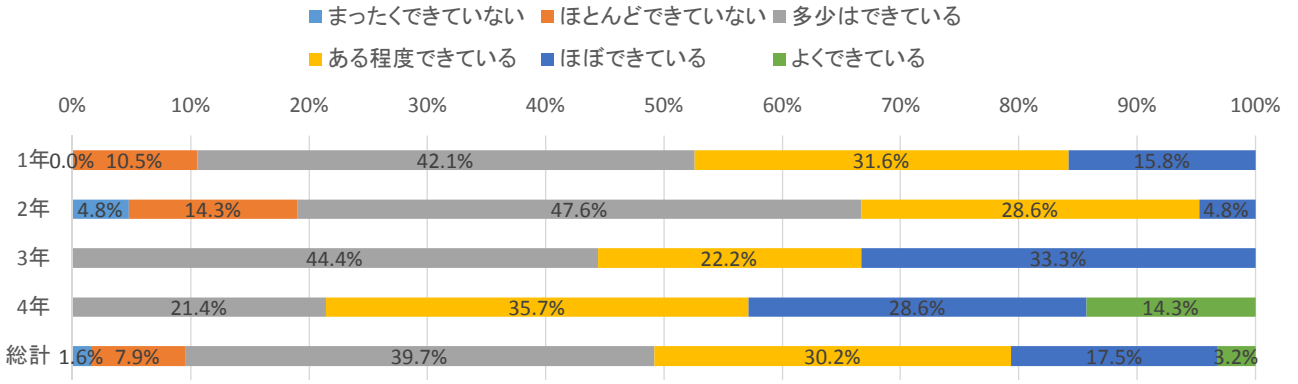


(19)大学入学後に取得した専門分野に関連する資格がありますか、あるいは検定試験で一定の点数を取ったことがありますか。（無効回答　1年：1　）

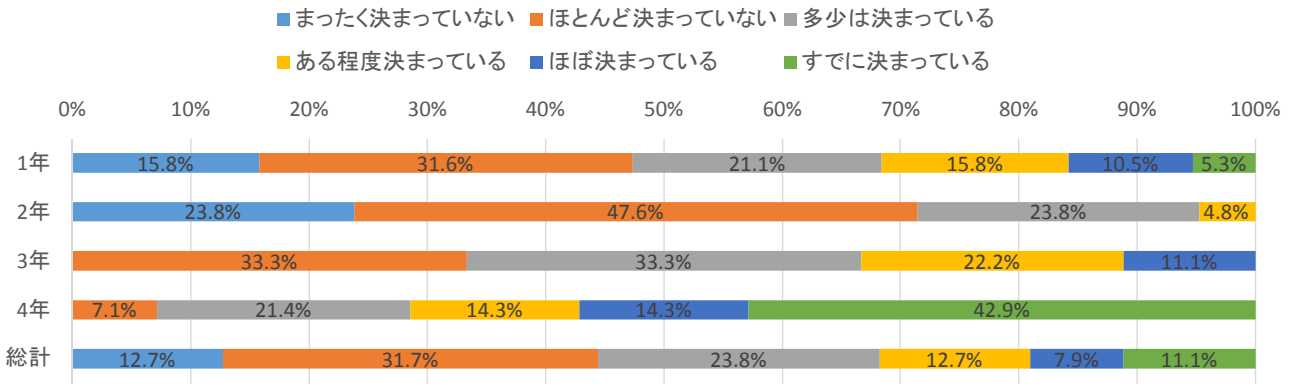


6. 社会で活躍するための力（キャリア教育、社会人基礎力）について

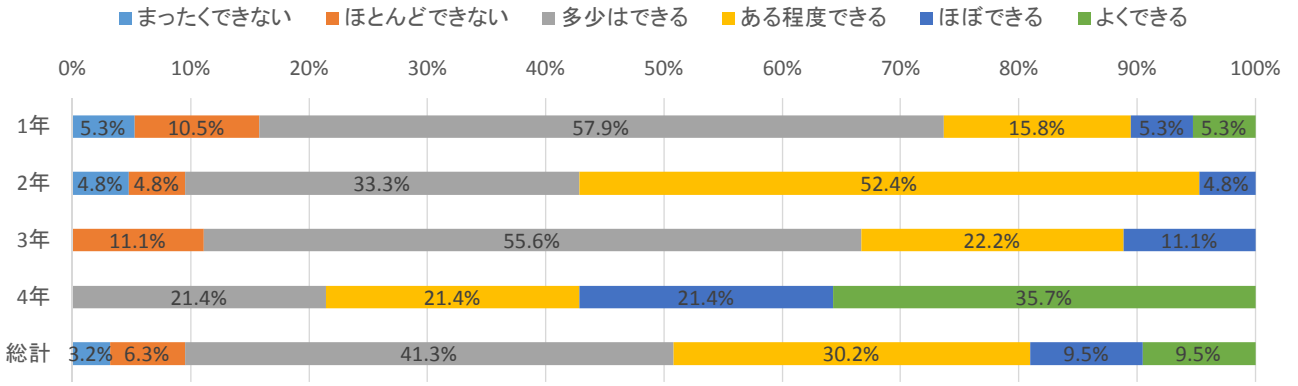
(20)「働く」とはどのようなことかイメージできている。



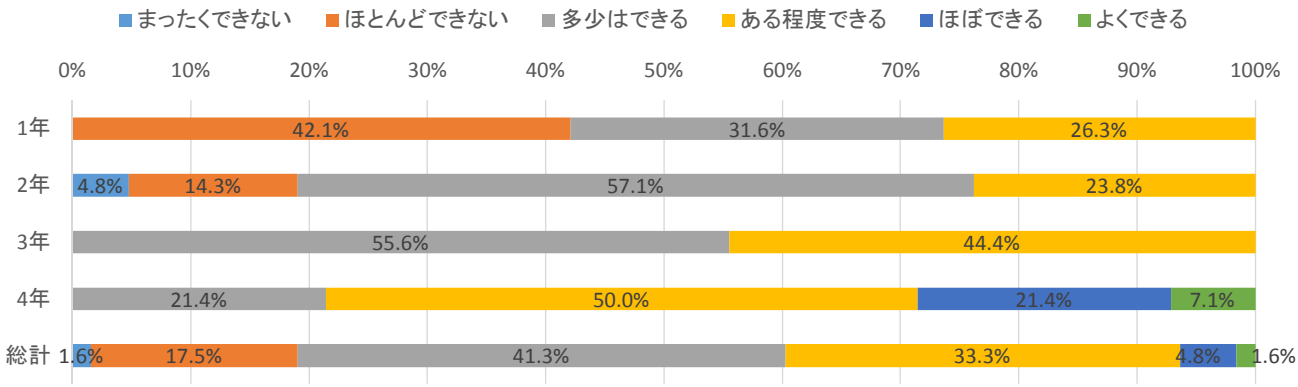
(21)将来の進路が決まっている。



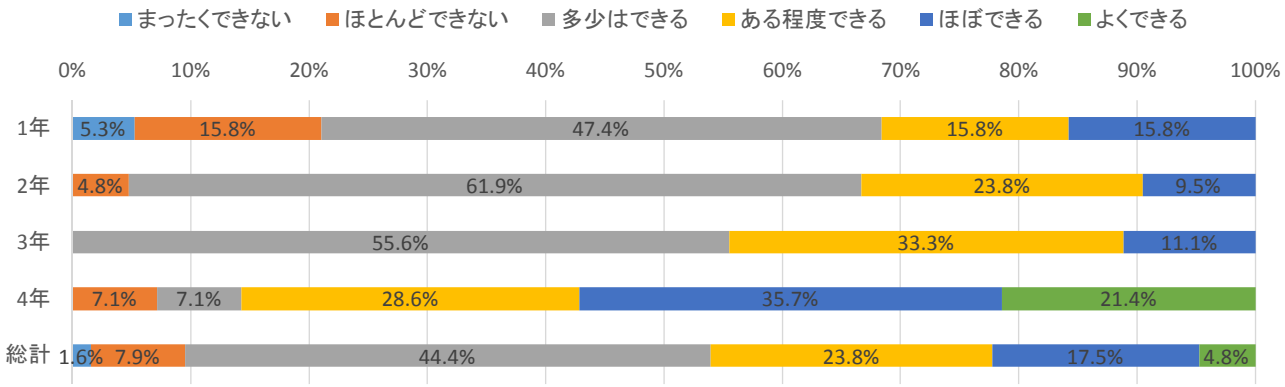
(22)自ら目標に向かってものごとに粘り強く取り組むことができる。



(23)課題を見つけ出しそれに対する最善の解決方法を考えることができる。



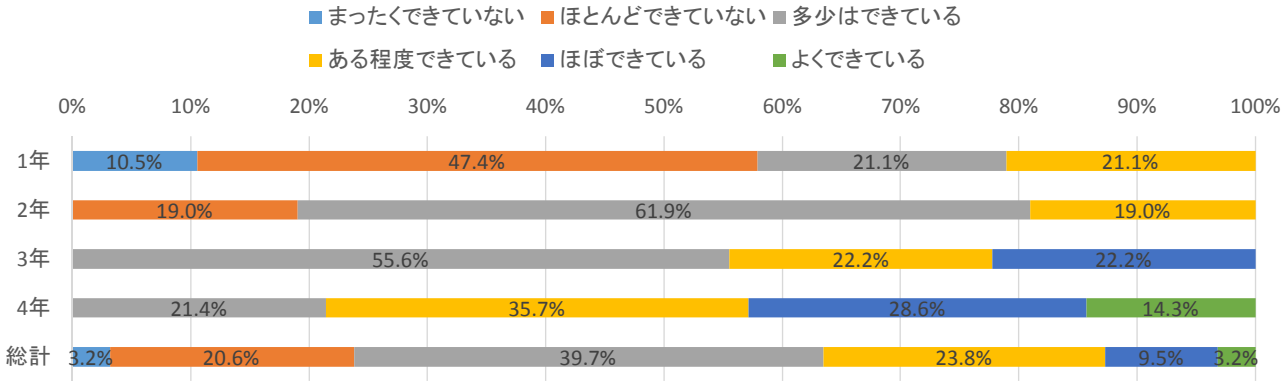
(24)さまざまな考えを持つ人々と意見を交換しながら力を合わせて働くことがで



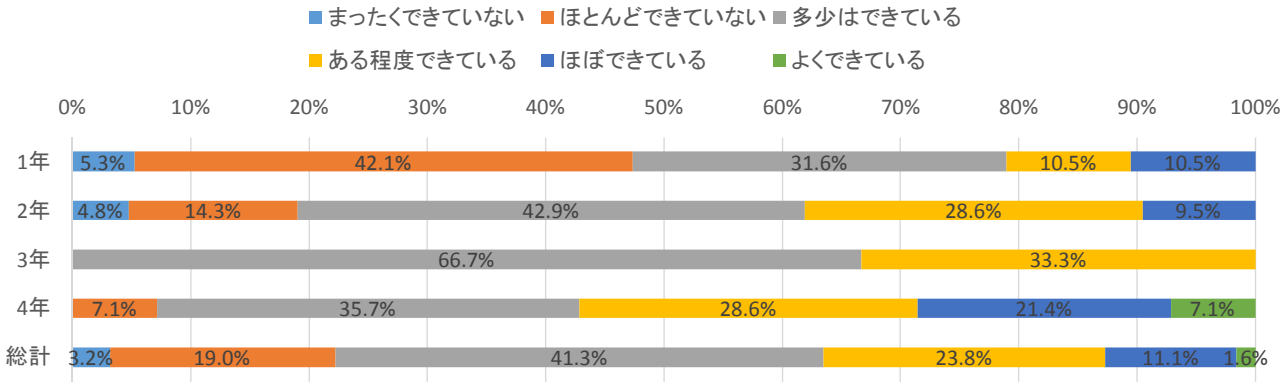
7. 総合力について

・上記の「2」～「6」の学びを通して、以下の力がどの程度身についていると思うかお答え下さい。

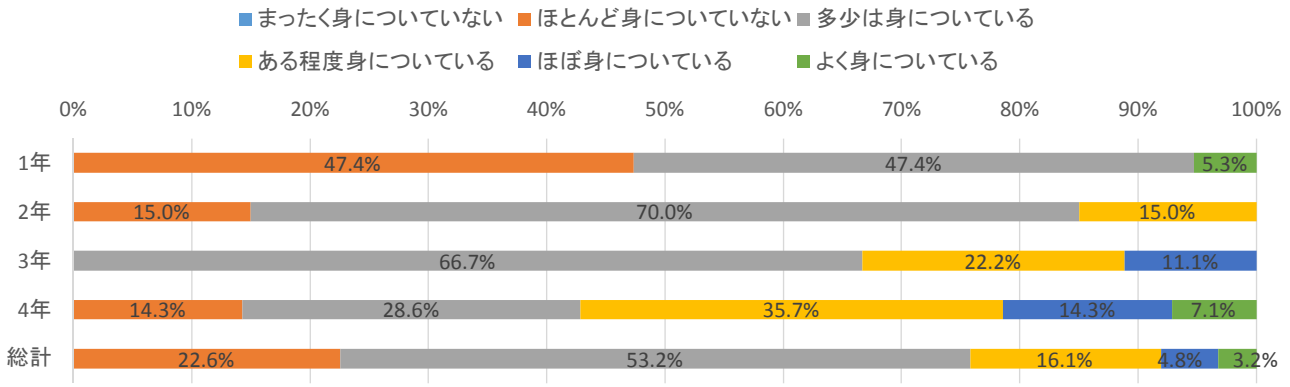
(25)自分自身の「ものの見方・考え方」をつくり上げることができた。



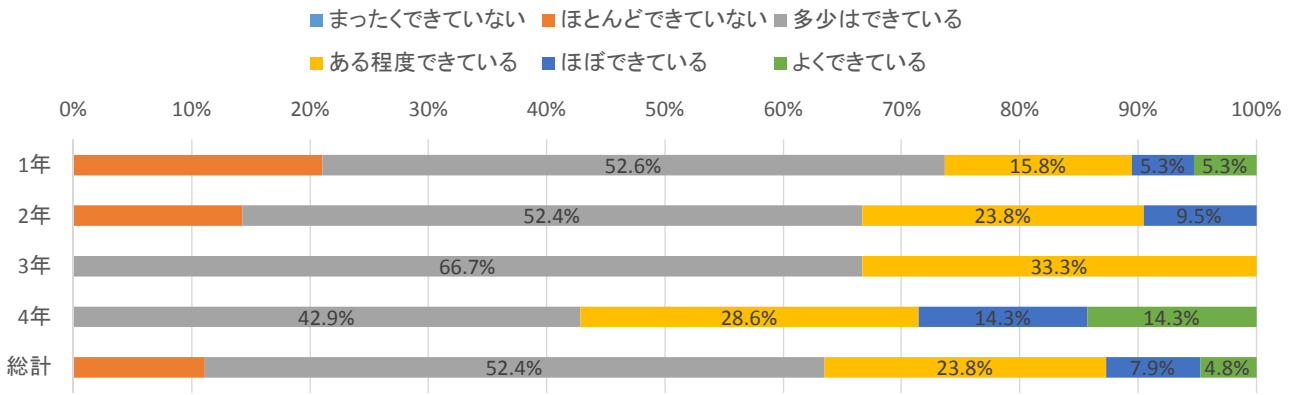
(26)自分の考えを文章や口頭で他者にきちんと説明することができるようにな



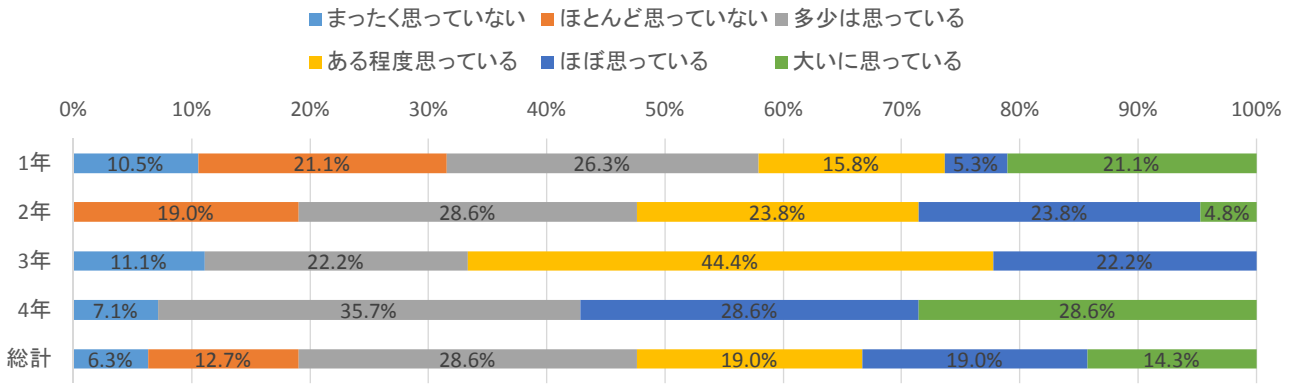
(27)社会に出て仕事や社会的活動を行うために必要な力を身につけることがて　（無効回答　2年:1　）



(28)他者とコミュニケーションを図りながら相互理解を深めていくことができるようになった。



(29)東京成徳大学に入学してよかったと思っていますか。



2－2　応用心理学部

●福祉心理学科

（1）調査結果の概要（中山）

①入学状況と主体的な学び

今回の学修行動調査から本学科の学生たちがどのような大学生活を送っているかが見えてくる。まず入学者傾向として、入学者が 70 名以上いた頃と比較して、入試種別が AO、推薦入試を経て入学する学生が圧倒的に多くなっている。いずれの入試種別も本学科の学修内容と関係して、「誰かに役立つような仕事をしたい」「福祉も心理学も学び将来の進路に結びつけたい」との思いが強い学生達が入学してくるが、学力試験による選別を受けるわけではないので（推薦入試は一定の基準を満たしているが）、学力形成に関係する、学習時間、予習、復習、読書などの学習習慣や態度が十分に身についていないまま入学してくる傾向がある。専門分野以外の知識・教養で「無い・全く・ほとんど」が 1 年、3 年で 50%を超えている。一方で専門分野の理解は比較的高く 70%と高いのだが、入学するまでの学修に課題を感じている学生が多いと推測できる。

このことは学修への姿勢にも関係して、授業には出席をするが、主体的に学習に取り組むことはどういうことかについて、身をもって体験してきたわけではないので、何らかの指示がないと、自ら計画し学び続ける姿勢がないまま、どうしても受け身的な学習となっている。扱われている内容についてもよく理解できない状態に留まっている傾向がある。興味や関心も乏しく出された課題はこなすが、そこからさらに学習を深めたり、広げたりすることが少ない。「1 週間における教室外での学修時間」「授業の予習を自発的に行っているか」にこうした傾向がよく表われている。

しかし、上学年になるにつれて、特に資格取得に関係した学修が本格化していくにしたがって、学習に臨む姿勢に少しずつ変化がみられる。全体結果だけからは見えてこない個々の学生の学修傾向について担任等に意見と照らし合わせてみると、ボランティアや実習等の体験的な学習をきっかけに学びの質が少しずつ主体的なものに変わっていることが推測される。

学科としては、こうした変容を促すように、これまで以上に個々の学生の「学びのあり方」に注意深く目を向け、個別の対応をきめ細く行う必要を感じている。

②情報入手のツールと人間関係

今回の調査結果で懸念されるひとつに読書経験の少なさがある。主体的な学修に関わる情報取得に関して課題となっている。これに関係して新聞をとっている家庭が少なく、新聞を読んでいない学生が圧倒的に多い。社会に関する出来事はテレビやネットを通して情報を入手する学生がほとんどであり、特に 1 日 3 時間以上インターネットを利用している学生が半数を超えている結果からも、情報リテラシーに関して注意深く見守っていく必要がある。インターネットも貴重な情報入手ツールとなるのはもちろんだが、活字を通して視野を広げ、理解や思考を深める経験が不足している。学修の基礎にかかわるリテラシーの力を育むことに個別対応が必要となっている。特に「書く力」に自信を持っている学生が少ない結果からも、根気強く継続的な指導が各科目で共通して行われることが重要であろう。

また、大学生活時間の過ごし方に関係して、サークル活動に参加している学生やアルバイトをしている学生が想像していたよりも少なく、約半数の学生はいずれにも加わらず、毎日の大学生活を大学と自宅との往復だけで過ごしていないのか気になった。通学時間も 90 分以内の学生が多いだけに時間的には自由な時間も多いと考えられるだけにどのように過ごしているのであろうか。もちろん自由に自分の意思で

時間を使うことに問題はないが、懸念されるのは人間関係が希薄にはなっていないのかということである。大学に出ても、誰とも話さずに帰って来るような毎日になっていないか、大学生活を充実させる良質な人間関係ができているかについても留意していきたい。

③大学満足度からみる学年傾向－3 年生に注目して－

大学に対する満足度では、1 年、3 年の両学年の学生の約 70%が好意的な印象を持っている。そのうち 3 年生は、2 年の時の結果は約 40%で、半数以上の学生が「どちらとも言えない」を選択していた。他の調査項目から大学に対して否定的な印象を持つ学生は少ないと推測されることから大学生活に対するイメージがまだ十分に培われていないように感じられた。学生のなかには家庭状況もあって授業料等を自分で準備する必要がある。他学年と比べて週 10 時間を超えるアルバイトをしている学生が多い。こうした生活状況のなかでの回答結果として捉え、今後、学生の実態を踏まえながら、専門科目の学修が本格化する時でもあり、これらの科目に対する興味や関心を持たせるように配慮し、少しでも学修への姿勢通い方向に導かれるよう努めていきたいと指導に当たってきた。「どちらとも言えない」学生を好意的な印象を持てるように変えていくことができれば、大学への満足度に結びついていくのではないかと考えてきたが、結果は良い方向に変わってきたようだ。この経験から学修への意欲を持たせる関わり方が教師に求められていることを再確認した。

（2）各学年の分析

◆1 年生（朝比奈）

①入学に満足していない者

現時点で「入学に満足していない」と回答している学生が、少数ではあるが存在している。満足していない要素を探ると、一つには入学形態から必ずしも本意でない入学をしている可能性が示唆される。また、学修に対して「非常に易しい」と感じていることや、興味のある授業の少なさとの関連が見受けられる者もいる。さらに、将来の進路が決まっていないこととも関連がありそうである。いずれにしても、今後の大学生活の中で個々に一定の満足が得られるように、きめ細かな対応が必要だと考える。

②生活状況について

大学までの通学時間が 120 分以上の学生と一人暮らしの学生が少数いる。長時間通学の学生たちは、学内活動も学修活動も積極的に行っているため、継続できるよう、見守っていきたい。一人暮らしの学生たちは出席率が他の 1 年生と比較して多少低い者（60～80%）が含まれていること、卒業の自信も低い者が含まれていることから、出席に対するきめ細かな促しや日々の生活状況の確認などを丁寧にする必要があるだろう。

③大学内外の学修や学修スキルについて

興味のある授業が少ない学生、卒業する自信が低い学生が一定数いる。予習や復習に関しては、半数がやっていない現状ではあるが、指示された課題に関しては、時間をある程度使ってやっている。一方で、新聞も本も読まない者が一定数いる。加えて、知識や教養が「ない（まったくない・ほとんどない）」と回答している者が半数以上おり、情報収集スキルや論文執筆スキルについても持っていなかったり、自信がないと回答したりしている。

これらのことから、授業への関心が低くても、真面目に課題に取り組む姿勢が見て取れるため、今後、学年が進行していく中で、関心を持って自ら学ぶことができるよう、丁寧な指導とともに、積極的な学修に対する姿勢を促していきたい。

④将来の進路

「決まっていない」との回答が一定数あり、働くイメージを持てていない者も少数ではあるがいる。1年生であり、今後の学びやキャリア支援を受けることで、進路が見えるよう働きかけていきたい。

⑤まとめ

全般に課題が多く見受けられる学年だが、個別の対応を含め、学生相互の関係を考慮した学年全体の力で実態を良い方向に改善させていくように努めていきたい。

◆2 年生（別府）

元々の人数が少ない（回答者 19 名）。授業に出ていない 1 名の回答が加わると結果が変わるだろう。

①他学年との比較

・「バイト・サークル・大学外の活動・インターネット」の時間が長い傾向。3､4 年生より「教室外の学修」をしている割合高い。→なんでもやる。エネルギーがある。やる気がある。

・一方で、「授業の難しさ」は他学年と変わらない。「頑張っているが難しい」のではないか。

→実態を踏まえると、学習方法から指導する必要があると考える。

・「興味ある授業がある」割合が高い。また、「読む・会話・書く」、「ディスカッション・意見交換・説明」、「専門的知識の理解・活用」の力がついたと感じている割合が高い。さらに、「働くイメージ・進路が決まっている」割合が高い。

→どちらかといえば授業に対して肯定的。比較的、自己評価も高い。自分は頑張っている、と思えているのではないか。これまでの授業やボランティアの推進、キャリア教育も影響しているのではないか。一方、「相互理解」は他学年と変わらないこと、日頃の様子を鑑みると、自分と違う他者を理解し受け入れようとする姿勢に課題があると感じられ、福祉や心理学の知識が“本当に使える”と言えるかは疑問である。

・「入学してよかったと大いに思っている」割合が高い。

②まとめ

・他学年に比べ、授業も授業外の活動も頑張っている。授業、課外活動、大学を肯定的に捉えている傾向がある。「やる気」を生かせればと思う。一方、実際できているか（成績、他者評価）は別で、特に学習面の支援が必要である。また対人面や専門的知識の活用は、これから実習などを通して学んでいくのだと思う。

・活動的でない学生や満足度が低い学生もおり、引き続き個別のフォローが必要である。

◆3 年生（関谷）

①あなた自身について

ほとんどの学生が、アルバイト時間が 10 時間超となっている。平均して 1 日 2～3 時間はアルバイトをしている計算となり、通学時間等を考慮すると、実質的に予習や復習といった学外での学習に充てる時間は相当限られているのが現状であると思われる。

②大学内での学修について

出席率の自己評価は多くが 80%以上（少なくとも 60%以上）である一方、授業内容が「難しい・非常に難しい」と感じている学生が過半数を占めている。ただし、難しいと回答している学生の成績は中上位者が多い様子である。授業を積極的に理解しようとする意識がある分、難しさを感じているという可能性がある反面、授業時間中によく寝ている学生や、出席状況が芳しくない学生の中に「普通」と回答してい

る者がいる点は一考の余地がある。

③教室外での学修について

指示課題への取り組み時間に比べ、自主的な予習復習は「やっていない」という学生が多い。学生からは「課題が多い」という声も聞こえるが、「指示課題が多くて自主的な学習時間が取れない」のか、「指示課題があるから一定の教室外での学修がキープできている（指示課題もなくなれば、何もしなくなってしまう）」のかによって、必要な対応が異なってくると考えられる。

④授業以外の行動等について

ゲームに充てる時間には明確な性差が見られ、男子はゲームに多くの時間を使っている。一方、インターネットはすべての学生がかなりの時間を使っており、生活の中で相当多くのウエイトを占めている様子が窺える。

⑤外国語、ICT リテラシー

外国語については、自己評価にバラツキがあるが、過去のプレイスメントテストでは得点が総じて低めであり、実質的には語学力には制限がある可能性が高い。これは語学系資格を誰も持っていないことにも表れていると思われる。また、ICT リテラシーについては、アプリ作成を「多少はできる・ほぼできる」と回答している者がいるが、実際にスキルを客観的に評価できているか疑問が残る結果ともいえ、実態は再確認が必要かもしれない。

⑥基礎スキル、専門的スキルについて

国家資格等を目指す学生と目指していない学生の間に、一貫した傾向はないようである。国家資格を目指している学生の中には、専門知識について総じて低評価な者もいるが、国家資格を目指しているがゆえに、専門知識の難しさを感じている可能性もある。

また、基礎スキルについては、様々な教養スキルを「まったくない」と考えている学生が複数いることは、いわゆる社会人基礎力の面からも問題だと思われた。

⑦まとめ

全般に、学生の主観的評価には大きなばらつきがあり、普段の学生生活の様子や成績と、自己評価の高低には一貫した関係が見られない。成績や授業態度等が比較的良好でも、自己評価が低い学生がいる反面、そのような学生に比べて成績等が振るわない学生の自己評価が高い例も散見されている。授業成績等の客観的評価と主観的な自己評価に齟齬が多く見られる点が、大きな課題であると考えられる。

ただし、学生の中に、ほとんどの問いに対して一貫して低評価な学生が見られる（実際に一定のサポートが必要な学生である）。また、いわゆる適応的な学生生活を送っているように見える学生の中にも、一貫して自己評価が低い者がいた点も新たな気付きといえる。アンケートに真摯に回答したという前提で考えると、これらの学生には個別のフォローアップが必要であると考えられる。

◆4 年生（石田）

①「通学時間」について

60 分以上かかる学生が全体の半数を占めていた。このような状況を鑑み、担任として、1 年生の頃から特に遠方の学生への声かけ、通学時間の有効利用について、全体あるいは個別に対応してきた。

②「1 週間あたりのアルバイト」について

4 年生になってから勉強に専念するためにアルバイト時間を減らし、アルバイトを辞めた学生もいるようである。一方で、週 20 時間から週 25 時間が 17.6%、25 時間以上が 8.8%と高い比率である。各家庭により様々な事情があり、アルバイトはやむを得ないことも多いが、2 年生後期より福祉的分野でのアル

バイトについて授業等を通して紹介をし、できるだけ学びと実践が結びつくようには配慮して来た。

③休日の過ごし方として

主に「研究・勉強」と回答している割合が 5.9%と非常に低かった。国家試験に向けて、後期には勉強時間を確保するように改めて指導していきたい。

④「興味のある授業の割合」について

0～20%と回答した学生が 15.2%と高い割合であった。個別に聞き取りを行い、学科全体の授業改善に結びつけていきたい。「授業全体の難易度」について、「非常に難しい」、「やや難しい」と回答した割合が他学年に比して低かった。国家試験関連科目の中には難易度の高い科目が多く、それらを履修してきた経験の成果であると推測できる。

⑤「授業の自発的予習」

時間を 3 時間以上と回答している学生の割合が他学年に比して高かった。社会福祉士、精神保健福祉士ほか資格取得や公務員試験、教員採用試験に臨む学生らの姿勢の表れだと推断している。今後更に、学生を鼓舞していきたい。

学修調査（行動・成果調査） 福祉心理学科 【割合】

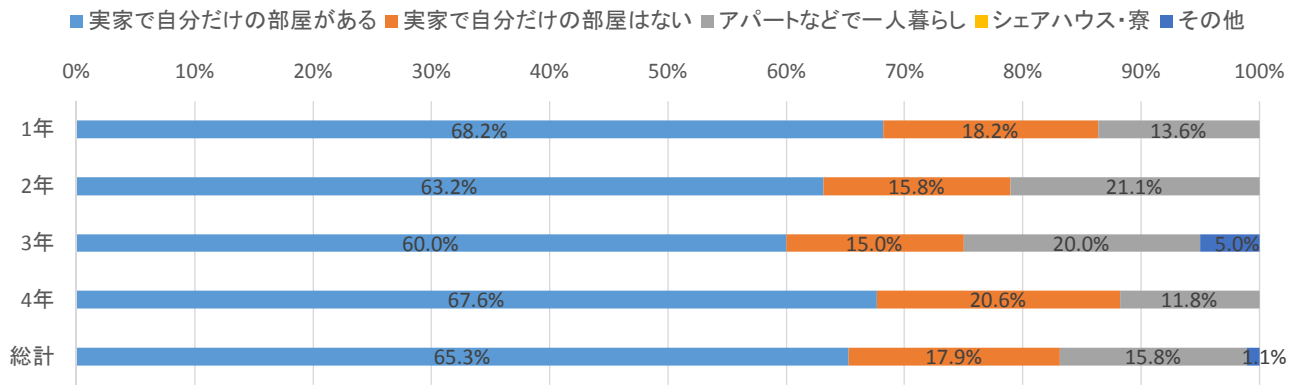
【回答者数】（人）

	男性	女性	計
1年	7	15	22
2年	4	15	19
3年	10	10	20
4年	14	20	34
計	35	60	95

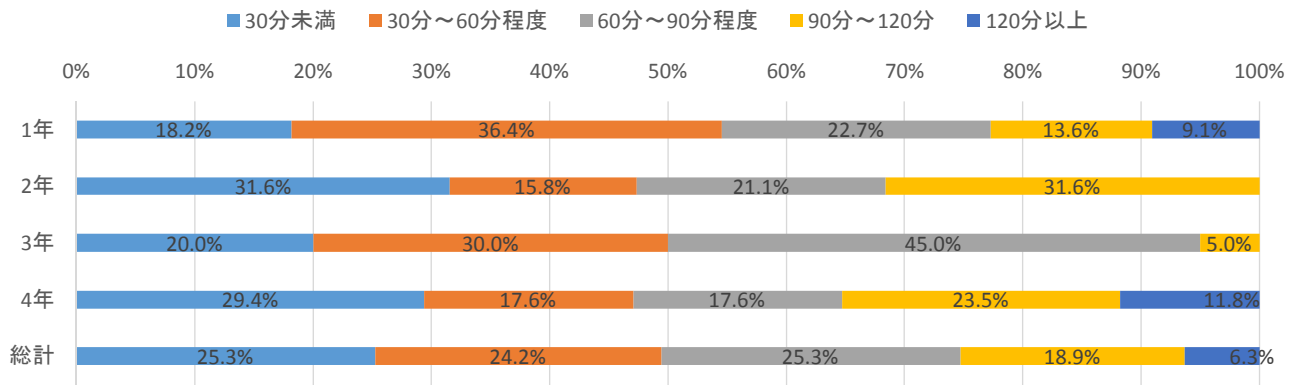
	AO	推薦（公募・指定）	一般	センター	社会人 外国人	編入	計
1年	8	10	3	1	0	0	22
2年	8	8	1	2	0	0	19
3年	11	5	2	1	1	0	20
4年	12	16	4	1	1	0	34
計	39	39	10	5	2	0	95

【学修行動調査】（%）

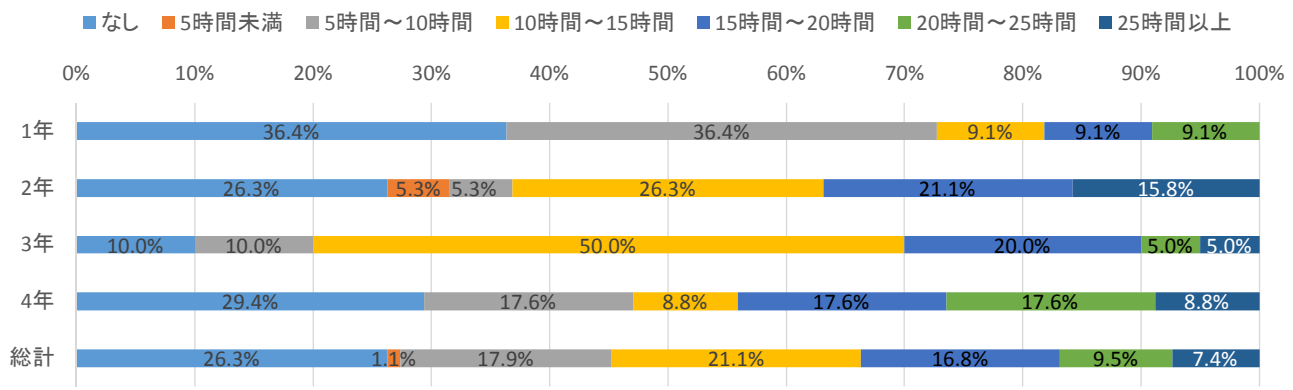
1.あなた自身について
(1)学修環境



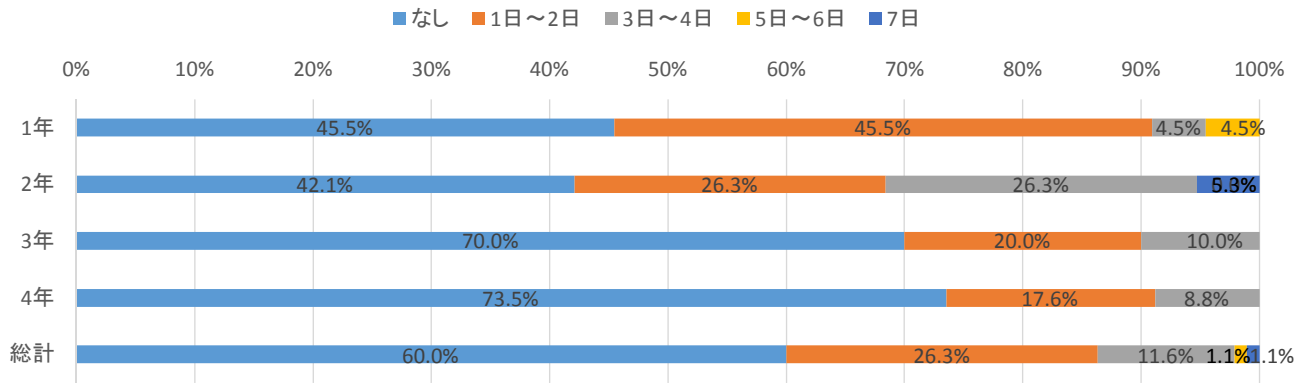
(2)通学時間（家から大学まで）



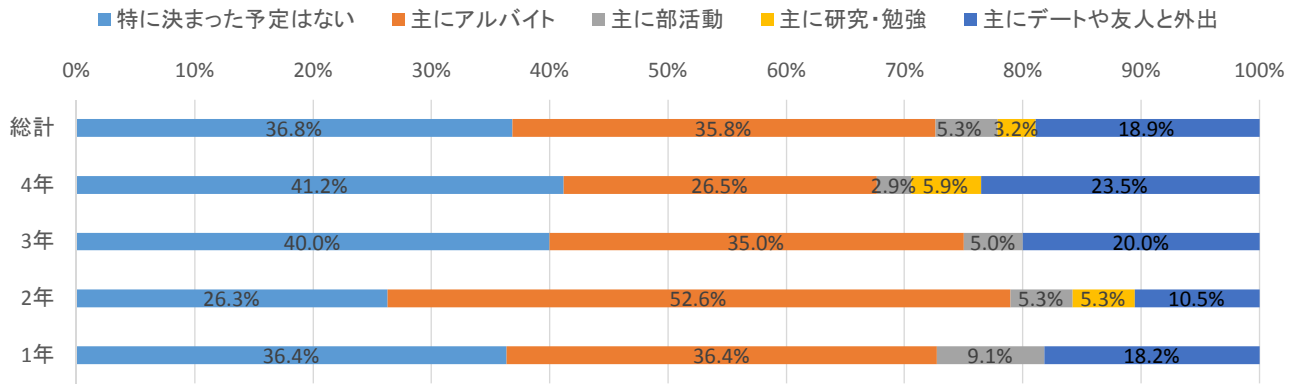
(3) 1週間あたりのアルバイト（時間）



(4)1週間あたりの部活・サークル活動や学外のクラブなどの活動

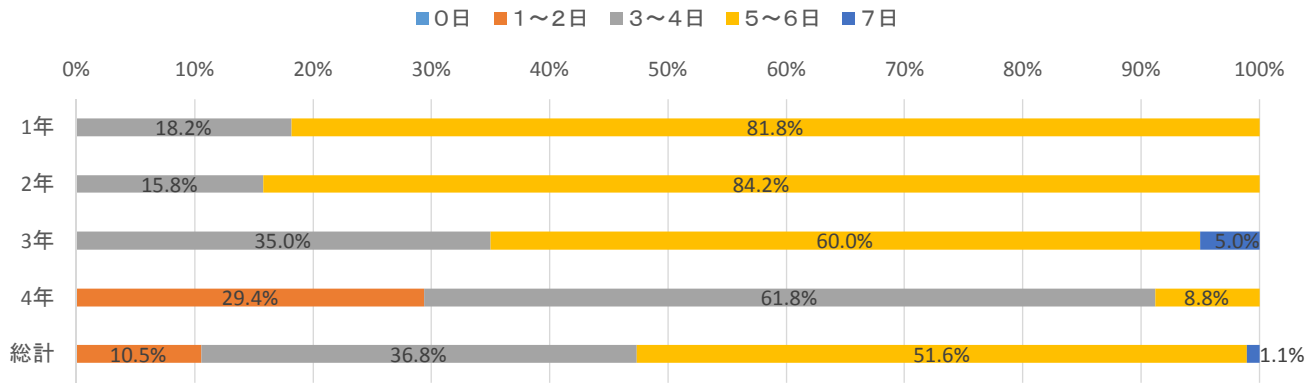


(5)休日の過ごし方

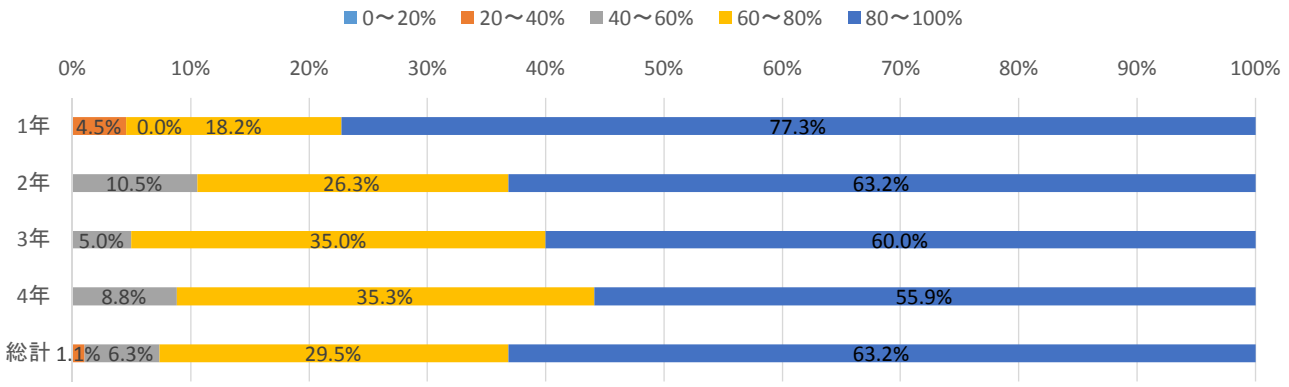


2. 1週間（平均的な）における大学内での学修について

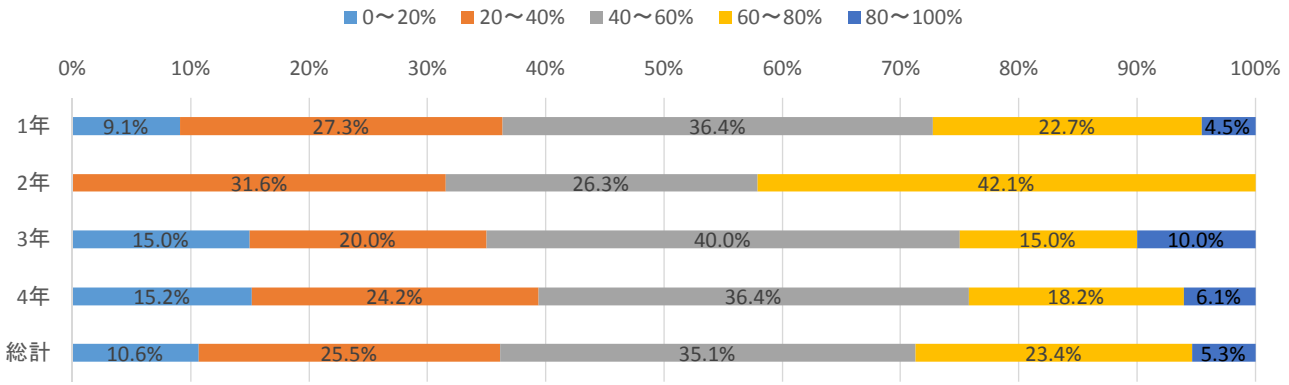
(6) 大学に何日登校しましたか



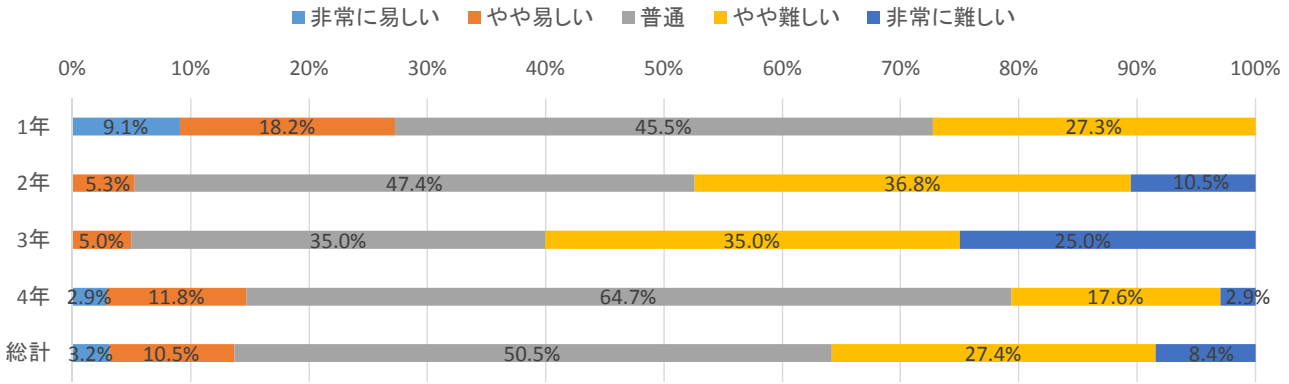
(7) 授業に出席した割合は



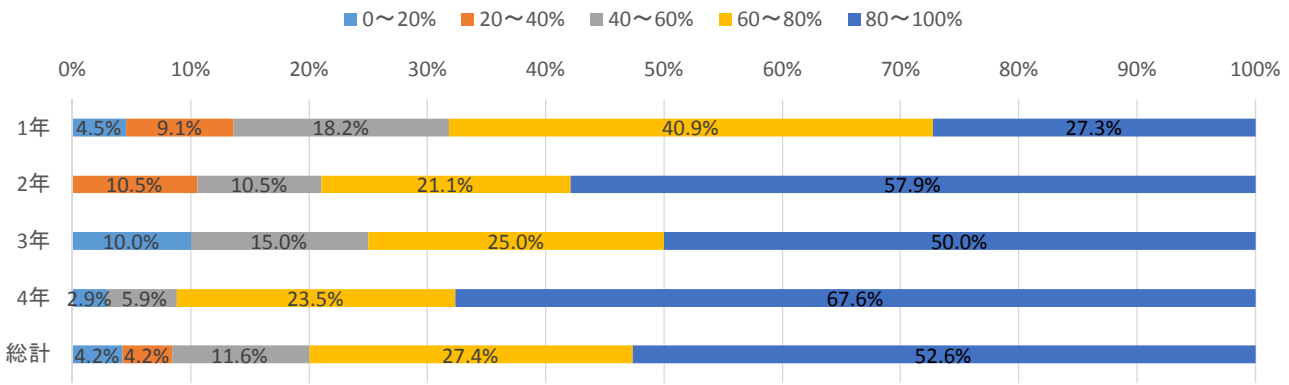
(8) 興味のある授業の割合は　　（無効回答　4年：1　）



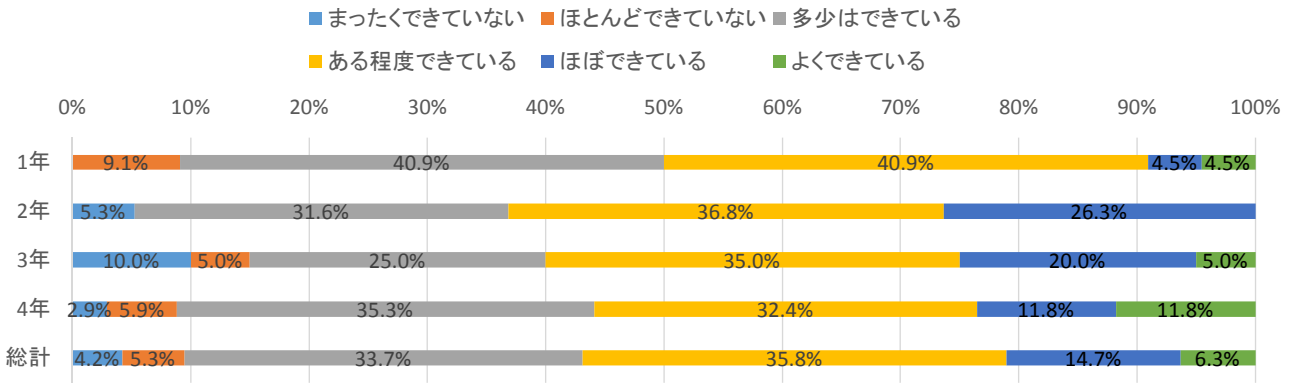
(9) 授業全体の難易度は



(10) 4年間で卒業できる自信は

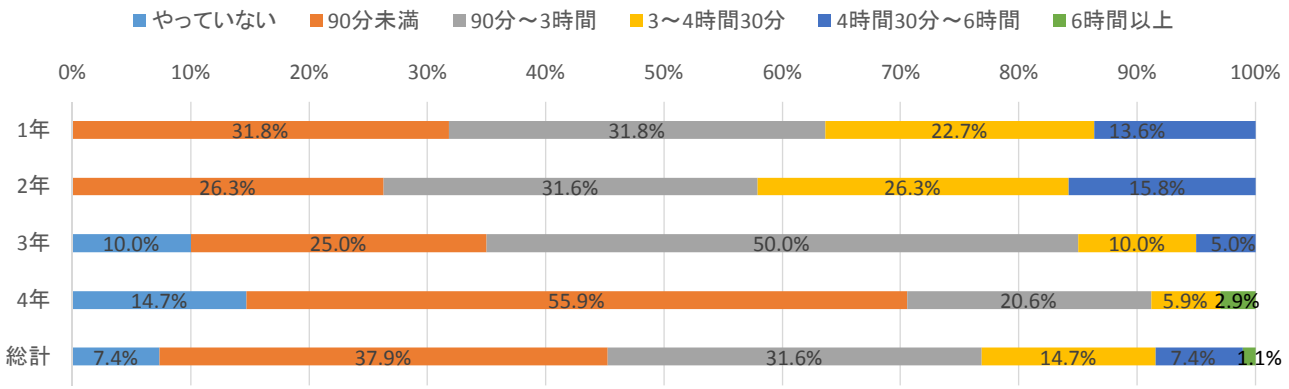


(11) 授業には積極的に取り組みましたか

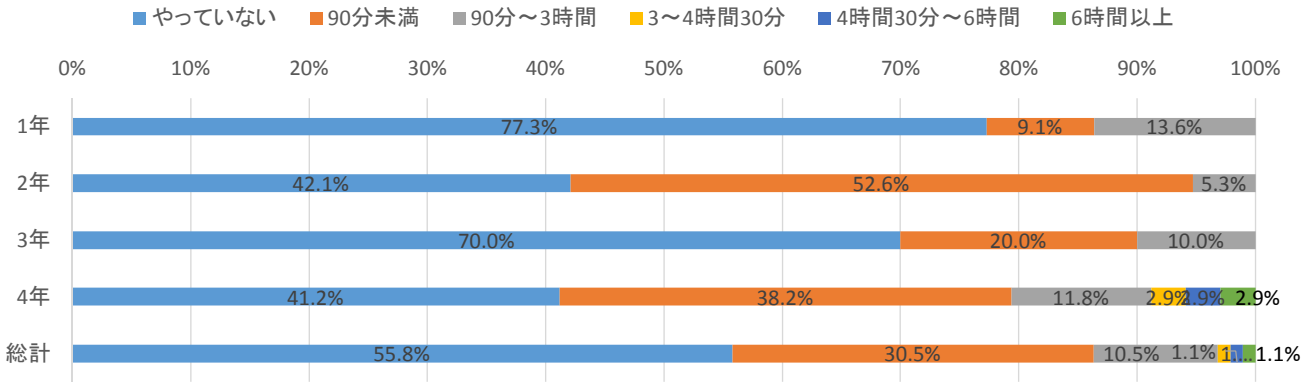


3. 1週間（平均的な）における教室外での学修時間について

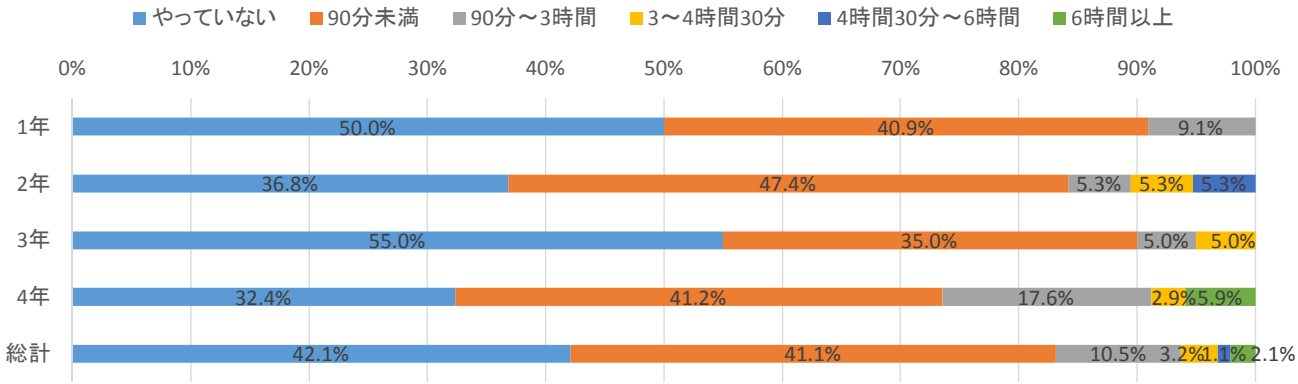
(12) 先生に指示された授業の発表の準備、課題やレポート、宿題を1週間合計でどのくらいやりました



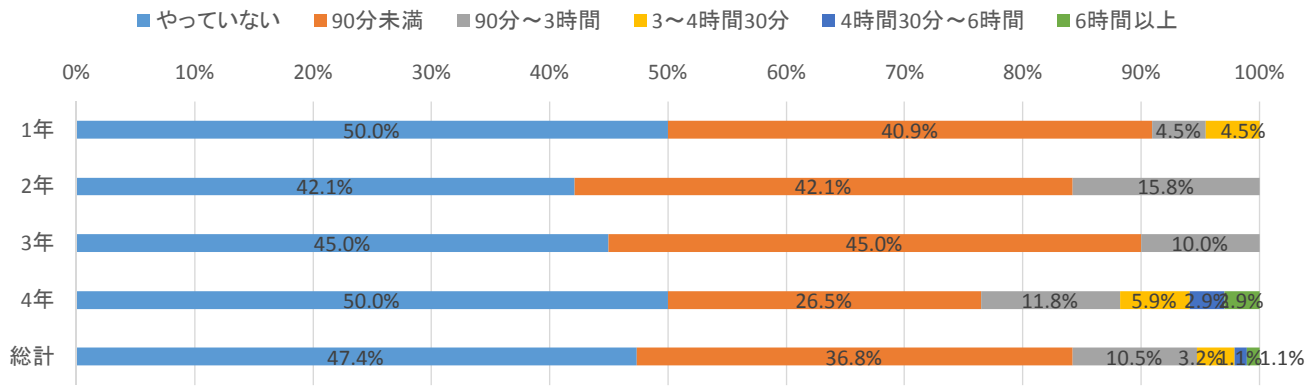
(13) 授業の予修を自発的に1週間合計でどのくらいやりましたか



(14) 授業のノートの整理や復修を自発的に1週間合計でどのくらいやりましたか

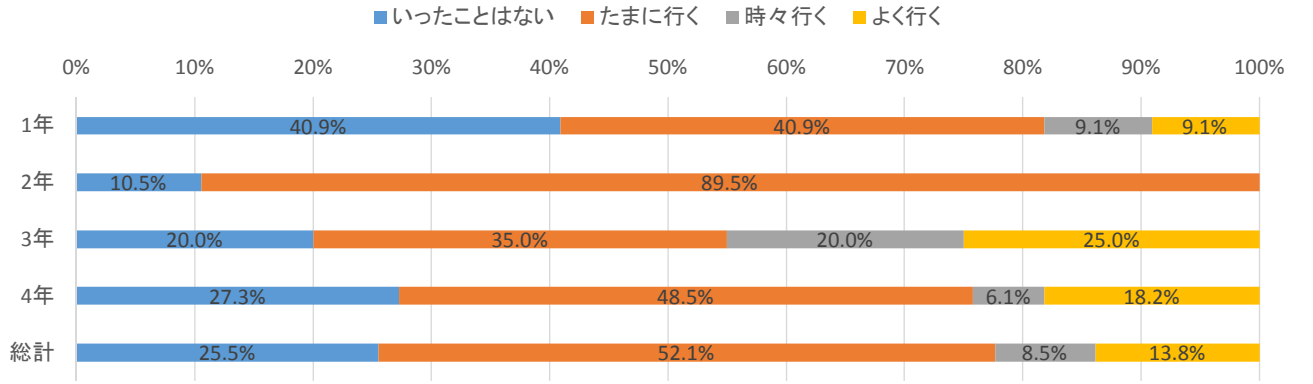


(15) 授業に関連する資料や本を探したり、調べたりすることを1週間合計でどのくらいやりましたか

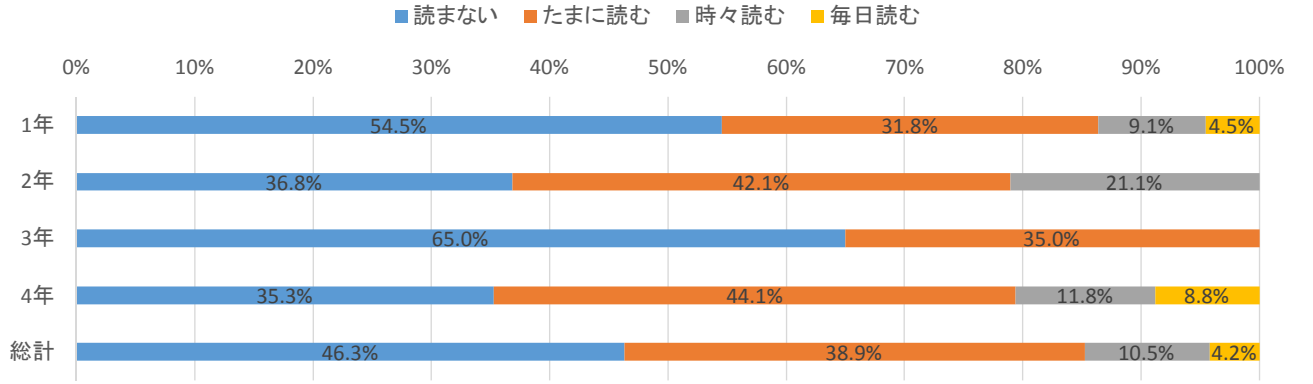


4. 授業以外の学修活動や普段の行動

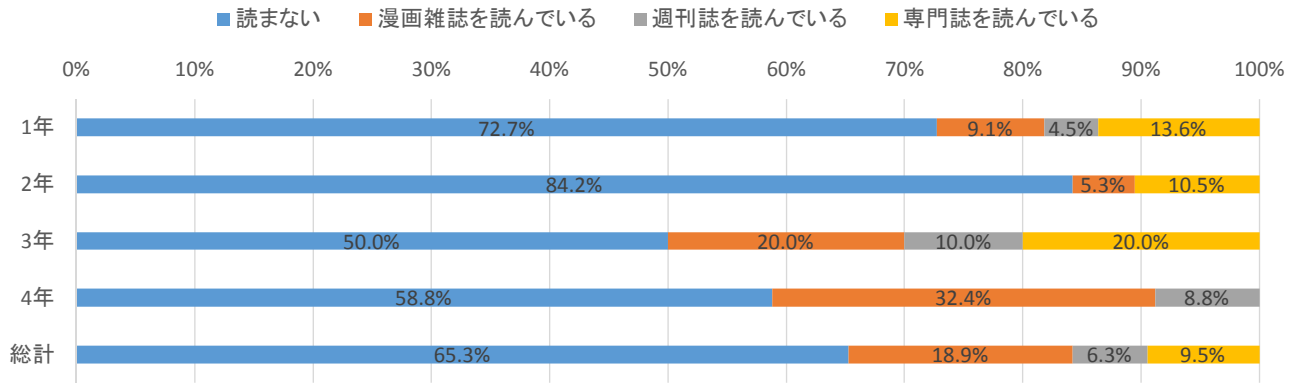
(16) 大学外の図書館や美術館・博物館等の文化施設、研修会・講演会などへの参加、音楽会・コンサート、スポーツの大会などや、サークル活動や授業以外でのボランティア活動に



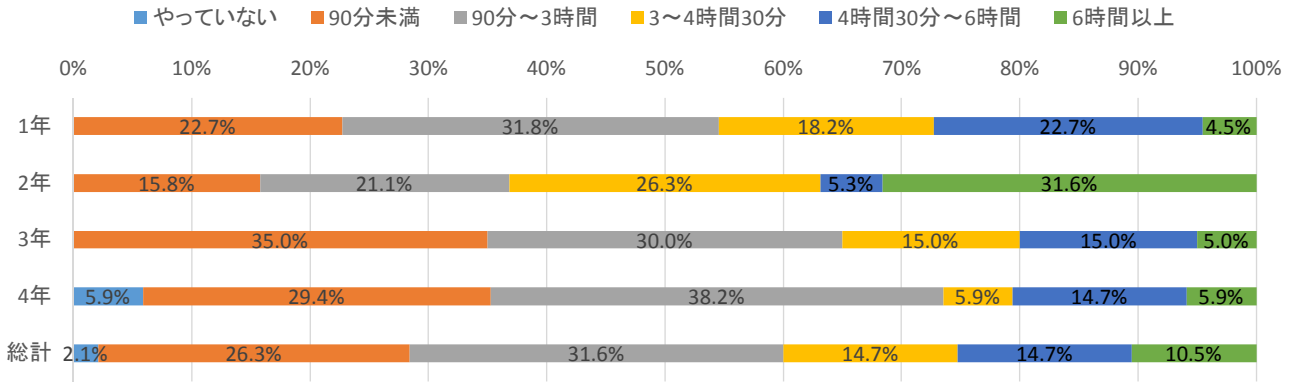
(17) 新聞を読んでいますか



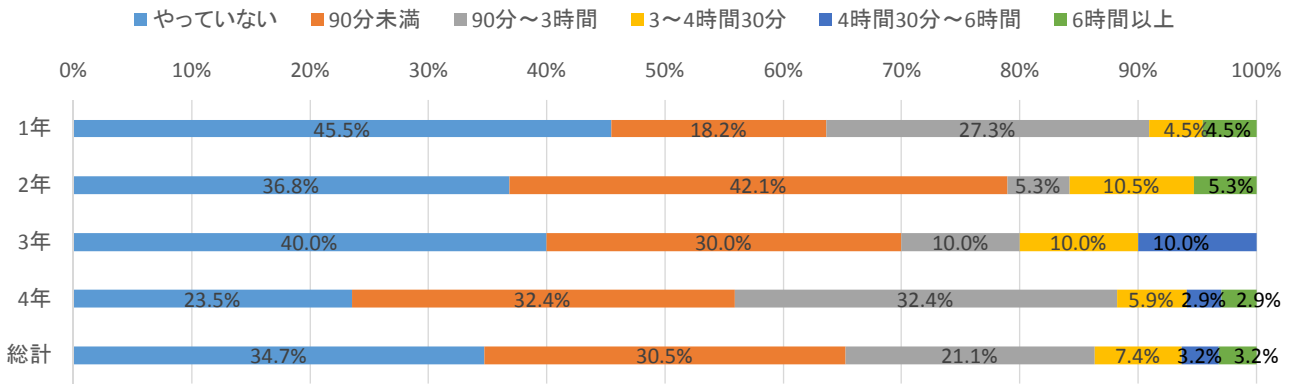
(18) 定期的に読んでいる雑誌、週刊誌は



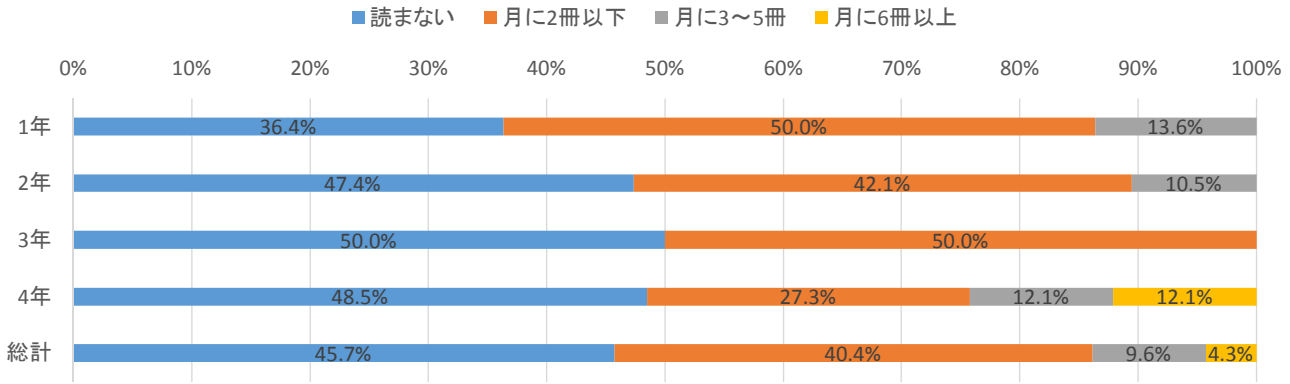
(19) インターネット（LINEやその他SNSを含む）を1日にどのくらい使っています;



(20) ゲーム（オンラインゲームを含む）を1日にどのくらいやっていますか



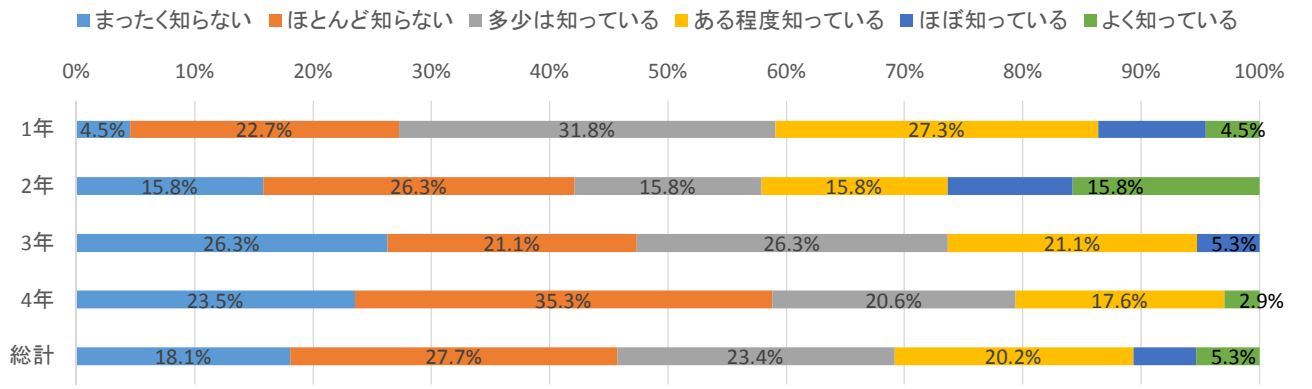
(21) 本をどのくらい読んでいますか　（無効回答　4年：1　）



【学修成果調査】(%)

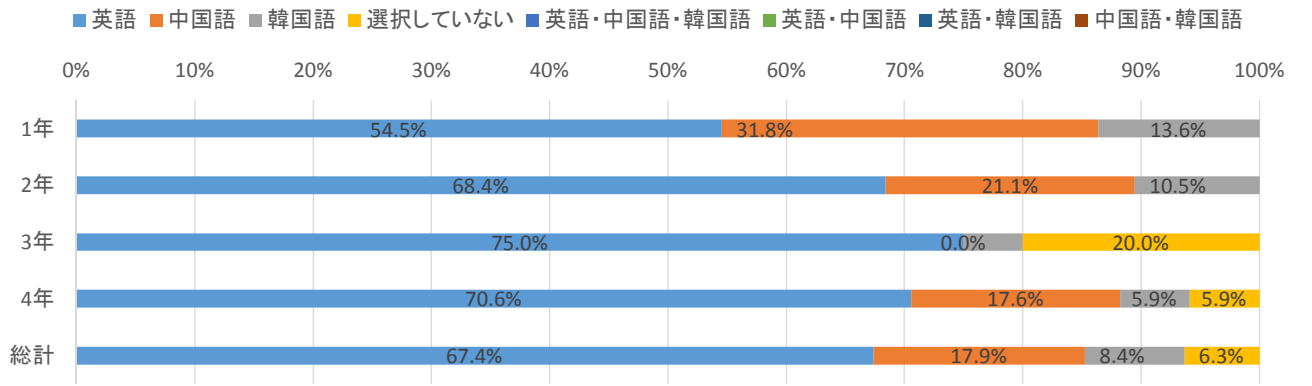
1. 教育理念について

(1)本学の教育の基本理念「共生とコミュニケーション」を知っていますか。　（無効回答　3年：1　）

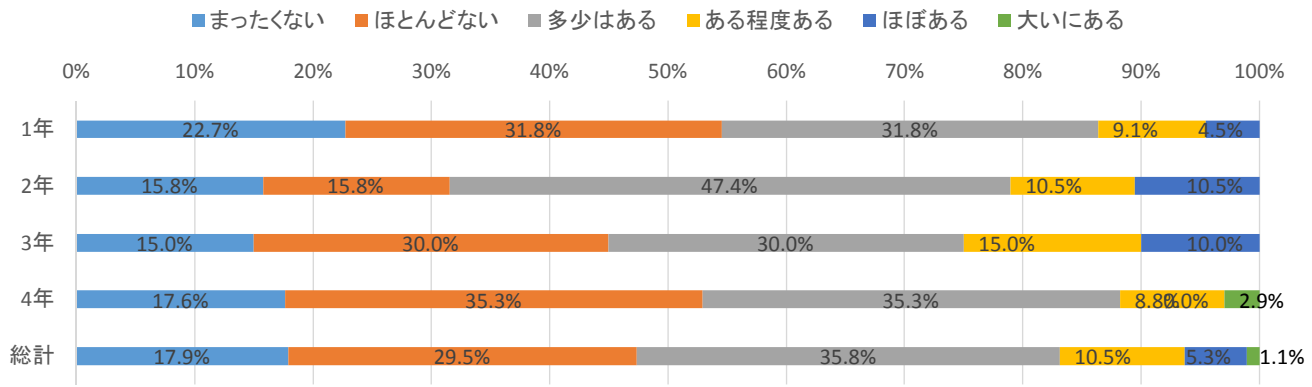


2. 外国語能力について

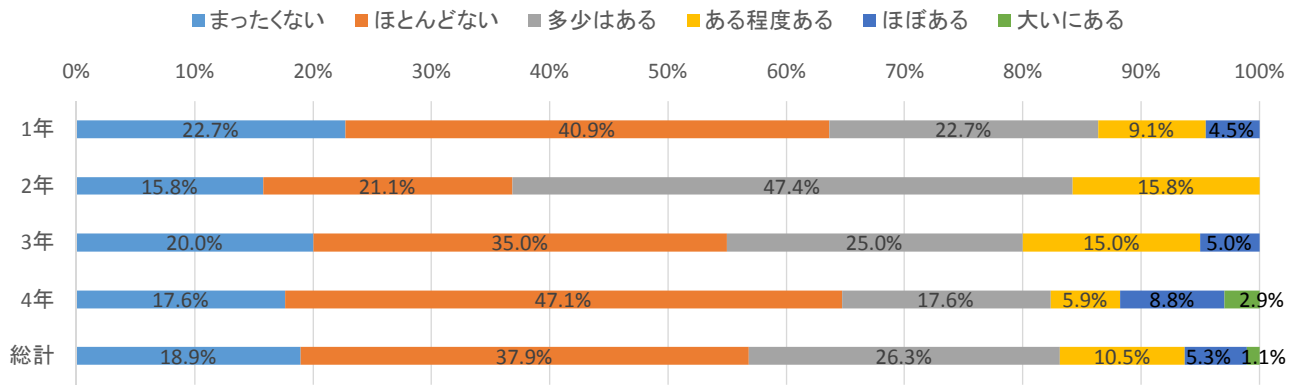
(2)外国語の授業を選択していますか・いましたか。



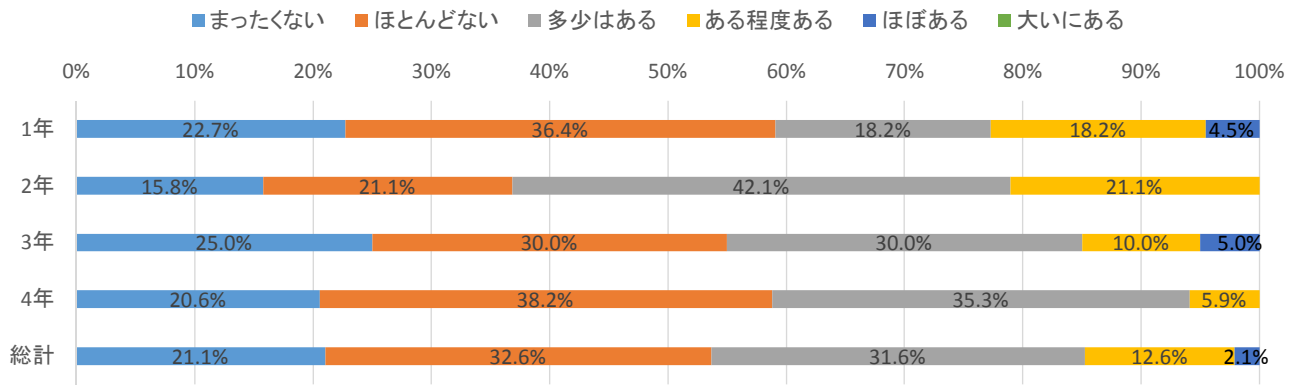
(3)読む力がある。



(4)会話力（話す、聞く）がある。

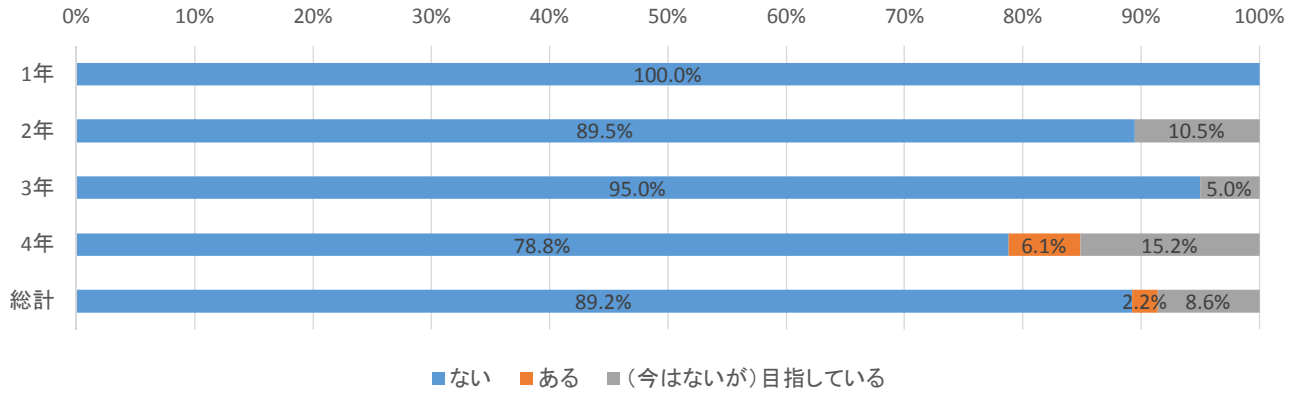


(5)書く力がある。



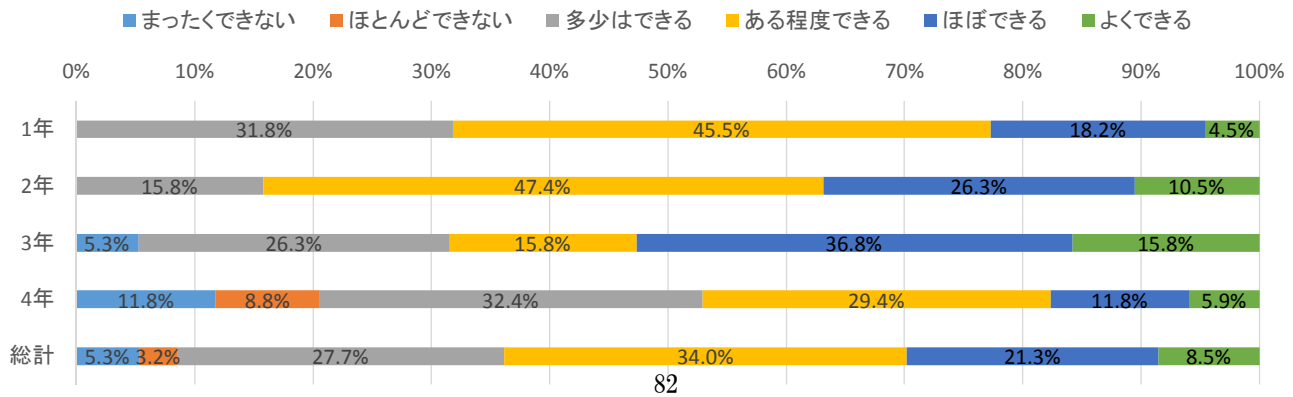
(6)大学入学後に取得した語学の資格がありますか、あるいは検定試験で一定の点数を取ったことがありますか。

（無効回答　1年：1　4年：1　）

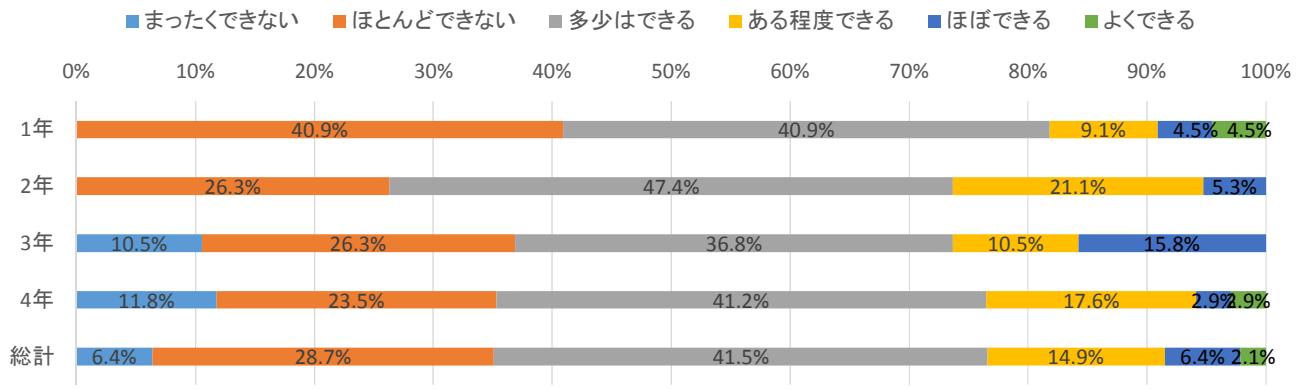


3. ICTリテラシー（＝情報機器やインターネットを使う能力）について

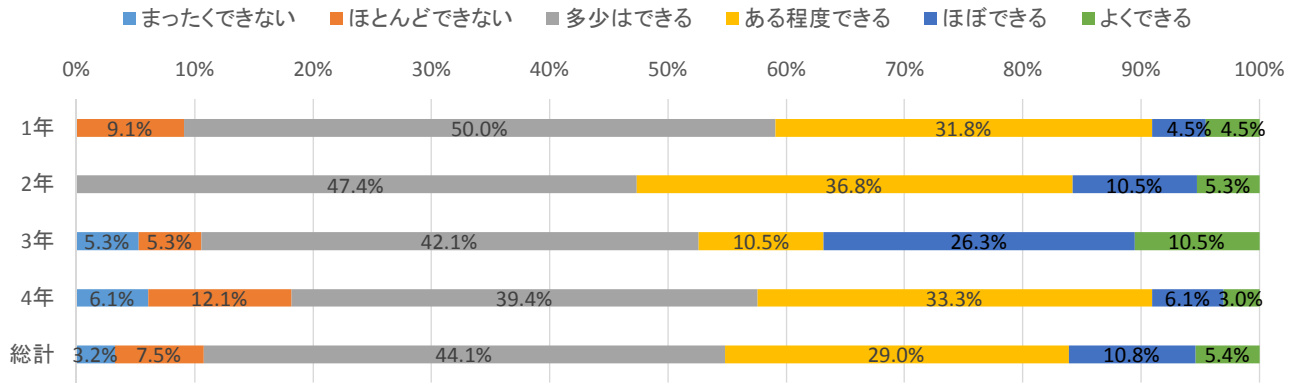
(7)文章作成ソフト（Wordなど）を使って文章を作成することができる。　（無効回答　3年：1　）



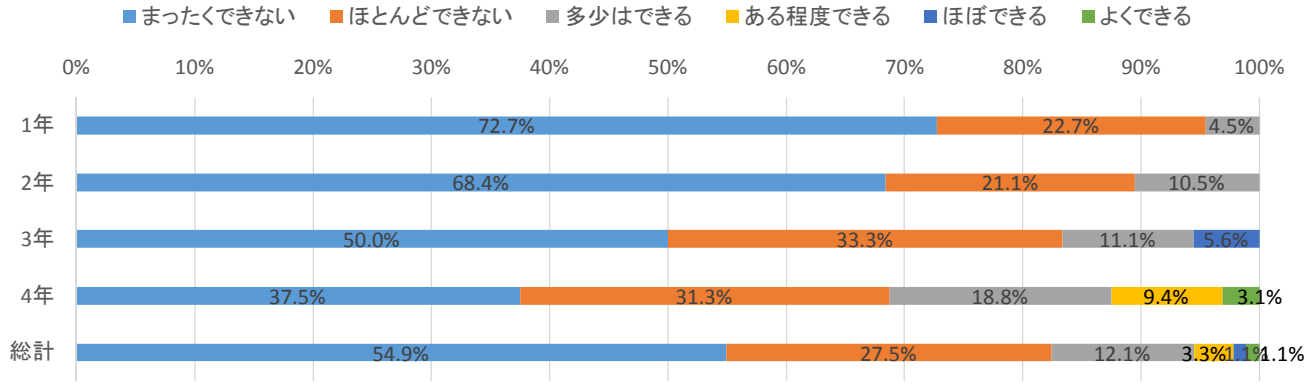
(8)表計算ソフト（Excelなど）を使って図表を作成することができる。　（無効回答　3年：1　）



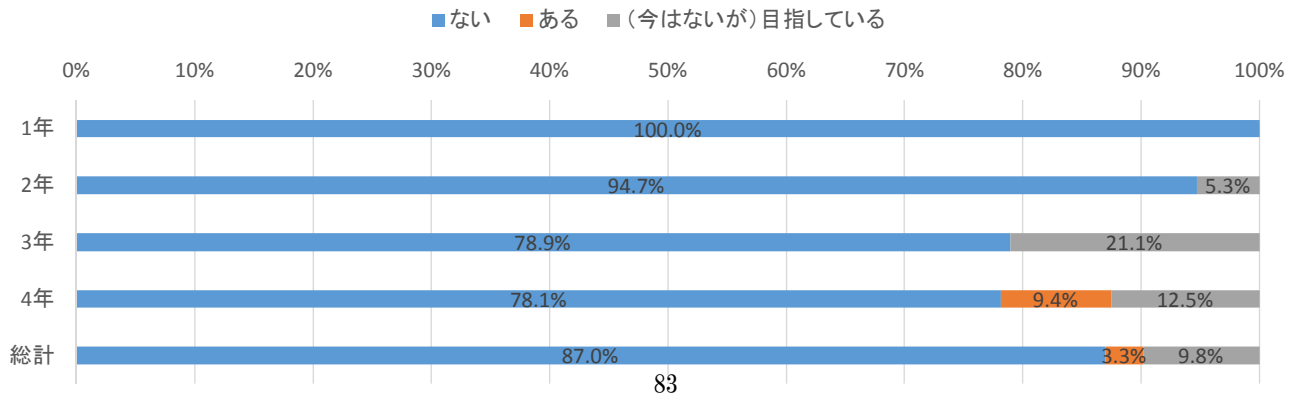
(9)プレゼンテーションソフト（Power Pointなど）を使ってプレゼンテーション用の資料を作成することができる。　（無効回答　3年：1　4年：1　）



(10)アプリケーションソフトを作成することができる。　（無効回答　3年：2　4年：2　）

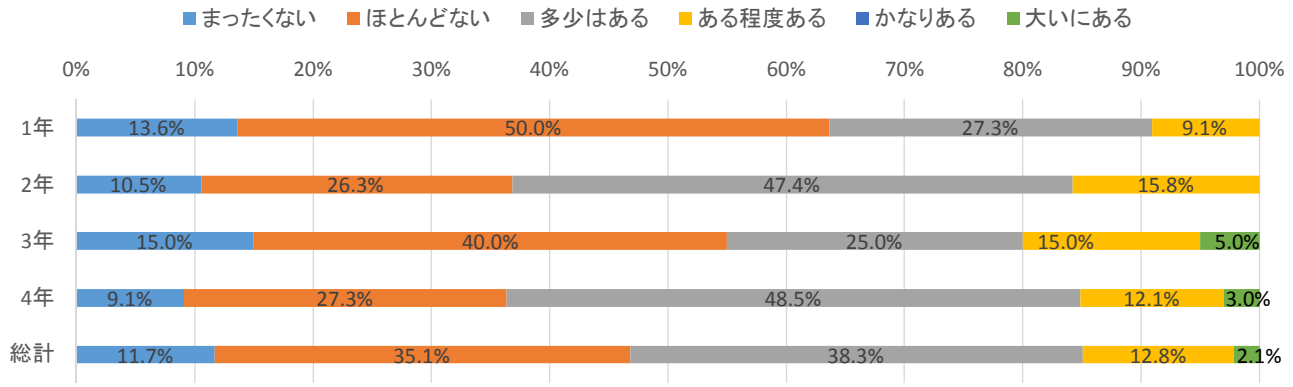


(11)大学入学後に取得したICT関連の資格がありますか、あるいは検定試験で一定の点数を取ったことがありますか。
（無効回答　3年：1　4年：2　）

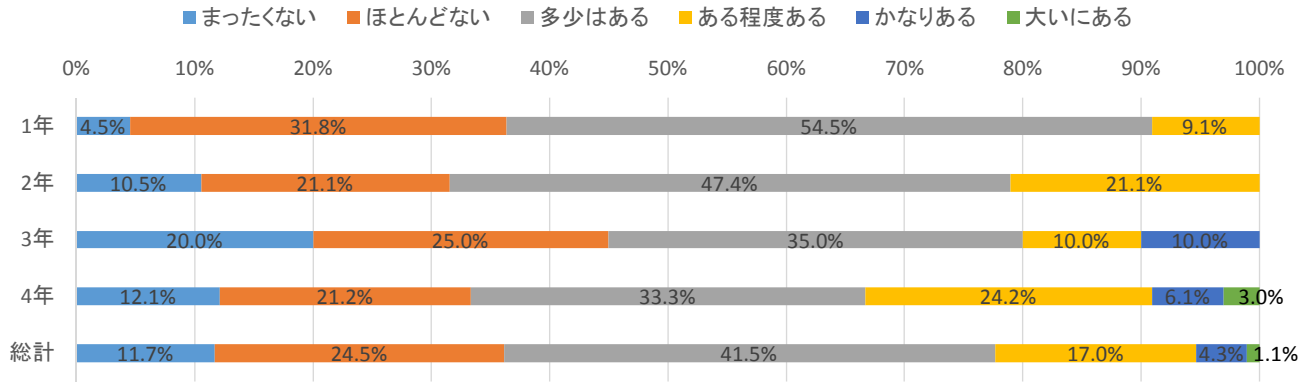


4. 教養・基礎的スキルについて

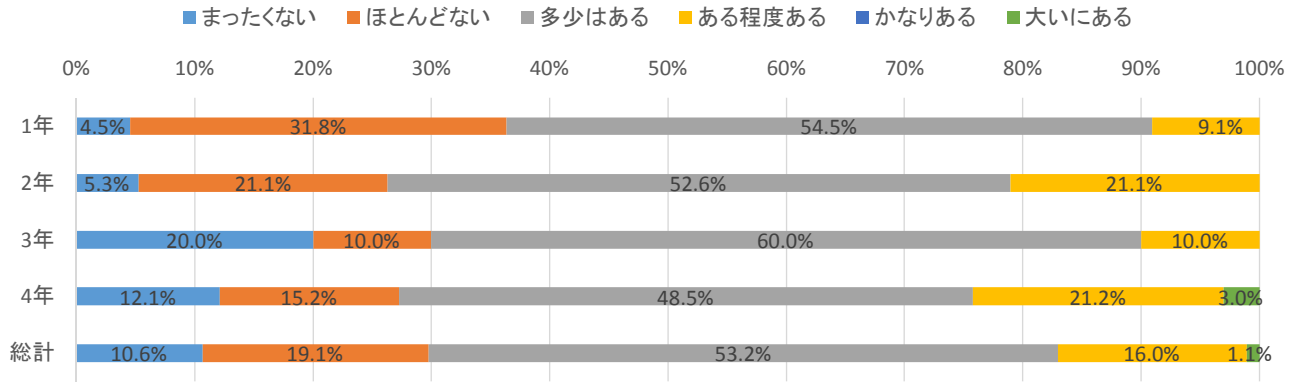
(12)専門分野の知識とは別に幅広い知識や教養がある。 （無効回答 4年：1 ）



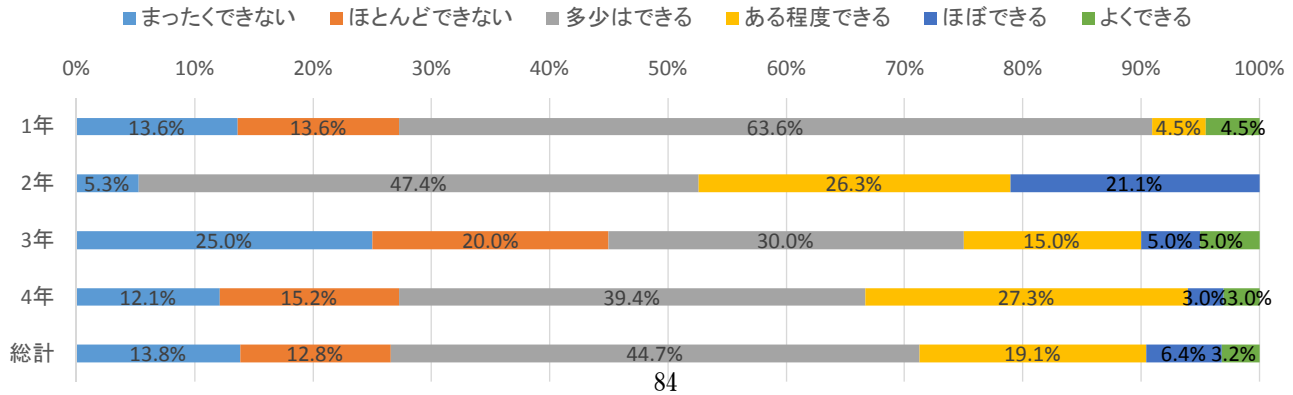
(13)レポートや論文作成に必要な情報収集のスキル（論文、文献、統計などの検索方法など）がある。（無効回答 4年：1 ）



(14)レポートや論文などを書くために必要なスキル（書式や作法など）がある。 無効回答 4年：1 ）

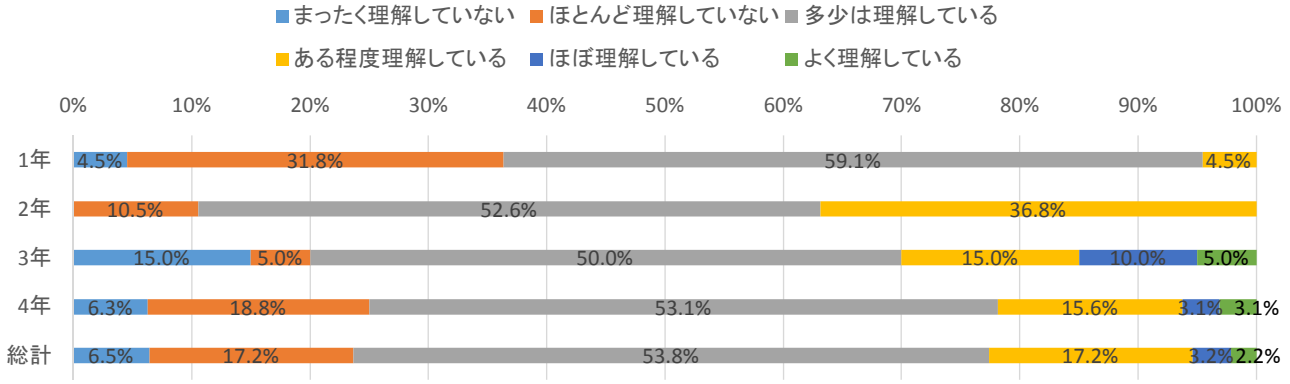


(15)ディスカッションの中で他者の意見をきちんと聞きながら自分の意見を述べ 無効回答 4年：1

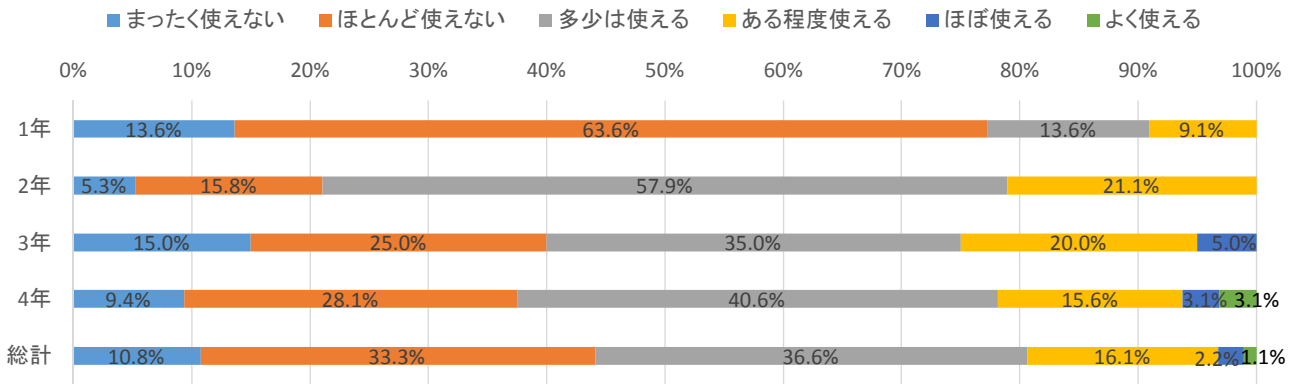


5. 専門知識・専門的スキルについて

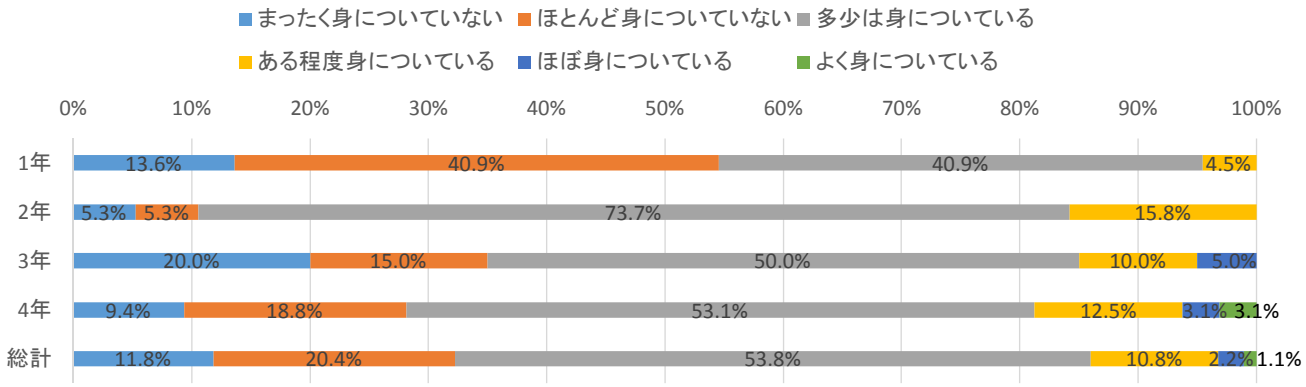
(16)専門知識を理解している。 （無効回答　4年：2　）



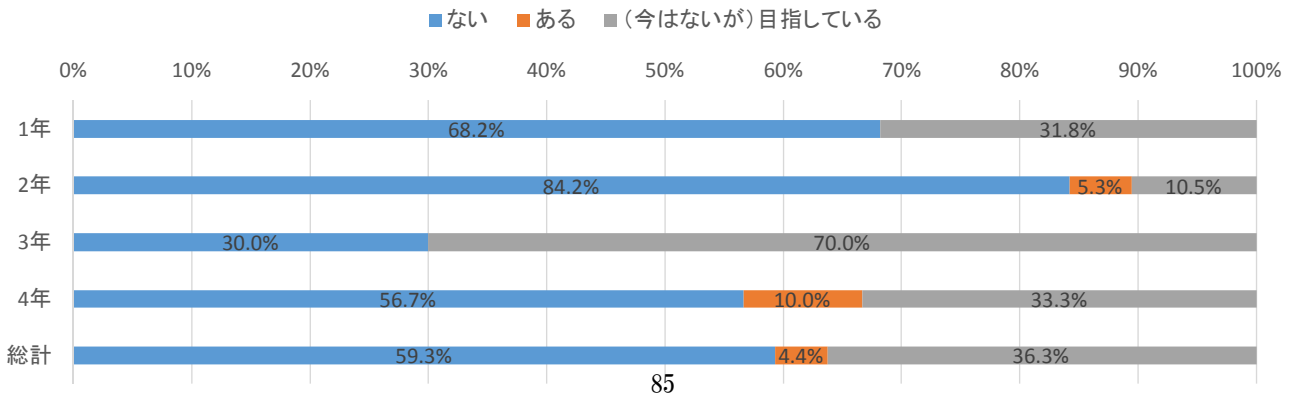
(17)専門知識を実際の場面で使うことができる。 （無効回答　4年：2　）



(18)専門的スキルが身についている。 （無効回答　4年：2　））

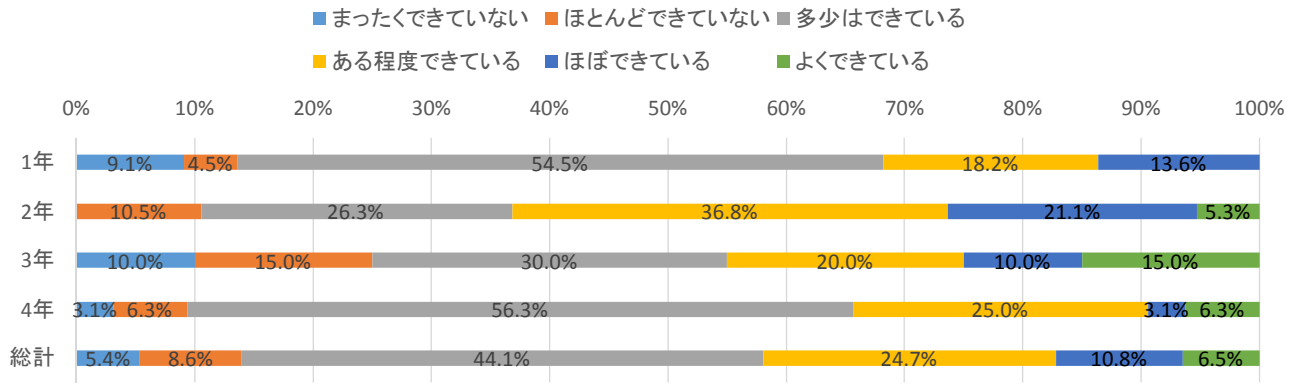


(19)大学入学後に取得した専門分野に関連する資格がありますか、あるいは検定試験で一定の点数を取ったことがありますか。 （無効回答　4年：4）

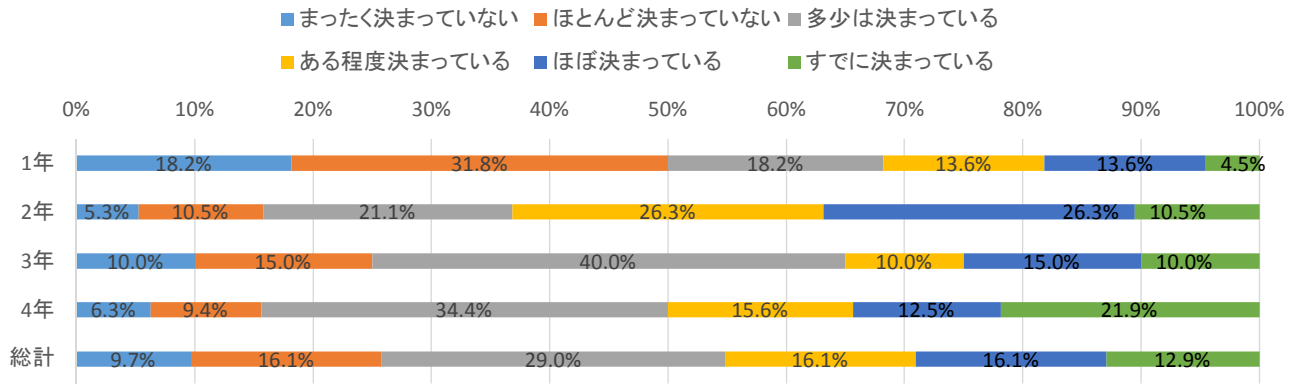


6. 社会で活躍するための力（キャリア教育、社会人基礎力）について

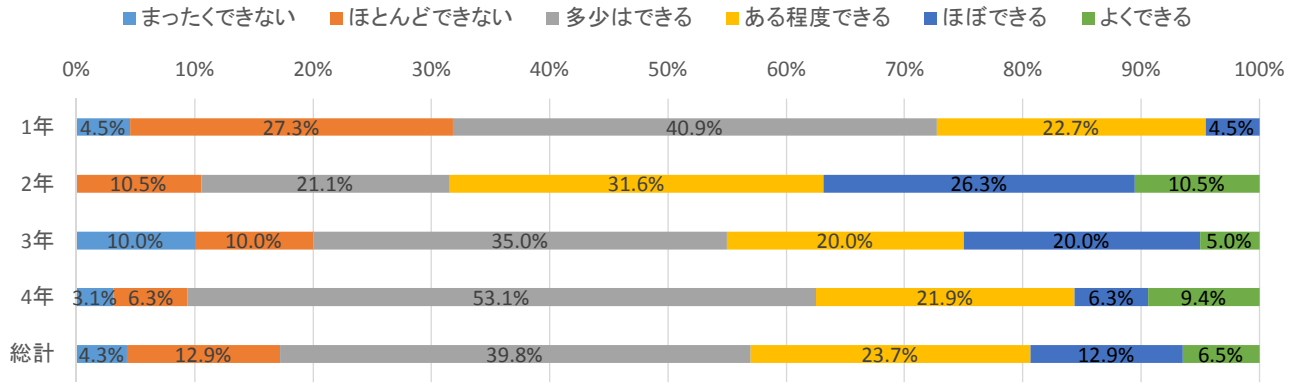
(20)「働く」とはどのようなことかイメージできている。　（無効回答　4年：2　）



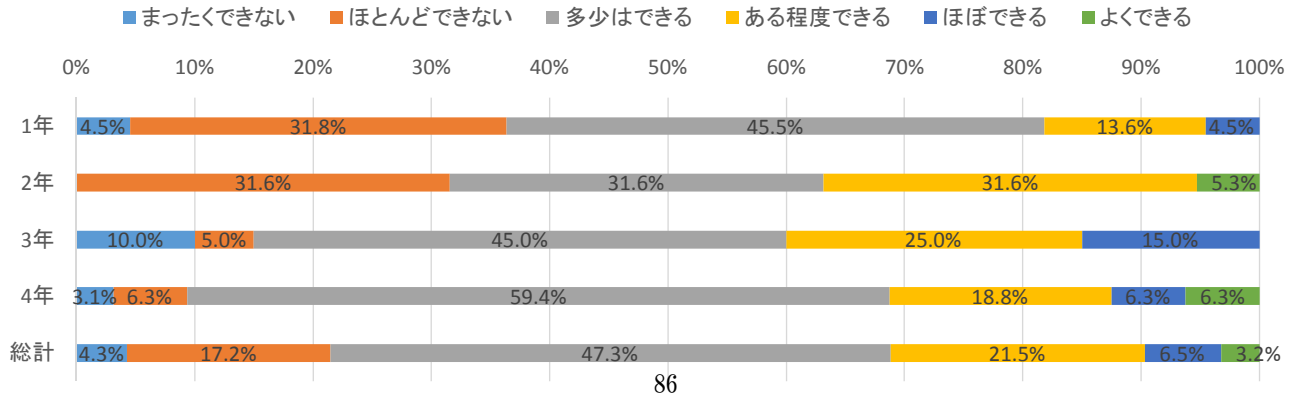
(21)将来の進路が決まっている。　（無効回答　4年：2　）



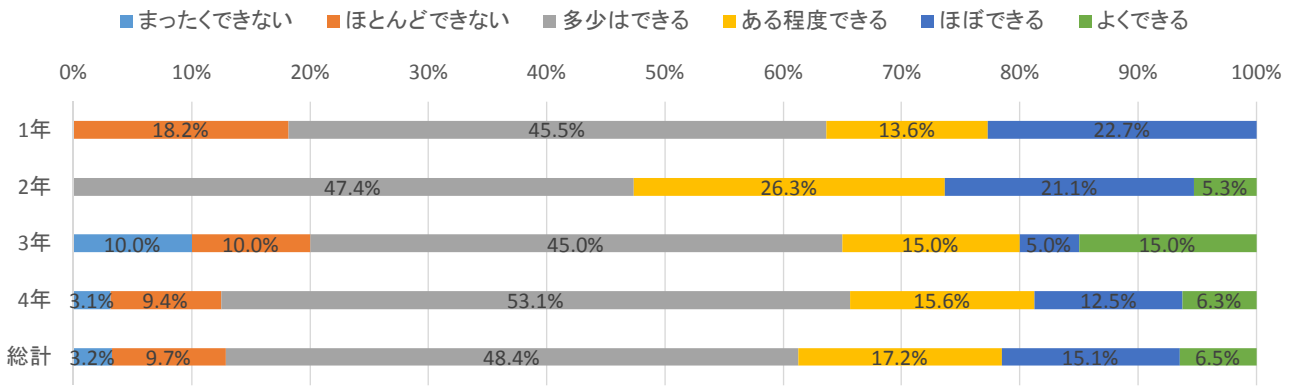
(22)自ら目標に向かってものごとに粘り強く取り組むことができる。　（無効回答　4年：2　）



(23)課題を見つけ出しそれに対する最善の解決方法を考えることができる。　（無効回答　4年：2　）



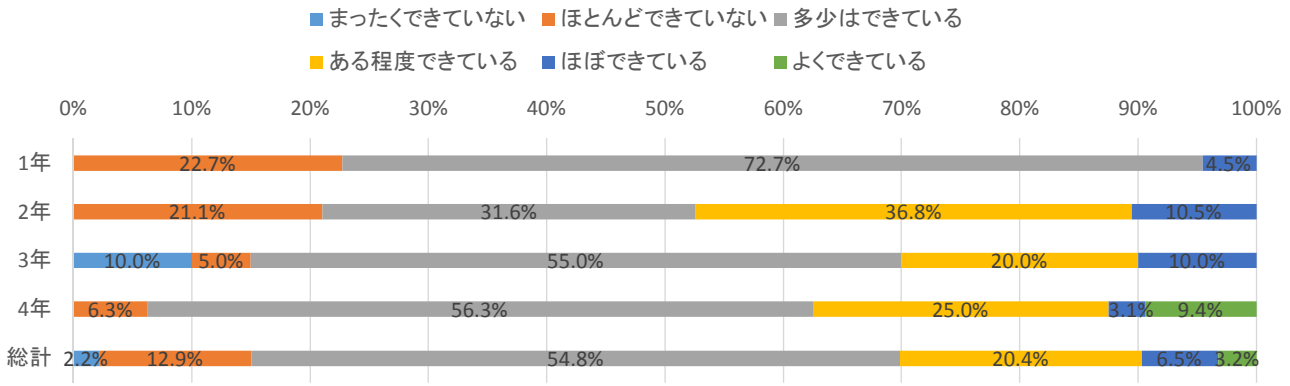
(24)さまざまな考えを持つ人々と意見を交換しながら力を合わせて働くことがで　（無効回答　4年：2　）



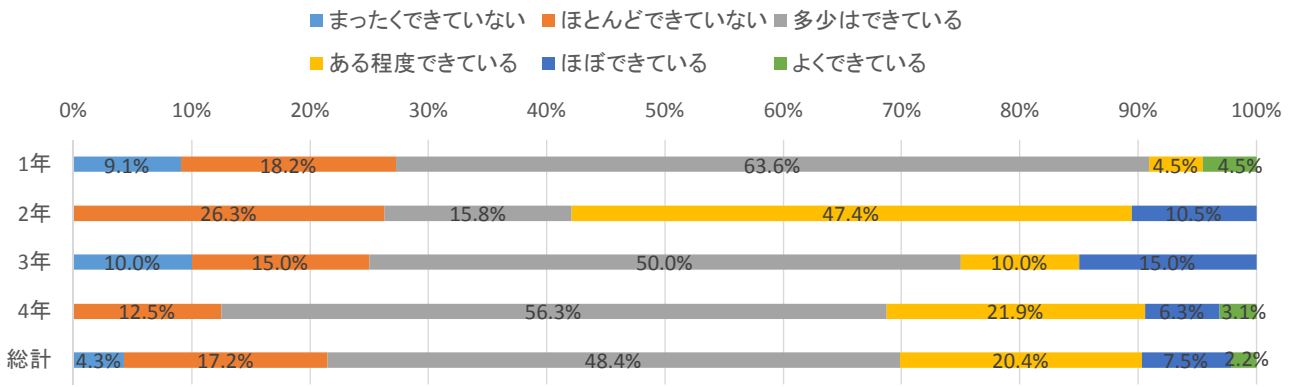
7. 総合力について

・上記の「2」～「6」の学びを通して、以下の力がどの程度身についていると思うかお答え下さい。

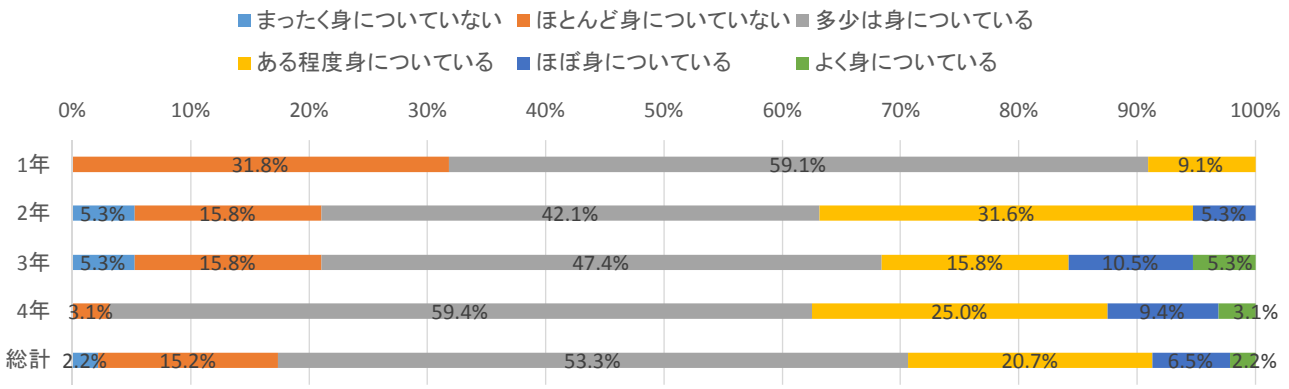
(25)自分自身の「ものの見方・考え方」をつくり上げることができた。　（無効回答　4年：2　）



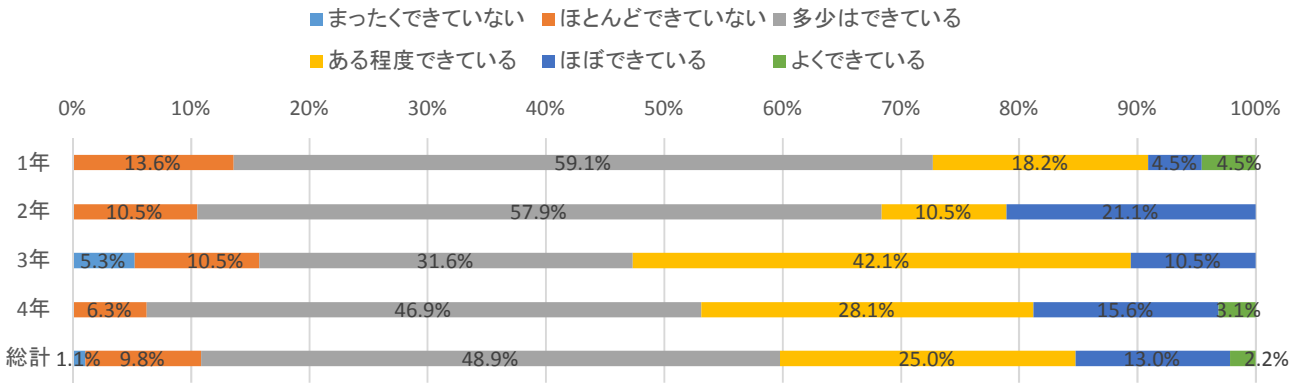
(26)自分の考えを文章や口頭で他者にきちんと説明することができるようになった。　（無効回答　4年：2　）



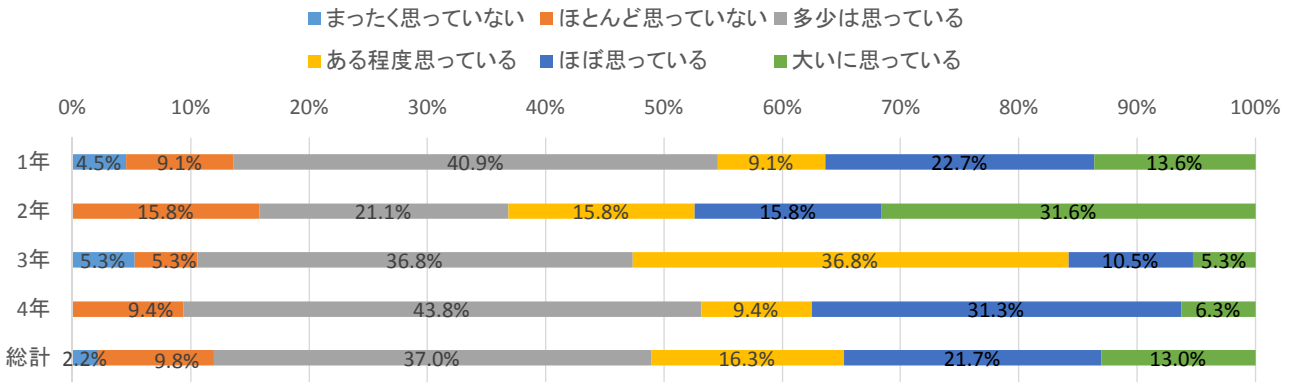
(27)社会に出て仕事や社会的活動を行うために必要な力を身につけることができた。　（無効回答　3年：1　4年：2　）



(28)他者とコミュニケーションを図りながら相互理解を深めていくことができるようになった。　（無効回答　3年：1　4年：2　）



(29)東京成徳大学に入学してよかったと思っていますか。　（無効回答　3年：1　4年：2　）



●臨床心理学科

（1）調査結果の概要

【学修行動】

①学修環境

全体としては、「実家で自分の部屋」が最も多く 64%、「1 人暮らし」は 1 割台。

学年別では、「実家暮らし」が 2 年生から 4 年生は 7 割～8 割、1 年生は 9 割以上。

⇒移転により実家から通学する学生の増加

②通学時間

全体としては、「1 時間以内が」50%、「90 分以内」では 8 割。

学年別では、「90 分以内」が 2 年生から 4 年生は 7 割～8 割。1 年生は 9 割以上。

⇒移転により通学時間の短縮

③１週間あたりのアルバイト

全体としては、「なし」が 3 割、「15 時間以内」4 割である。

学年別では、高学年になるほどバイト時間の増加がみられる。

④1 週間あたりの部活・サークル活動

全体としては、「なし」が 5 程度、「1-2 日」が 4 割台である。

学年別では、4 年生は 6 割が「なし」、4 割が「1-2 日」となり、3 年生をピークに部活・サークルへの関与度が減少。

⑤休日の過ごし方

全体としては、「特に決まっていないが」5 割弱、「バイト」が約 3 割、学年とともにバイトの割合が増えている。

学年別では、「主にデートや友人と外出」との回答が 2 年生から 3 年生は 1 割～2 割、1 年生は 3 割。1 年生は他学年と比較して、アルバイトや研究勉強に充てる時間が少ない。

⑥登校日数

「5-6 日」は、1 年 91%、2 年 84%、3 年 55%と減少し、4 年では「1-2 日」が 64%で最も多い。

⑦出席割合

全体としては、80%から 100%が 64%。60%から 80%が 25%。

⑧興味のある授業

全体としては、興味がある授業が 0 から 20%と答えたのは 5%。80%の学生は 40%以上が興味のある授業と回答していた。

⑨授業全体の難易度

全体としては、5 割が普通。1 年生は 4 割が「やや難しい」「難しい」と回答し、学年が上がるにつれて「難しい」と感じる割合が少なくなる。全学科の結果からも、1 年生は 4 割が難しいと感じる傾向が見られた。

⑩卒業できる自信

80～100%が 6 割。

⑪積極的な取り組み

全体としては、9 割以上ができている（多少はできている～よくできている）と回答している。

⑫課題や宿題

90%の学生が、時間の長短にかかわらず授業の準備等を行っている。

⑬自発的予習

「やっていない」は64%。36%は何かしら予習を行っている。

⑭ノート整理や復習

「やっていない」は55%。45%は時間の長短にかかわらず復習等を行っている。

⑮授業関連の資料や本調べ

「やっていない」は50%。4年生になると、約80%が何かしらの資料調べを行っている。

⑯大学外での文化活動

44%は「行ったことはない」、56%は何かしらの活動を行っている。

⑰新聞購読

新聞を読まないと回答した学生は65%。

⑱雑誌週刊誌購読

雑誌を読まないと回答した学生は60%であった。

⑲インターネット利用

インターネットを一日に使用している時間は、90分以上が84%であった。

⑳ゲーム

ゲーム利用は90分未満・やっていないが60%であった。

㉑読書

「読まない」と回答した学生は38%、「月2冊以下」が42%であった。

【学修成果】

①教育の基本理念

50%が「知っている」と回答。「まったく知らない」は22%

②外国語授業の選択

2年生から4年生は、必修科目であるため、100%に近い割合が外国語を選択。1年生は選択科目となったので、60%が英語を選択。

③読む力・④会話力・⑤書く力

読む力については、6割の人が、「多少はある～大いにある」と回答。「まったくない」は10%。会話力については、4割の人が、「多少はある～大いにある」と回答。「まったくない」は22%。書く力については、3.5割の人が「多少はある～大いにある」と回答。「まったくない」は26%。リーディング＞＞スピーキング＞ライティングといった自己評価となっている。

⑥取得語学資格

語学の資格を取得した学生はほとんどいない。1年生は、他学年（5%から10%）と比較して、語学資格を目指す割合（20%）が大きい（全学科の傾向と同じ）。

⑦文章作成ソフト・⑧表計算ソフト・⑨プレゼンテーションソフト・⑩アプリケーションソフトの作成

1年生から2年生以降になるほど、「ある程度はできる～よくできる」の割合の増加

文章作成ソフト　1年40%→2～4年60%

表計算ソフト　　1年20%→2～4年50%

プレゼンテーションソフト　1年30%→2～4年50～60%

⇒情報科目や専門科目による技能向上

アプリケーションの作成については、9 割が「まったくできない」「ほとんどできない」と回答。

⑪ＩＣＴ関連の資格取得

4 年の 10%が ICT 関連の資格を取得している。1 年 16%、2 年 10%、4 年 10%が資格取得を目指している。

⑫専門分野以外の幅広い教養

1 年生から 2 年生以降になるほど、「多少はある～大いにある」の増加（1 年 30%→2～4 年 55%）。

⑬情報収集スキル

4 年生では「多少はある～大いにある」の増加が著しい（1～3 年 60%→4 年 70%）。4 年生は文献検索や統計のスキルの向上が見られた。

⑭レポート作成の必要なスキル

全体として、65%が「多少はある～大いにある」と回答。

⑮ディスカッションのスキル

全体として、75%が「多少はできる～よくできる」と回答。

⑯専門知識の理解・⑰専門知識の応用・⑱専門的スキル

1 年生から 2 年生以降になるほど、理解度（「多少は理解している～よく理解している」）、応用（「多少は使える～よく使える」）、スキル習得度（「多少は身についている～よく見についている」）の割合がすべて増加している。

⑲専門分野関連の資格取得

4 年で 40%、3 年 26%の学生が資格取得ありと回答。1 年生、2 年生は 30%が資格取得を目指している。

⑳働くイメージ

「まったくできていない～ほとんどできていない」の割合が 18%（全学科 13%）。

㉑将来の進路

1、2 年生は、「決まっていない」と答えた学生が、5 割程度。4 年生になると 3 割まで減少。4 年生は、「ある程度決まっている～すでに決まっている」の割合が 4 割以上。学年が上がるにしたがって、進路が明確に。

㉒目標に向かって取り組む力

「多少はできる～よくできる」と回答した人が、8 割。

㉓課題解決力

1 年生から 2 年生以上になるほど、「ある程度できる～よくできる」の割合の増加。

㉔他者理解・協同する力

1 年生から 2 年生以上になるほど、「ほぼできる～よくできる」割合の増加

㉕「ものの見方・考え方」を作り上げることができた

9 割以上が「できている」（多少はできている～よくできている）と回答。4 年生では、「ほぼできている～よくできている」の割合が 30%（全学科 4 年 25%）。

㉖自分の考えを文章や口頭で他者に説明することができる

8 割以上が「できている」（多少はできている～よくできている）と回答。1 年生から 2 年生以上になるほど、「ある程度できている～よくできている割合」が増加。

㉗社会に出て必要な力を身につけることができた

4 年生は 85%が「身についている」（多少は～よく身についている）と回答。特に、ほぼ身についている～よく身についていると回答した割合（20%）が他学年（10%未満）よりも大きい。

㉘他者とのコミュニケーションをとって相互理解を深めることができた

「ほぼできている～よくできている」と回答した割合が、4 年生になるほど増加（1 年 14%→2 年 10%→3 年 23%→4 年 35%）。全学科 4 年生（30%）よりも高い割合。

㉙東京成徳大学に入学してよかった

「大いに」「ほぼ」「ある程度」で 64%、「多少思っている」を加えると、9 割以上「入学して良かった」と答えている。ただ、9％程度が「良かった」と思っていない。この 9%に対しては、適切な指導が必要である。「思っていない」割合は 1 年生で最も低く、4.5%である。

（2）考察

入学後の満足度は高く、まじめに授業に出席し、学校で過ごす日数が多い。

4 年生になるにしたがって、ICT スキル、一般教養、専門知識、課題解決力や他者理解・協同力が身についていっている。そのことで、ものの見方や考え方や説明する力、社会で必要とされる力、相互理解できる力といった総合力に対して自信を感じることができていた。1 年生は、他学年と比較して、一人暮らしではなく、自宅から通学する学生が増加しており、通学時間も減少していた。

（3）課題と対応

・十条台 1 年生と八千代 2～4 年生の環境の違いを十分考慮した対応が必要である。
　十条台では実家暮らしが多く（1 年生 95%）、休みに友達と遊ぶ傾向が高い。また大学院生が TA として身近な形で学生指導に当たってくれることも、良い効果（大学満足度）を生んでいるのではないかと思われる。こうした大学院生との連携は今後も充実させていきたい。

・専門科目関係の資格取得
　3､4 年で専門関係の資格取得希望者が多い。1､2 年生にも同じように資格取得サポートを考える必要がある。（心理学検定、ピアサポーター、社会調査士、公認心理師　など）

・1 年生（十条台）は先輩がいない分、TA の大学院生が対応しているが、現時点では、担任教員を中心にきめ細かい学生対応、事務方とも連携した学生支援が必要である。

・4 年になるにしたがって、一般及び専門知識やスキル、対人関係など様々な点で学生の成長がみられる。
　今後も、社会で必要とされる総合的能力の育成という意味で、学生の将来を見据えたカリキュラム（教育内容）の工夫が必要であろう。

・来年 3 月頃に公表される「公認心理師」対応のカリキュラムを踏まえて、今後カリキュラムの見直しと充実を図る必要もあろう。

学修調査（行動・成果調査） 臨床心理学科 【割合】

【回答者数】（人）

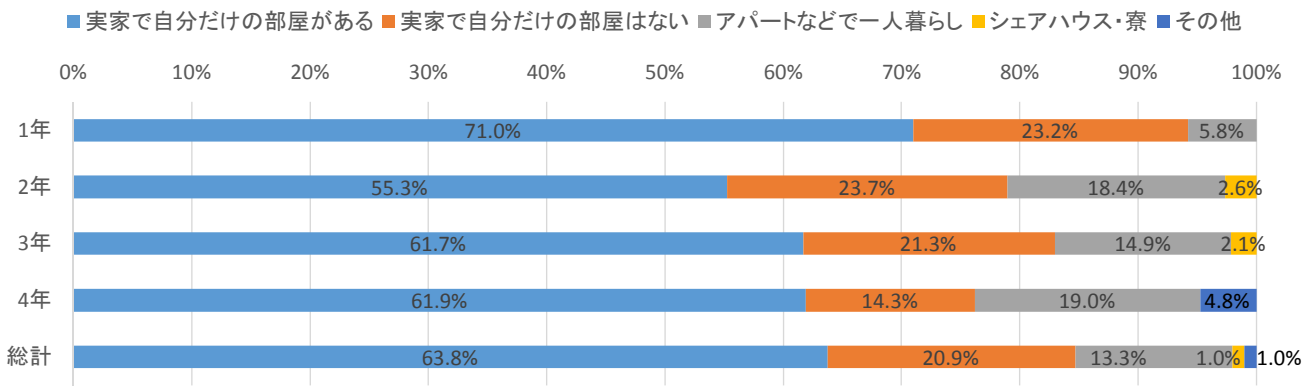
	男性	女性	計
1年	25	44	69
2年	20	18	38
3年	24	24	48
4年	19	23	42
計	88	109	197

	AO	推薦（公募・指定）	一般	センター	社会人 外国人	編入	計
1年	24	29	11	5	0	0	69
2年	15	15	5	2	1	0	38
3年	18	21	7	2	0	0	48
4年	16	15	7	4	0	0	42
計	73	80	30	13	1	0	197

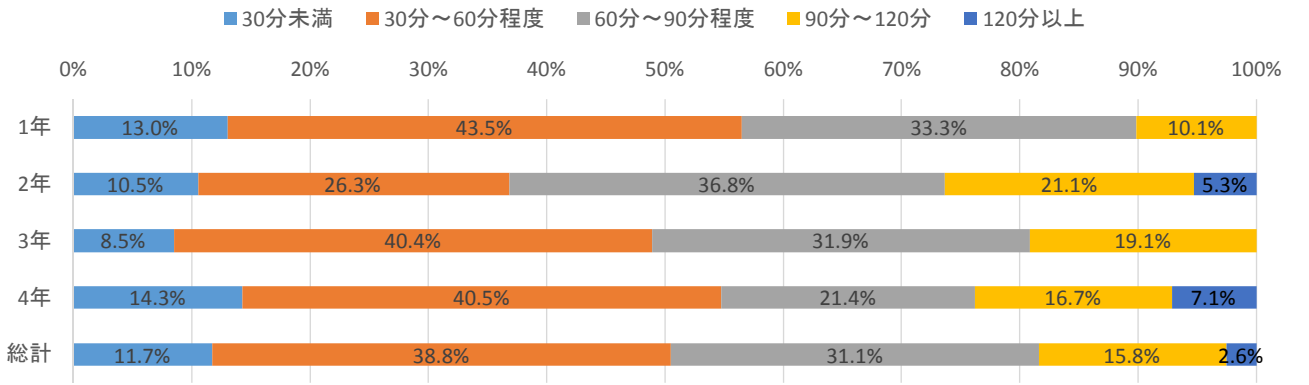
【学修行動調査】（%）

1.あなた自身について

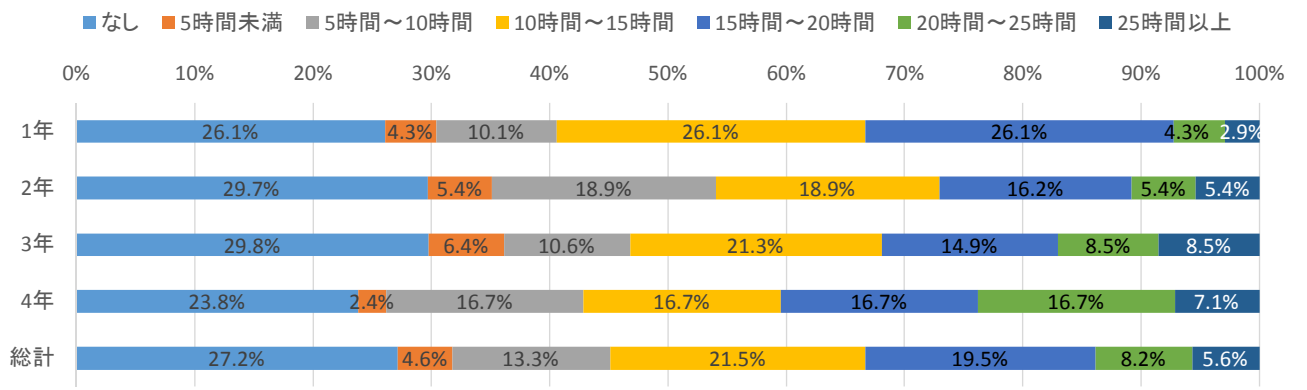
(1)学修環境　（無効回答　3年：1　）



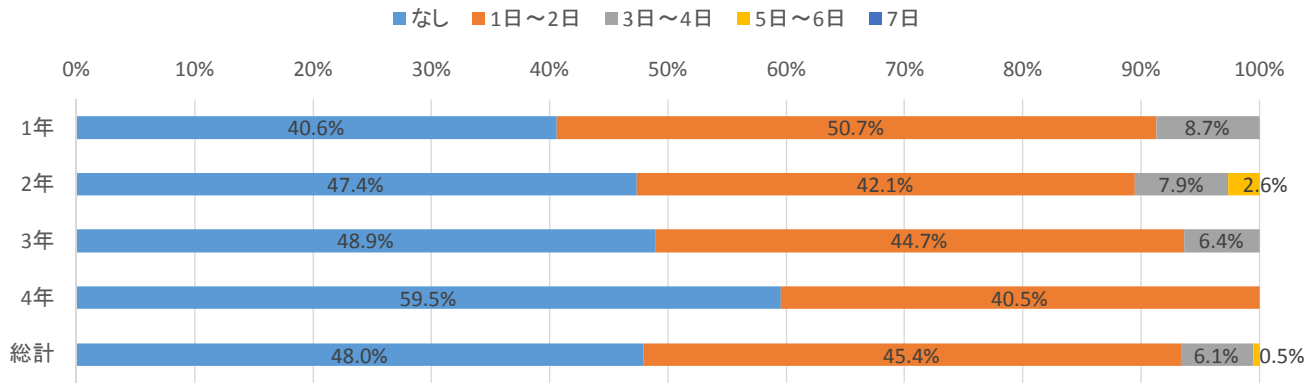
(2)通学時間（家から大学まで）　（無効回答　3年：1　）



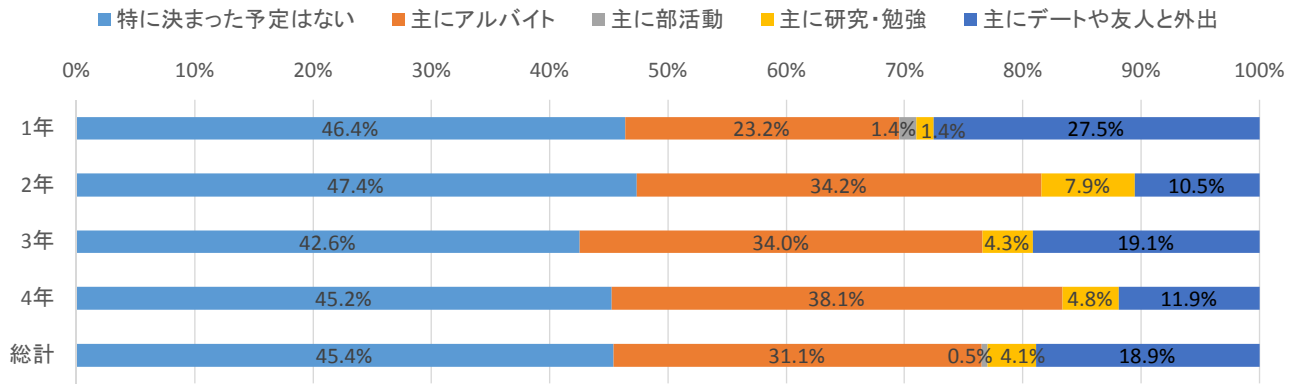
(3) 1週間あたりのアルバイト(時間)　　(無効回答　2年:1　3年:1　)



(4)1週間あたりの部活・サークル活動や学外のクラブなどの活動　　(無効回答　3年:1　)

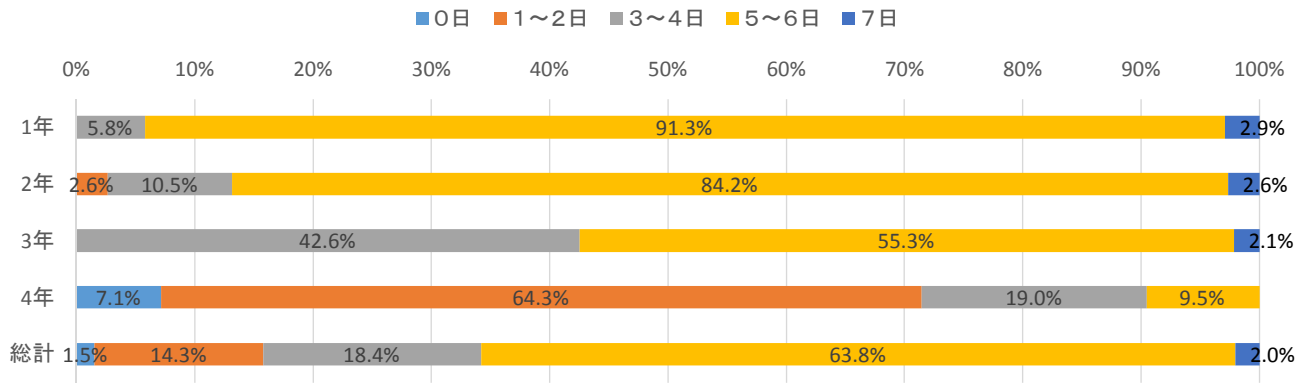


(5)休日の過ごし方　　(無効回答　3年:1　)

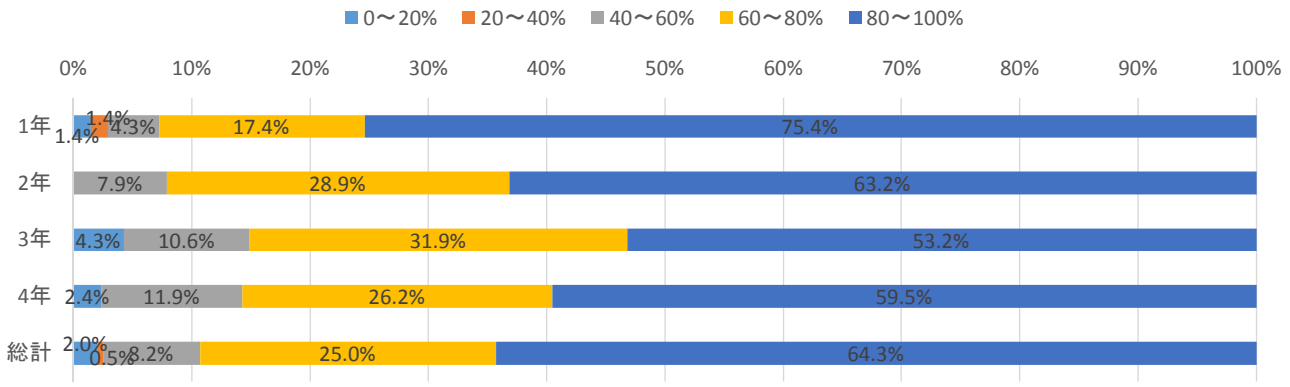


2. 1週間(平均的な)における大学内での学修について

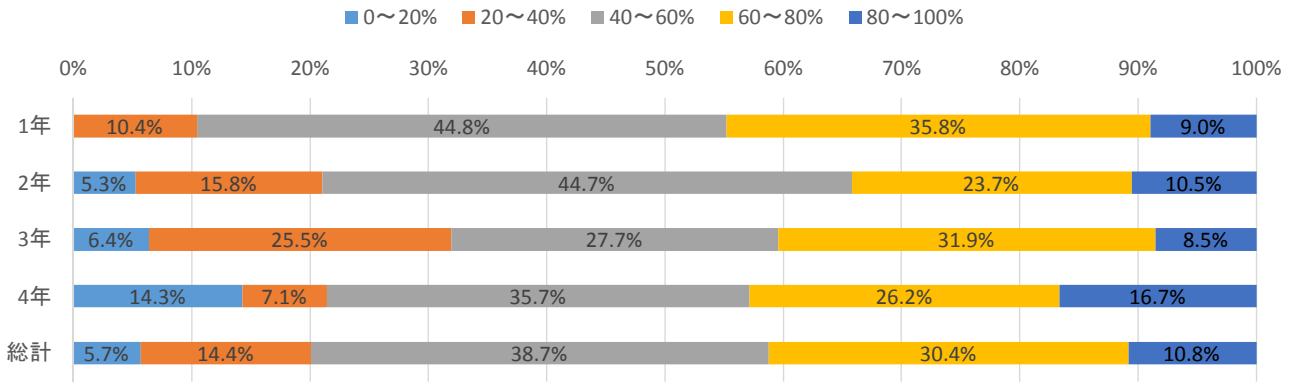
(6) 大学に何日登校しましたか　　(無効回答　3年:1　)



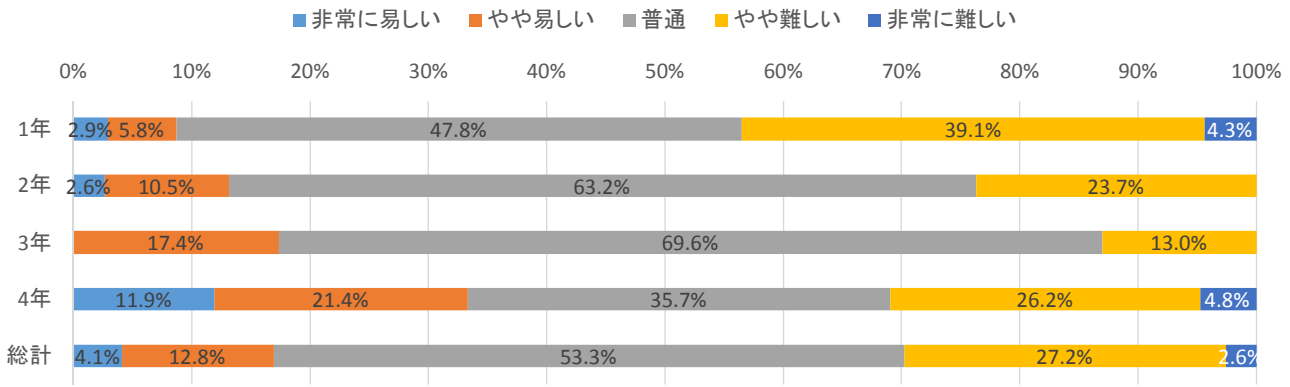
(7) 授業に出席した割合は　　（無効回答　3年：1　）



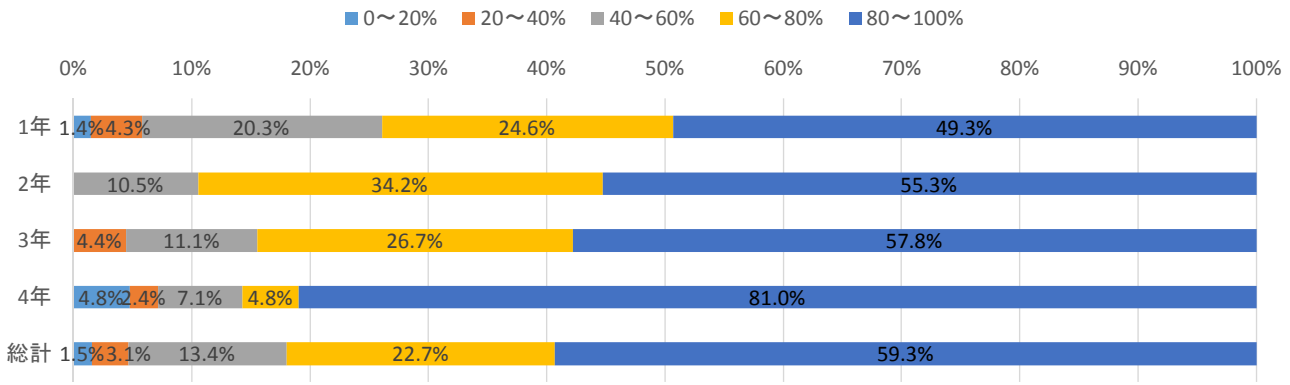
(8) 興味のある授業の割合は　　（無効回答　1年：2　3年：1　）



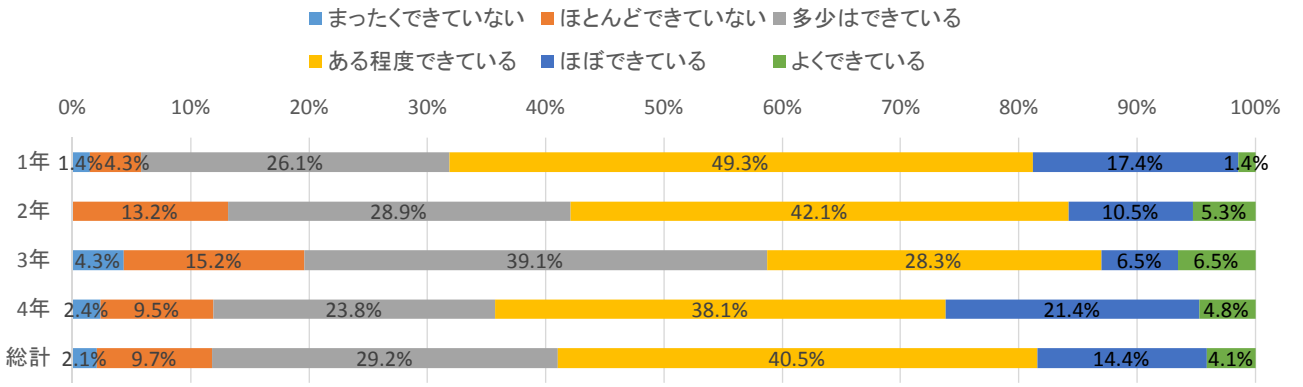
(9) 授業全体の難易度は　　（無効回答　3年：2　）



(10) 4年間で卒業できる自信は　　（無効回答　3年：3　）



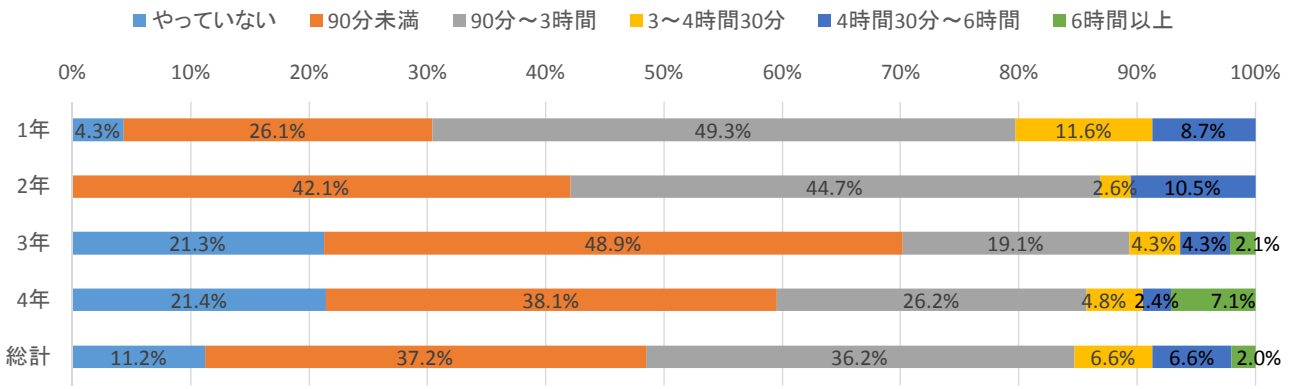
(11) 授業には積極的に取り組みましたか　（無効回答　3年：2　）



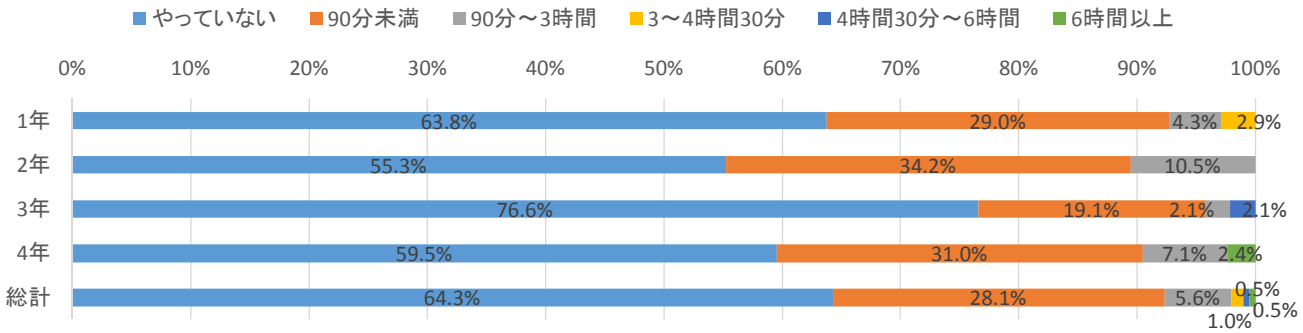
3. 1週間（平均的な）における教室外での学修時間について

(12) 先生に指示された授業の発表の準備、課題やレポート、宿題を1週間合計でどのくらいやりましたか

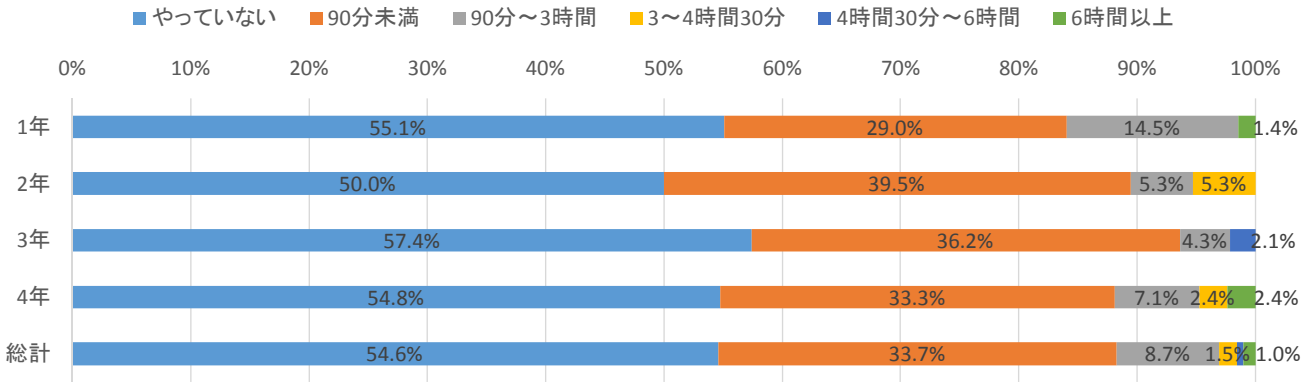
（無効回答　3年：1　）



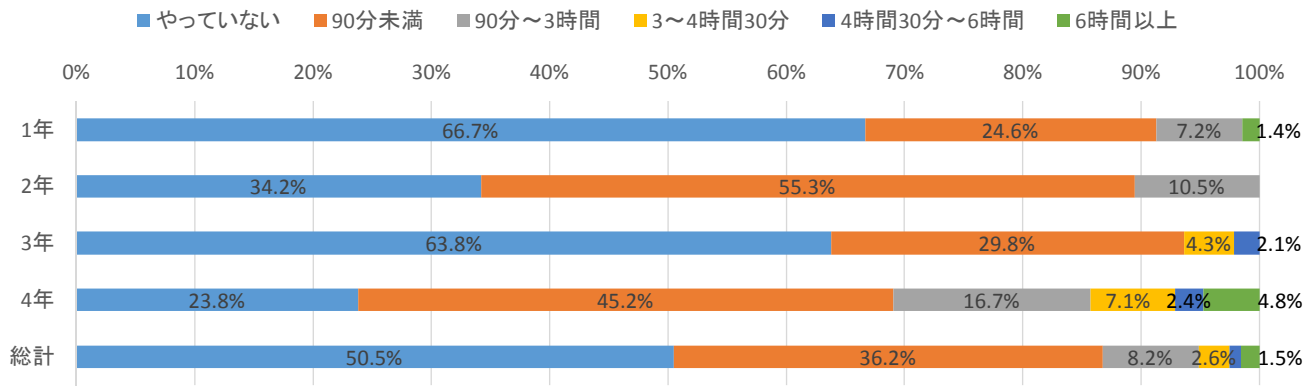
(13) 授業の予修を自発的に1週間合計でどのくらいやりましたか　（無効回答　3年：1　）



(14) 授業のノートの整理や復修を自発的に1週間合計でどのくらいやりましたか　（無効回答　3年：1　）

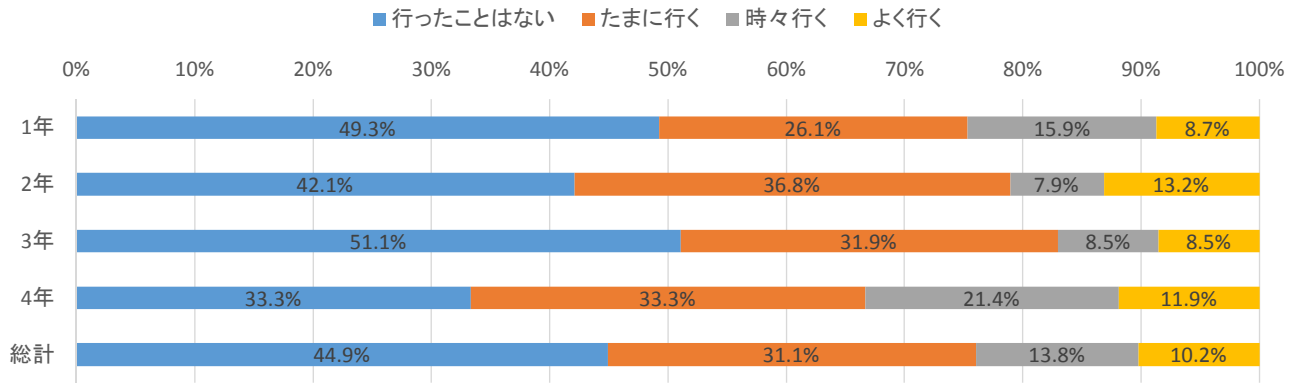


(15) 授業に関連する資料や本を探したり、調べたりすることを1週間合計でどのくらいやりましたか　（無効回答　3年：1　）

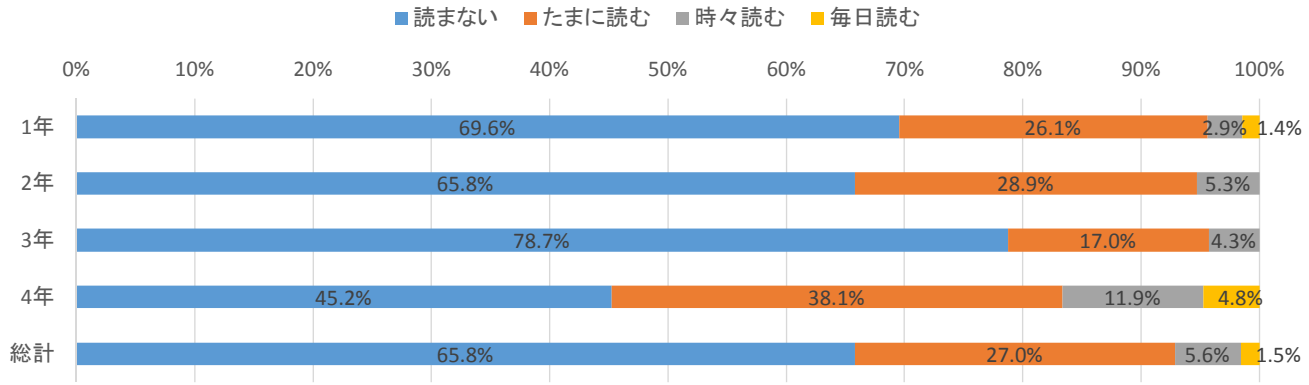


4. 授業以外の学修活動や普段の行動

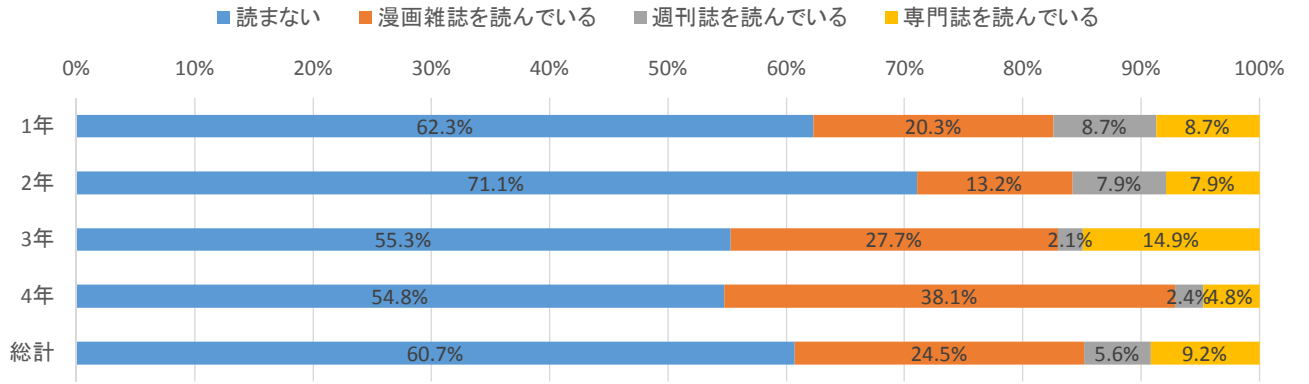
(16) 大学外の図書館や美術館・博物館等の文化施設、研修会・講演会などへの参加、音楽会・コンサ・スポーツの大会などや、サークル活動や授業以外でのボランティア活動に（無効回答　3年：1　）



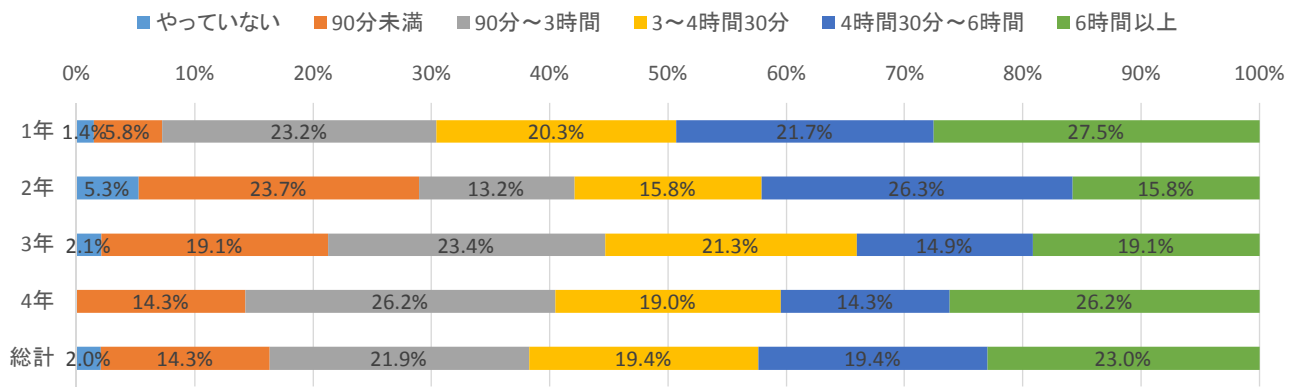
(17) 新聞を読んでいますか　（無効回答　3年：1　）



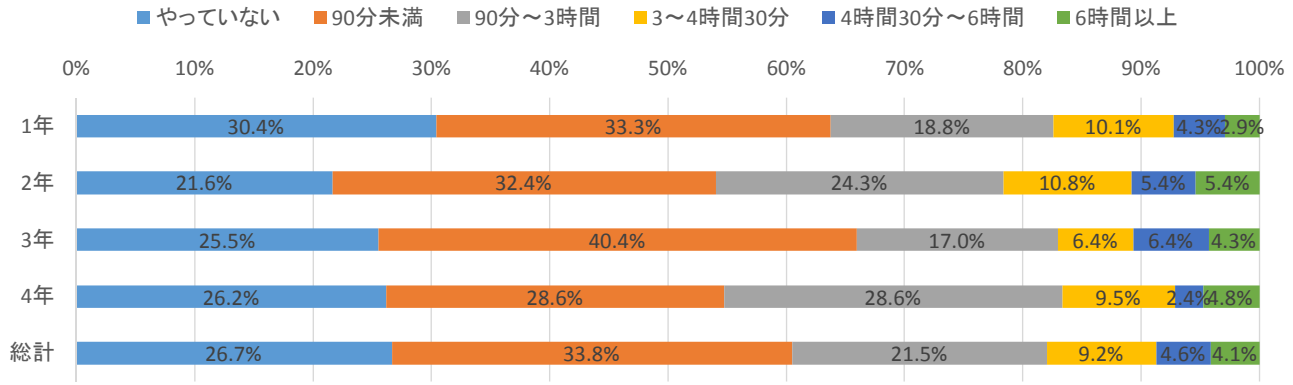
(18) 定期的に読んでいる雑誌、週刊誌は　（無効回答　3年：1　）



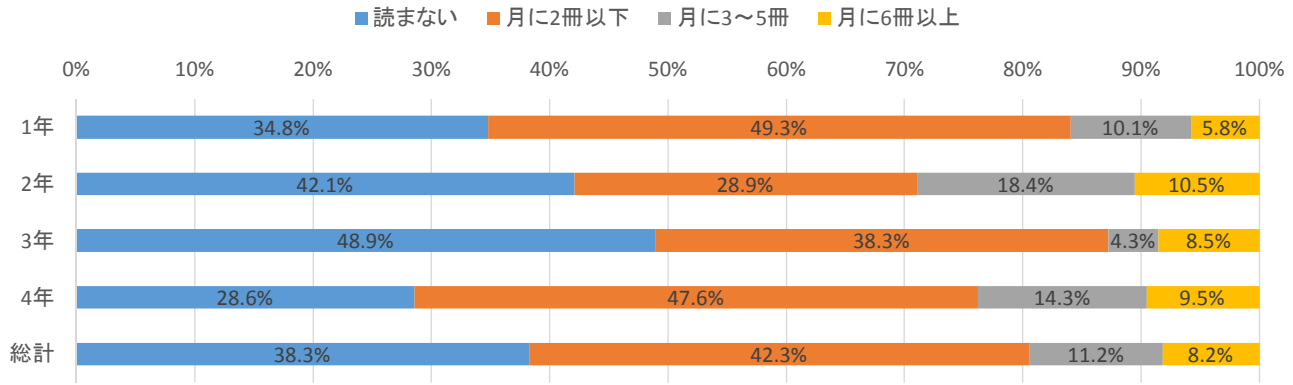
(19) インターネット（LINEやその他SNSを含む）を1日にどのくらい使っていますか　（無効回答　3年：1　）



(20) ゲーム（オンラインゲームを含む）を1日にどのくらいやっていますか　（無効回答　2年：1　3年：1　）



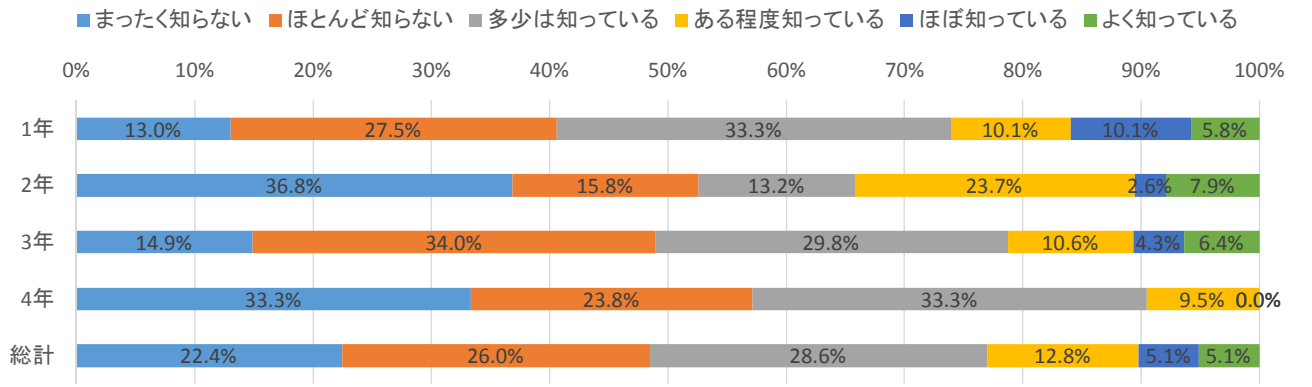
(21) 本をどのくらい読んでいますか　（無効回答　3年：1　）



【学修成果調査】(%)

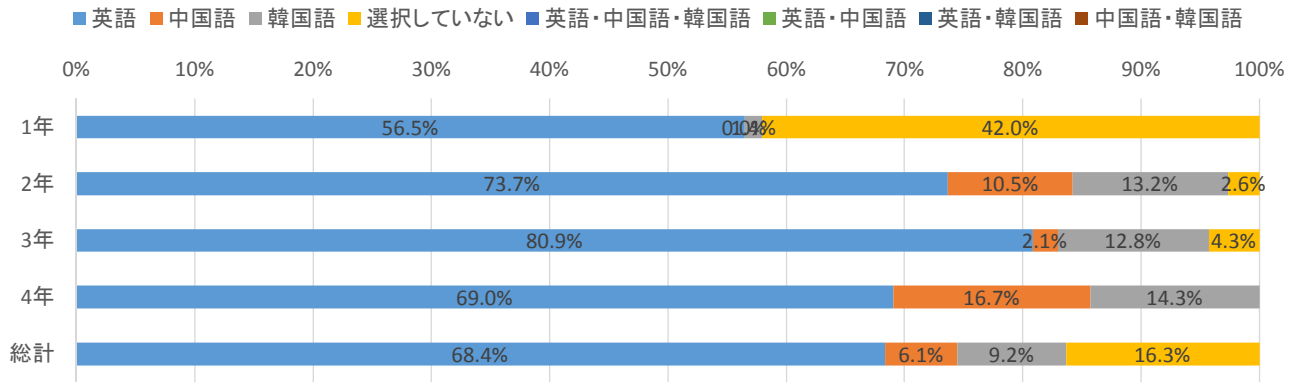
1. 教育理念について

(1)本学の教育の基本理念「共生とコミュニケーション」を知っていますか。　（無効回答　3年:1　）

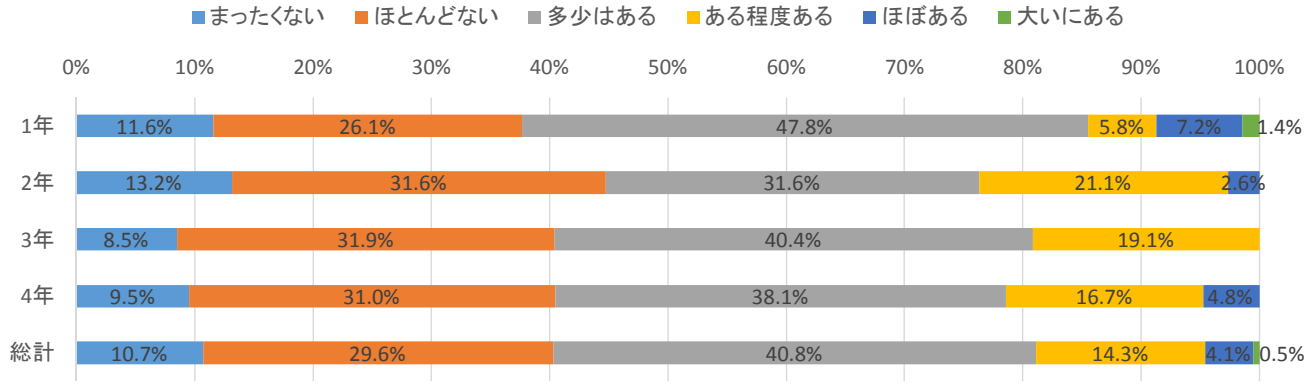


2. 外国語能力について

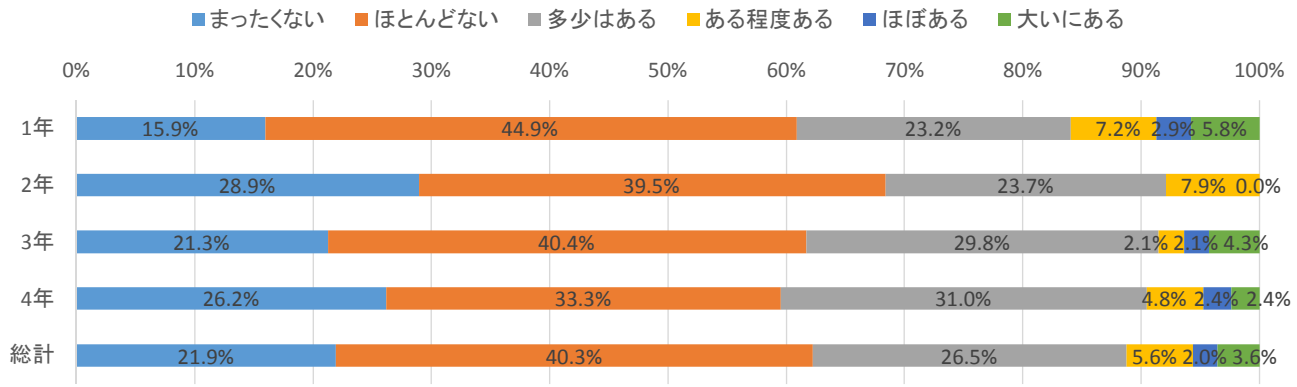
(2)外国語の授業を選択していますか・いましたか。　（無効回答　3年:1　）



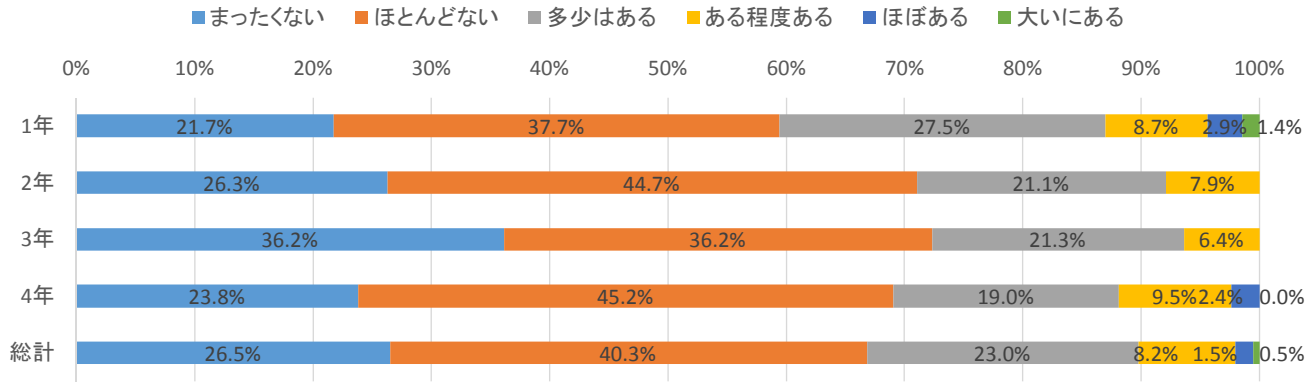
(3)読む力がある。　（無効回答　3年:1　）



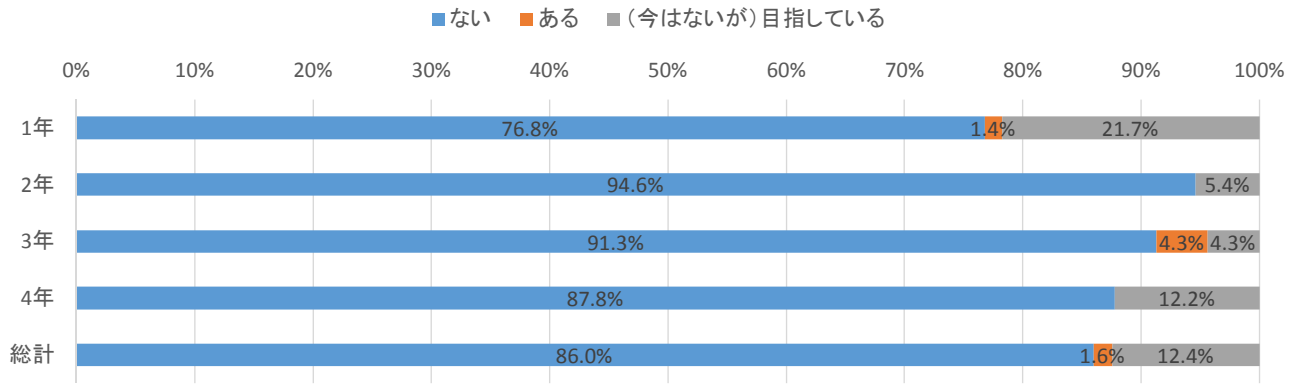
(4)会話力（話す、聞く）がある。



(5)書く力がある。　（無効回答　3年：1　）

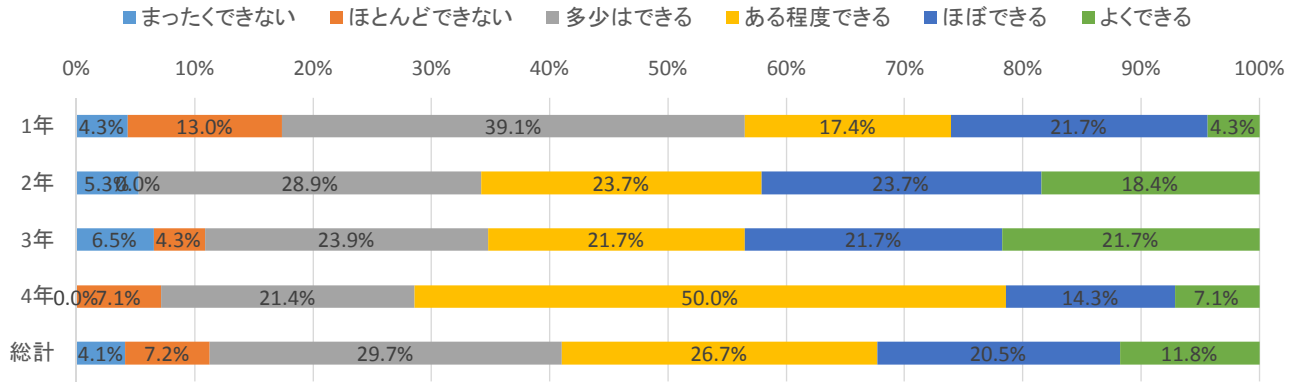


(6)大学入学後に取得した語学の資格がありますか、あるいは検定試験で一定の点数を取ったことがありますか。
（無効回答　2年：1　3年：2　4年：1　）

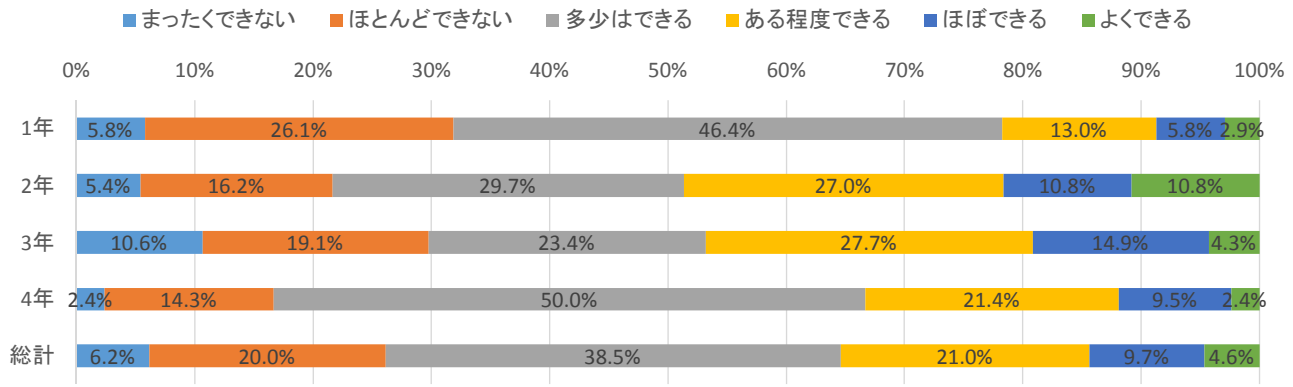


3. ICTリテラシー（＝情報機器やインターネットを使う能力）について

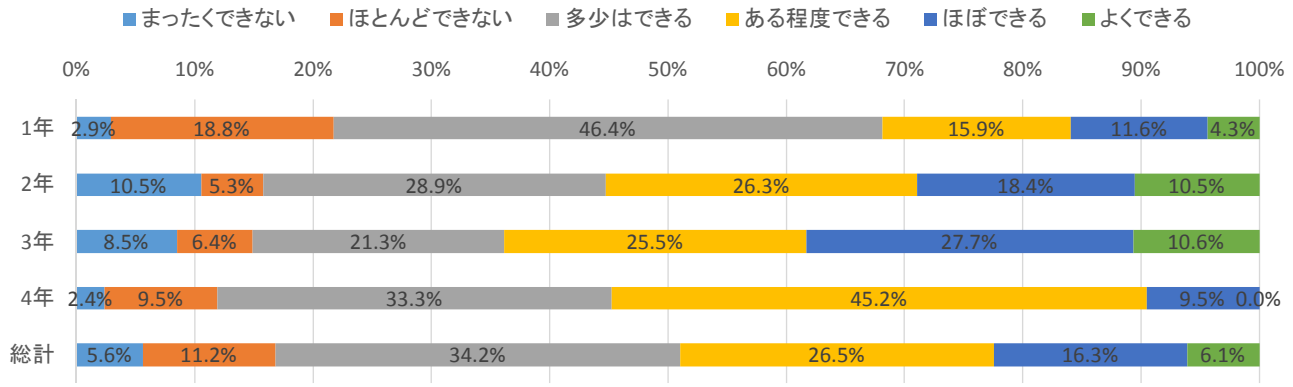
(7)文章作成ソフト（Wordなど）を使って文章を作成することができる。　（無効回答　3年：2　）



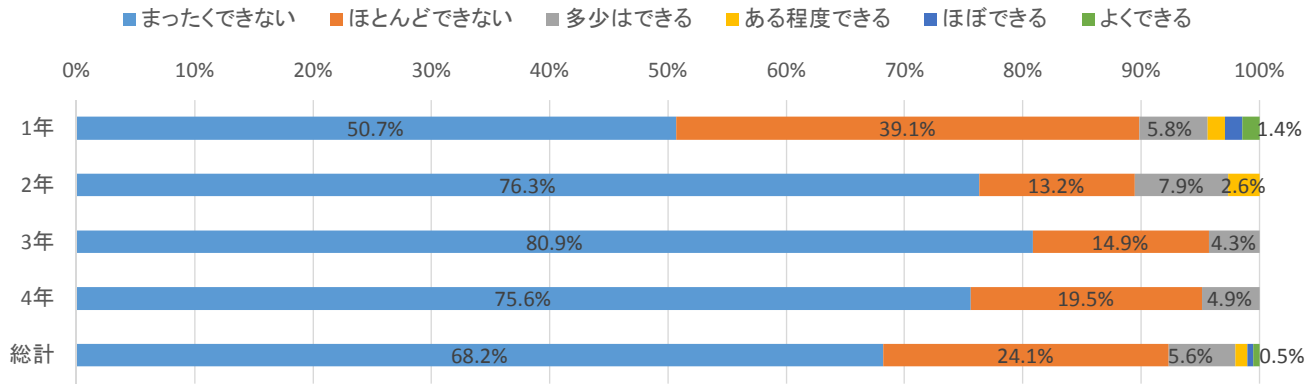
(8)表計算ソフト（Excelなど）を使って図表を作成することができる。　（無効回答　2年：1　3年：1　）



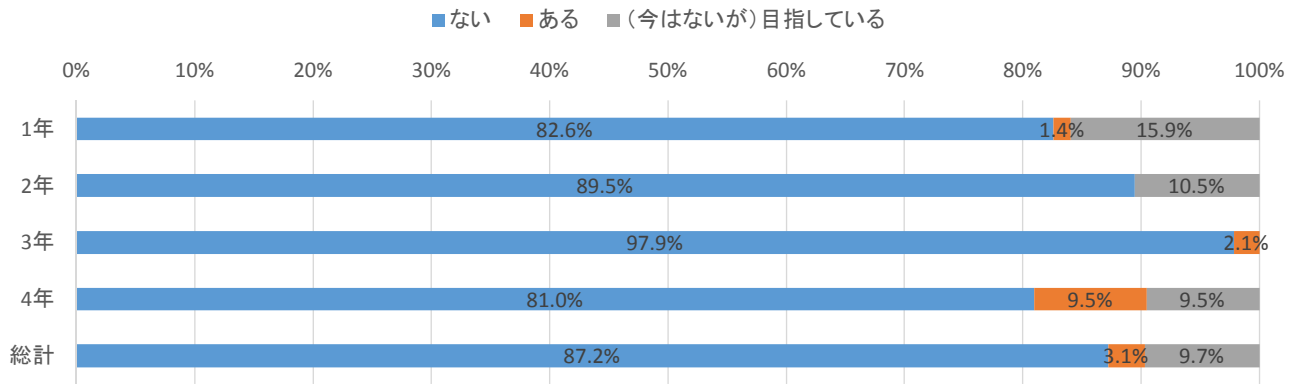
(9)プレゼンテーションソフト（Power Pointなど）を使ってプレゼンテーション用の資料を作成することがで（無効回答　3年：1　）



(10)アプリケーションソフトを作成することができる。　（無効回答　3年：1　4年：1　）

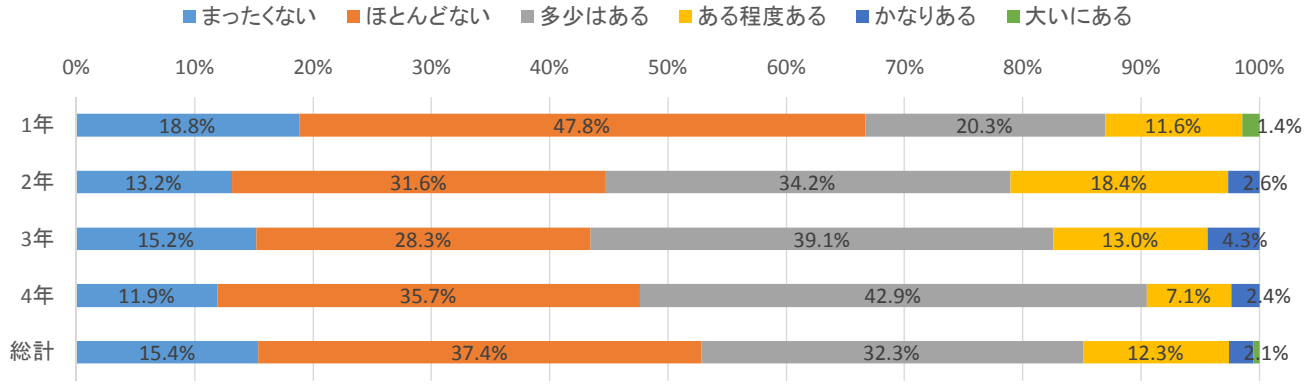


(11)大学入学後に取得したICT関連の資格がありますか、あるいは検定試験で一定の点数を取ったことがありますか。
（無効回答　3年：1　）

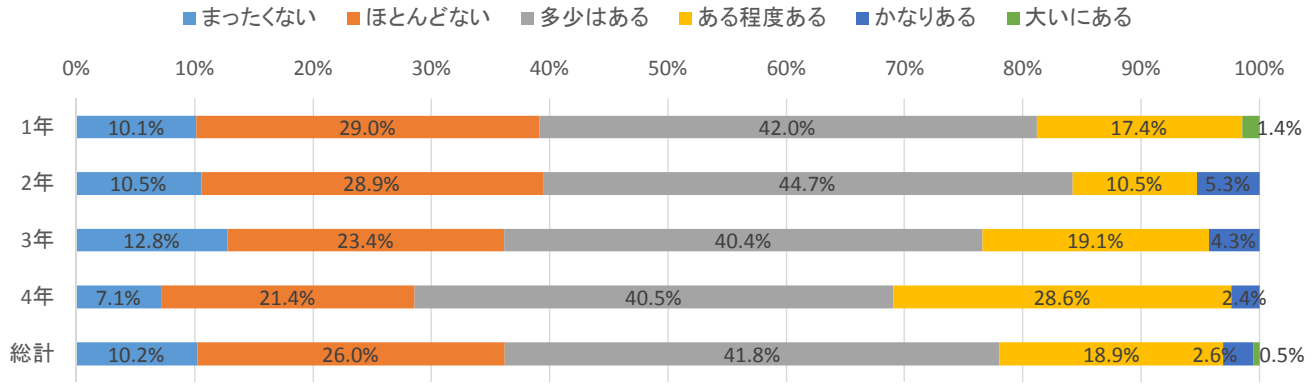


4. 教養・基礎的スキルについて

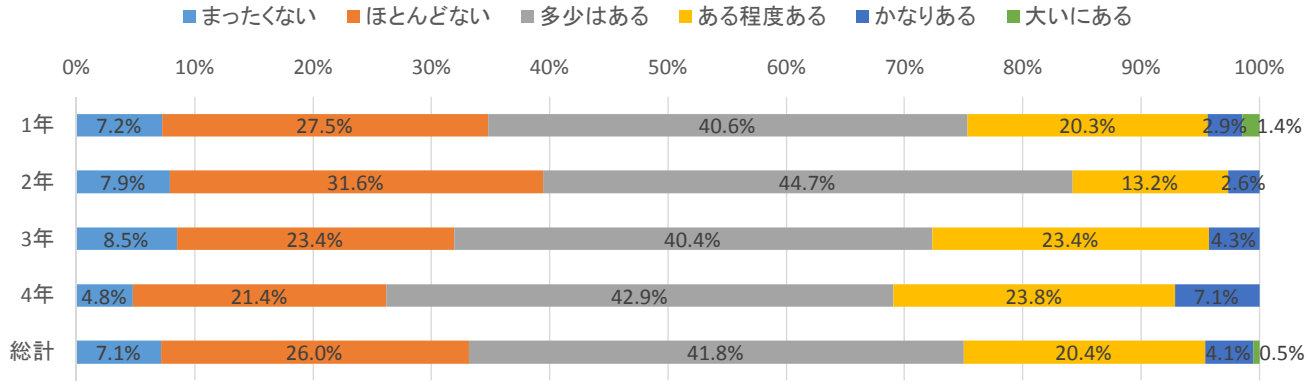
(12)専門分野の知識とは別に幅広い知識や教養がある。　（無効回答　3年：2　）



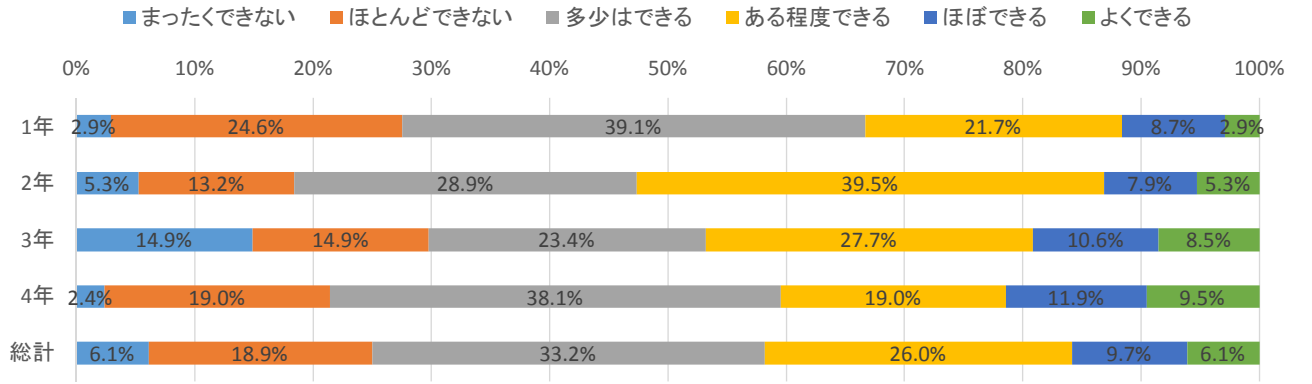
(13)レポートや論文作成に必要な情報収集のスキル（論文、文献、統計などの検索方法など）がある。（無効回答　3年：1　）



(14)レポートや論文などを書くために必要なスキル（書式や作法など）がある。　（無効回答　3年：1　）

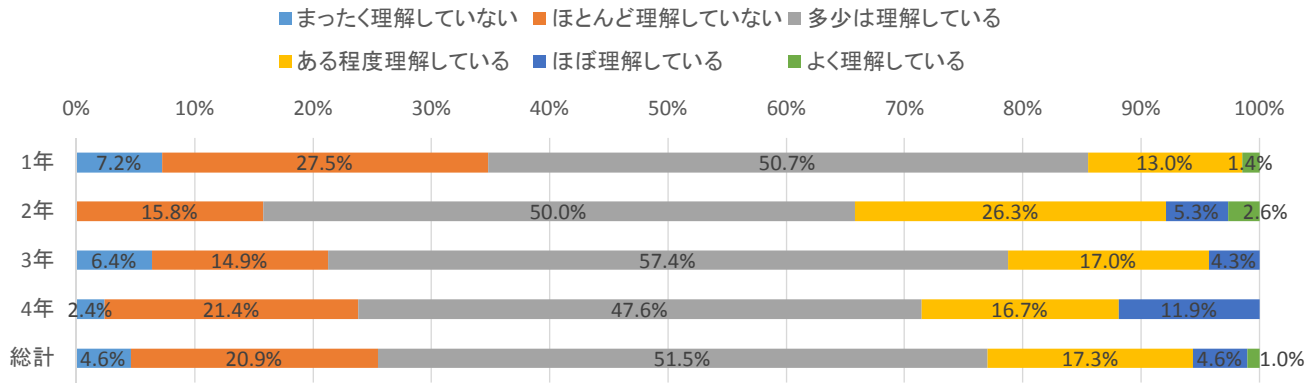


(15)ディスカッションの中で他者の意見をきちんと聞きながら自分の意見を述べることができる。　（無効回答　3年：1　）

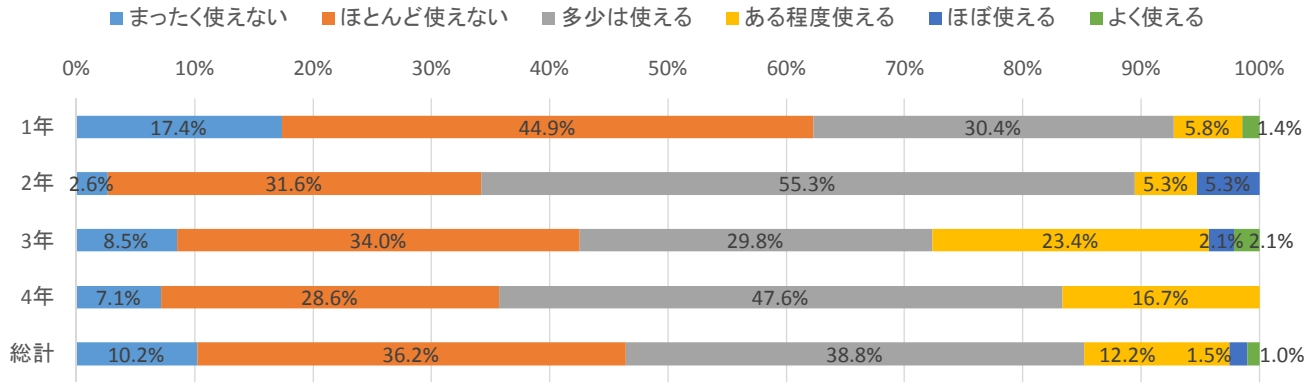


5. 専門知識・専門的スキルについて

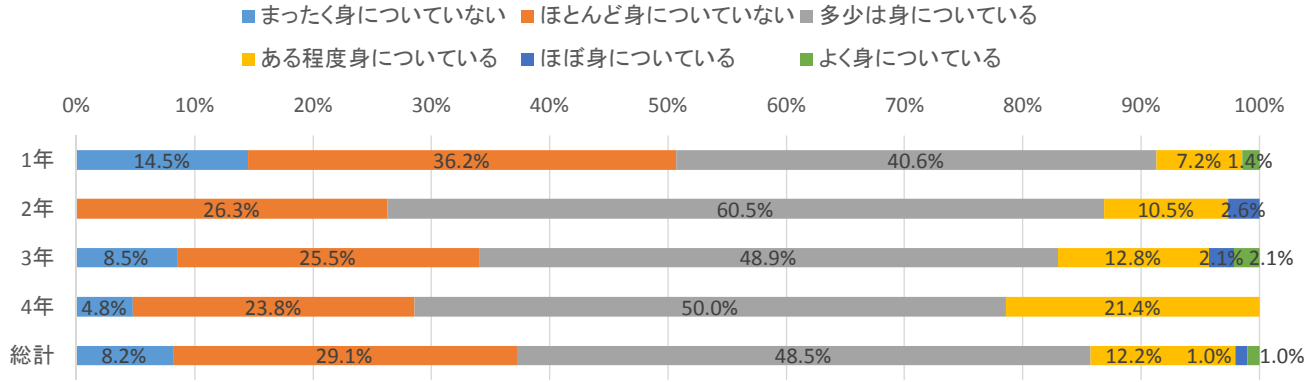
(16)専門知識を理解している。　（無効回答　3年：1　）



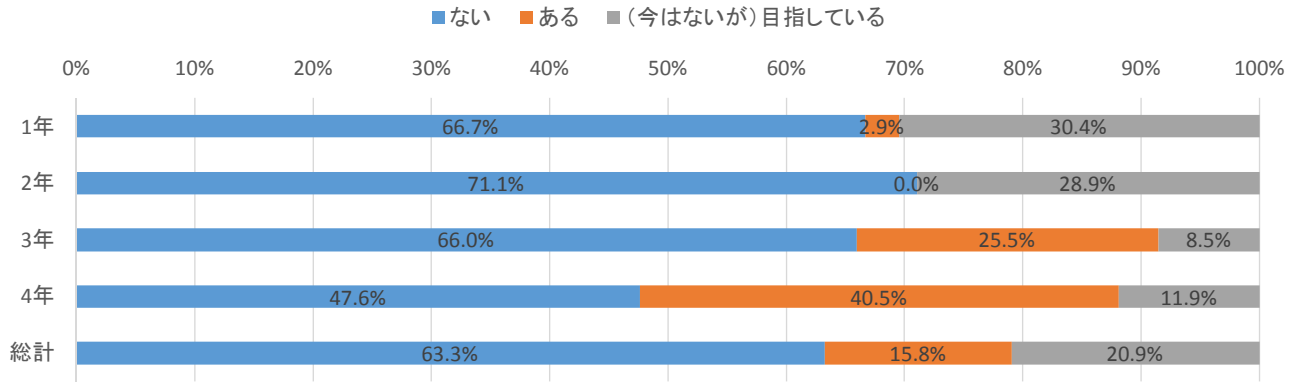
(17)専門知識を実際の場面で使うことができる。　（無効回答　3年：1　）



(18)専門的スキルが身についている。　（無効回答　3年：1　）

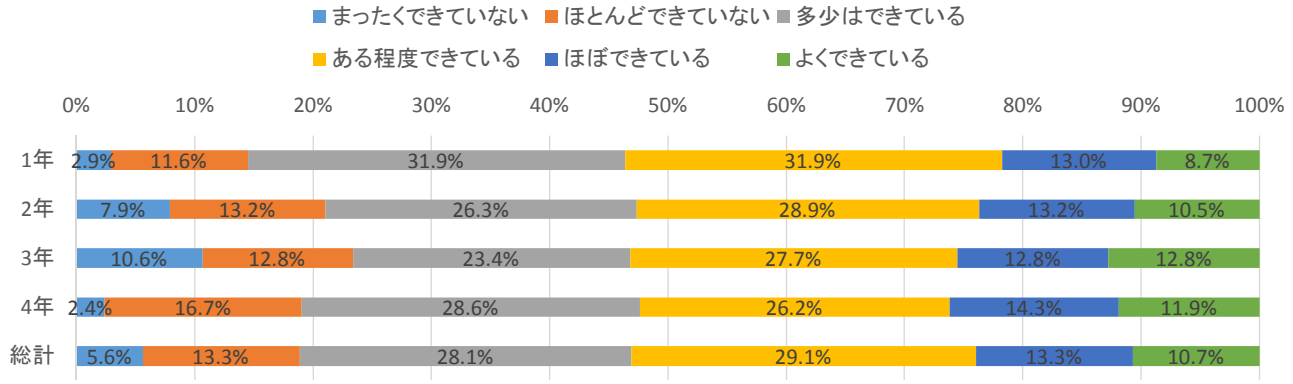


(19)大学入学後に取得した専門分野に関連する資格がありますか、あるいは検定試験で一定の点数を取ったことがありますか。　（無効回答　3年：1　）

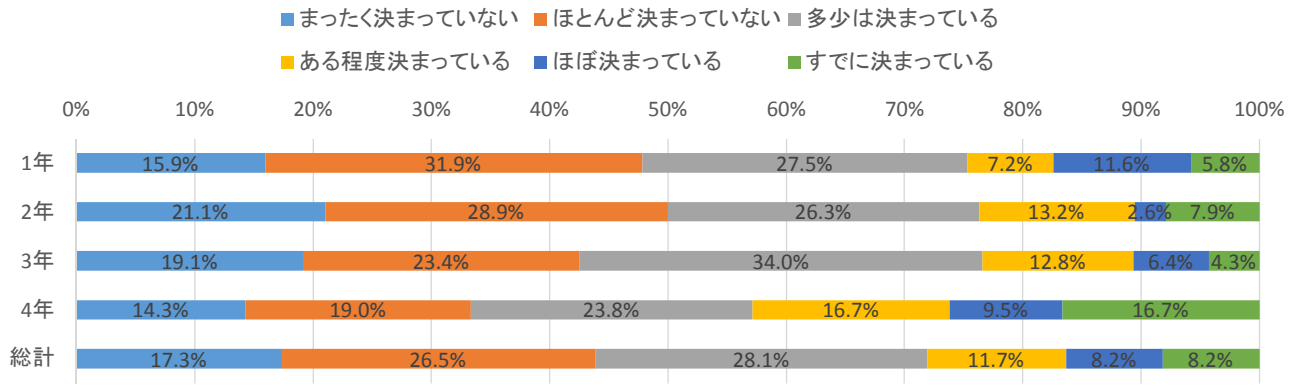


6. 社会で活躍するための力（キャリア教育、社会人基礎力）について

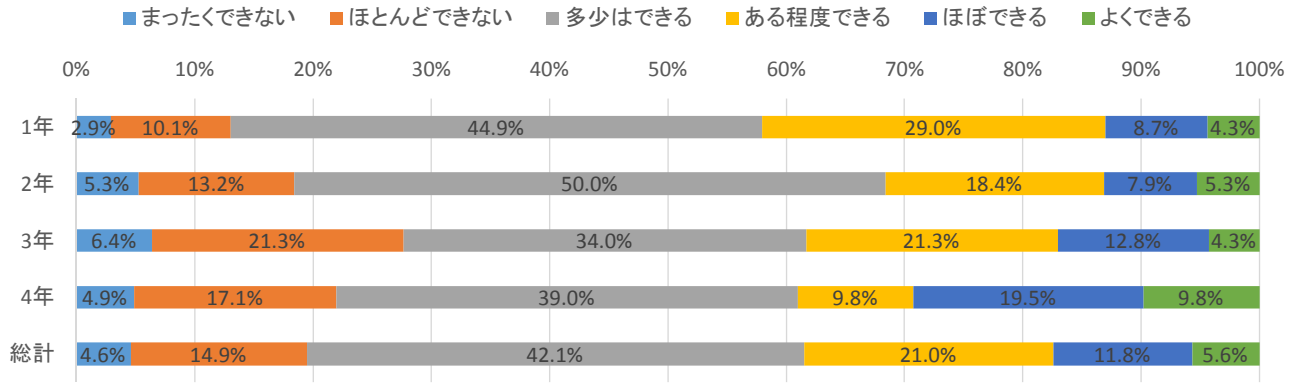
(20)「働く」とはどのようなことかイメージできている。　（無効回答　3年：1　）



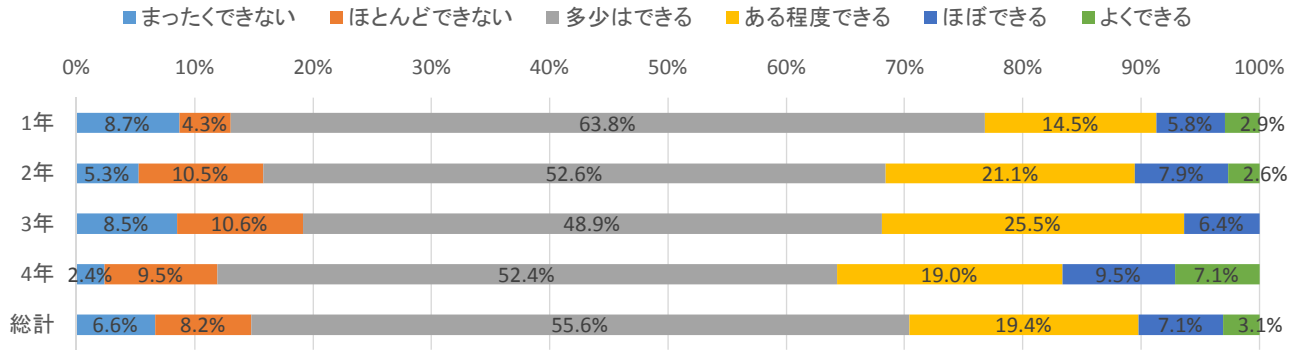
(21)将来の進路が決まっている。　（無効回答　3年：1　）



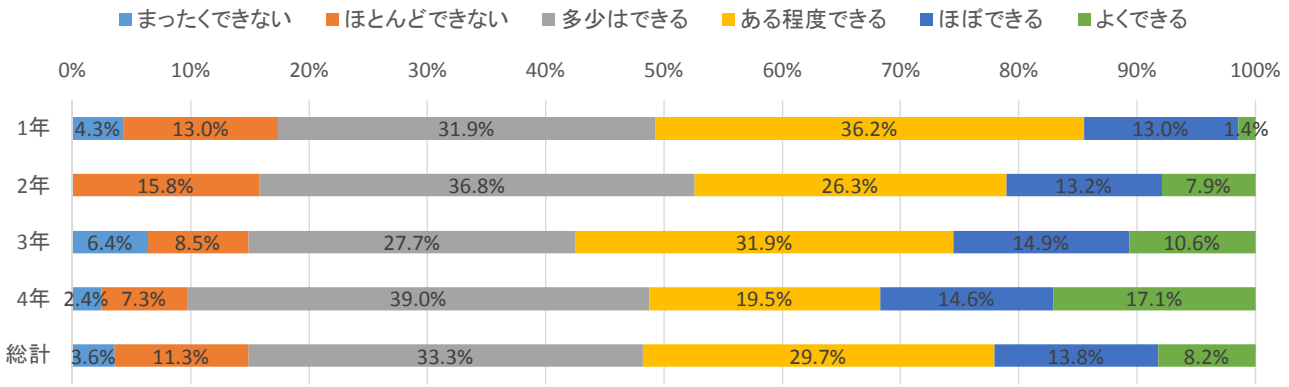
(22)自ら目標に向かってものごとに粘り強く取り組むことができる。　（無効回答　3年：1　4年：1　）



(23)課題を見つけ出しそれに対する最善の解決方法を考えることができる。　（無効回答　3年：1　）



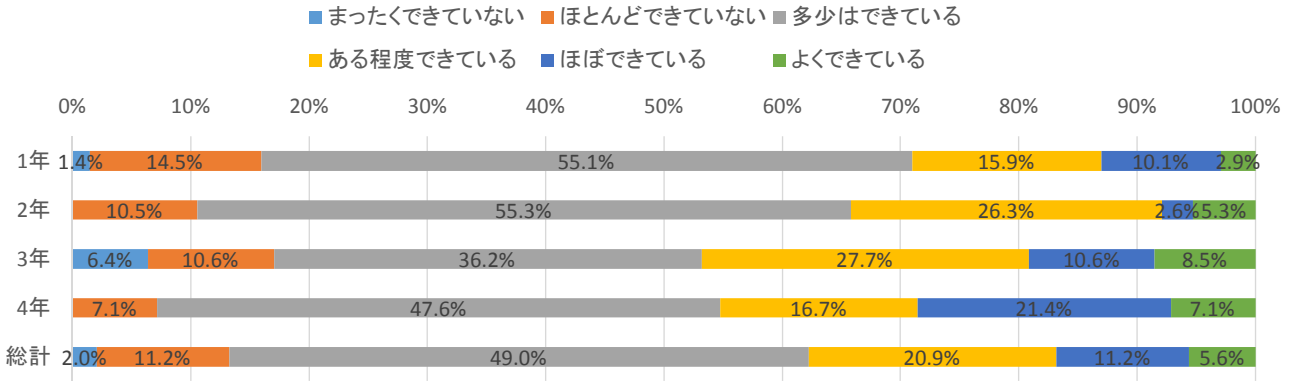
(24)さまざまな考えを持つ人々と意見を交換しながら力を合わせて働くことができる。　（無効回答　3年：1　4年：1　）



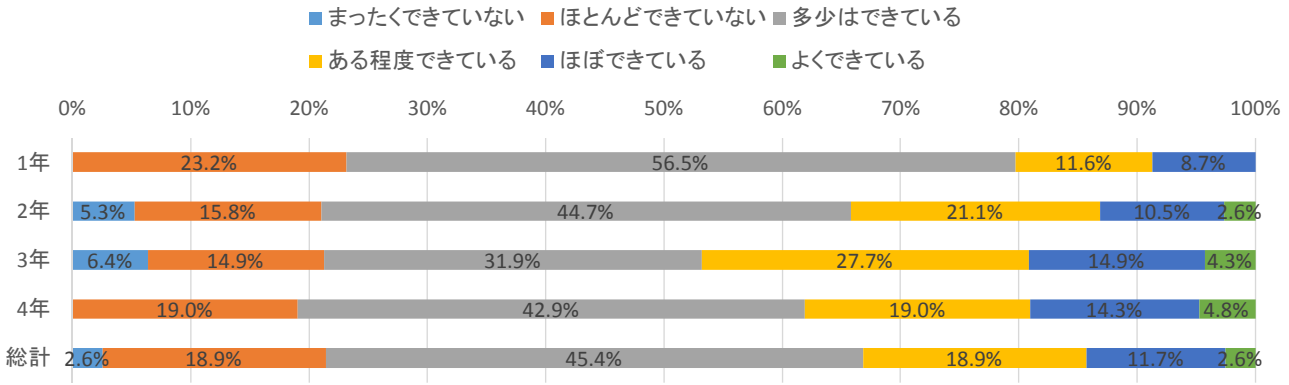
7. 総合力について

・上記の「2」～「6」の学びを通して、以下の力がどの程度身についていると思うかお答え下さい。

(25)自分自身の「ものの見方・考え方」をつくり上げることができた。　（無効回答　3年：1　）

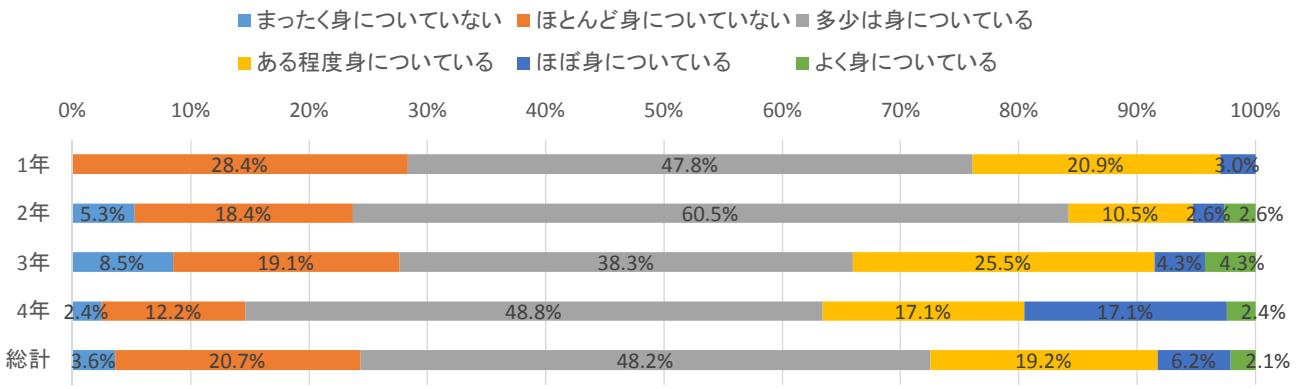


(26)自分の考えを文章や口頭で他者にきちんと説明することができるようになった。　（無効回答　3年：1　）



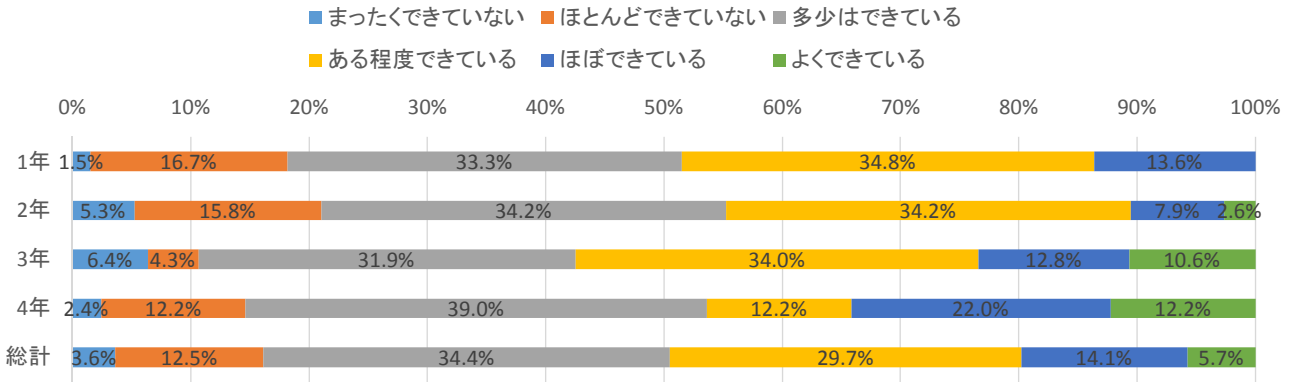
(27)社会に出て仕事や社会的活動を行うために必要な力を身につけることができた。

（無効回答　1年:2　3年:1　4年:1）



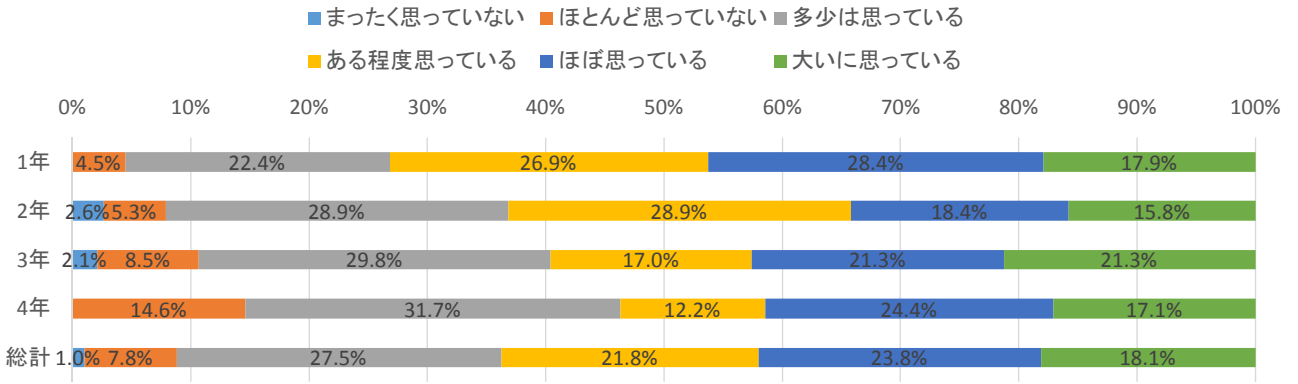
(28)他者とコミュニケーションを図りながら相互理解を深めていくことができるようになった。

（無効回答　1年:3　3年:1　4年:1）



(29)東京成徳大学に入学してよかったと思っていますか。

（無効回答 1年:2　3年:1　4年:1）



●健康・スポーツ心理学科

【学修行動】

調査結果の概要

①学修環境

全体の77.3%が実家から通学し、22.7%が自宅外通学。2年生が92.2%と自宅通学者が多くを占めている。

②通学時間

1時間以内が53.2%、1時間以上が46.8%。特に、2年生の10.5%が120分以上かかり、上記の自宅通学者と関係しているものと思われる

③1週間当たりのアルバイト（時間）

全体では、15~20時間が23.6%と最も多く、次いで10～15時間であった。学年が上がるにつれてアルバイト時間が多くなる傾向が見られる。1年生は大学生活に適応するうえで控えているとも考えられる。

④1週間当たりの部活・サークル活動や学外のクラブなど

全体の3割強が活動なしであった。特に、3年生(38.1%)、4年生(40.0%)に至っては4割近くを占めている。一方で、5人に一人は週一日以上の活動を実施している。学年間で見ると、1年生の活動（3~4日：27.9%、5~6日：26.5%）とともに2年生（3~4日：21.1%、5~6日：36.8%）も高く、4年生は極端に低かった。

⑤休日の過ごし方

「特に決まった予定はない」(29･2%)と3割近くの学生がいた。次いでアルバイト(25.7%)、部活(27.2%)の順であった。

課題と対応

家計経済的に厳しい状況が、自宅通学ならびにアルバイト時間から推察された。ただ、休日の過ごし方で、「特に決まった予定はない」項目で、1年生(38.8%)、2年生(15.8%)、3年生(19.0%)、4年生(34.5%)の学生が見受けられる。一方で、「主に研究・勉強」が全体の1.5%であった。また、「アルバイトなし」が15.8%の学生もおり、休日の有効な過ごし方を期待したい。

調査結果の概要

⑥大学に何日登校しましたか

「全く登校しなかった」のは0.5%おり、「毎日」は4.4%であった。4年生(1.8%)。5～6日は41.4%で、次いで3～4日が34.0%であった。5～6日(1年生67.6%、2年生52.&%)であり、3年生は3～4日59.5%、4年生1～2日69.1%であった。これも学年が進むにつれて授業履修の関係で登校日数が変わっていくものと思われた。

⑦授業に出席した割合は

80～100%が51.7%と半数を占めていた。次いで60～80%が33.0%で順次少なくなっていく傾向であった。各学年とも同様の傾向であった。ただ、学年が進むにつれてその割合も減少していることがうかがえる。

⑧興味ある授業の割合は

最も多かったのは40～60%の48.8%であり、この傾向は学年ごとの傾向と一致していた。4年生は、80～100%(20.0%)が最も多い反面、0～20%(12.7%)も多く、他の学年よりも顕著であった。

⑨授業全体の難易度は

「普通」(61.6%)と最も多く、「やや難しい」(16.7%)、「やや易しい」(15.3%)、「非常に難しい」(4.4%)、「非常に易しい」(2.0%)の順であった。学力差に幅が見られる。1年生では「非常に易しい」(1.5%)と「非常に難しい」(7.4%)がおり、4年生も同様にそれぞれ3.6%と7.4%であった。「非常に難しい」2，3年生ではともに0.0%であり、学年間の学力の違いもみられた。

⑩4年間で卒業できる自信は

全体の65.0%の学生が80～100%と回答している一方で、4.9%の学生が40%以下であった。各学年とも自信が少なくなる割合が同じ傾向であるが、特に1年だけが、80～100%で42.6%、60～80%で29.4%と他学年よりも低い傾向にあり、初めて受講する大学の授業において見通しが立てづらいのかもしれない。

⑪授業には積極的に取り組みましたか

全体の傾向として「多少はできている」(37.9%)、「ある程度はできている」(31.5%)と69.4%と約7割が回答している。またそれ以上の「ほぼできている」(15.3%)、「よくできている」(7.4%)を合わせると、92.3%と9割以上の学生が積極的に取り組んでいることが推察された。

<u>課題と対応</u>

・1年生の1.5%の学生が、「授業に出席した割合」で0～20%と回答しており、担任を含めて状況把握とサポートが求められる。
・「授業全体の難易度」について、上記したように1年生と4年生において「非常に難しい」と回答した学生に対して、何らかのサポートが必要と考える。同時に、授業の質と難易度について、理解を促す工夫が教員に求められよう。
・「4年間で卒業できる自信」では、上述した問題と関係するが、どの程度学力が身についてきているのか、確認する必要がある。その点では、健康・スポーツ心理学科では、毎年オリエンテーション時に「学力確認テスト」を、そして、今年度から1，2年生対象に「PROGテスト」をともに実施し、各学年における定期的な現状把握と学習への動機づけを実践している。
・「授業への積極的な取り組み」においても「ほとんどできていない」(1.0%)、「まったくできていない」(6.9%)とする学生に対して、教員側からの工夫として、より興味の持てる授業展開が必要かもしれない（全くの怠学もしくは疾病状態の学生は除く）。

<u>調査結果の概要</u>

⑫先生に指示された授業の発表の準備、課題やレポート、宿題を1週間合計でどのくらいやりましたか。

「やっていない」(10.8%)「90分未満」(41.4%)「90分～3時間未満」(34.5%)。3時間以上は合計13.3%であった。ちなみに3時間未満は計75.9%。行っていない学生は1割で、行っていても3時間未満は約7割強であった。やっていない1､3､4学年で12～13%に対して2年は2.6%と少数であった。総じて1週間で3時間未満は少ない。

⑬授業の予修を自発的に1週間合計でどのくらいやりましたか

90分未満(21.7%)が最も多く、それに対して「やっていない」学生が75.4%であった。4時間30分未満で合計24.7%、反対に4時間30分以上は皆無であった。

「やっていない」学年別でみると、1年生(80.8%)、2年生(73.7%)、3年生(76.2%)、4年生(69.1%)であり、7割以上が予修をしないで授業を受講しているものと推察される。

⑭授業のノートの整理や復修を自発的に1週間合計でどのくらいやりましたか

「やっていない」学生の平均は、64.0%と6割を超えている。それに対して3時間以上の復修をしてい

る学生は各学年皆無であった。90 分未満で 29.6%と 3 割に止まっている。

⑮授業に関連する資料や本を探したり、調べたりすることを 1 週間合計でどのくらいやりましたか

全体平均は「やっていない」(61.6%)と 6 割強であり、90 分未満は 32.0%であった。3～4 時間 30 分未満は僅か 1%であり、4 時間 30 分以上はいなかった。

各学年では 1 年生 64.7%、2 年生 47.4%、3 年生 76.2%、4 年生 56.4%であった。3～4 時間未満で 3 年の 2.4%、4 年生の 1.8%しかいなかった。4 時間 30 分以上は皆無であった。

課題と対応

・総じて、学修時間が不足している。そして、予修、復修をしないで授業を受講している学生がそれぞれ 75.4%、64.0%と高い割合を占めている。さらに授業に関連する本や資料収集、下調べなどをしていない学生が 6 割強存在している。受け身の姿勢で受講している学生の姿が見えてくる。教員側として予修、復修を課し、それを踏まえた授業展開や反転授業の必要性も迫られる。教員の授業教材研究が必要かもしれない。また、学生の授業に対する姿勢を改善するような取り組みが重要である。

調査結果の概要

⑯大学外の図書館や美術館・博物館等の文化施設、研修会・講演会などへの参加、音楽会・コンサート、スポーツの大会などや、サークル活動や授業以外でのボランティア活動に行く

行ったことはない」割合は、全体平均は 36.0%。「たまに行く」は 38.4%。「時々行く」は 12.8%、「よく行く」も 12.8%であった。各学年とも割合として似た傾向であったが、2 年の「よく行く」は 18.4%と相対的に高かった。

⑰新聞を読んでいますか

全体平均で「読まない」(69.0%)、「たまに読む」「時々読む」合わせて 29.5%。「毎日読む」が 1.5%であった。7 割の学生は読まず、3 割は読んでいることになる。

学年では、就活している 4 年の学生が 76.4%と「読まない」割合が最も高かった他の学年は 60%台であった。また、3、4 年生とも「毎日読む」は 0%であった。一方で 2.9%の 1 年生が「毎日読む」習慣を形成していた。

⑱定期的に読んでいる雑誌、週刊誌は

全体平均として「読まない」52.2%、「漫画雑誌」30.5%、「週刊誌」6.4%、「専門誌」10.8%であった。特に 3 年生は、「読まない」59.5%、「漫画」35.7%とそれぞれ最も高く、反対に「週刊誌」「専門誌」ともに 2.4%と最も低かった。3 年生は、雑誌、週刊誌は「読まない」にもかかわらず「漫画」は他学年に比べて読んでいることがうかがえる。

⑲インターネット(LINE やその他の SNS を含む)を一日にどれくらい使っていますか

全体平均では「やっていない」(1.5%)、「90 分未満」(10･8%)、「90 分～3 時間未満」(31.5%)、「3 時間以上」は合計で 56.2%であり、そのうち「6 時間以上」では 17.2%が使っていた。

学年別にみると「やっていない」のが 1 年生(1.5%)、4 年生(3.6%)おり、2, 3 年生は 0%であった。「6 時間以上」はどの学年も 10%を超え、4 年生は就職活動の関係か 20.0%を示していた。

⑳ゲーム（オンラインゲームを含む）を一日にどれくらいやっていますか

全体平均では、「やっていない」29,1%、「3 時間未満」(59.1%)と 6 割を占め、「3 時間以上」では 11.8%の学生が行っていた。

また、学年でみると、「6 時間以上」で 4 年生の 3.6%が突出しているが、1 年生の 2.9%もそれに次いで

行っている学生が見受けられる。このゲームに関しては、何時間までが良くある一定の時間以上をやることは不適当だとは一概に言えないが、しかし、「6 時間以上」は長すぎる。

㉑本をどのくらい読んでいますか

「読まない」全体平均が 66.5%と 3 人に 2 人強が読んでいない。他方、「月 6 冊以上」は 2.5%。「月に 2 冊以下」は 26.6%であった。「月に 2 冊以下」すなわち 1 冊は読むという学生は 33.5%と 3 人に 1 人ということになる。

課題と対応

・「新聞を読まない」学生が 69.0%と 7 割近くいる。今はインターネットからの情報を収集することができるため、新聞を読まなくても済むことができる。しかし、さまざまな情報が掲載されている新聞を手に取り読む行為は、思いがけない情報に出会うこともある。同じ記事に関して数種類の新聞を読み比べることにより、見解や視点の違いにも気づくことが可能である。新聞を授業で扱える科目は限定的かもしれないが、教材として新聞を採用する工夫は可能かと思われる。

・定期的な週刊誌は学生にとって遠い存在である反面、漫画は身近である。今でこそ教材として有用であることを考えると、利用価値は十分にあろう。

・インターネットの利用は、行っていない学生が少数いるが、ほとんどの学生(98.5%)が利用している現状を考えると、レポート作成や卒業論文、卒業研究等で利用する際のルールの周知と理解を促す必要が今まで以上に増えるだろう。基礎ゼミにおいてその趣旨を解説する時間を設けている。

・オンラインゲームの利用は、学生の 3 割近くの者が「行っていない」とはいえ、「6 時間以上」している学生が 2.4～3.6%いる現状を考えると、時間の有効な使い方を含めて、オリエンテーション時や各クラス担任からの指導時に、そしてキャリアデザイン科目等で教育指導も可能かと考える。

・「読書」に関しては、紙ベースの読書と同時にインターネット上での読書も可能になってきている。しかし、過去に、健康・スポーツ心理学科において「学科推薦図書 100 冊」を選定した。これを活用して学生の専門知識と見聞を拡大し、基礎ゼミでの「ビブリオバトル」の実施や卒業研究作成上の有用な資料にもなりうるため、活用を促進したい。

【学修成果】

調査結果の概要

①本学の教育の基本理念「共生とコミュニケーション」を知っていますか

「まったく知らない」「ほとんど知らない」合わせて 63.4%の学生がいた。それに反して「ほぼ知っている」「よく知っている」は 7.0%であった。

1 年生(49.2%)、2 年生(63.2%)、3 年生(73.8%)、4 年生(72.7%)と学年が上がるにしたがって「知らない」割合が上昇。

課題と対応

・基本理念は、1，2 年生のではまだ記憶にあり、3，4 年生になるにつれて反復して刷り込みがなされなくなっていることが推測される。そうであるならば、定期的に触れる機会をつくることが必要かもしれない。オリエンテーション時になるであろうか。

調査結果の概要

②外国語の授業を選択していますか・していましたか

英語(78.8%)、中国語(5.4%)、韓国語(11.3%)、「選択していない」は 4.4%であった。7～8 割の学生は選択している。

③読む力がある

全体平均では、「まったくない」「ほとんどない」合わせて 41.9%。この二つの項目の学年毎の割合は、1 年生(39.7%)、2 年生(44.7%)、3 年生(35.7%)、4 年生(47.3%)であり、3 年生を除くとほぼ学年が上がるにつれて上昇している。これは何を意味するのか。その 3 年生で「大いにある」(2.4%)を示した以外は、3 学年とも 0%であった。

④会話力(話す、聞く)がある

全体的には「まったくない」と「ほとんどない」合わせて 51.3%。「ほぼある」と「大いにある」とで 4.4%。経年的傾向として学修効果は上昇するものと考えられるが、そうではないようである。むしろ逆である。「まったくない」「ほとんどない」の学年毎の割合は、1 年生(42.7%)、2 年生(52.7%)、3 年生(50.0%)、4 年生(61.8%)であった。しかし、「ほぼある」「大いにある」合計では、1 年生(2.6%)、2 年生(2.6%)、3 年生(7.2%)、4 年生(5.4%)であり、上級学年の方が割合としては多かった。

⑤書く力がある

全体的には「まったくない」と「ほとんどない」合わせて 50.2%。「ほぼある」と「大いにある」とで 1.5%。「まったくない」と「ほとんどない」の合計の学年毎の割合は、1 年生(44.1%)、2 年生(52.6%)、3 年生(42.9%)、4 年生(61.8%)であった。

⑥大学入学後に取得した語学の資格がありますか、あるいは検定試験で一定の点数を取ったことがありますか

全体平均で「ない」90.0%、「ある」2.5%であり、「(今はないが) 目指している」は 7.5%であった。学年毎に見ても 90%前後が「ない」で、学年の違いは見られなかった。一方で、「ある」のは 1 年生(2.9%)、2 年生(0%)、3 年生(4.8%)、4 年生(1.9%)であった。

課題と対応

・グローバル化に対応した外国語教育の成果が問われている。本学科に入学してくる学生は、もともと英語科目を得意としてはいない学生が多い傾向にある。特に 4 年生の「読む」「話す・聞く」「書く」能力は、集計結果からもわかるように「まったくない」「ほとんどない」のように身についていない割合がそれぞれ 47.3%、61.8%、61.8%であった。約半数前後の学生がこの能力に関して「ない」状態で卒業しそうである。

課題は発見できるが、対応については学科教員では限界がある。「読む」「書く」において、強いて挙げるとするならば、トリプル M や演習等で「スポーツ英語」の時間を設定し、トレーニングする程度になる。

調査結果の概要

⑦文章作成ソフト（Word など）を使って文章を作成することができる

「ほぼできる」と「大いにできる」と合わせて 22.2%の学生ができると認識している。一方で、「まったくできない」と「ほとんどできない」合わせて、13.3%ができない。1 年の「できない」22.1%はありうるかもしれないが、2 年生(7.9%)、3 年生(9.5%)、4 年生に至っては 9.1%と約 1 割の学生ができない状態

にある。

⑧表計算ソフト（Excel など）を使って図表を作成することができる

「ほぼできる」と「大いにできる」と合わせて 13.3%の学生ができると認識している。一方で、「まったくできない」と「ほとんどできない」合わせて、35.5%ができない。1 年生の「できない」52.9%はありうるかもしれないが、2 年生(26.4%)、3 年生(21.4%)、4 年生に至っては 30.9%と約 3 割の学生ができない状態にある。また、「ほぼできる」と「大いにできる」とを合わせてみると、1 年生(5.8.%)、2 年生(15.8%)、3 年生(19.0%)、4 年生(16.3%)と決して多い割合とは言えない。

⑨プレゼンテーションソフト（Power Point など）を使ってプレゼンテーション用の資料を作成することができる

全体平均で「ほぼできる」と「大いにできる」と合わせて 17.2%の学生ができると回答した。一方で、「まったくできない」と「ほとんどできない」合わせて、21.6%ができない。またこの二つの項目でみると 1 年生(32.3.%)、2 年生(10.5%)、3 年生(7.2%)、4 年生(10.9%)と学年のばらつきはあるが、割合が少なくなっているとも考えられる。

⑩アプリケーションソフトを作成することができる

全体平均で「まったくできない」と「ほとんどできない」合わせて、84.7%の学生ができないとしている。一方、「ほぼできる」「大いにできる」合わせて 1.0%である。これからも推測できるように各学年の作成できない割合は、1 年生(91.2.%)、2 年生(89.5%)、3 年生(76.1%)、4 年生(80.0%)と非常に高い。1 年生の 2.9%だけが「大いにできる」ことを示している。

⑪大学入学後に取得した ICT 関連の資格がありますか、あるいは検定試験で一定の点数を取ったことがありますか

全体平均の「ある」は 3.0%で「ない」は 88.1%である。また、学年別にみると「(今はないが) 目指している」の 2 年生(23.7%)が際立っており、他の 3 学年は 4.5%～7,3%にあった。また、「ある」のは 3 年生(7.1%)と 4 年生(5.5%)であった。

<u>課題と対応</u>

・就職するにあたりこの種のソフトを使える技能を有していることは非常に重要である。それにもかかわらず「まったくできない」「ほとんどできない」学生の割合が 1 割を超しており、特に表計算ソフトが使えない卒業生を輩出することは大学教育の質を問われる。対応としては、情報処理関連科目において課題の提示やグループ指導、ピア教育等、教授法の質の向上に期待したい。

<u>調査結果の概要</u>

⑫専門分野の知識とは別に幅広い知識や教養がある

全体平均でみると、58.6%の学生が「まったくない」と「ほとんどない」を占めている。一方で僅か 1%の学生が「かなりある」「大いにある」としか考えていない。

学年別にみると、「まったくない」と「ほとんどない」の項目で 1 年生(67.2.%)、2 年生(44.7%)、3 年生(66.6%)、4 年生(56.3%)であった。

⑬レポートや論文作成に必要な情報収集スキル（論文、文献、統計などの検索方法など）がある

全体平均でみると、51.7%の学生が「まったくない」と「ほとんどない」を占めている。一方で僅か 0.5%の学生が「かなりある」「大いにある」としか考えていない。

学年別にみると、「まったくない」と「ほとんどない」の項目で 1 年生(66.1.%)、2 年生(42.1%)、3 年

生(52.4%)、4 年生(40.4%)であった。4 年生の僅か 1.8%の学生しか「大いにある」と回答していない。

⑭レポートや論文などを書くために必要なスキル（書式や作法など）がある

全体平均でみると、43.8%の学生が「まったくない」と「ほとんどない」を占めている。一方で僅か 0.5%の学生が「かなりある」としか考えていない。

学年別にみると、「まったくない」と「ほとんどない」の項目で 1 年生(55.9.%)、2 年生(39.5%)、3 年生(45.2%)、4 年生(30.9%)であった。2 年生の僅か 2.6%の学生しか「大いにある」と回答していない。「大いにある」は全学年 0%であった。

⑮ディスカッションの中で他者の意見をきちんと聞きながら自分の意見を述べること

全体平均でみると、26.1%の学生が「まったくない」と「ほとんどない」を占めている。一方で「ほぼできる」「よくできる」と考えている学生が 9.4%しかいない。

学年別にみると、「まったくない」と「ほとんどない」の項目で 1 年生(26.49.%)、2 年生(18.4%)、3 年生(33.3%)、4 年生(25.5%)であった。「多少はできる」と「ある程度はできる」を合わせると 1 年生(67.6%)、2 年生(71.0%)、3 年生(64.3%)、4 年生(56.4%)であった。

<u>課題と対応</u>

・教養と基礎的スキルに関して、1 年生の「まったくない」や「ほとんどない」割合が多く大学でしっかりと教育指導していく必要が認められよう。また 4 年生のこの種のスキルの獲得状況において、「まったくない」や「ほとんどない」割合が 25.5～56.3%と安定しておらず、スキルの未獲得の学生が見られる。同時に、3 年生の獲得状況が低い傾向にある。

・基礎ゼミ、演習授業、情報科目等で丁寧に教育していくことが求められる。

<u>調査結果の概要</u>

⑯専門知識を理解している

全体平均でみると、「まったく理解していない」と「ほとんど理解していない」を合わせると、29.1%の学生が回答し、「ほぼ理解している」と「よく理解している」を合わせた割合は、3.0%しかいなかった。

学年別にみると、「まったく理解していない」と「ほとんど理解していない」の項目で 1 年生(35.3.%)、2 年生(18.5%)、3 年生(35.8%)、4 年生(23.7%)であった。2 割近くから 3 割強と理解していないことがうかがえた。特に 3 年生が最も多く(35.8%)、逆に「ほぼ理解している」「よく理解している」割合は、0%であった。

⑰専門知識を実際の場面で使うことができる

「ほぼ使える」と「よく使える」合わせると、3.5%であり、「まったく使えない」と「ほとんど使えない」を合わせると 44.4%であった。52.3%となる 5 割強の学生は「多少は使える」「ある程度使える」と考えている。この項目でも 3 年生の 50.0%、半数が「使えない」と考えている。「ほぼ使える」「よく使える」割合は、同様に 0%であった。

⑱専門的スキルが身についている

「ほぼ身についている」と「よく身についている」の合算した全体平均は、2.5%である。一方で「全く身についていない」と「ほとんど身についていない」を合わせると 36.0%と 3 割強の学生が専門的スキルを身についていないと認識しているようである。

学年間では「全く身についていない」と「ほとんど身についていない」は、1 年生(34.1.%)、2 年生(21.1%)、3 年生(38.1%)、4 年生(34.5%)であった。ここでも 3 年生の専門的スキルが身についていないと考えてい

るようである。

⑲大学入学後に取得した専門分野に関連する資格がありますか、あるいは検定試験で一定の点数を取ったことがありますか

全体でみると「ある」(19.4%)、70.0%の学生が「ない」と回答した。この「ない」の内訳を学年でみると、1 年生(77.9.%)、2 年生(66.7%)、3 年生(71.4%)、4 年生(63.6%)であった。

また、「ある」学生の学年別に 1 年生(29.%)、2 年生(0%)、3 年生(9.5%)、4 年生(25.5%)であり、4 年生の取得率が高い。

<u>課題と対応</u>

・専門的知識を理解している割合が 7 割ほど見受けられる。また、実際の場面で使えるかどうかの問いには約 55.8%の学生が使えるとしている。専門的スキルが身に付いていない割合が 36%おり、特に 3 年生の 38.1%が突出している。

・専門的知識を理解し活用できるようにするには、授業の中で可能な限り実生活の場面に近い事例や問いかけをしていくことが重要である。

・また、新たな資格取得は学修成果の一端と捉えさせ、積極的に取得させる。「(今はないが). 目指している」割合が 19.4%と約 2 割に達しており、2 年生においては 33.3%と高い意識を持っていることとがうかがえる。

<u>調査結果の概要</u>

⑳「働く」とはどのようなことかイメージできている

92.6%の学生はイメージを「多少できている」～「よくできている」と考えているようである。残り 7.4%は「できていない」。3 年生(16.7%)以外は、20%以上でイメージが「ほぼできている」「よくできている」ことがうかがえる。

㉑将来の進路が決まっている

「ほぼ決まっている」と「すでに決まっている」との合計は 20.2%、「多少決まっている」と「ある程度決まっている」との合計は 38.9%。しかし、「まったく決まっていない」と「ほとんど決まっていない」との合計は 40.9%であった。

「決まっていない」学年別にみると、1 年生(45.6%)、2 年生(52.6%)、3 年生(47.6%)、4 年生(21.8%)であり、4 年生の将来の進路は、78.2%が決まり、21.8%が未決定状態のようである。

㉒自ら目標に向かって物ごとに粘り強く取り組むことができる

全体的にみると、「多少はできる」・「ある程度はできる」(58.9%)、「ほぼできる」と「よくできる」(17.8%)であり、他方、「まったくできない」と「ほとんどできない」の合計は、13.4%である。4 年生の「ほぼできる」と「よくできる」が 46.3%にあるにもかかわらず

「まったくできない」と「ほとんどできない」は 14.6%と決め兼ねているものと推察できる。

㉓課題を見つけ出しそれに対するか最善の解決方法を考えることができる

全体平均でみると「まったくできない」「ほとんどできない」の合計が 17.7%、「多少はできる」と「ある程度はできる」の合計は 64.6%、「ほぼできる」と「よくできる」の合計は 17.7%であった。

学年別にみると、1 年生の「まったくできない」と「ほとんどできない」が 25.0%は高い傾向にあるが、4 年生のそれは 18.2%であった。

㉔さまざまな考えを持つ人々と意見交換しながら力を合わせて働くことができる

全体平均でみると「ほぼできる」と「よくできる」の合計は 27.1%、「多少はできる」と「ある程度はできる」の合計は 62.6%、「まったくできない」と「ほとんどできない」の合計は 10.4%であった。

学年別にみると 1 年生(16.1%)と一番多く、2 年生以下は次のようになる。2 年生(5.3%)、3 年生(9.5%)、4 年生(7.2%)であった。また、「ほぼできる」と「よくできる」の合計で最も多かったのは、4 年生(40.0%)であった。学年が上がるにつれてできる割合も増加していった。

<u>課題と対応</u>

・4 年生調査で将来の進路が未決定 21.8%と 2 割を超えていること。また、自らの目標に向かって粘り強く取り組むことにおいて 14.9%の 4 年生ができていない。最善の解決方法を考えることができない点においても 4 年生(18.2%)が目立つ。
・学科教員やキャリア支援スタッフとの面談の促進と回数の増加、キャリア登録カードの作成、担任教員からキャリア関連情報の提供など。
・授業ではグループワークの導入、特別講演会開催による学生の働き方と働くことのイメージ形成
・「PROG テスト」の導入・実施・フィードバック～学生の授業への主体的な参加、インターンシップへの参加意欲の喚起。

<u>調査結果の概要</u>

㉕自分自身の「ものの見方・考え方」を作り上げることができた

全体平均でみると「ほぼできている」と「よくできている」の合計は 14.3%、「多少はできている」と「ある程度できている」の合計は 72.4%、「まったくできていない」と「ほとんどできていない」の合計は 13.3%。

学年別にみると、4 年生の 92.7%は「できている」。7.3%は「できていない」。3 年生の 21.4%は「ほとんどできていない」と高い割合であった。

㉖自分の考えを文章や口頭で他者にきちんと説明することができるようになった

全体で 13.8%の学生が「ほぼできている」「よくできている」であり、「まったくできていない」「ほとんどできていない」では 19.3%であった。

学年別では「まったくできていない」「ほとんどできていない」において、1 年生が 26.8%、3 年生が 21.5%であった。

㉗社会に出て仕事や社会的活動を行うために必要な力を身につけることができた

「ほぼ身についている」「よく身についている」が 12.5%、「多少は身についている」「ある程度は身についている」が 74.6%、「身についていない」12.9%であった。

学年別に「まったく」「ほとんど」身についていないをみると、1 年(16.4%)、2 年(13.2%)、3 年(12.2%)、4 年(9.1%)であった。「身についている」は 4 年生が 25.5%で最も多かった。

㉘他者とコミュニケーションを図りながら相互理解を深めていくことができるようになった

全体でみると「多少」「ある程度」できている割合は、67.2%。「ほぼ」「よく」できている割合は、24・9%。「まったく」「ほとんど」できていない割合は、8.0%であった。

学年別でみると「まったく」「ほとんど」できていない割合は、1 年生(16.4%)、2 年生(0%)、3 年生(7.3%)、4 年生(3.6%)であった。4 年生の「ほぼ」「よく」できている割合は 47.3%であった。

㉙東京成徳大学に入学してよかったと思っていますか

全体でみると「ほぼ」「大いに」思っているのは、20.4%。「多少は」「ある程度は」思っている割合は、

66.6%。「まったく」「ほとんど」思っていないは、12.9%であった。
「ほぼ」「大いに」思っている割合を学年別にみると 1 年生(12.0%)、2 年生(15.8%)、3 年生(27.2%)、4 年生(29.0%)であった。また、「まったく」「ほとんど」思っていない項目で多かったのは 3 年生の 17.1%であった。

<u>課題と対応</u>

・「ものの見方・考え方」を形成するきっかけとなることは何か。全体で 1 割強、3 年生で 2 割強の学生がこのことをできていないと判断している。読書、友人関係、授業内のグループワーク、予修復修、教員との関係、アクティブラーニング等、枚挙にいとまがない。受け取る側の学生自身と向き合う教員の姿勢が問題になるのは言うまでもない。
・他者に自分の考えを文書や口頭で説明することがほとんどできていない学生が 2 割弱いる。先ずは挨拶からコミュニケーションが始まる。授業においての挨拶、質問されたら「分かりません」の返答で、その場をやり過ごさない。教員と話をすることを臆せず、話しかける勇気を持つ。同時に、教員はそのような学生との交流を厭わない。日常生活の基本を踏む。
・教員の行う授業の質の向上は言うに及ばず学生との交流を意識的に進んで行う。東京成徳大学は、「教員と学生の距離が近い」、「面倒見のよい大学」と言われてきたが、それを実践していく努力をする。「本学に入学してよかった」と思える体験を共有する。

学修調査（行動・成果調査） 健康・スポーツ心理学科 【割合】

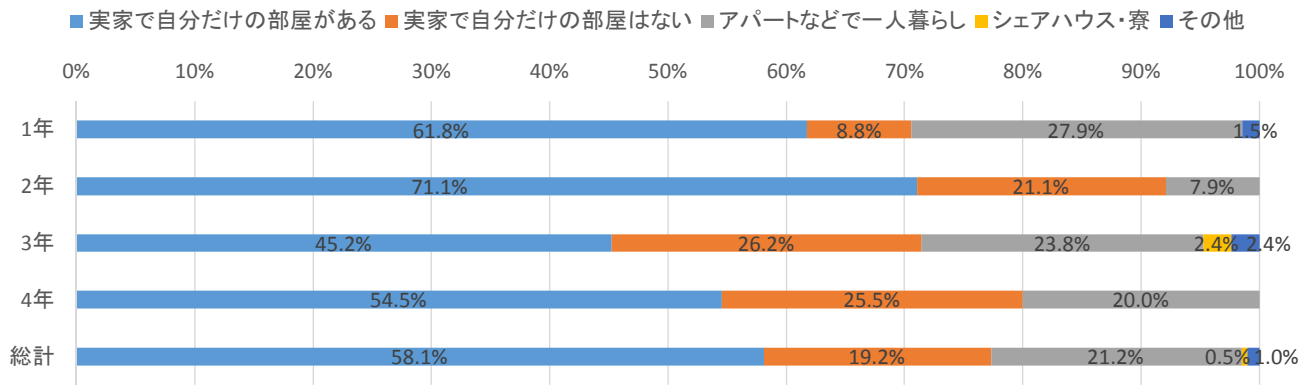
【回答者数】（人）

	男性	女性	計
1年	48	20	68
2年	26	12	38
3年	24	18	42
4年	34	21	55
計	132	71	203

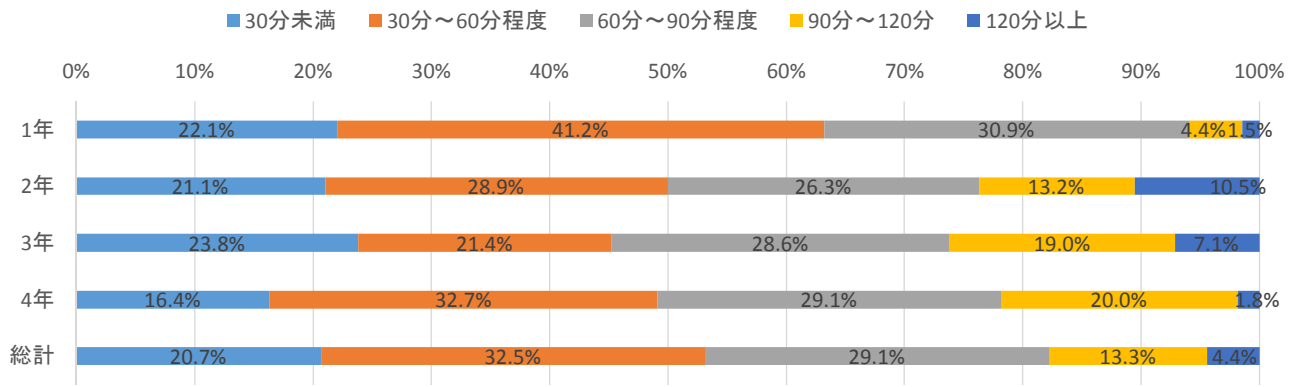
	AO	推薦（公募・指定）	一般	センター	社会人 外国人	編入	計
1年	26	34	4	3	1	0	68
2年	15	16	3	3	1	0	38
3年	17	21	4	0	0	0	42
4年	11	33	9	2	0	0	55
計	69	104	20	8	2	0	203

【学修行動調査】（%）

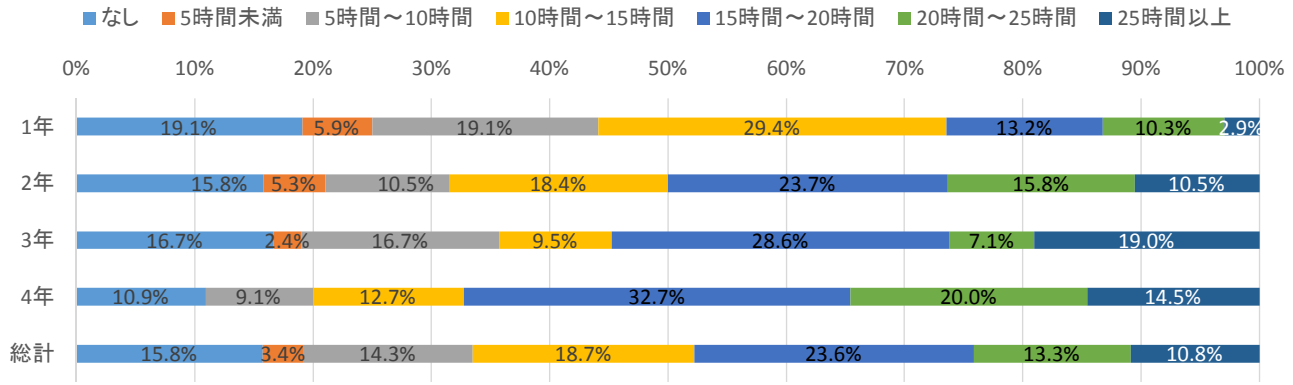
1.あなた自身について
(1)学修環境



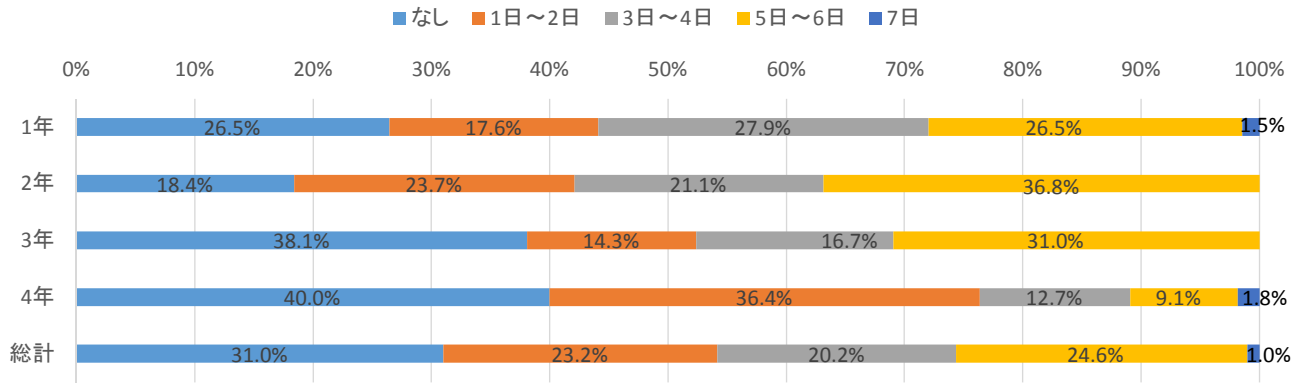
(2)通学時間（家から大学まで）



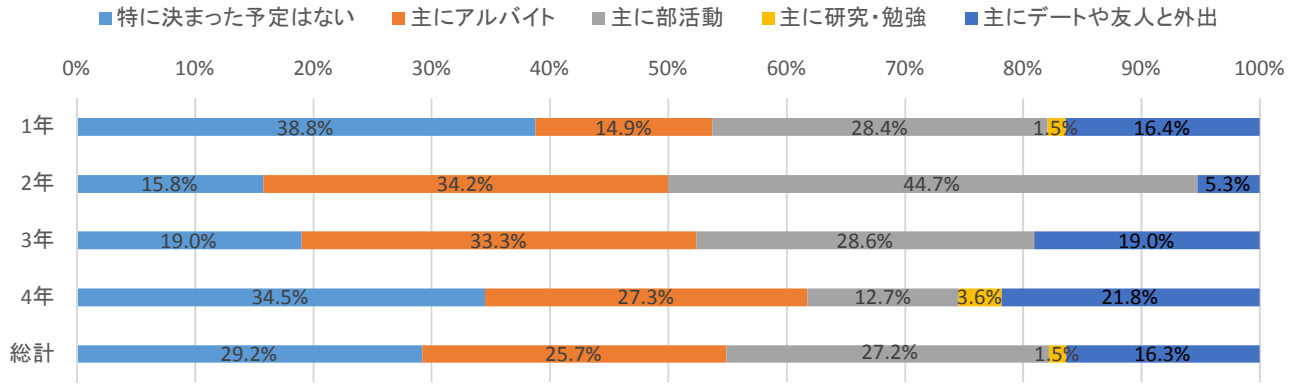
(3) 1週間あたりのアルバイト（時間）



(4)1週間あたりの部活・サークル活動や学外のクラブなどの活動

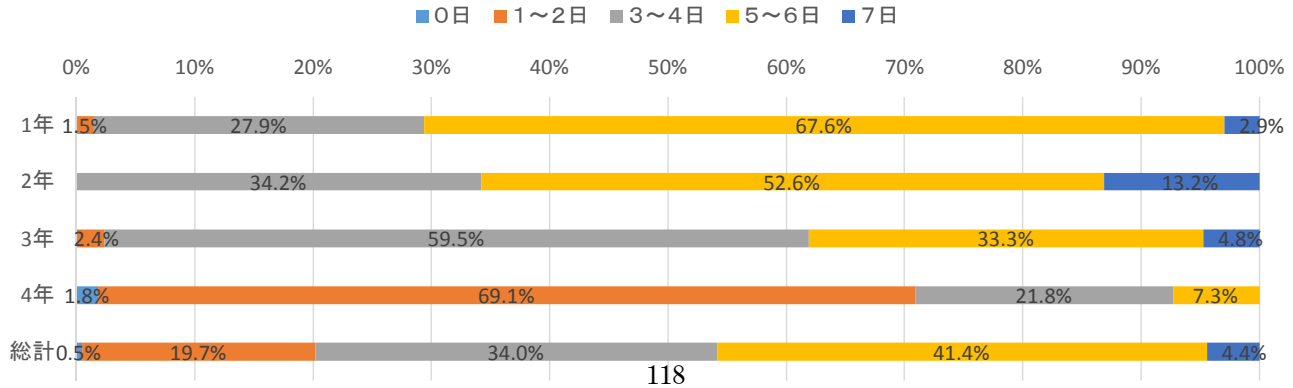


(5)休日の過ごし方　　（無効回答　1年：1　）

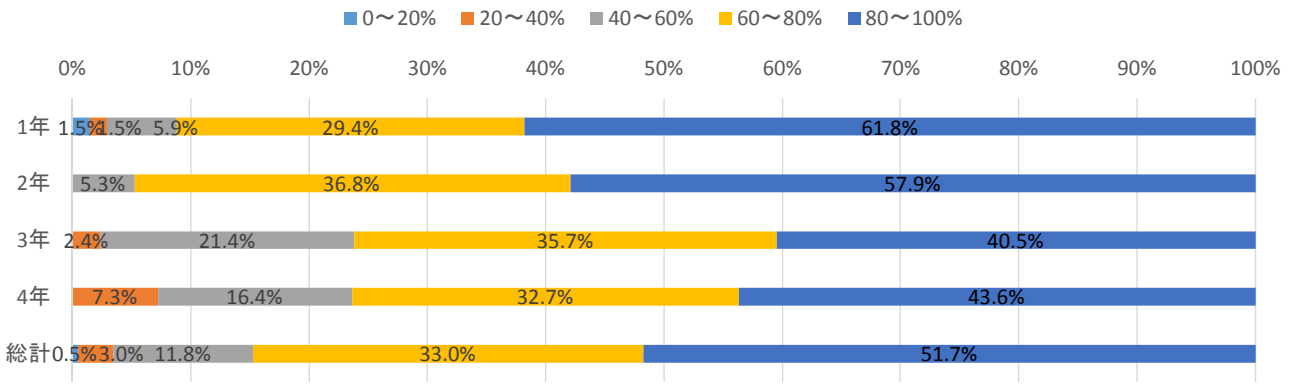


2. 1週間（平均的な）における大学内での学修について

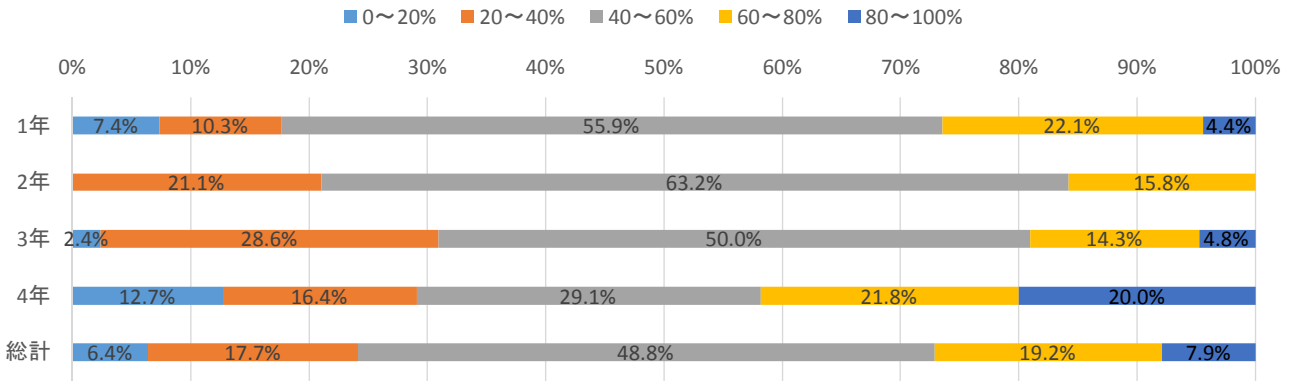
(6) 大学に何日登校しましたか



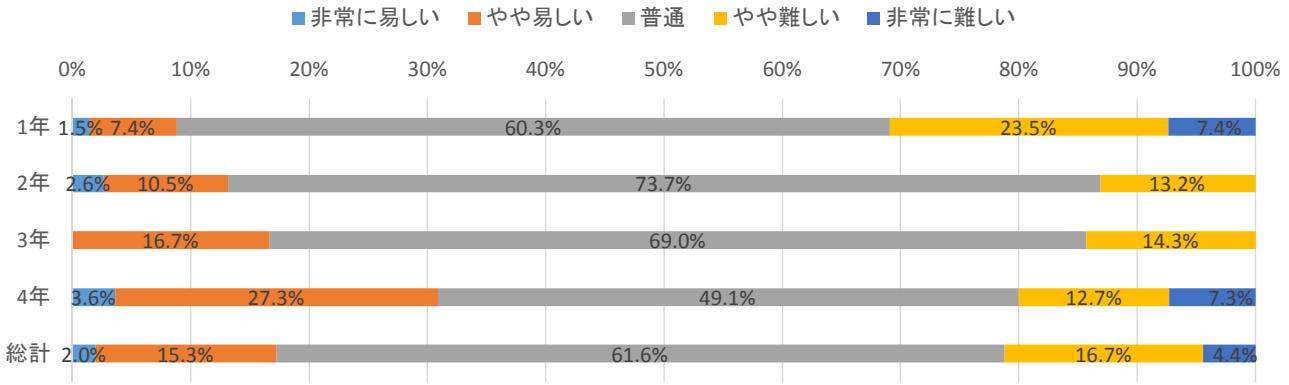
(7) 授業に出席した割合は



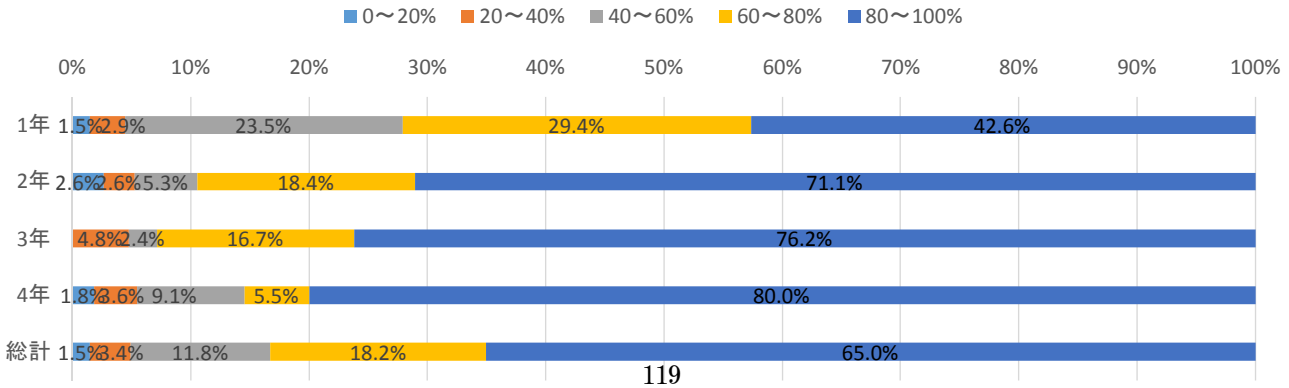
(8) 興味のある授業の割合は



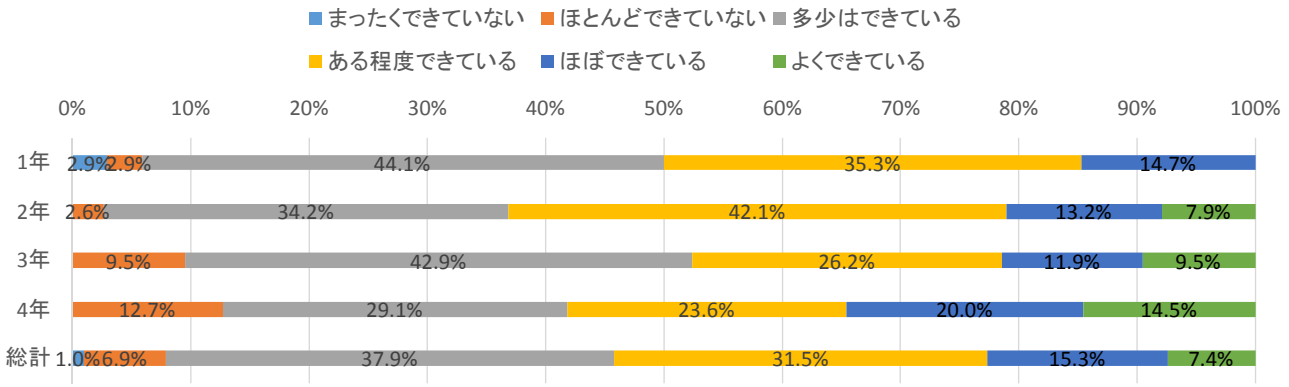
(9) 授業全体の難易度は



(10) 4年間で卒業できる自信は

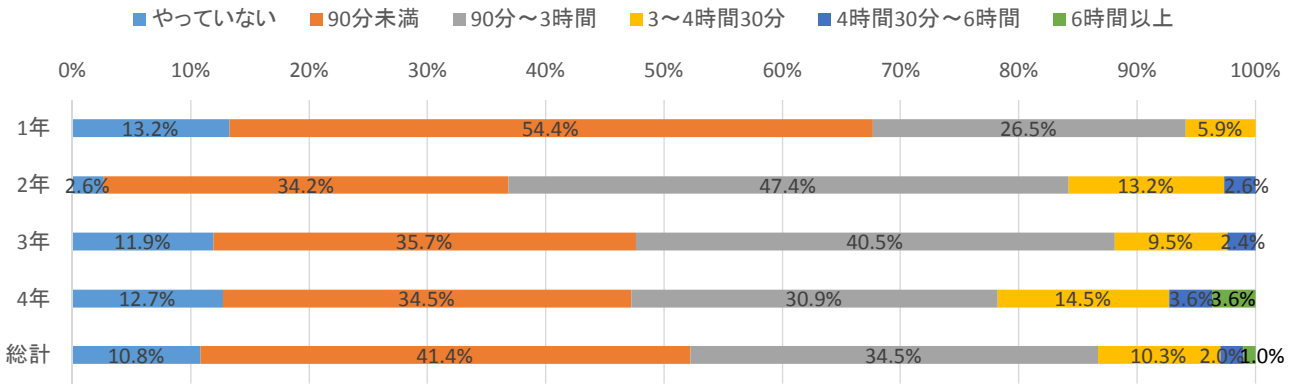


(11) 授業には積極的に取り組みましたか

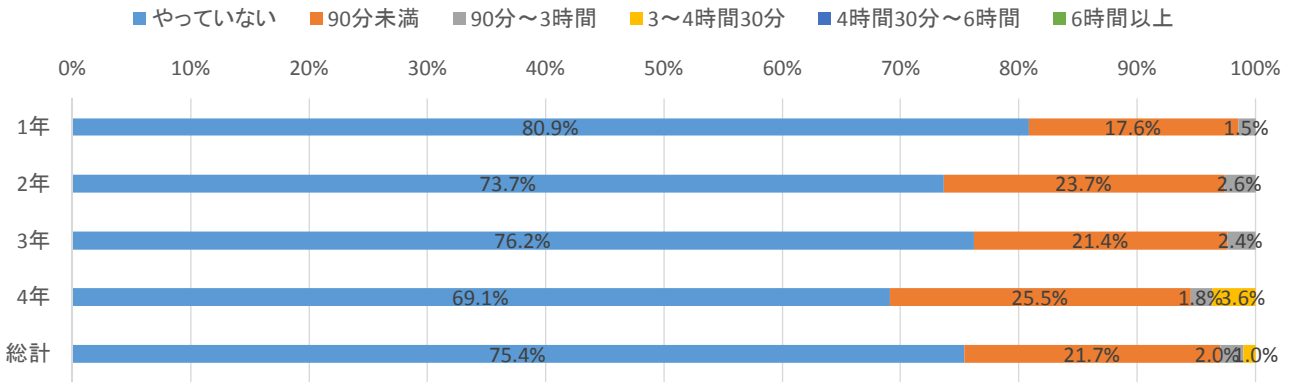


3. 1週間（平均的な）における教室外での学修時間について

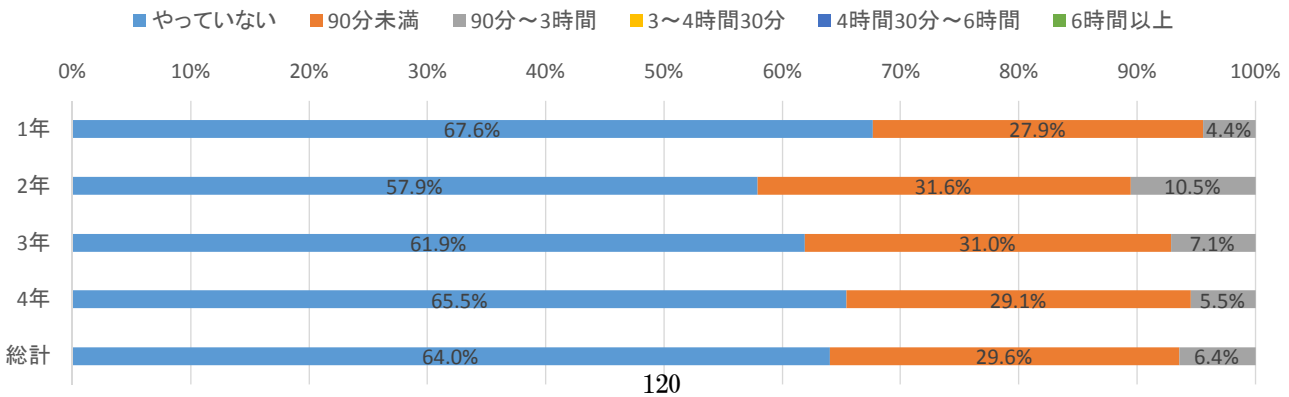
(12) 先生に指示された授業の発表の準備、課題やレポート、宿題を1週間合計でどのくらいやりましたか



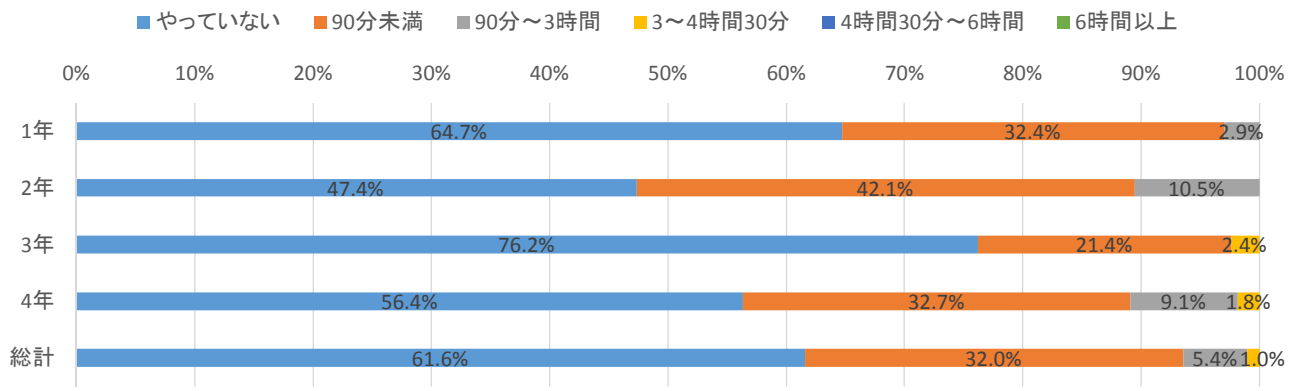
(13) 授業の予修を自発的に1週間合計でどのくらいやりましたか



(14) 授業のノートの整理や復修を自発的に1週間合計でどのくらいやりましたか

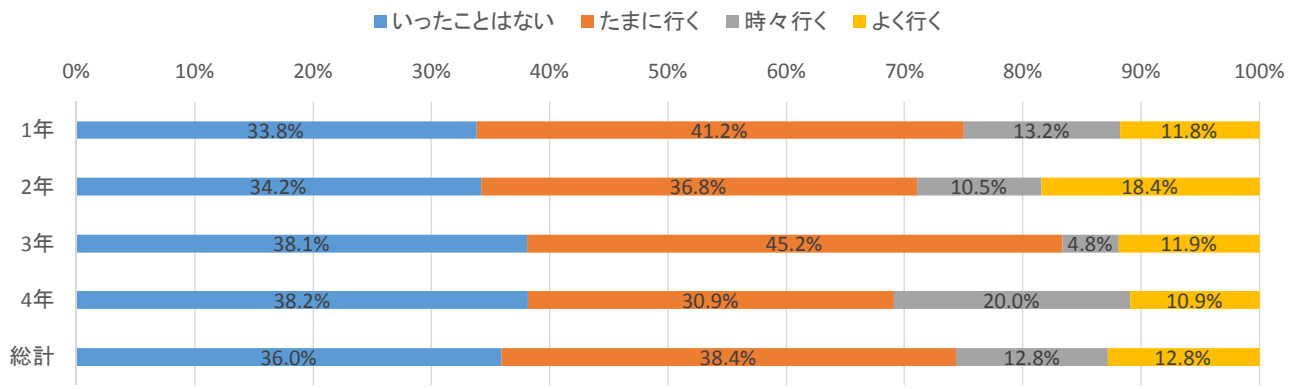


(15) 授業に関連する資料や本を探したり、調べたりすることを1週間合計でどのくらいやりましたか

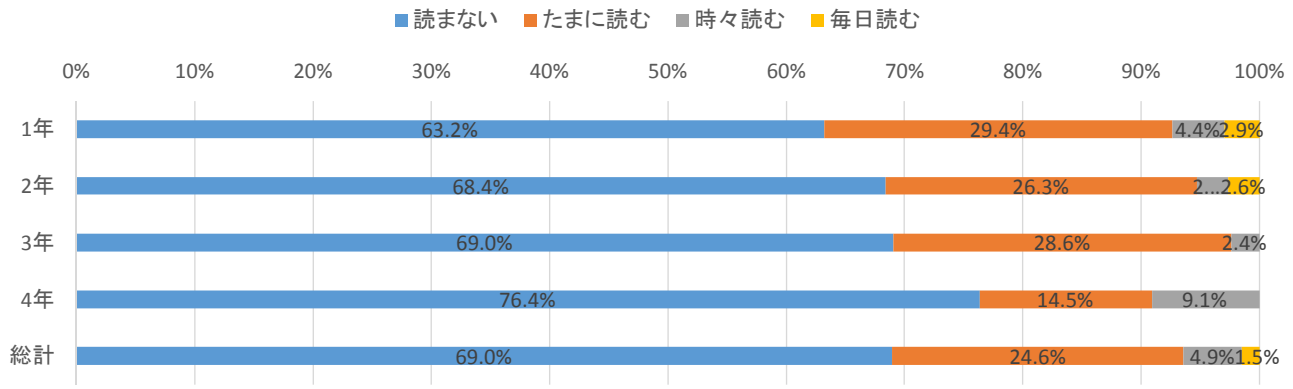


4. 授業以外の学修活動や普段の行動

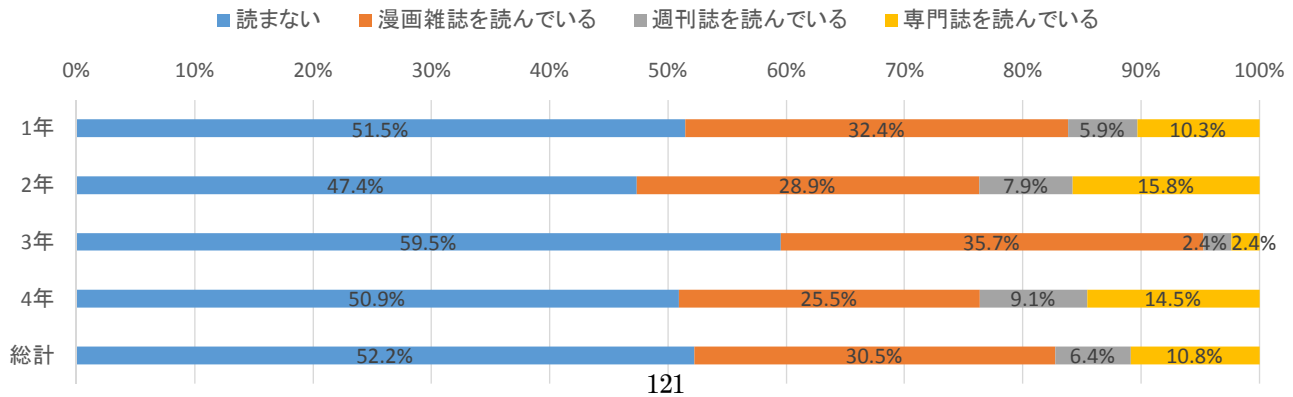
(16) 大学外の図書館や美術館・博物館等の文化施設、研修会・講演会などへの参加、音楽会・コンサート、スポーツの大会などや、サークル活動や授業以外でのボランティア活動に



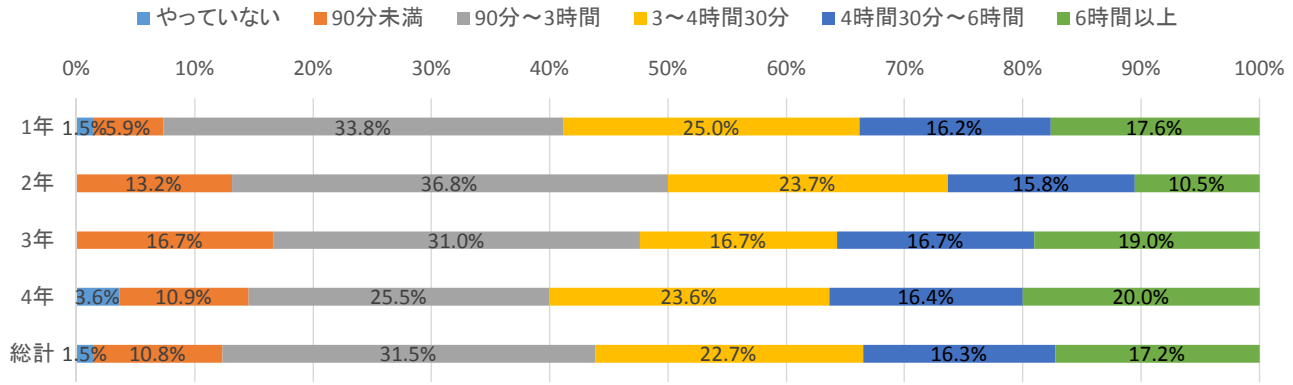
(17) 新聞を読んでいますか



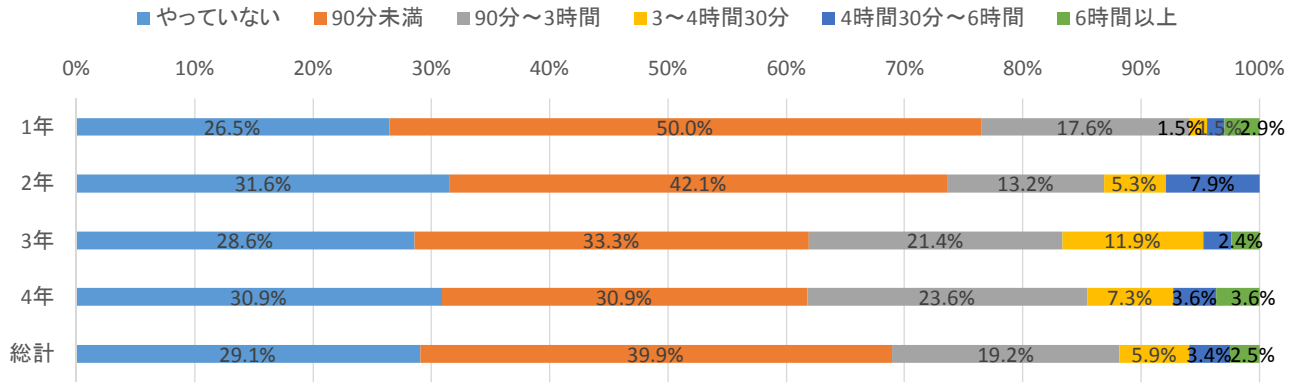
(18) 定期的に読んでいる雑誌、週刊誌は



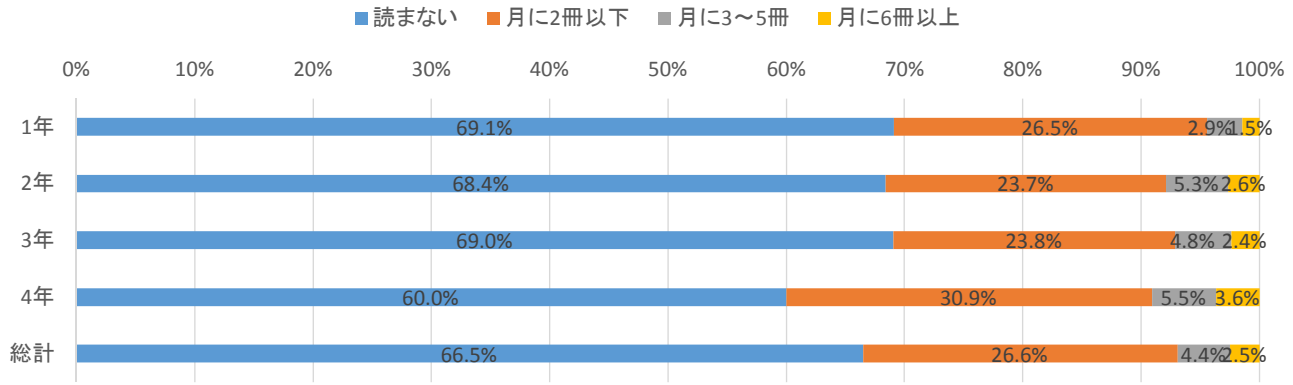
(19) インターネット（LINEやその他SNSを含む）を1日にどのくらい使っています;



(20) ゲーム（オンラインゲームを含む）を1日にどのくらいやっていますか



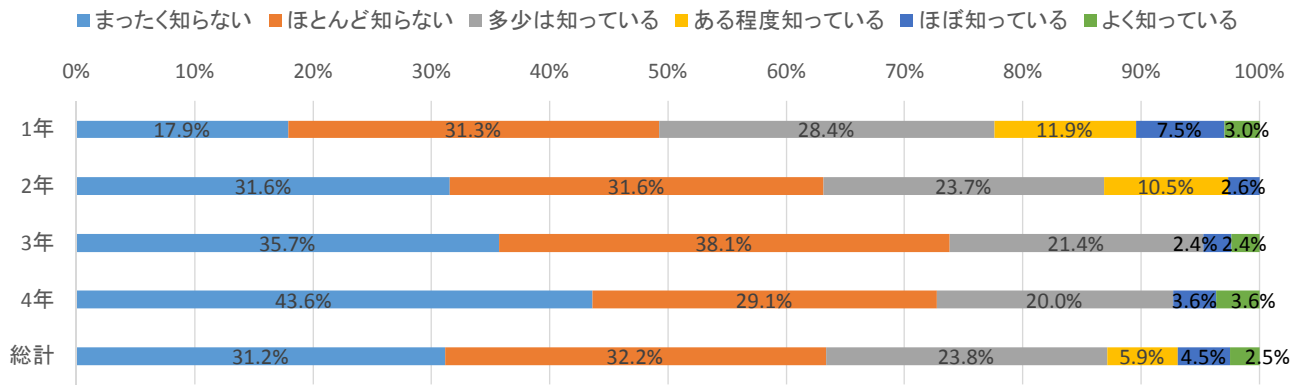
(21) 本をどのくらい読んでいますか



【学修成果調査】(%)

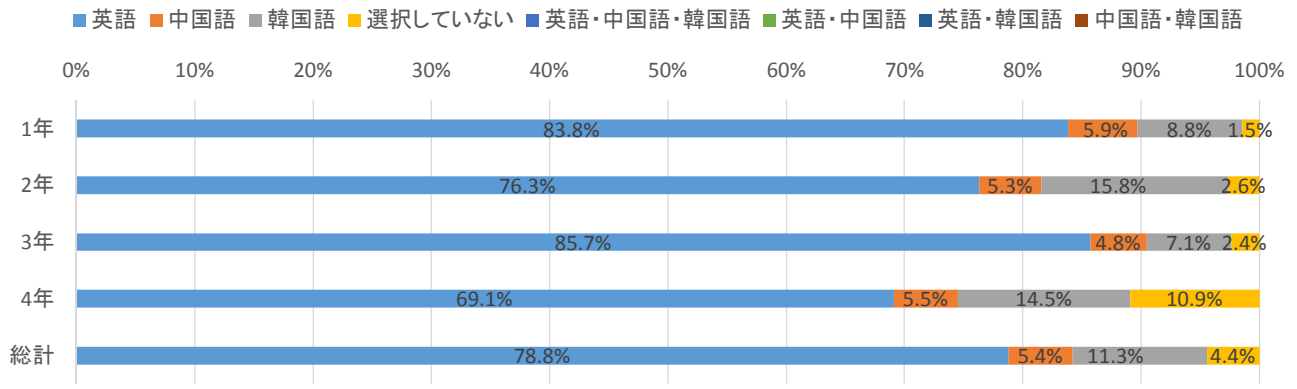
1. 教育理念について

(1)本学の教育の基本理念「共生とコミュニケーション」を知っていますか。　（無効回答　1年:1　）

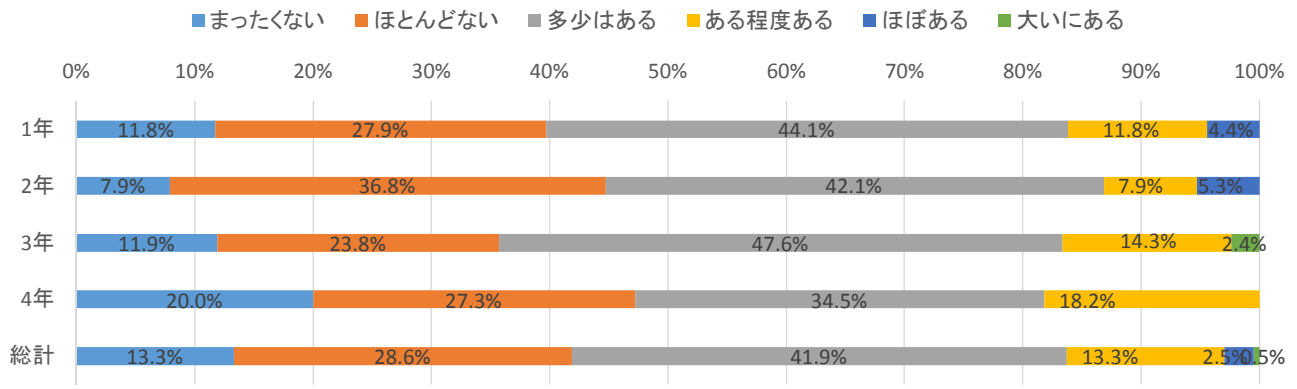


2. 外国語能力について

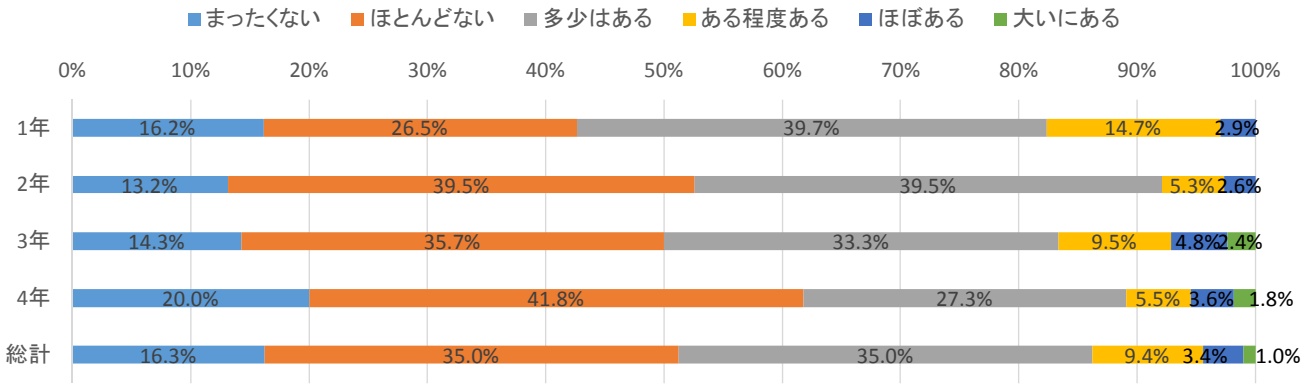
(2)外国語の授業を選択していますか・いましたか。



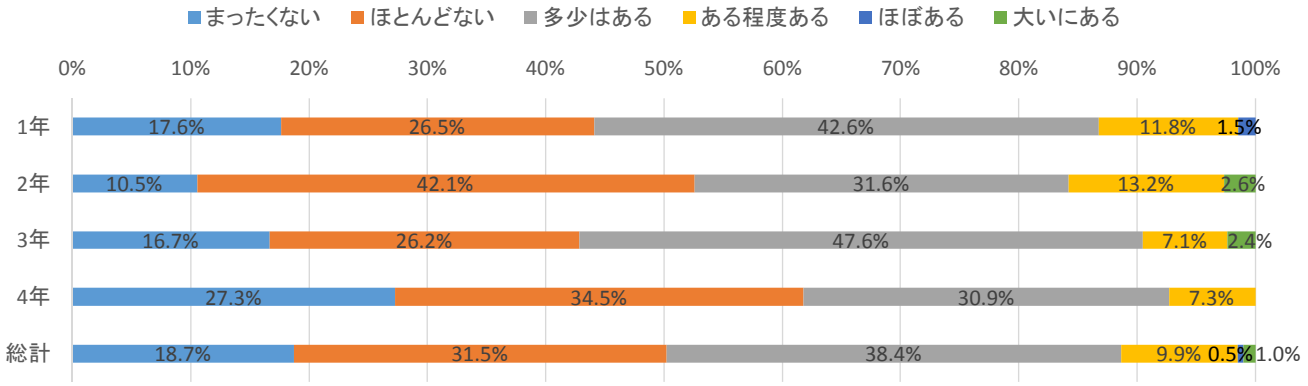
(3)読む力がある。



(4)会話力（話す、聞く）がある。

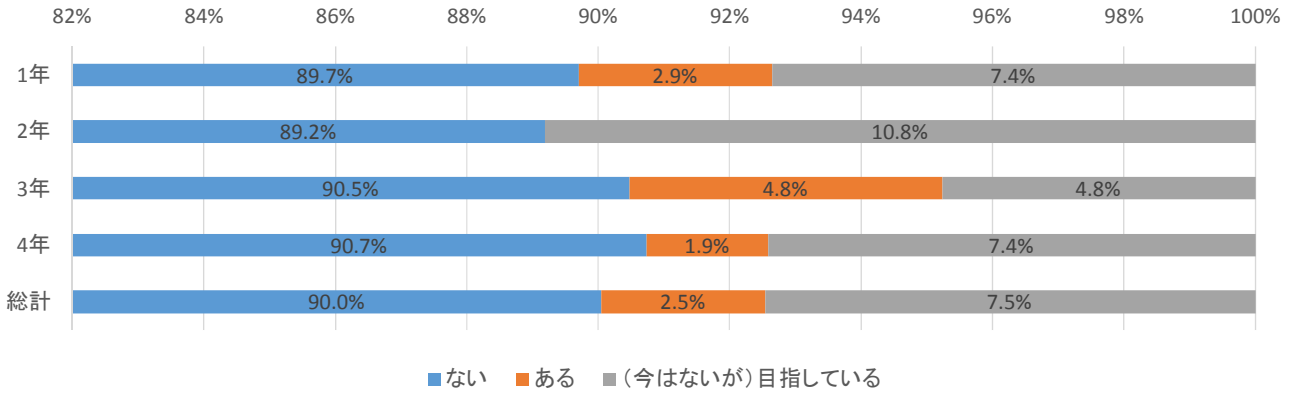


(5)書く力がある。



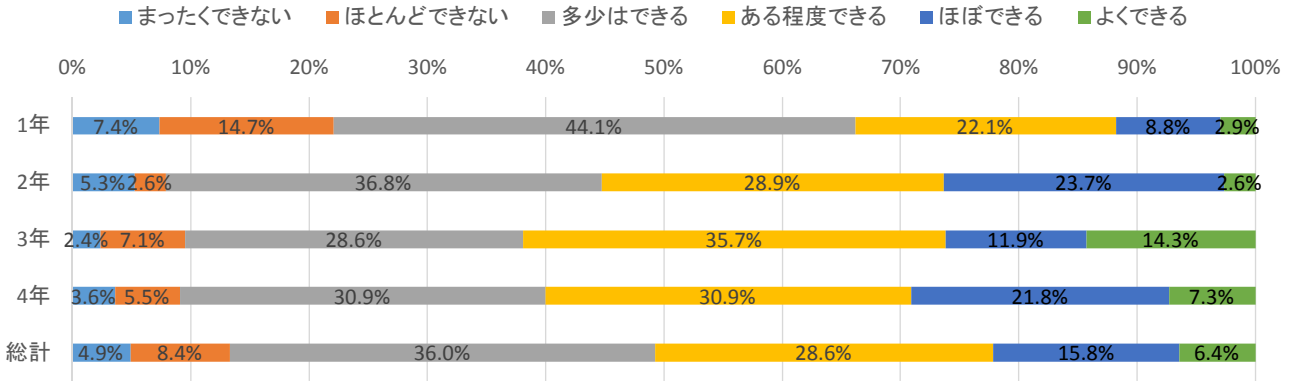
(6)大学入学後に取得した語学の資格がありますか、あるいは検定試験で一定の点数を取ったことがありますか。

（無効回答　2年：1　4年：1　）

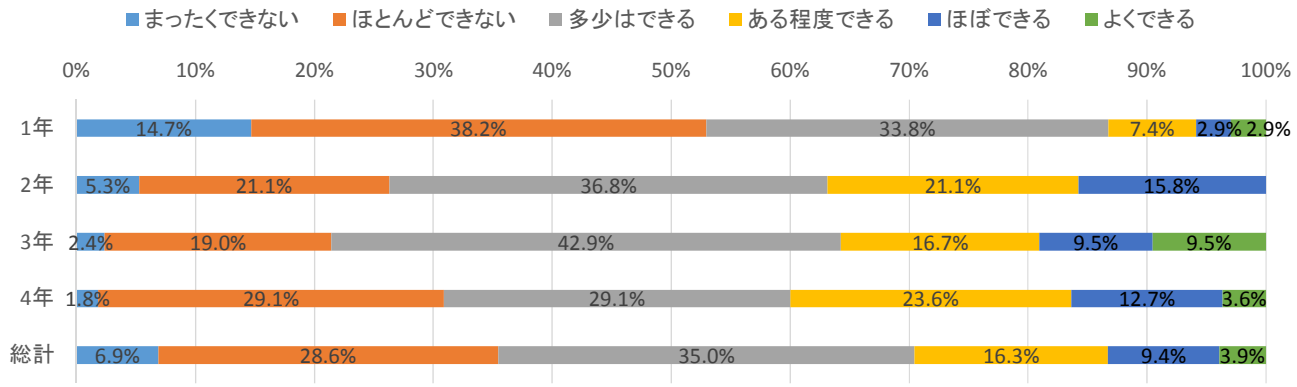


3. ICTリテラシー（＝情報機器やインターネットを使う能力）について

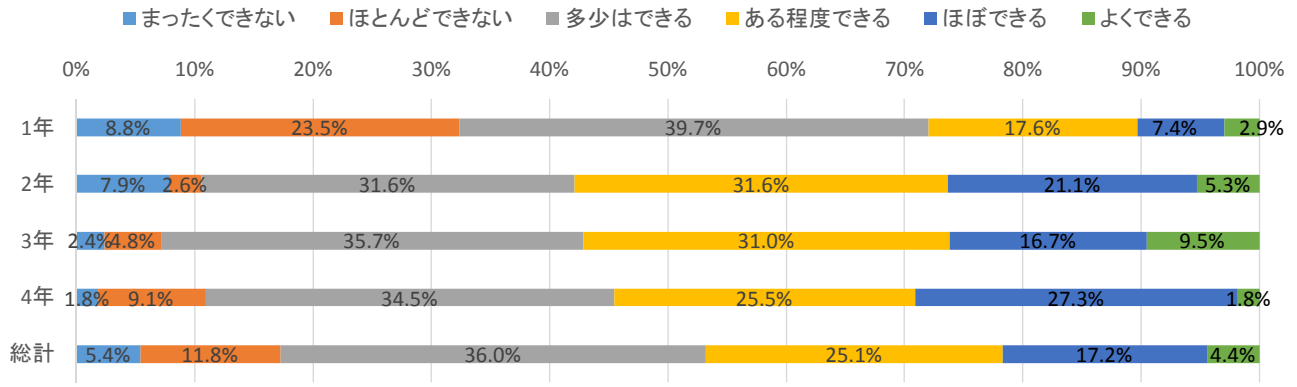
(7)文章作成ソフト（Wordなど）を使って文章を作成することができる。



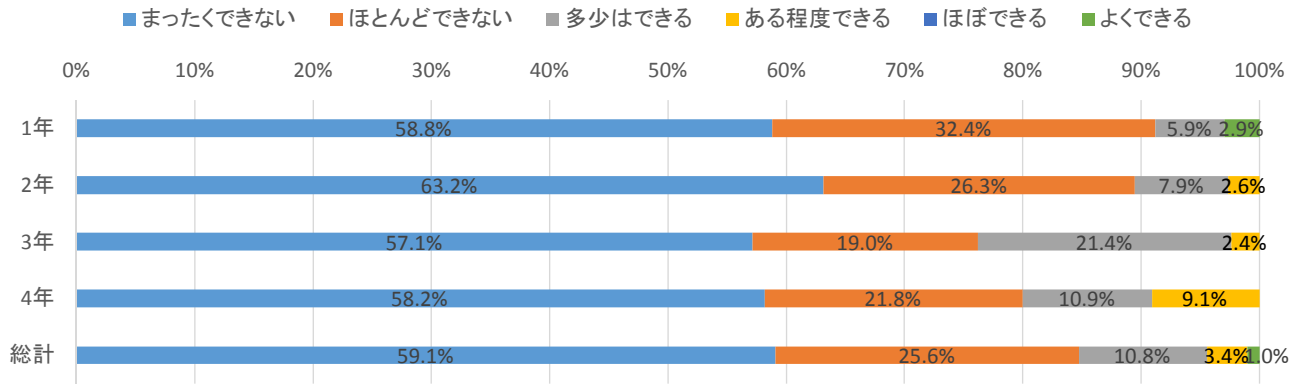
(8)表計算ソフト(Excelなど)を使って図表を作成することができる。



(9)プレゼンテーションソフト(Power Pointなど)を使ってプレゼンテーション用の資料を作成することができる。

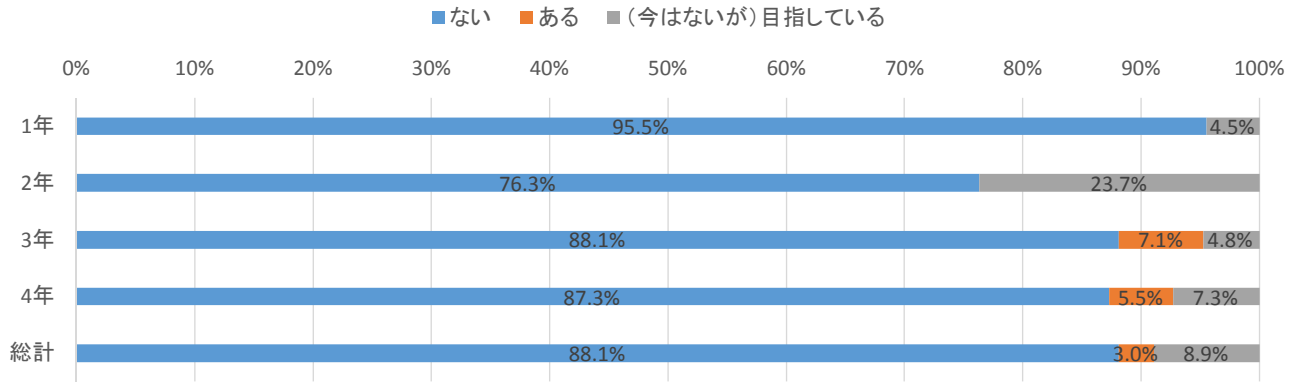


(10)アプリケーションソフトを作成することができる。



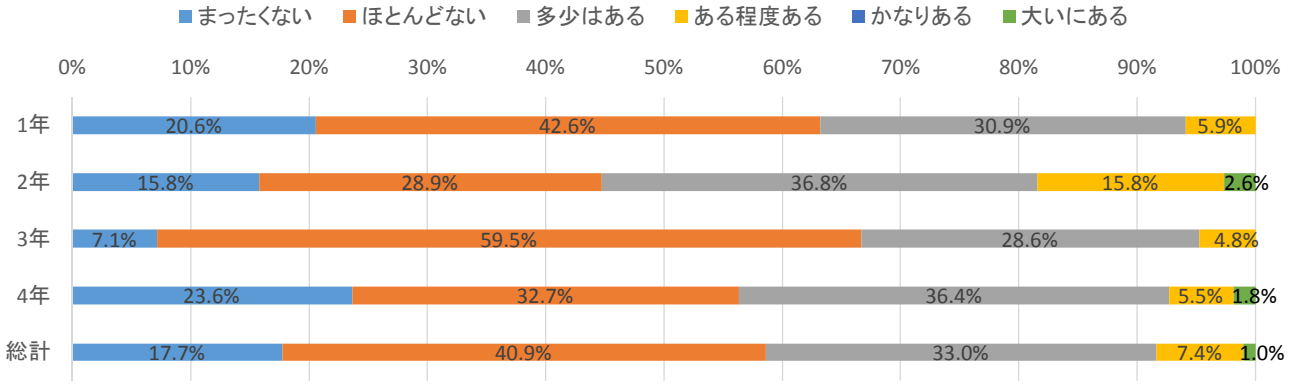
(11)大学入学後に取得したICT関連の資格がありますか、あるいは検定試験で一定の点数を取ったことがありますか。

(無効回答　1年:1　)

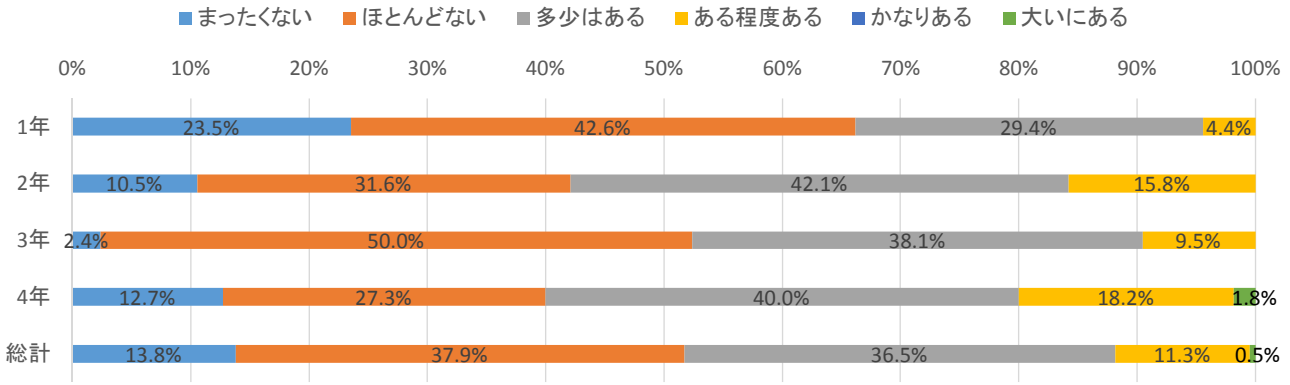


4. 教養・基礎的スキルについて

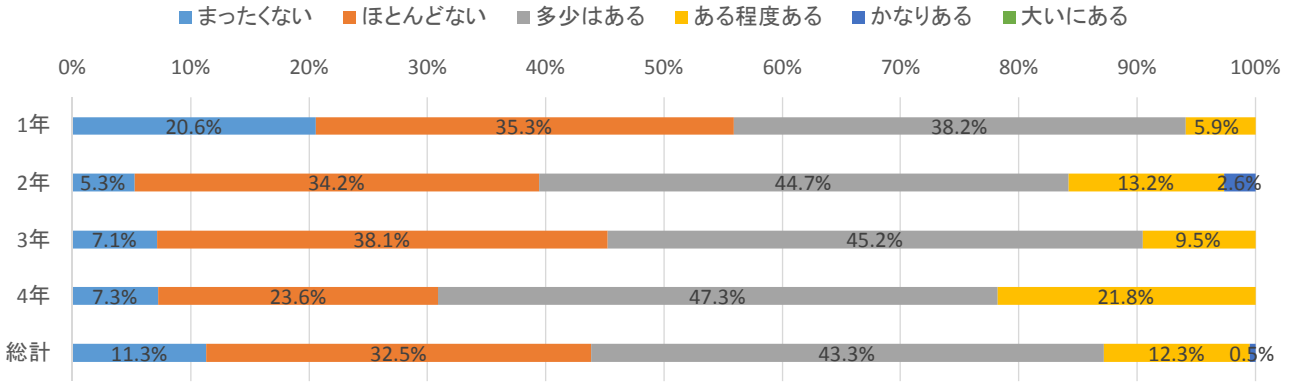
(12)専門分野の知識とは別に幅広い知識や教養がある。



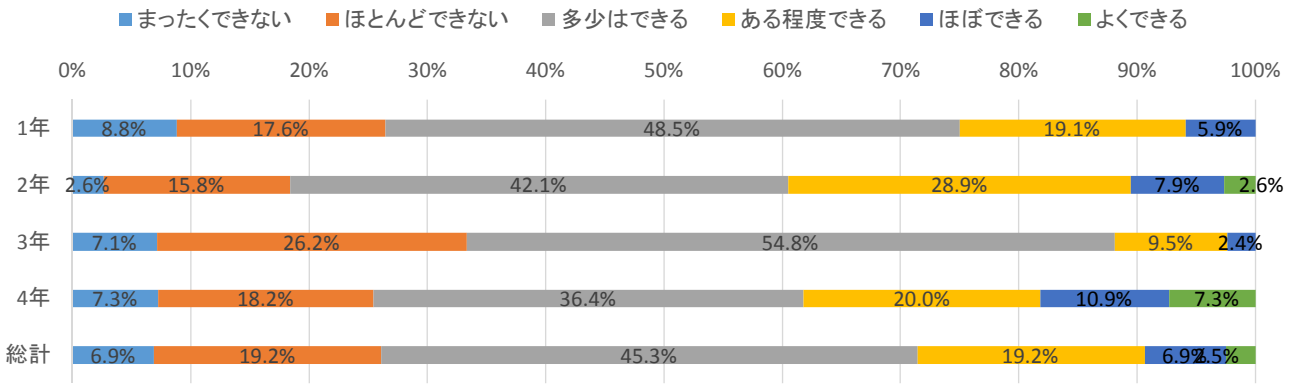
(13)レポートや論文作成に必要な情報収集のスキル(論文、文献、統計などの検索方法など)がある。



(14)レポートや論文などを書くために必要なスキル(書式や作法など)がある。

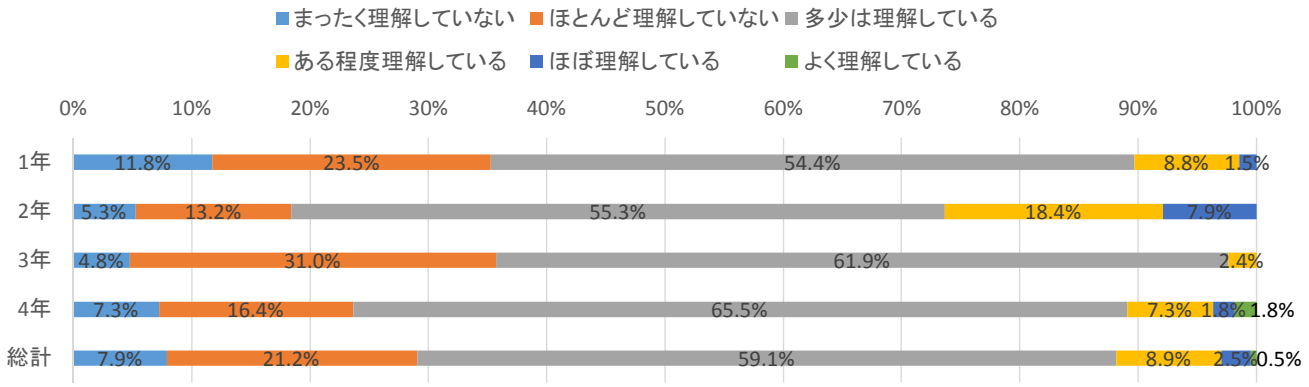


(15)ディスカッションの中で他者の意見をきちんと聞きながら自分の意見を述べ

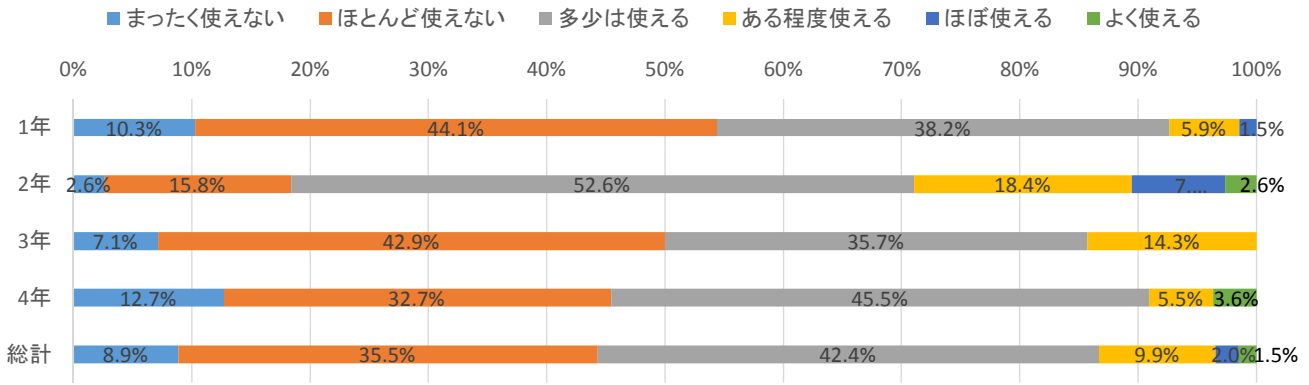


5. 専門知識・専門的スキルについて

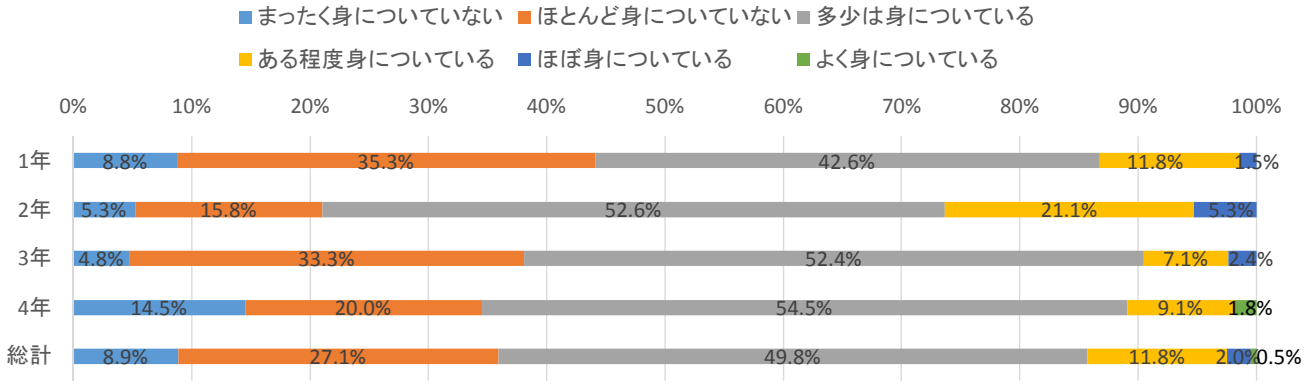
(16)専門知識を理解している。



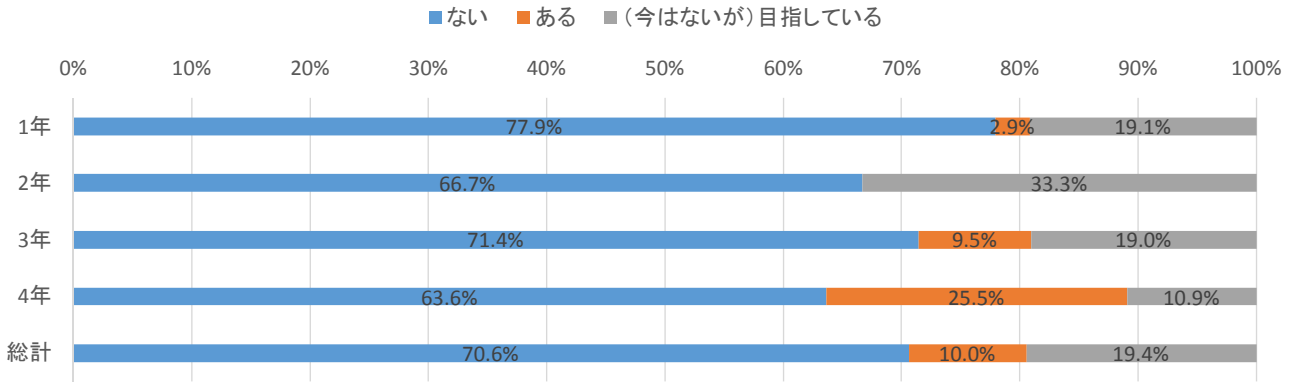
(17)専門知識を実際の場面で使うことができる。



(18)専門的スキルが身についている。

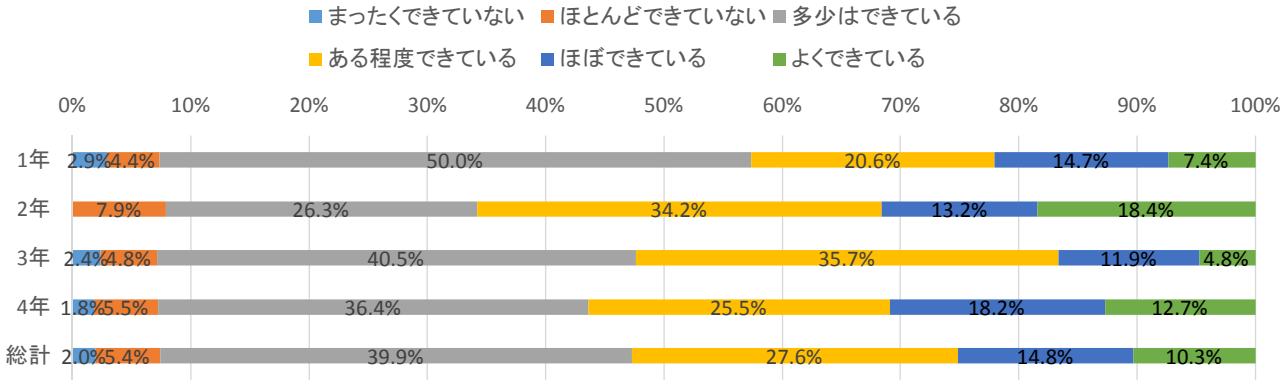


(19)大学入学後に取得した専門分野に関連する資格がありますか、あるいは検定試験で一定の点数を取ったことがありますか。 (無効回答 2年:2)

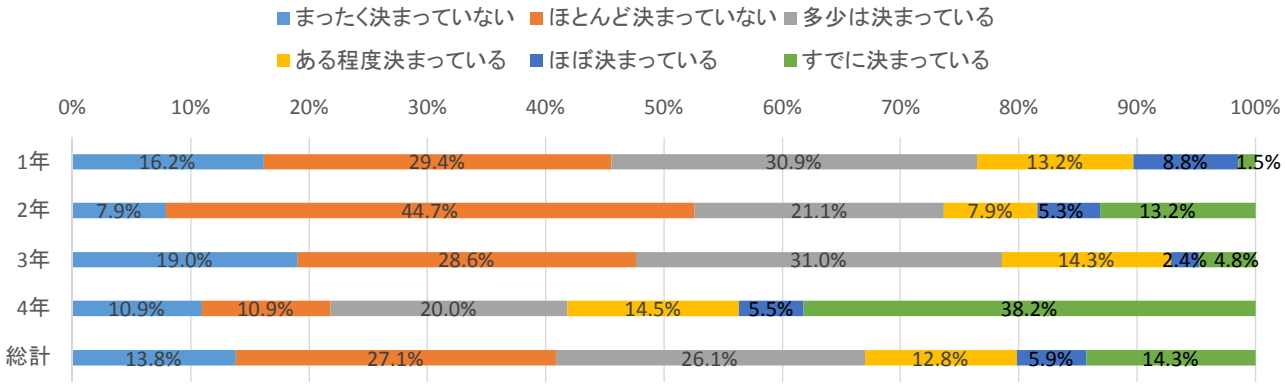


6. 社会で活躍するための力（キャリア教育、社会人基礎力）について

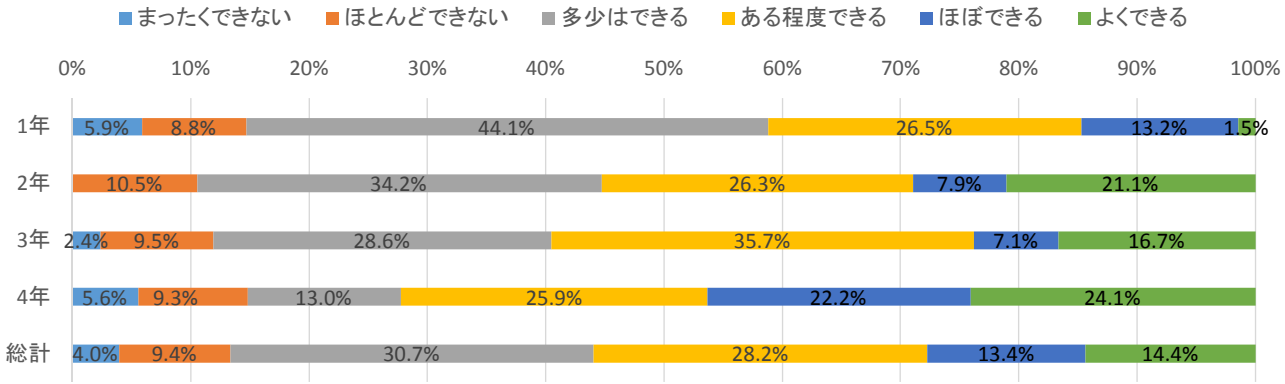
(20)「働く」とはどのようなことかイメージできている。



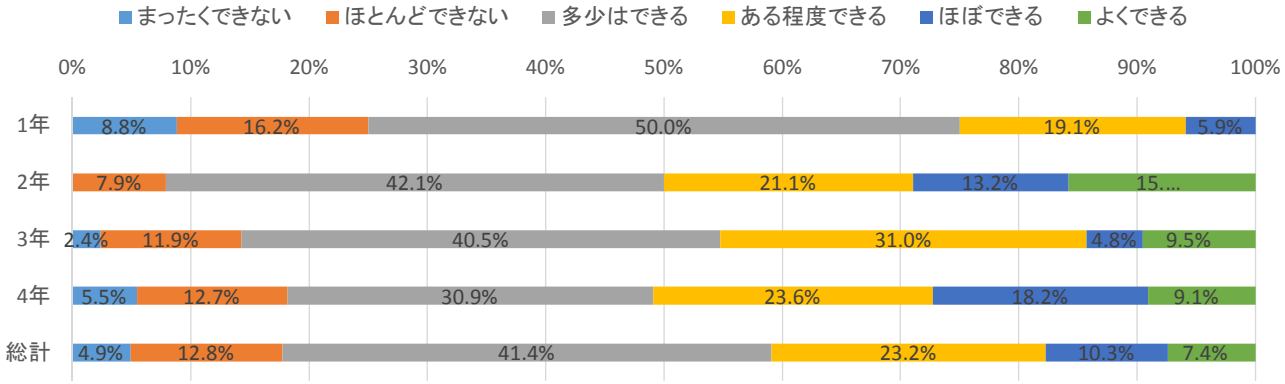
(21)将来の進路が決まっている。



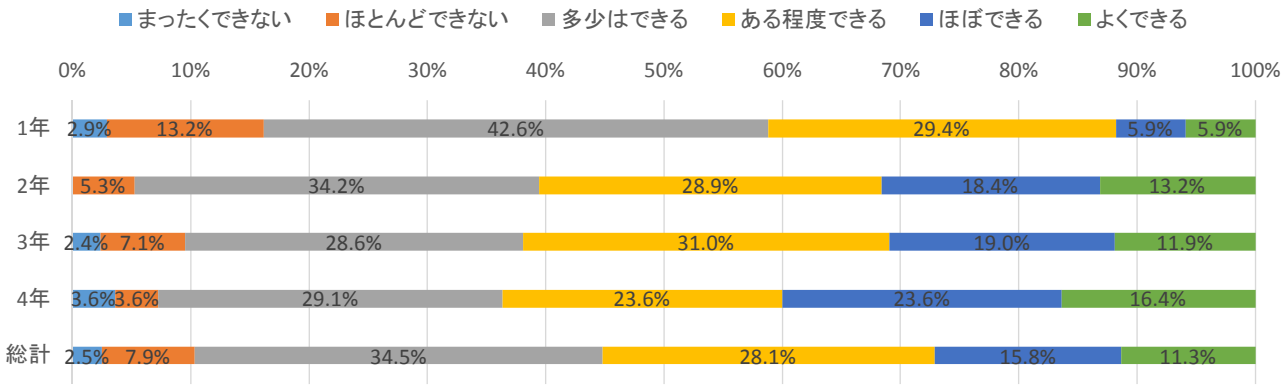
(22)自ら目標に向かってものごとに粘り強く取り組むことができる。　（無効回答　4年：1　）



(23)課題を見つけ出しそれに対する最善の解決方法を考えることができる。



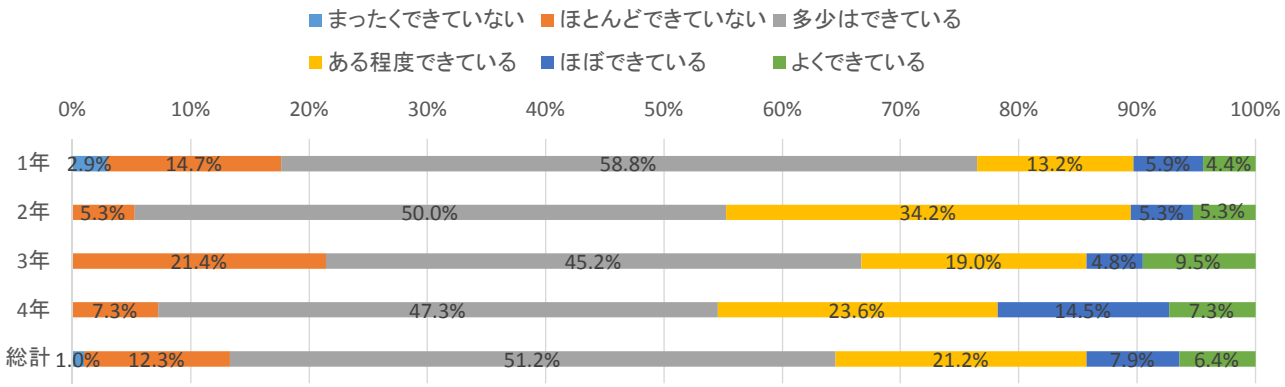
(24)さまざまな考えを持つ人々と意見を交換しながら力を合わせて働くことがで



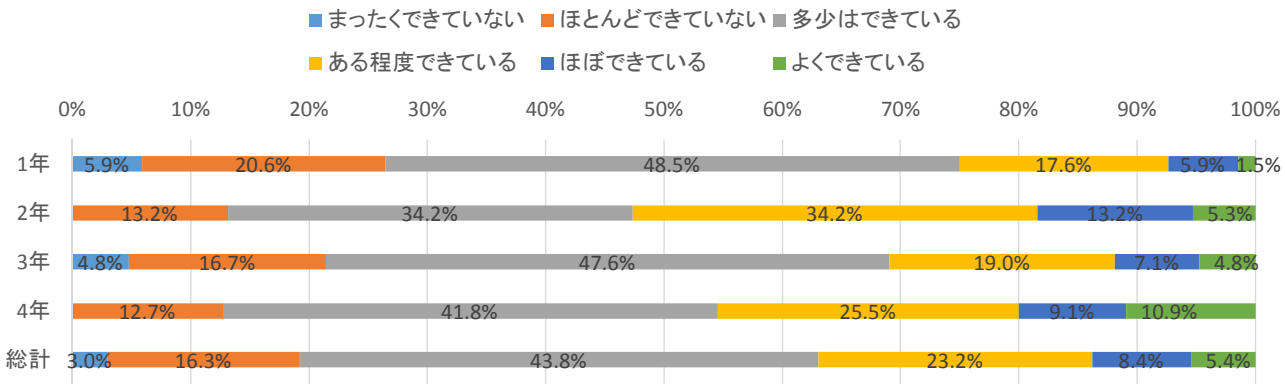
7. 総合力について

・上記の「2」～「6」の学びを通して、以下の力がどの程度身についていると思うかお答え下さい。

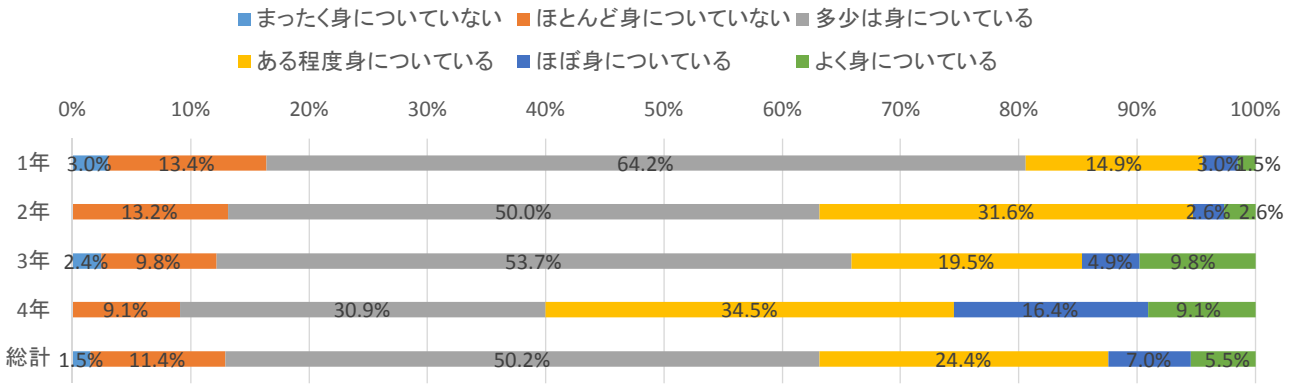
(25)自分自身の「ものの見方・考え方」をつくり上げることができた。



(26)自分の考えを文章や口頭で他者にきちんと説明することができるようになった。

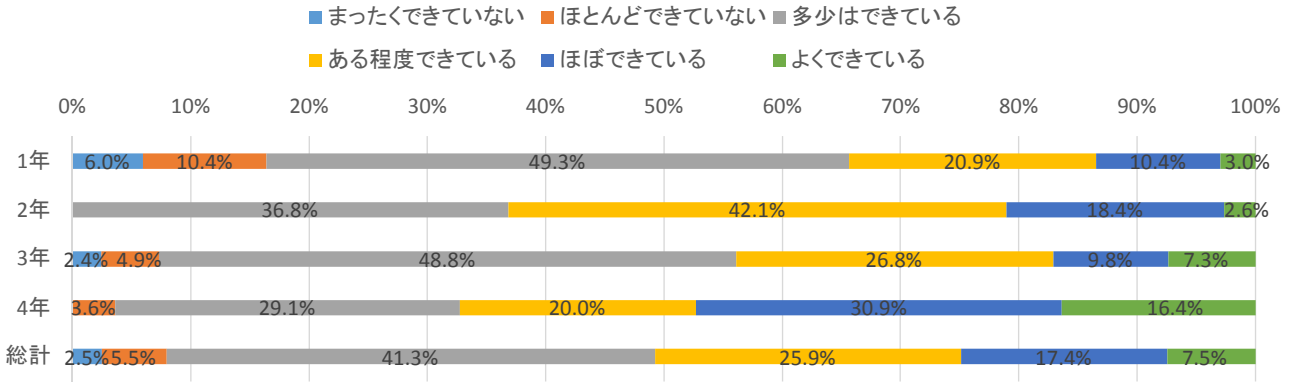


(27)社会に出て仕事や社会的活動を行うために必要な力を身につけることができた。　（無効回答　1年:1　3年:1　）

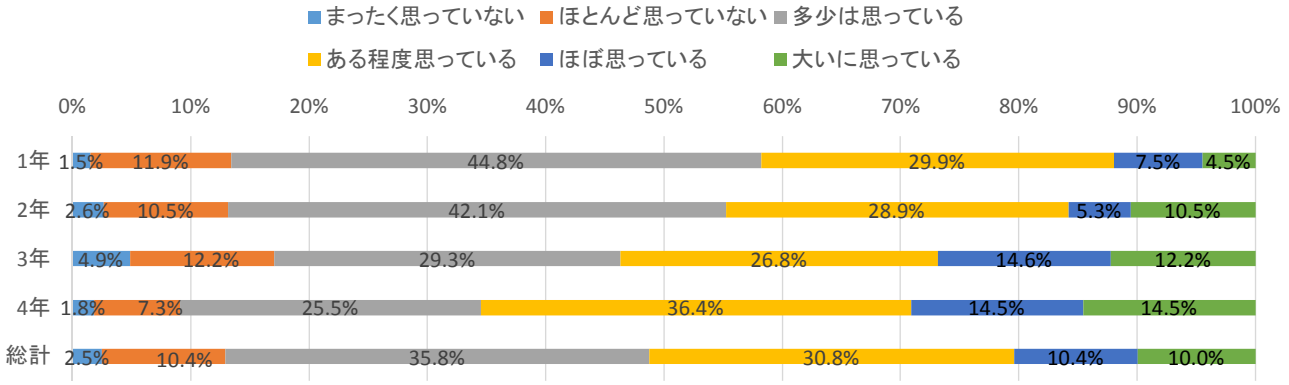


（無効回答　1年:1　3年:1　）

(28)他者とコミュニケーションを図りながら相互理解を深めていくことができるようになった。



(29)東京成徳大学に入学してよかったと思っていますか。　（無効回答　1年:1　3年:2　）



2－3　子ども学部

●子ども学科

（1）調査結果の概要

◆学部全体の特徴

子ども学部の学生の学修環境の特徴として、7 割以上が自室のある実家で暮らしており、通学時間も 1 時間程度で、学修環境は概ね整っていることが確認された。ただし中には自室の無い学生や、通学に 1 時間半以上かかるような、学習環境に課題を抱える学生も 1 割程度確認された。

学修状況については､興味のある授業が｢60～80%｣あるという回答が 4 割でもっとも多く､｢40～60%｣と合わせて 8 割を占め、子ども学部の多くの学生の特徴である、卒業後の進路を意識した上での学部選択であることが授業への関心につながっていることが見て取れた。自発的な学修時間は週に 90 分未満が多くほとんど行えていないようであるが、授業課題に対しては週に 3 時間以上取り組むと回答している学生も 3 割程度いる。本や新聞雑誌を「読まない」と回答している学生が半数以上であることは、保育士・教員を養成する学部としては大きな課題である。子どもの読書活動を推進する立場である職業を目指す学生たちにも、活字離れが広がっていることが見て取れた。

なお本学の教育理念である「共生とコミュニケーション」について、「全く知らない」＋「ほとんど知らない」と回答した学生で半分以上を占めていた。学生の多くが教職を志している以上、自分が通う教育機関の教育課程全体について見通しをもてるようにすることが課題として浮かび上がった。また東京成徳大学に入学したことの評価については、全体として、「入学してよかった」と「大いに思っている」が 13.7%、「ほぼ思っている」が 19.3%、「ある程度思っている」が 29.0%であり、「多少は思っている」が 31.1%と最も多く、概ね肯定的な評価であった。

◆学年間の比較

授業全体の難易度について、1 年生は 4 割程度が「やや難しい＋難しい」と感じているが、学年が進行するにつれ「難しい」と感じる割合は減少している。授業内容は学年が上になるほどより専門的に高度化するように設計されており、授業内容自体の難度は上がっているはずだが、学生は学年が上がるごとに大学での学修活動に慣れ専門性を深めていることの現れと考えられる。

またアルバイトについては、学年が進行するにつれ活動時間が増え、とくに 3 年生がもっとも長く、週 20 時間以上が 37.5%、週 25 時間以上が 15%存在するなど、非常に活発に行われていることがわかった。アルバイト活動は大学生にとって貴重な社会経験の場であり、また昨今の学生の経済状況の逼迫を反映した活動状況であるとも考えられるが、アルバイトが学修活動の妨げにならないよう指導していきたい。

なお教養・基礎的スキルとしてのレポート作成やプレゼンテーション・ディスカッションなどについても、また専門知識・専門的スキル（知識の理解、知識の応用、スキルの定着）についても、学年が上がるほどに身についていると感じる割合が高くなっている。さらに、学年が上であるほど将来に向けた見通しをもつことができるようになり、また問題解決を図ることもできると感じられるようになるなど、自らの学修成果を自覚することができるようになってくる。これらは、4 年間の学生生活を通して、学修活動の成果の蓄積が学生に自覚されていることを示しており、現在の教育課程を通して学生は概ね順調に学修成果をあげていると判断できる。

（２）課題と対応

本調査から明らかとなった課題として、主に以下の 3 点をとりあげたい。全体として学年が上がるほどに学修活動を積み重ね、学生自身が学修成果を実感できるようになっていることがわかり、学部としての教育活動は概ね効果をあげていることが確認された。学生による能力の自己評価については、自己評価が高すぎるということもなく、妥当な肯定的評価ができていることが読み取れた。今後も、教養・基礎的スキルについても専門的知識スキルについても、ますます学修成果を着実に蓄積しかつそれを学生が実感できるような学修活動の運営を心掛けたい。具体的には、学生自身が、かつて自分が知らなかったこと、できなかったことが、わかるようになった、できるようになったことを感じられるような授業運営を工夫したい。またとくに専門性については、現時点で問題の無い水準で身についているものと思われるが、今後は、他の保育者養成・教員養成学部との差異化も含め、専門性をさらに確実に身につけつつ子ども学部ならではの特色ある学びを学生自身が実感できるようにしたい。

第二に、学生の読書活動をいかに推進していくのかが学生生活における大きな課題として浮かび上がった。情報収集や娯楽といえばまずインターネットの利用に結びついている学生の現状が明らかとなった。インターネットによる情報検索については指導が必要であり、また図書資料の意義やそれらを用いた調査方法の適切性について、より授業等で積極的に言及するようにしたい。

最後に、東京成徳大学に入学して良かったと思うかどうかという設問に対し、「まったく思っていない」＋「ほとんど思っていない」という学生は、きわめて少ないながらも、学年により 4.5%から 8.4%程度は存在することが確認された。こうした否定的な回答は、調査への回答に際し強制力が働かなかったことの証拠として、調査自体の信頼性を高めるものではある。そのうえで、こうした学生が少数ながら存在することは真摯に受け止めたい。ほとんどの学生は多少なりとも本学への入学を肯定的に評価していることから、現在の子ども学部の基本的な教育方針・教育方法の適切さを継続しながらも、学部としては、少しでも全ての学生の学生生活への満足度をさらに高められるよう努力していきたい。

学修調査（行動・成果調査） 子ども学科 【割合】

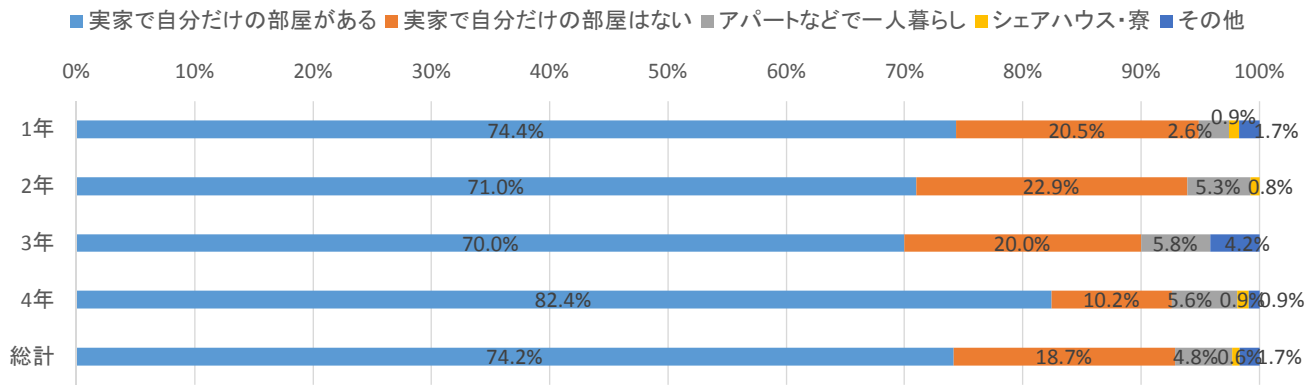
【回答者数】（人）

	男性	女性	計
1年	14	103	117
2年	8	123	131
3年	13	107	120
4年	8	100	108
計	43	433	476

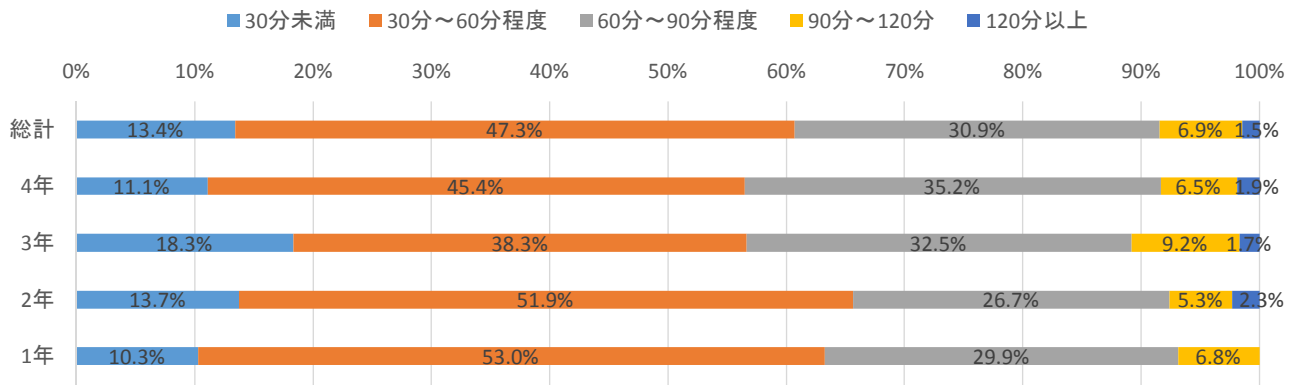
	AO	推薦（公募・指定）	一般	センター	社会人 外国人	編入	計
1年	40	49	25	3	0	0	117
2年	39	39	52	1	0	0	131
3年	30	36	53	0	0	1	120
4年	23	41	42	2	0	0	108
計	132	165	172	6	0	1	476

【学修行動調査】（%）

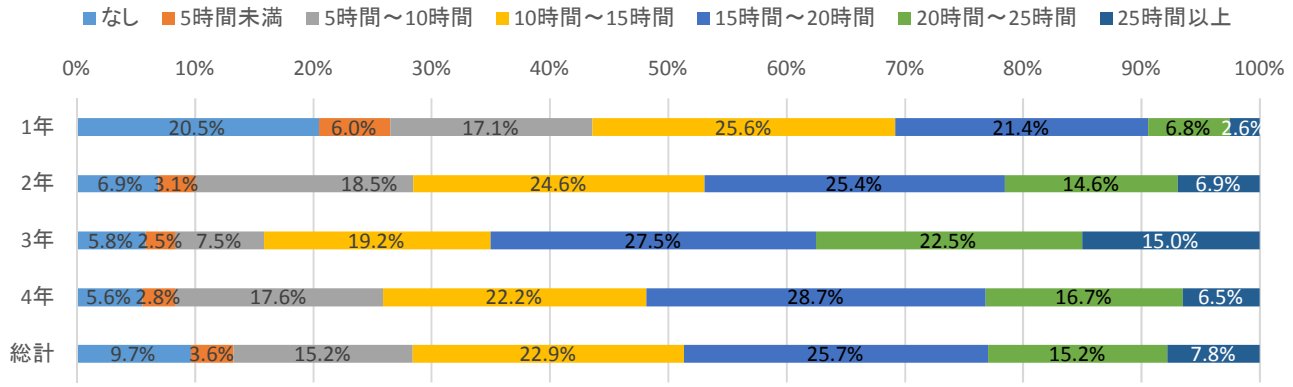
1.あなた自身について
(1)学修環境



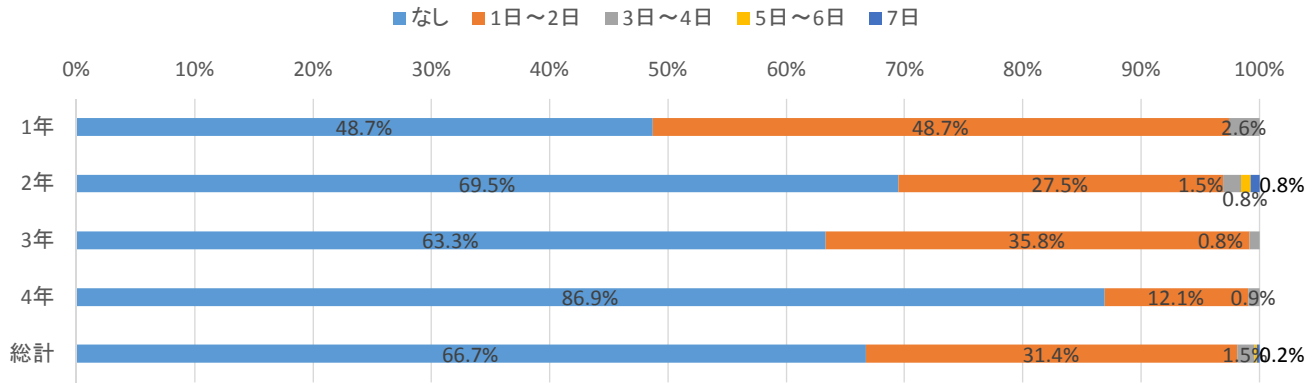
(2)通学時間（家から大学まで）



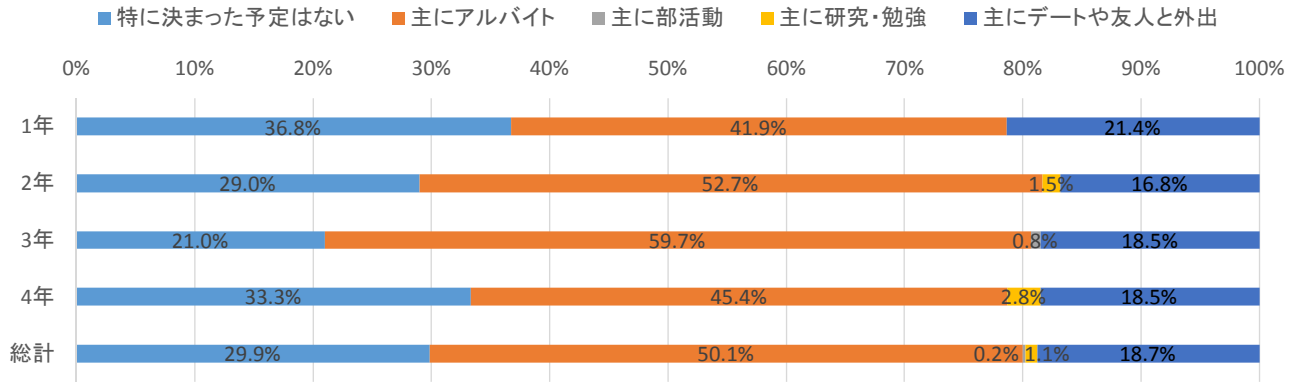
(3) 1週間あたりのアルバイト（時間）　（無効回答　2年：1）



(4)1週間あたりの部活・サークル活動や学外のクラブなどの活動　（無効回答　4年：1）

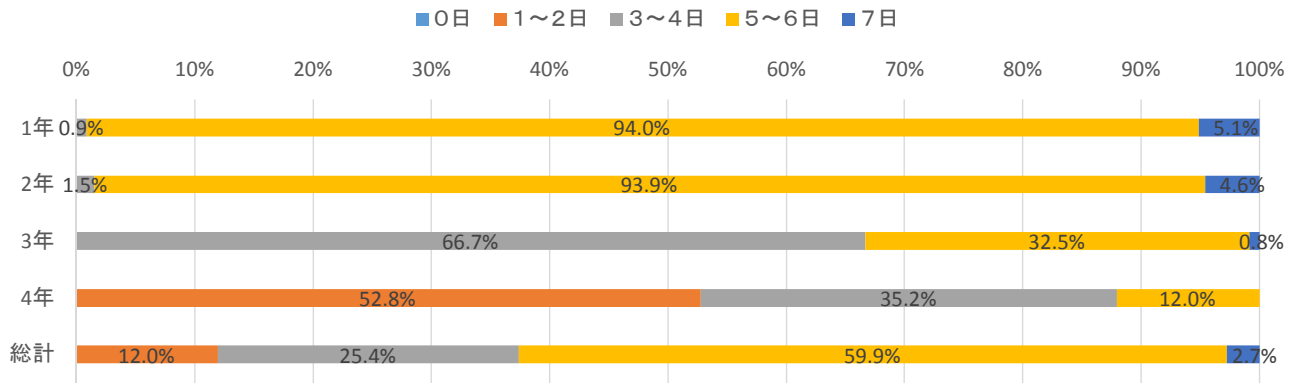


(5)休日の過ごし方　（無効回答　3年：1　）

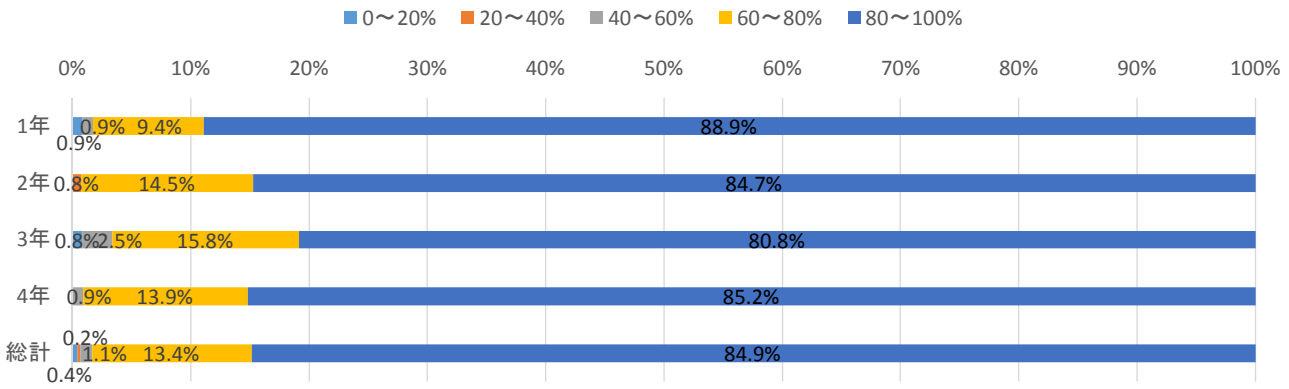


2. 1週間（平均的な）における大学内での学修について

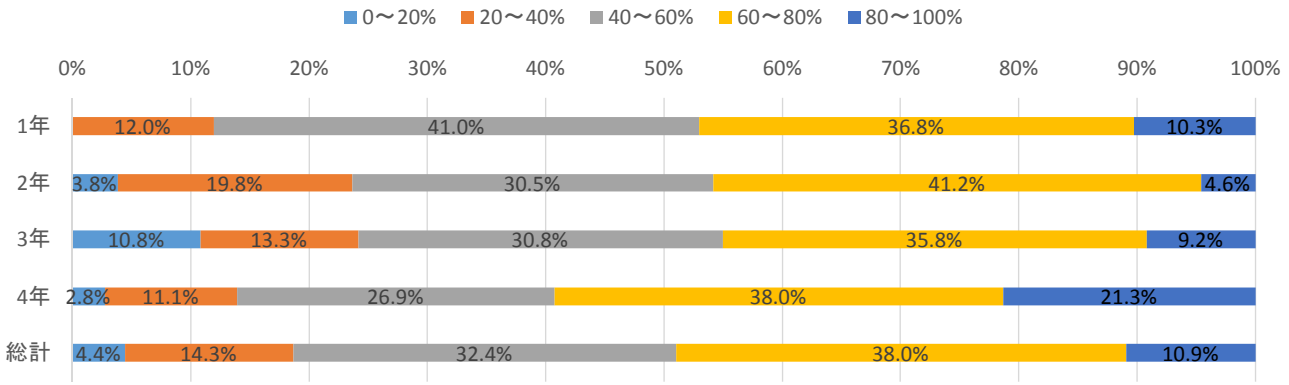
(6) 大学に何日登校しましたか



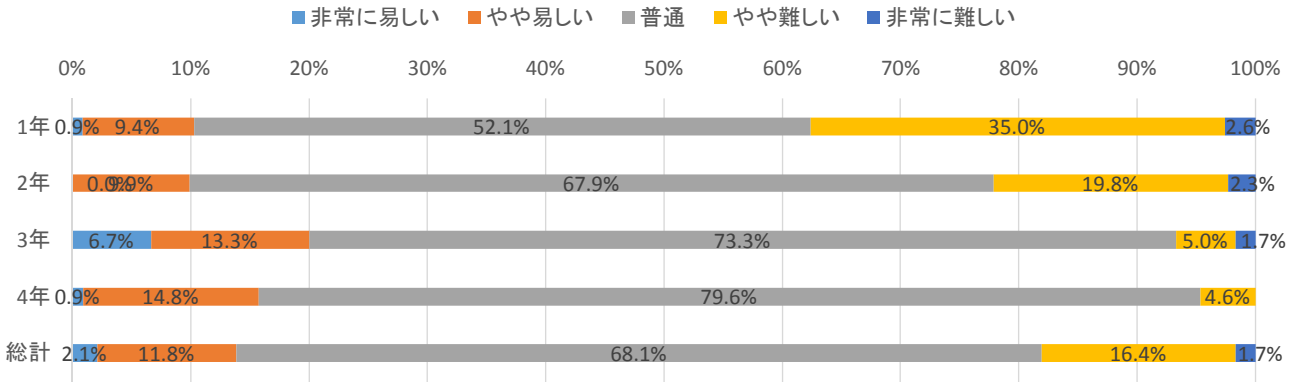
(7) 授業に出席した割合は



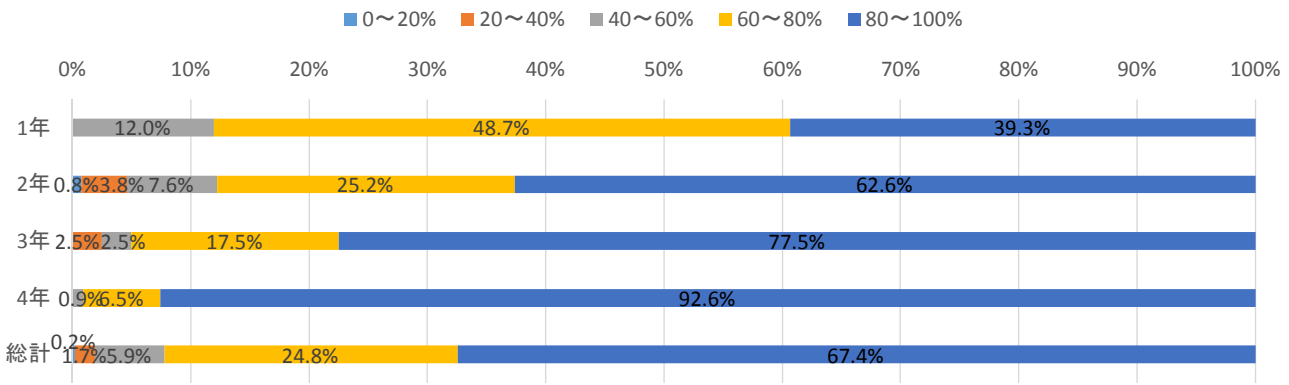
(8) 興味のある授業の割合は



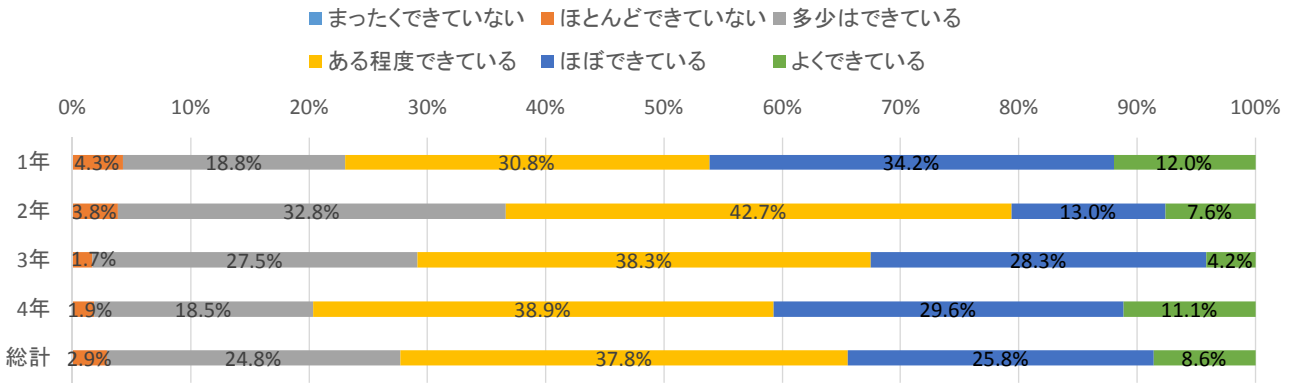
(9) 授業全体の難易度は



(10) 4年間で卒業できる自信は

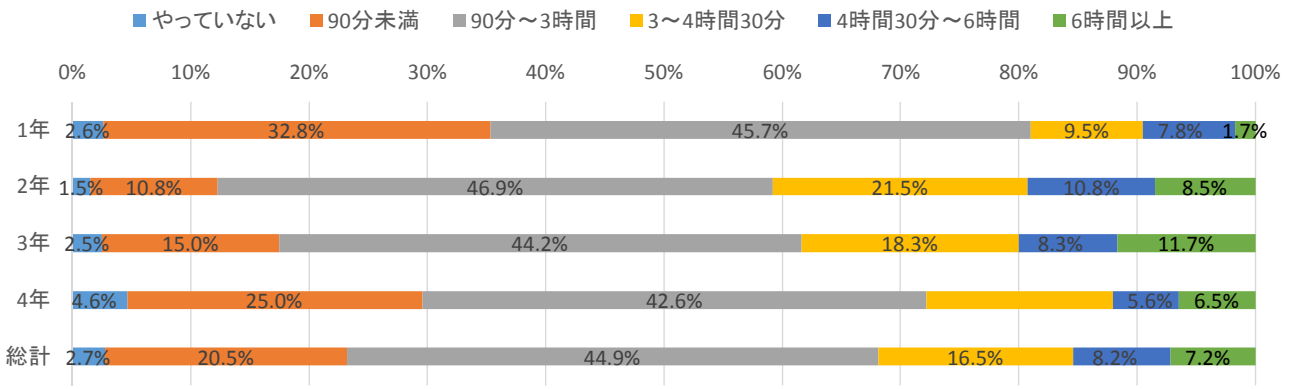


(11) 授業には積極的に取り組みましたか

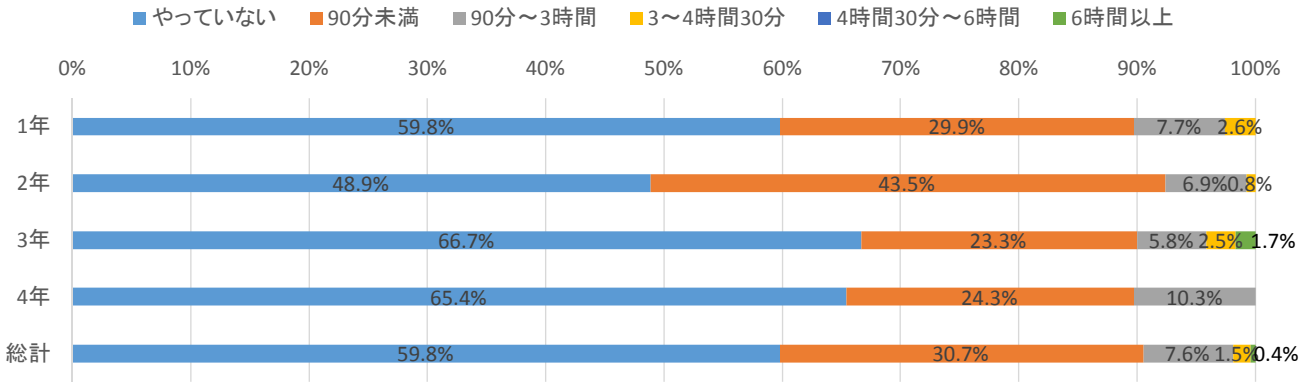


3. 1週間（平均的な）における教室外での学修時間について

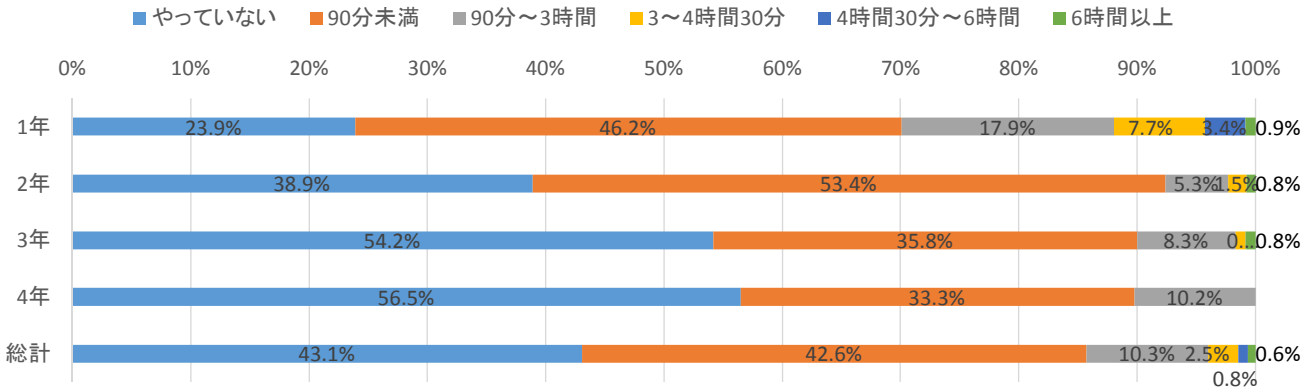
(12) 先生に指示された授業の発表の準備、課題やレポート、宿題を1週間合計でどのくらいやりました（無効回答　1年：1　2年：1　）



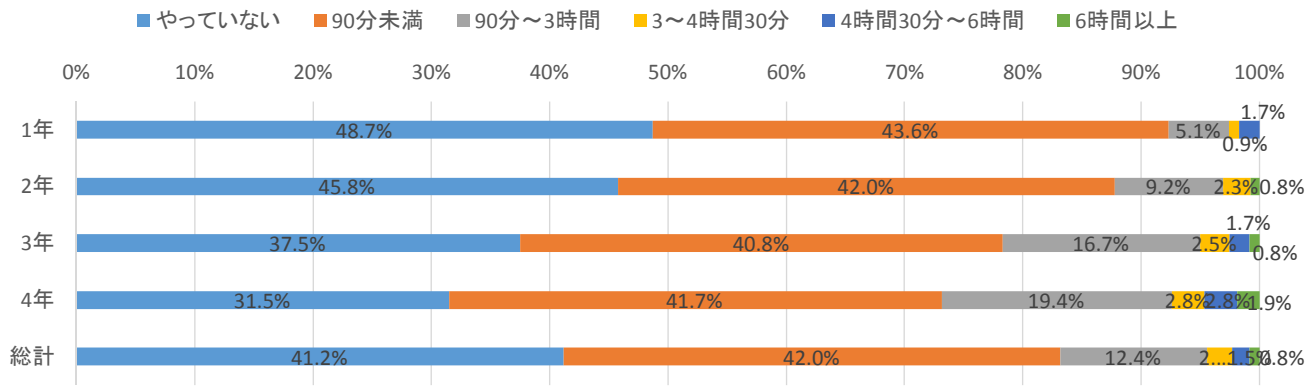
(13) 授業の予修を自発的に1週間合計でどのくらいやりましたか　（無効回答　4年：1　）



(14) 授業のノートの整理や復修を自発的に1週間合計でどのくらいやりましたか

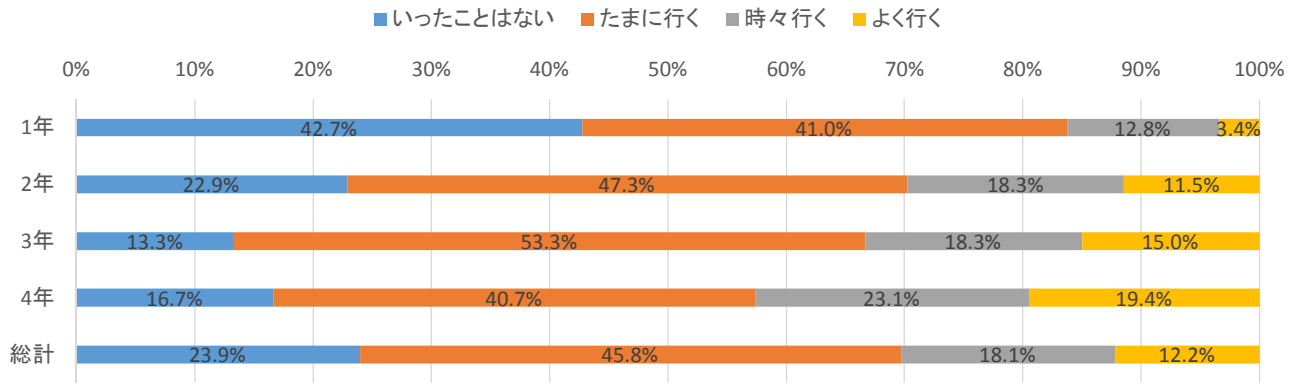


(15) 授業に関連する資料や本を探したり、調べたりすることを1週間合計でどのくらいやりましたか

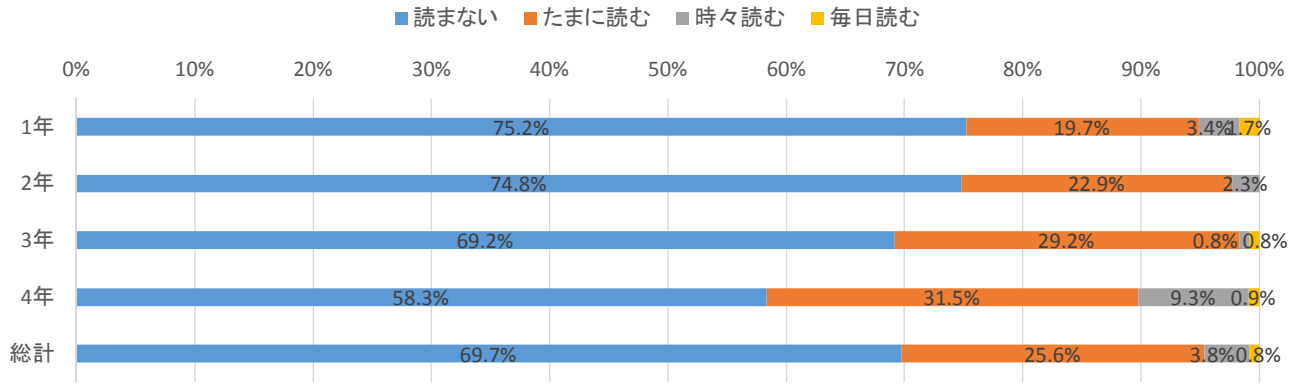


4. 授業以外の学修活動や普段の行動

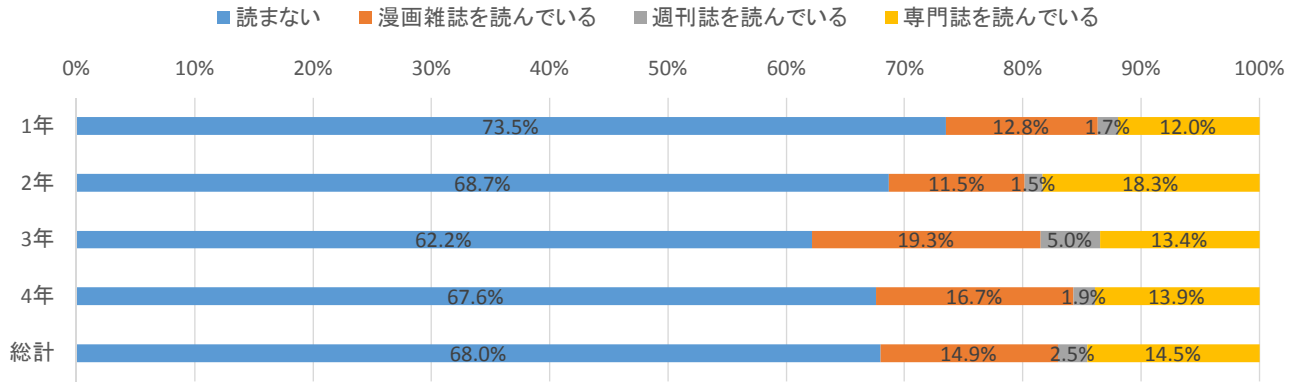
(16) 大学外の図書館や美術館・博物館等の文化施設、研修会・講演会などへの参加、音楽会・コンサート、スポーツの大会などや、サークル活動や授業以外でのボランティア活動に



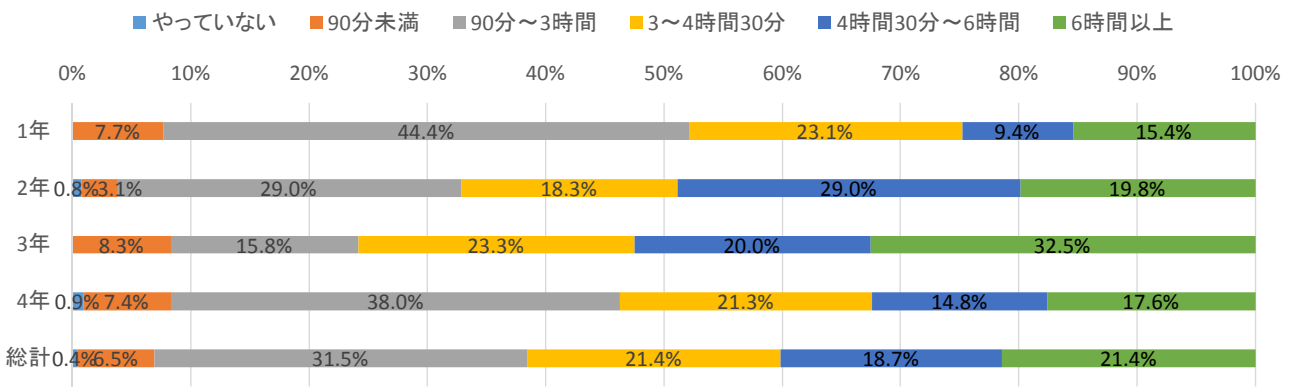
(17) 新聞を読んでいますか



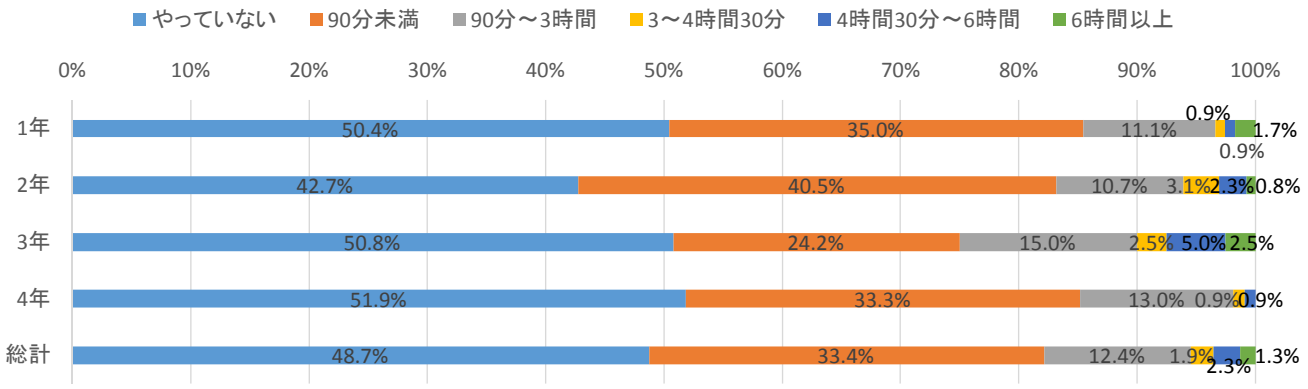
(18) 定期的に読んでいる雑誌、週刊誌は　　(無効回答　3年:1)



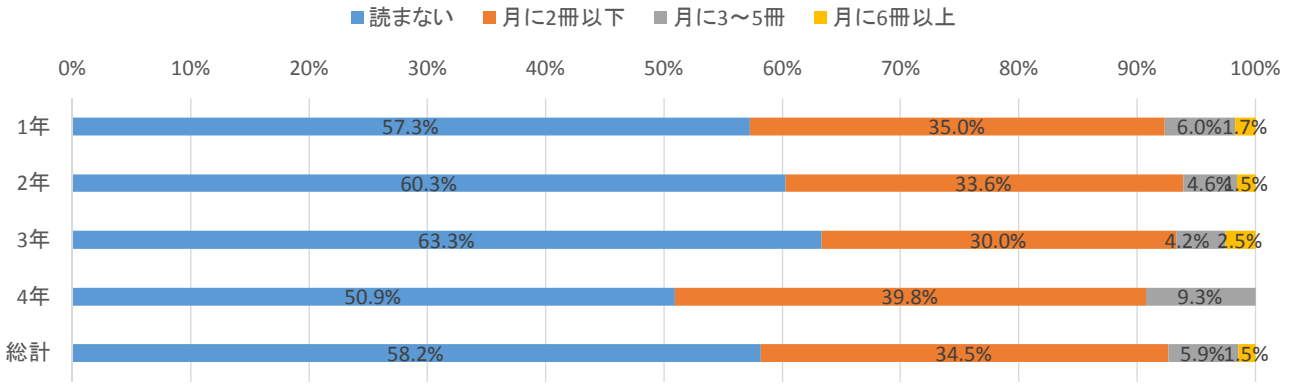
(19) インターネット（LINEやその他SNSを含む）を1日にどのくらい使っています;



(20) ゲーム（オンラインゲームを含む）を1日にどのくらいやっていますか



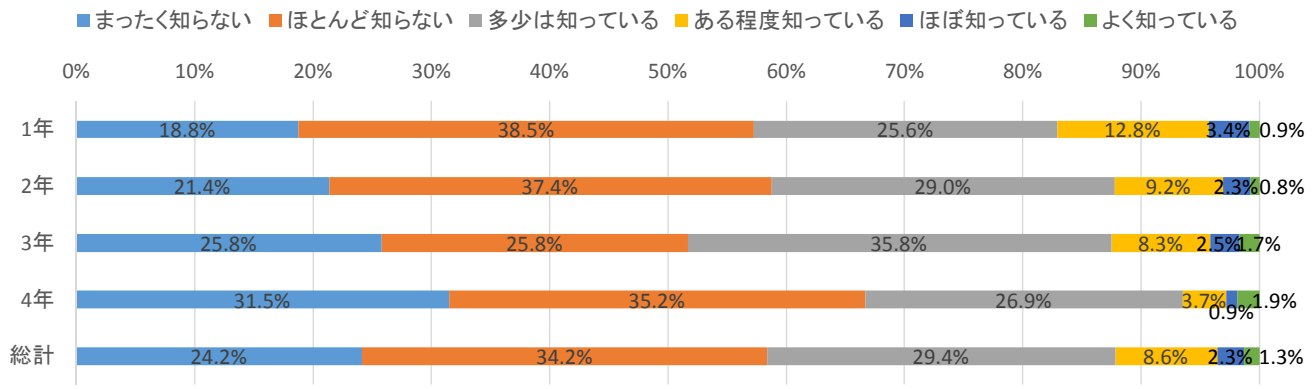
(21) 本をどのくらい読んでいますか



【学修成果調査】(%)

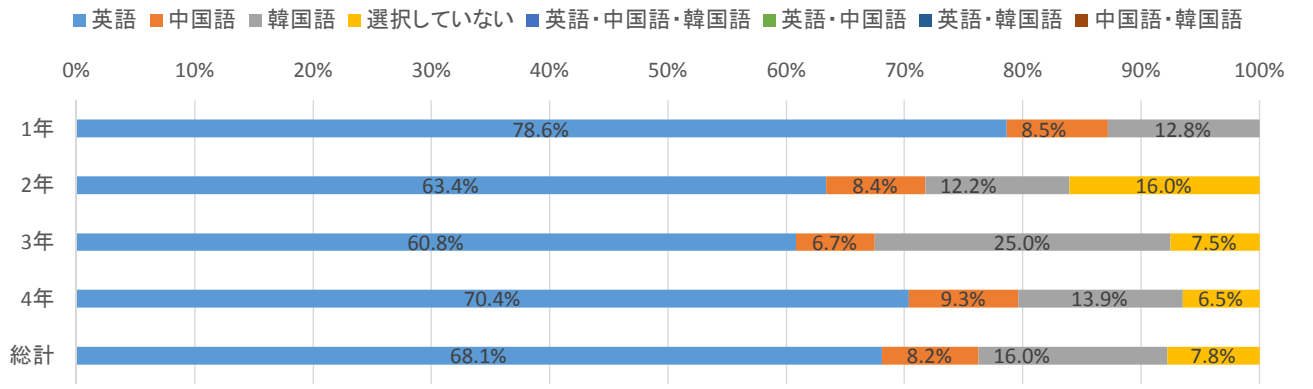
1. 教育理念について

(1)本学の教育の基本理念「共生とコミュニケーション」を知っていますか。

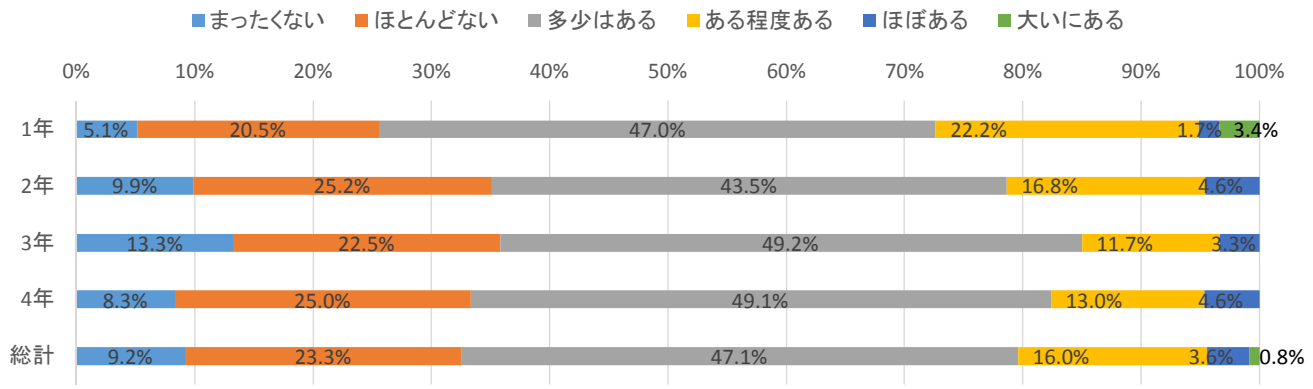


2. 外国語能力について

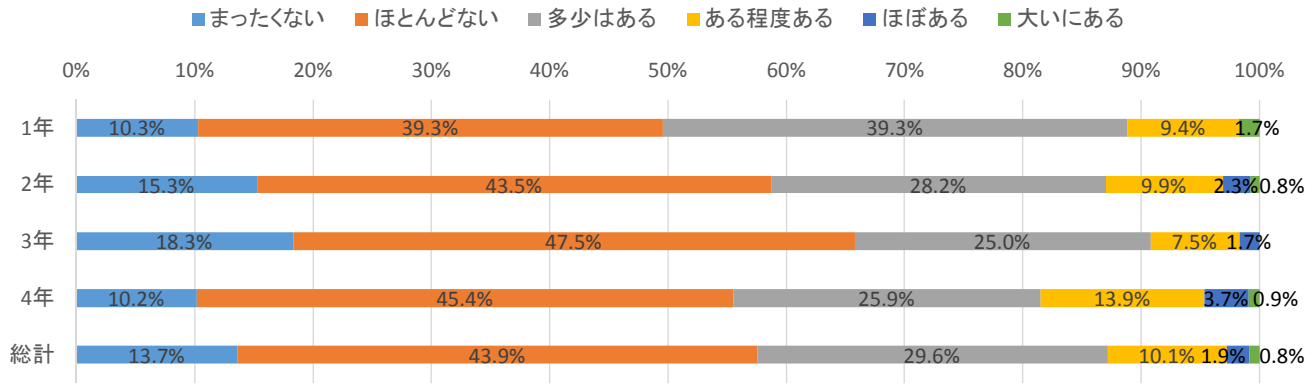
(2)外国語の授業を選択していますか・いましたか。



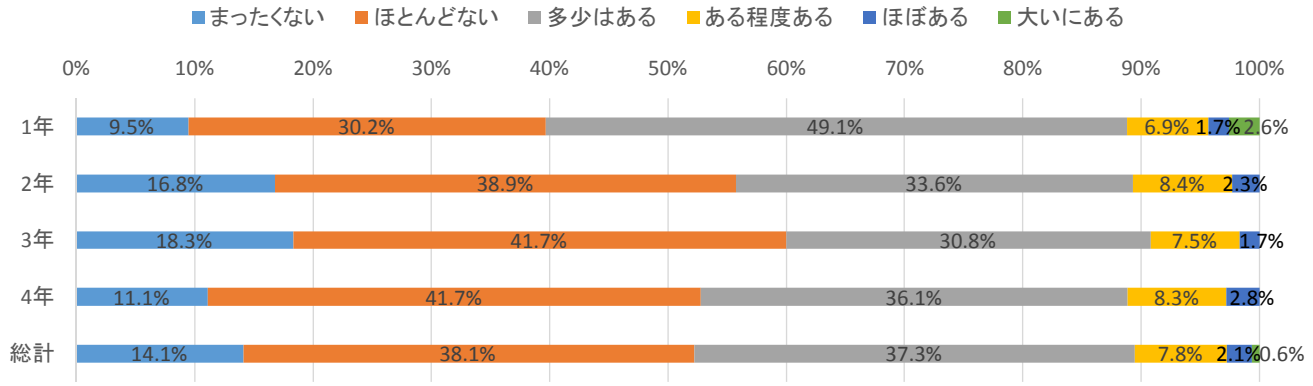
(3)読む力がある。



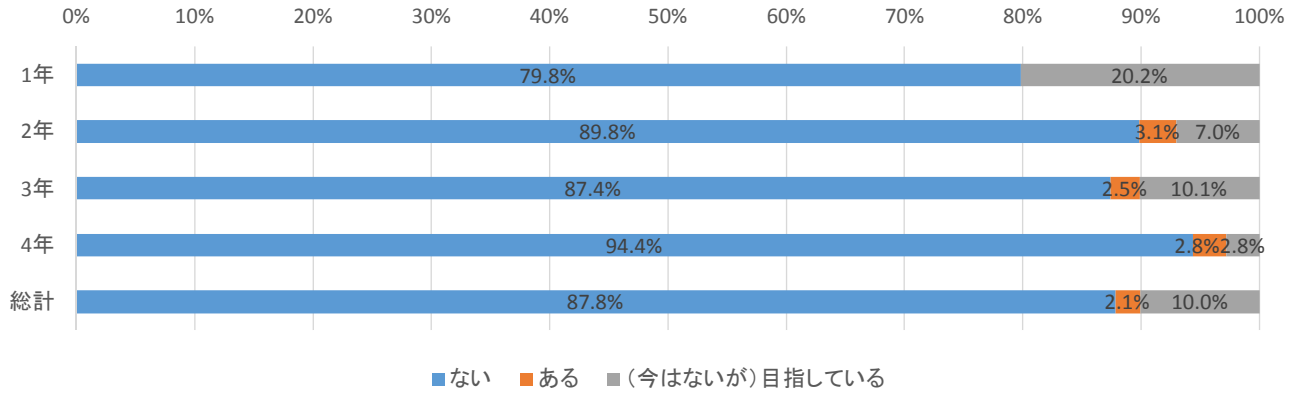
(4)会話力（話す、聞く）がある。



(5)書く力がある。　（無効回答　1年：1　）

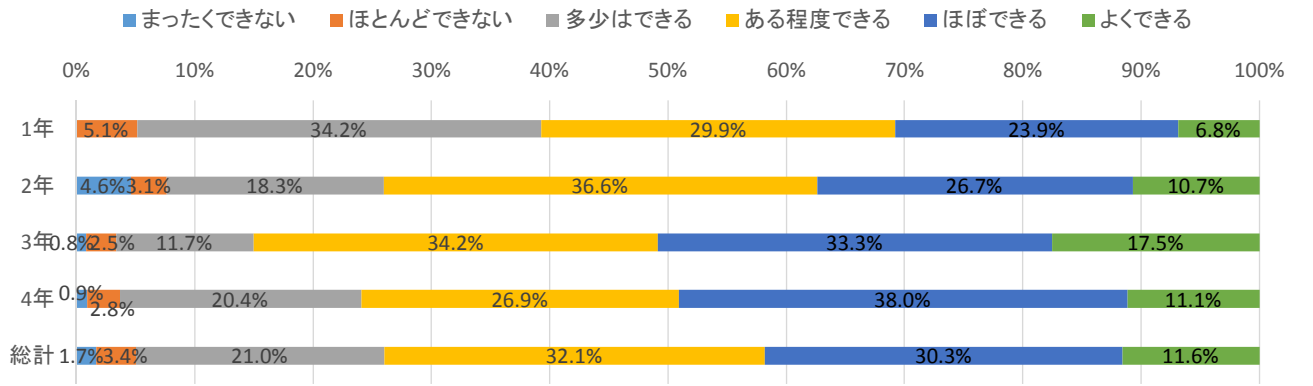


(6)大学入学後に取得した語学の資格がありますか、あるいは検定試験で一定の点数を取ったことがありますか。
（無効回答　1年：3　2年：3　3年：1　4年：1　）

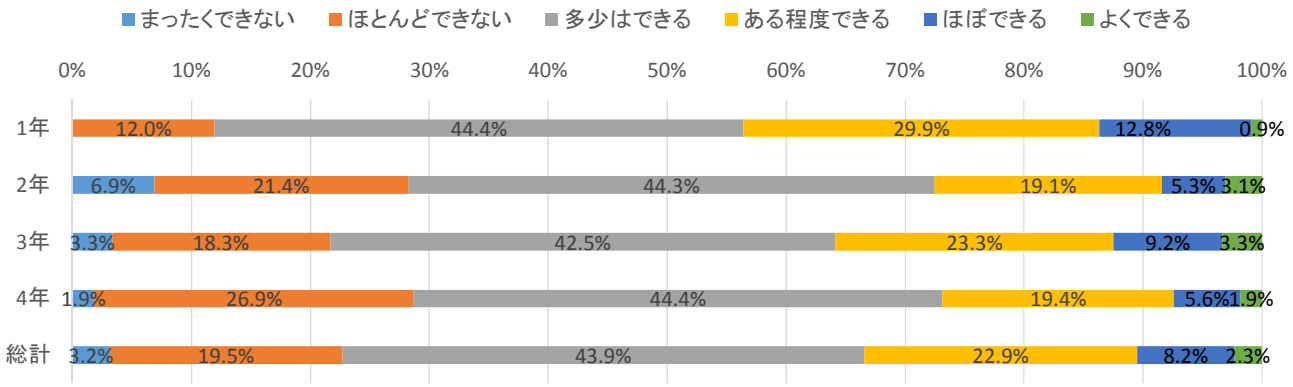


3. ICTリテラシー（＝情報機器やインターネットを使う能力）について

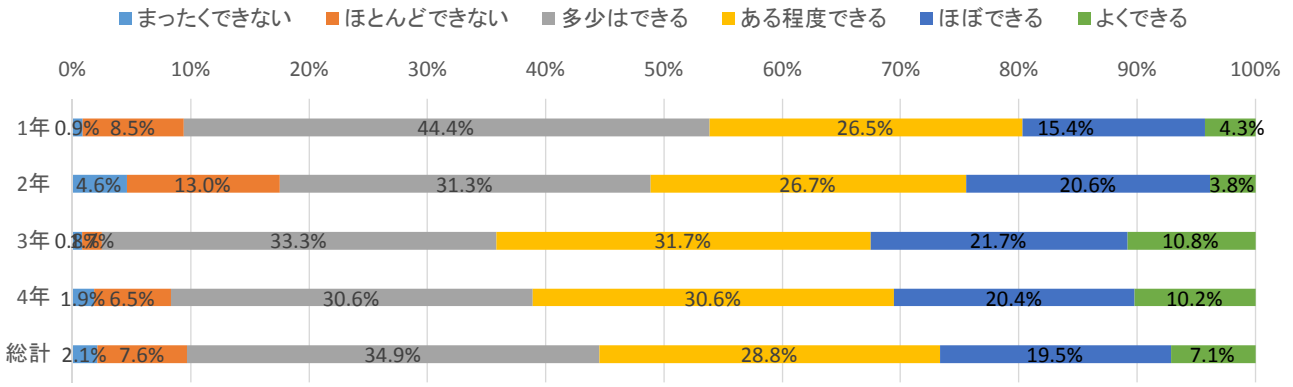
(7)文章作成ソフト（Wordなど）を使って文章を作成することができる。



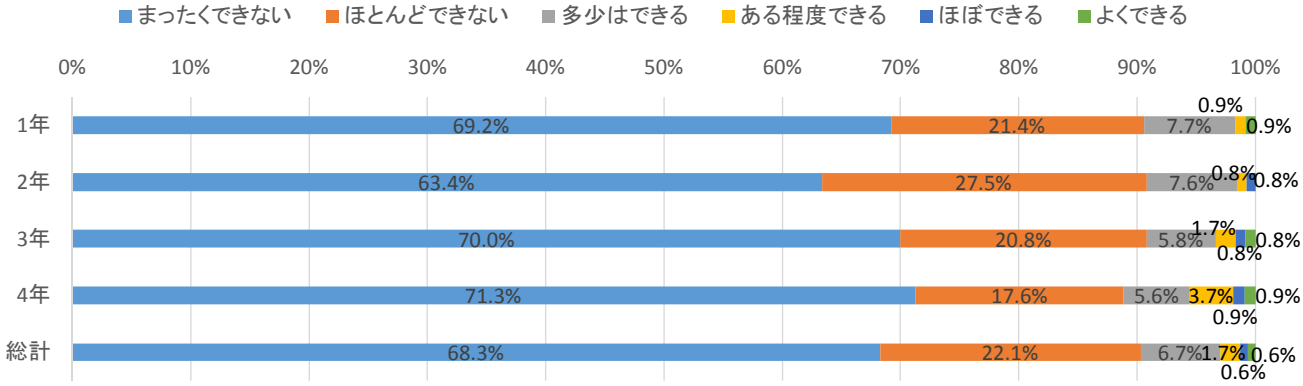
(8)表計算ソフト（Excelなど）を使って図表を作成することができる。



(9)プレゼンテーションソフト（Power Pointなど）を使ってプレゼンテーション用の資料を作成することができる。

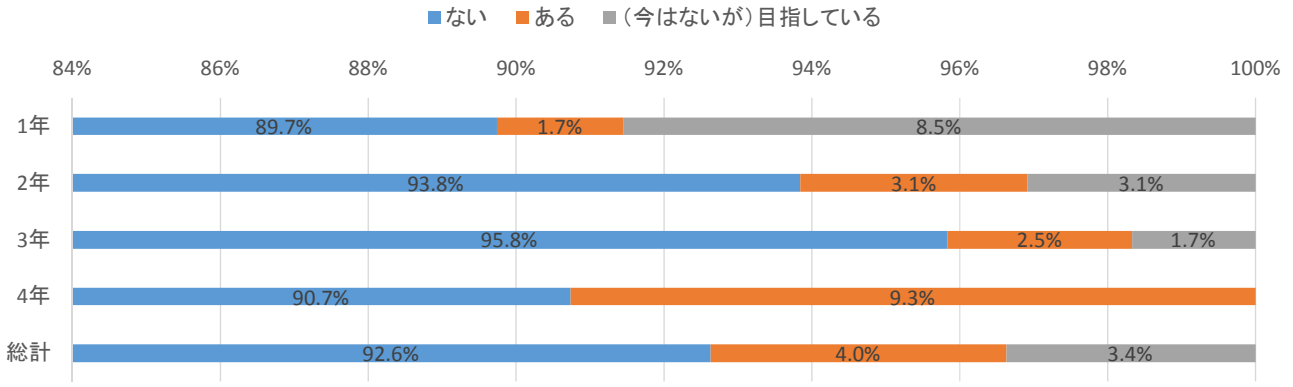


(10)アプリケーションソフトを作成することができる。



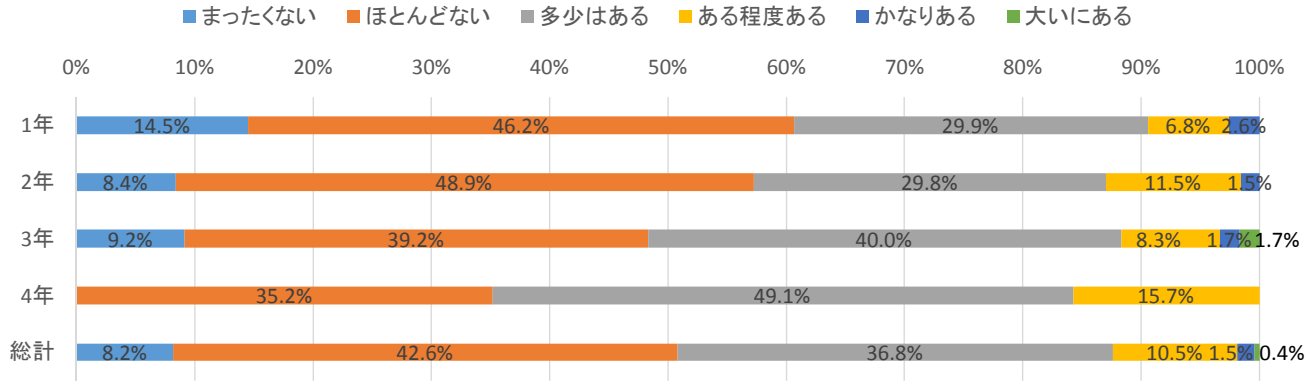
(11)大学入学後に取得したICT関連の資格がありますか、あるいは検定試験で一定の点数を取ったことがありますか。

（無効回答　2年：1　）

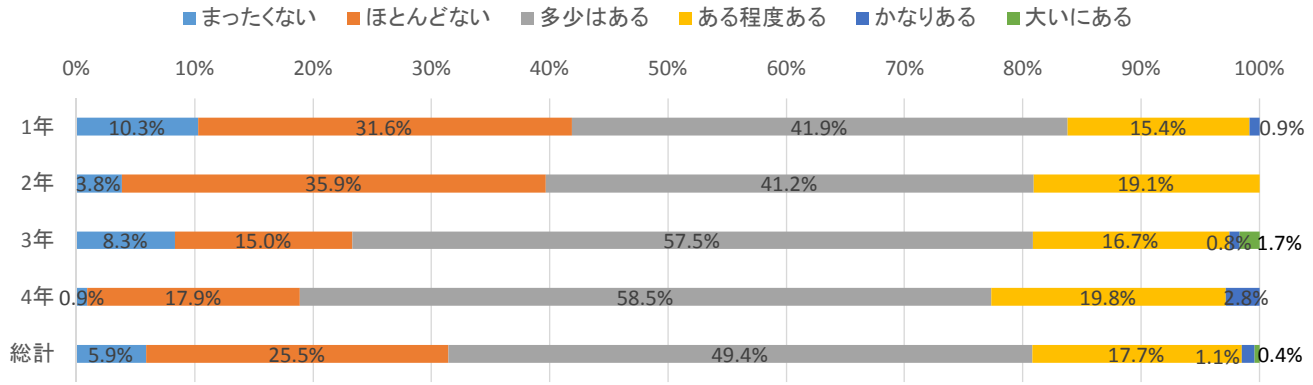


4. 教養・基礎的スキルについて

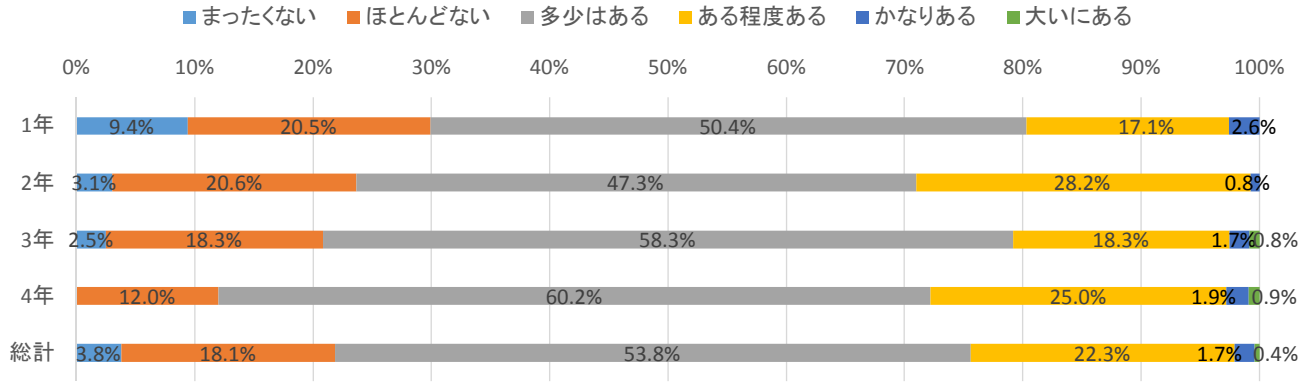
(12)専門分野の知識とは別に幅広い知識や教養がある。



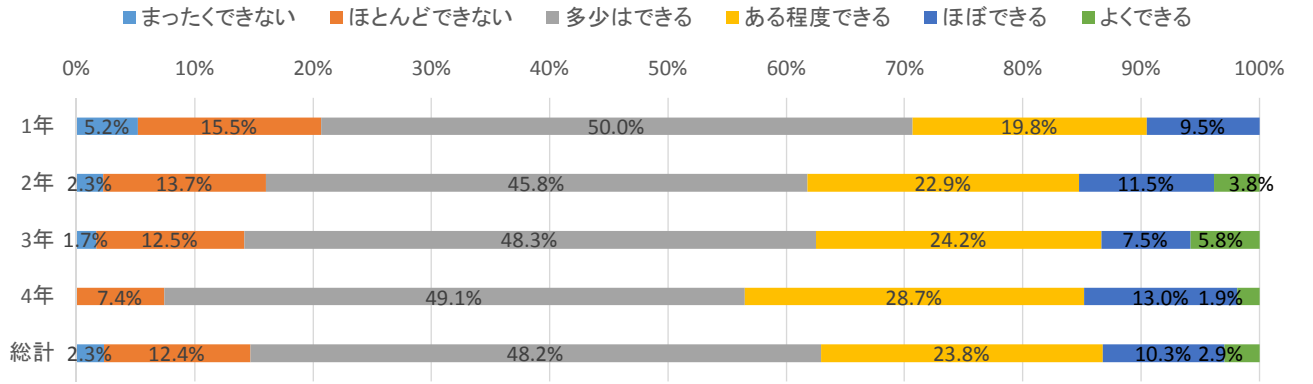
(13)レポートや論文作成に必要な情報収集のスキル(論文、文献、統計などの検索方法など)がある。(無効回答 4年:2)



(14)レポートや論文などを書くために必要なスキル(書式や作法など)がある。

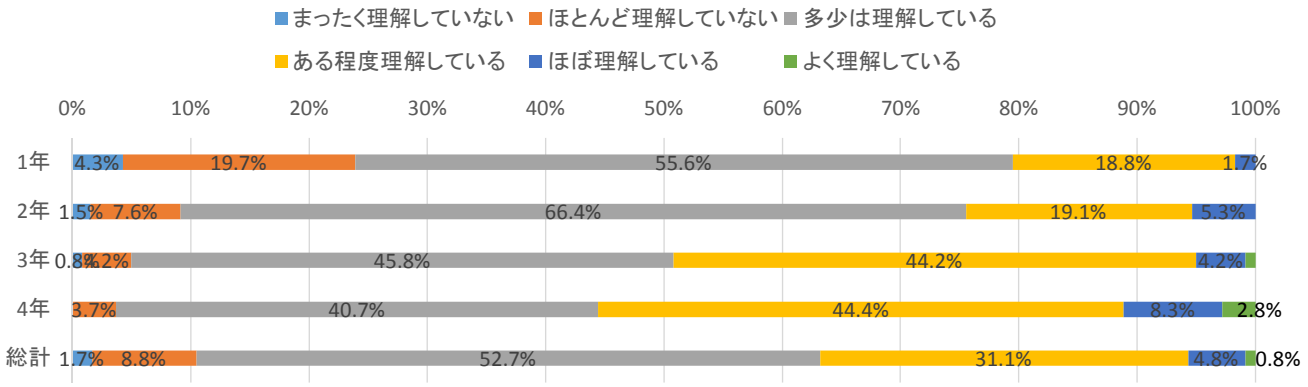


(15)ディスカッションの中で他者の意見をきちんと聞きながら自分の意見を述べ (無効回答 1年:1

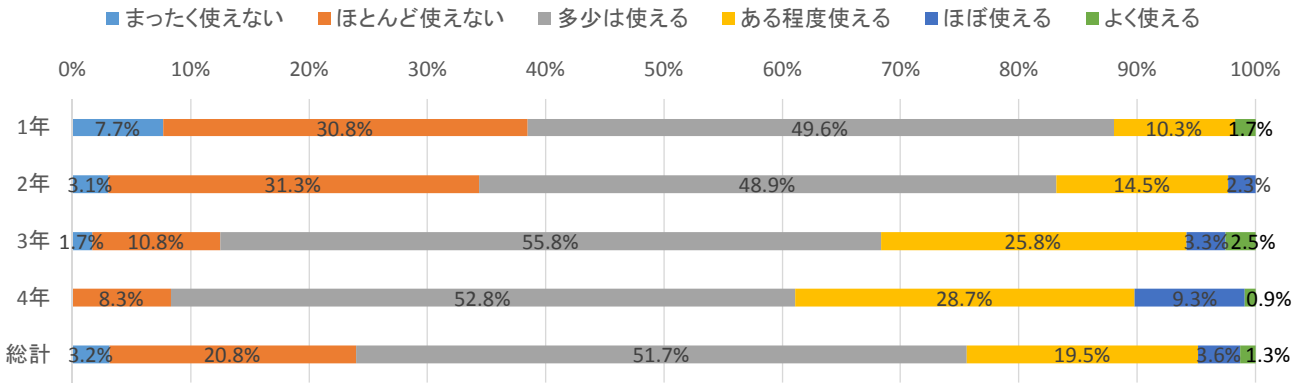


5. 専門知識・専門的スキルについて

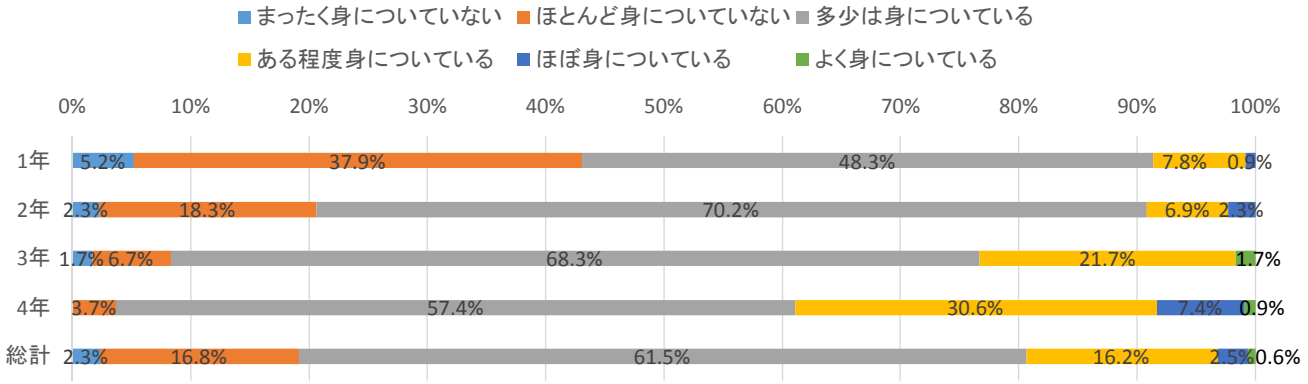
(16)専門知識を理解している。



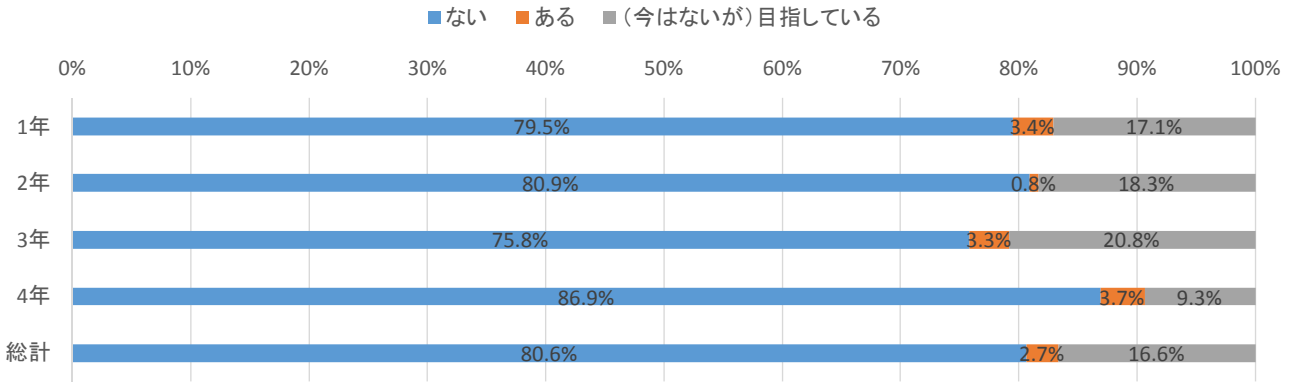
(17)専門知識を実際の場面で使うことができる。



(18)専門的スキルが身についている。 （無効回答　1年：1　）

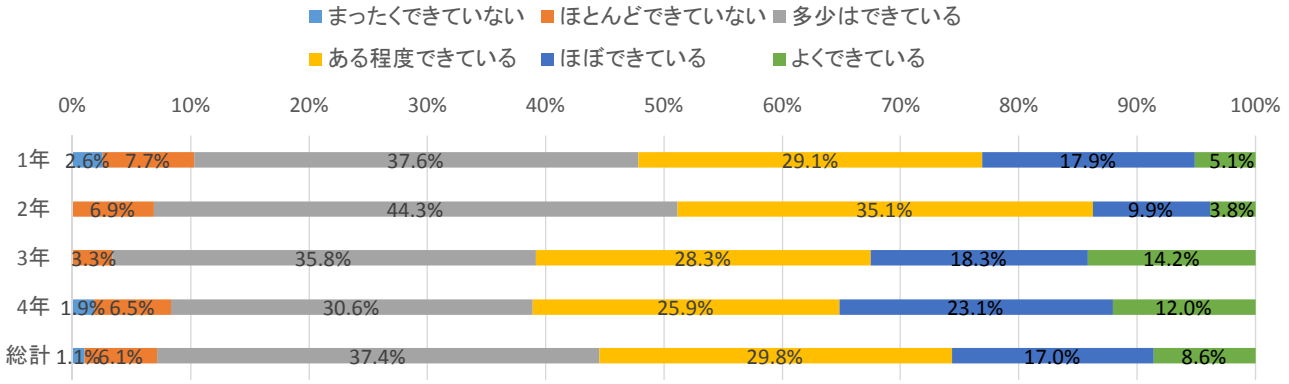


(19)大学入学後に取得した専門分野に関連する資格がありますか、あるいは検定試験で一定の点数を取ったことがありますか。 （無効回答　4年：1）

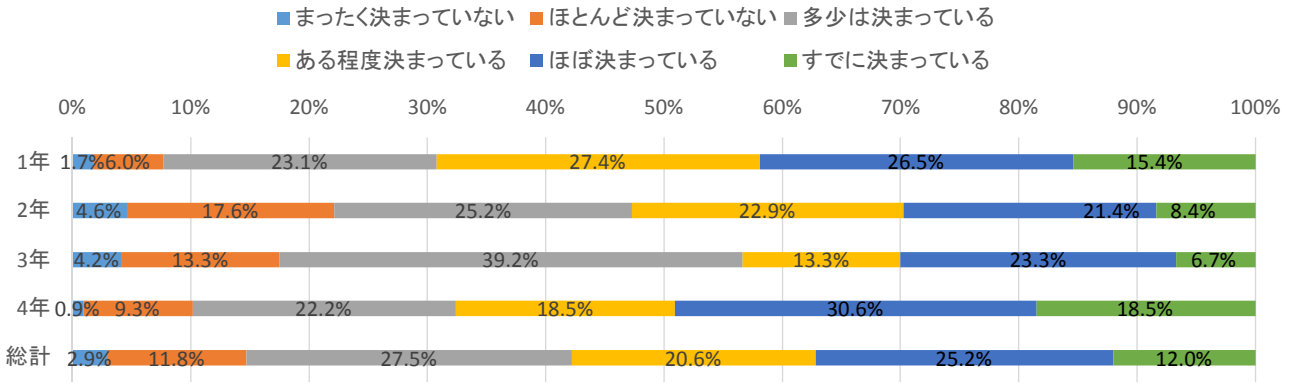


6. 社会で活躍するための力（キャリア教育、社会人基礎力）について

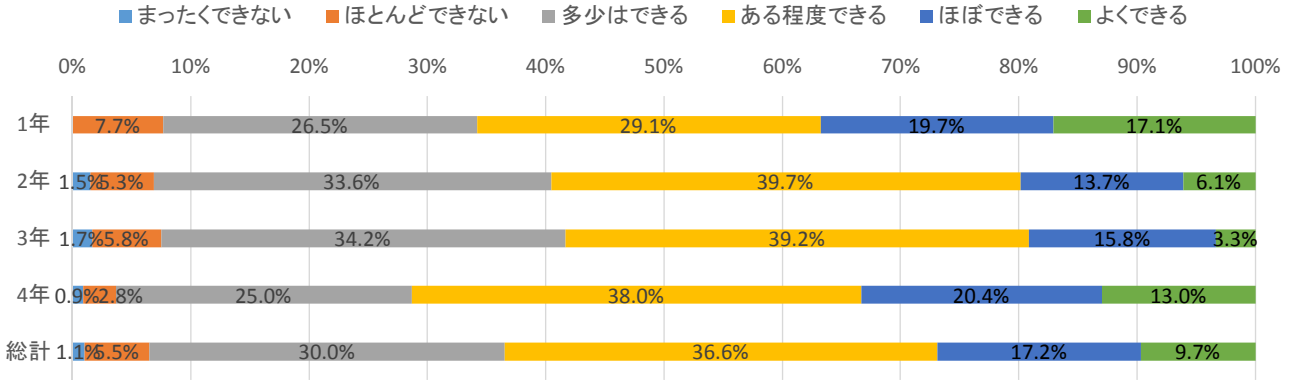
(20)「働く」とはどのようなことかイメージできている。



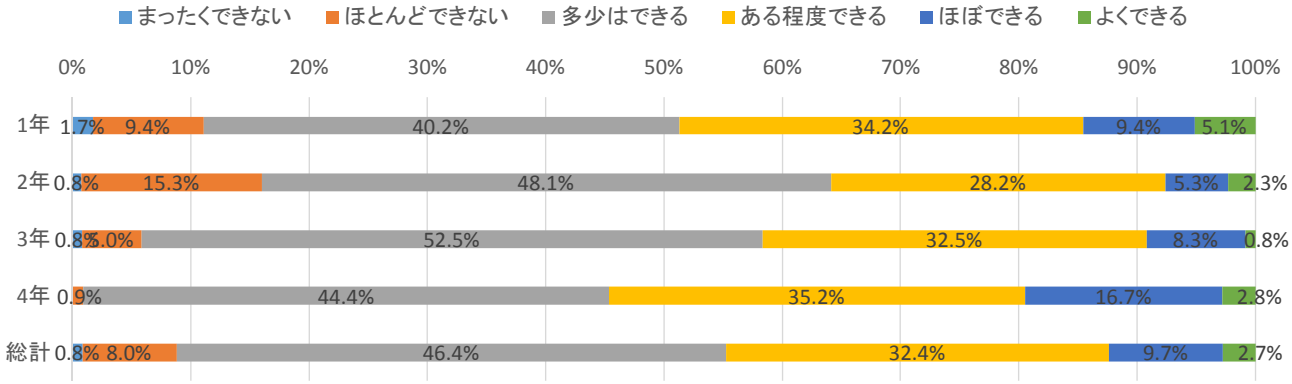
(21)将来の進路が決まっている。



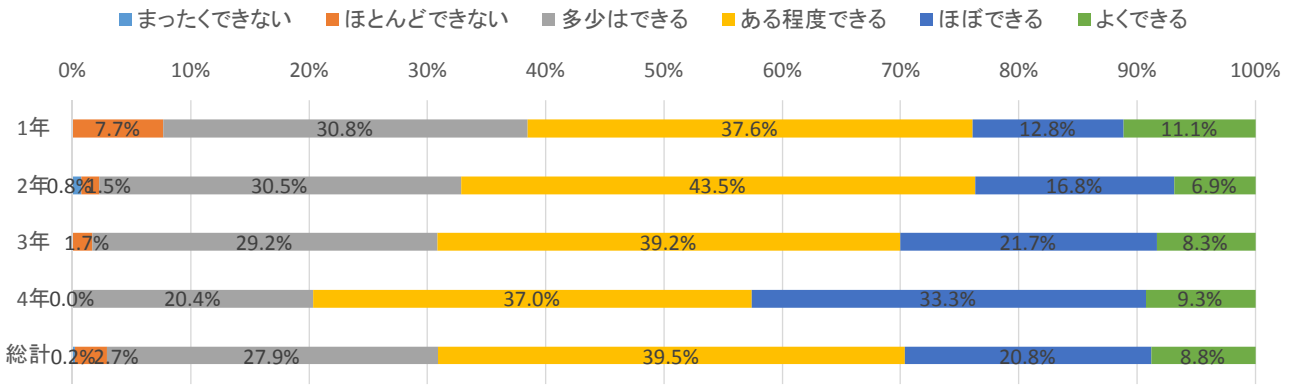
(22)自ら目標に向かってものごとに粘り強く取り組むことができる。



(23)課題を見つけ出しそれに対する最善の解決方法を考えることができる。



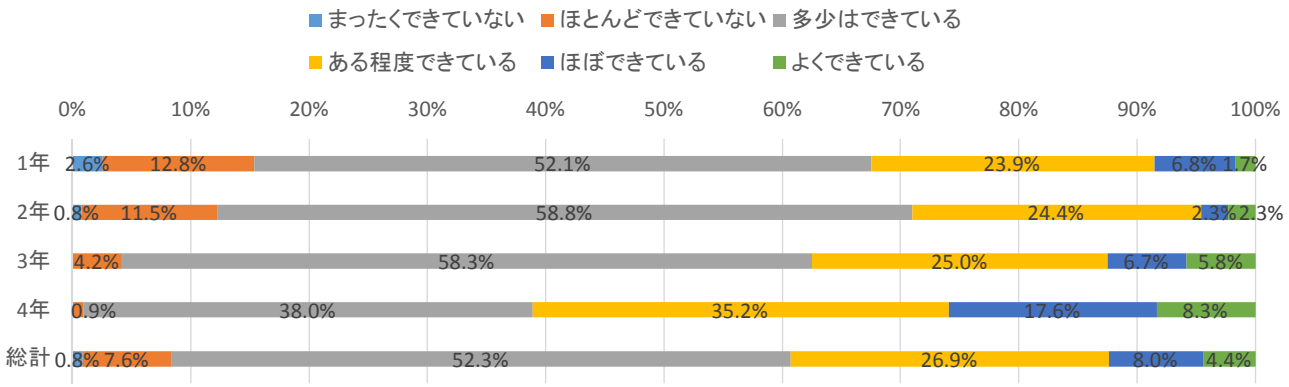
(24)さまざまな考えを持つ人々と意見を交換しながら力を合わせて働くことがで



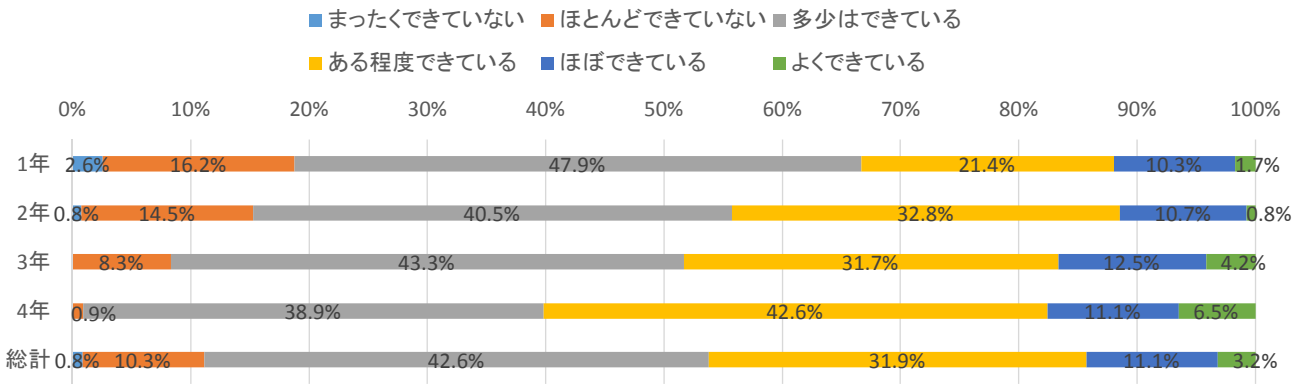
7. 総合力について

・上記の「2」～「6」の学びを通して、以下の力がどの程度身についていると思うかお答え下さい。

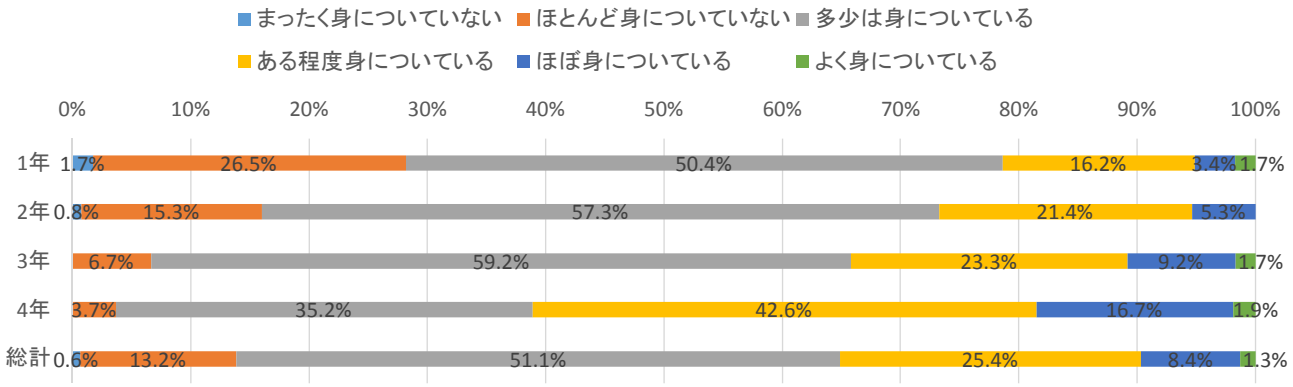
(25)自分自身の「ものの見方・考え方」をつくり上げることができた。



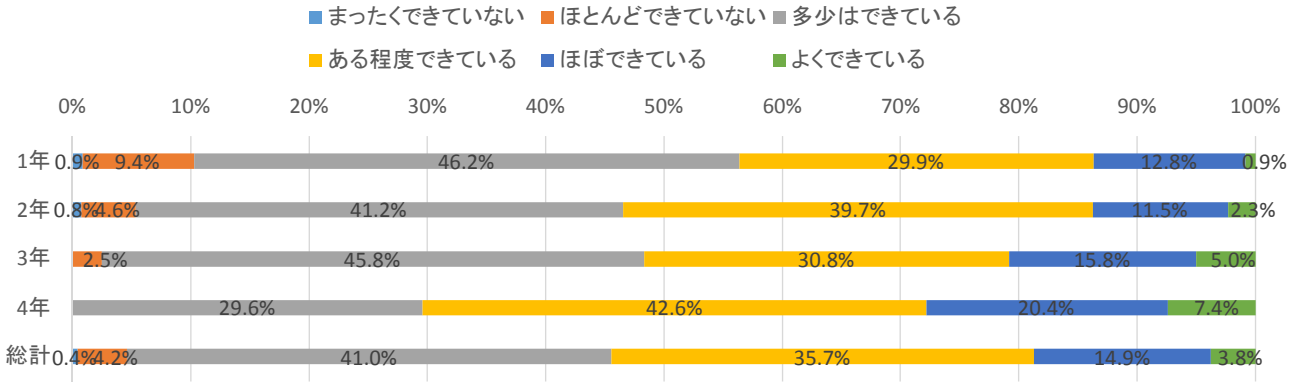
(26)自分の考えを文章や口頭で他者にきちんと説明することができるようになった。



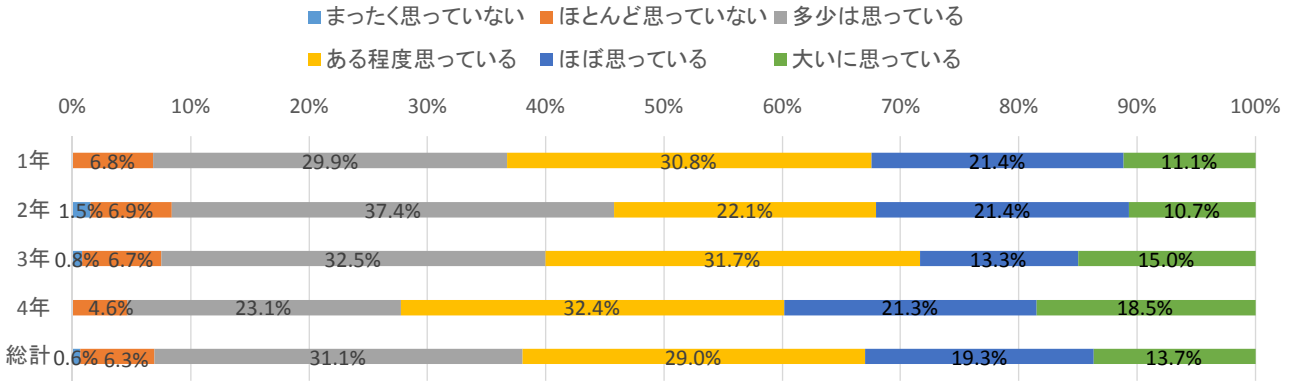
(27)社会に出て仕事や社会的活動を行うために必要な力を身につけることができた。



(28)他者とコミュニケーションを図りながら相互理解を深めていくことができるようになった。



(29)東京成徳大学に入学してよかったと思っていますか。



2－4　経営学部

●経営学科

（1）調査結果の概要

【学修行動】

①学習環境について

「実家で自分だけの部屋がある」とアパートなどで一人暮らしを含めると 2 年を除いて 8 割以上である。まずまずの環境とみられる。

②通学時間

60 分を超える者が 30%近くいる。120 分以上が全体の 2%存在する。

③1 週間のアルバイト

15 時間以上が半数を超えている。つまり平均して 1 日 2 時間以上アルバイトを行っている。アルバイト時間はおおむね学年進行に伴って増えている。学科間の比較をすると、経営学部はややアルバイト時間が長いが、同じ十条台の学科とくらべると差は大きくなく、キャンパスの立地を反映しているものと推測される。

④1 週間当たりの部活・サークル活動や学外のクラブなどの活動について

学年進行につれて長時間活動するものと活動なしとの両極に分かれる傾向がある。

⑤休日の過ごし方

主に研究・勉強が少ない。「特に決まった予定はない」は学年進行に伴って減少している。

⑥大学に何日登校したかについて

学年進行に伴って登校日数は減少している。4 年生では 2 日以下の登校が半分を超えている。他学科と比べると経営学部は 4 日以内の割合が多い。

⑦授業への出席した割合

80％以上が半分にとどまっている。60％以上を合わせると 9 割弱となっている。学年進行に伴って出席する割合は低下している。他学科と比べると子ども学部を除き、あまり変わらないと見える。

⑧興味のある授業の割合

40％以下だと答える者が 3 分の 1 ある。他学科と比べると経営学部は興味ある授業の割合はやや低い。

⑨授業全体の難易度について

「普通」とする割合が 6 割弱である。また、学年進行に伴って難しいとする割合は低下している。他学科と比べると「易しい」とするものほうが「難しい」とするものよりもやや多い。

⑩4 年間で卒業できる自信について

学年進行に伴って上昇している。4 年生では 80％以上卒業できる自信があるとしたものが 8 割近くになっている。

⑪授業に積極的に取り組んだかどうかについて

「ある程度できている」以上できているが半分程度で「多少はできている」を含めると 9 割近くとなっている。他学科と比べると「ある程度出来ている」以上出来ているとする割合がやや少ない。

⑫先生に指示された授業の発表の準備、課題やレポート、宿題を 1 週間合計でどれだけやったかについて

やっていないを含め、90 分未満が全体の 3 分の 2 となっている。他学科と比べて時間は少ない傾向

にある。

⑬授業の予修について

「やっていない」が 3 分の 2 程度ある。

⑭授業のノートの整理や復修を 1 週間合計でどれだけやったかについて

90 分未満が全体の 9 割となっている。学年進行に伴って「やっていない」の割合が上昇している。他学科と比べると時間は少ない傾向にある。

⑮授業に関連する資料や本を探したり、調べたりすることを 1 週間合計でどのくらいやったかについて

「やっていない」が半数を超えており、これを含めて 90 分未満以下が 9 割である。他学科と比べると時間は少ない傾向にある。

⑯大学外の図書館、文化施設、スポーツ大会ボランティア活動に行ったかどうかについて

「時々行く」と「よく行く」を合わせて 2 割弱である。他学科と比べるとあまり活動が活発でない。

⑰新聞を読んでいるかについて

全体で 6 割が読まないが、学年進行に伴って「たまに読む」以上のものが増えており、4 年生では 6 割にのぼっている。

⑱定期的に読んでいる雑誌、週刊誌について

全体で「読まない」が半数近くあり、漫画雑誌を読んでいるが 3 割弱であり、週刊誌が約 7%、専門誌が 15%となっている。他学科に比べて読んでいる割合はやや多い。

⑲インターネット使用時間

6 割強が時間以上使っていると答えている。

⑳ゲームを 1 日にどのくらいやっているかについて

90 分以上が 3 分の 1 おり、3 時間以上やっているものが 1 割強いる。

㉑本をどのくらい読んでいるかについて

「読まない」が 6 割あり、月に 3 冊以上は、1 割強となっている。

【学修成果】

①本学の教育の基本理念「共生とコミュニケーション」の認知について

全く知らない及びほとんど知らないが全体の半数以上となっている。学科別にみると十条台の学部は概して低いように見える。

②外国語の授業の選択について

学年ごとに結構バラバラで 4 年は「選択していない」が少ないが、3 年はこれが多く 1､2 年はその中間となっている。他学科と比べると選択していないものが多い。

③読む力について

「ある程度ある」以上に力があるものが 2 割弱となっており、学年進行に伴ってわずかに上昇している。

④会話力について

「ある程度ある」以上に力があると答えたものは 2 割弱となっている。

⑤書く力について

ある程度ある」以上に力があると答えたものは 1 割強になっている。

⑥入学後に取得した語学の資格について

3 分の 2 が「ない」と答えており残りも目指しているという回答が多く、実際に取得したものは全学年で 7 %となっている。他学科と比べると国際言語文化学科を除き、経営学部は取得に 積極的なほうである。

⑦文章作成ソフトを使って文章を作成することができるかについては

「ある程度できる」以上にできるものが全体で 5 割を超えている。これは 1 年生では 3 分の 1 程度だが、学年進行に伴って上昇しており、4 年生では約 3 分の 2 となっている。他学科と比べると経営学部は能力がやや低いとみられる。

⑧表計算ソフトを使って図表を作成することができるかについて

「ある程度できる」以上にできる者が 4 割強となっている。この割合は 1 年生では 4 分の 1 に留まっているが、2 年生、3 年生と上昇し、3 年生では 6 割近くとなっている。4 年生はやや下がるが 5 割近くとなっている。他学科と比べると経営学部はこの能力は最も高くなっている。

⑨プレゼンテーションソフトを使ってプレゼンテーション用の資料を作成できるかについて

全体で半数以上が「ある程度できる」以上にできると回答している。これは学年進行に伴って上昇しており 1 年生の 3 分の 1 から、4 年生では 3 分の 2 まで上昇している。

⑩アプリケーションソフトを作成できるかについて

「まったくできない」「ほとんどできない」を合わせて 8 割あるが、「多少はできる」以上にできる者が 2 割ある。他学科と比べると経営学部はこの能力はやや高い。

⑪大学入学後に取得した ICT 関連の資格について

取得した者が 1 割弱であり、7 割が「ない」と答えているが、2 割弱は取得を目指しているとしている。他学科に比べるとこれに関しては取得意欲が非常に高いといえる。

⑫専門分野の知識とは別に幅広い知識や教養があるかについて

「まったくない」と「ほとんどない」を合わせて 5 割を超えている。「多少はある」が 3 割強あり、「ある程度ある」以上にある者の割合は 15%程度となっている。

⑬レポートや論文作成に必要な情報収集のスキルについて

1 年生は低いが、学年進行に伴ってあるとするものが増える傾向にある。全体として「ある程度ある」以上にあると答えたものが 2 割程度で、「多少はある」を含めて 5 割程度である。

⑭レポートや論文などを書くために必要なスキルについて

1 年生は低いが 2 年生以上はややできる割合が高い。全体では「ある程度ある」以上にスキルがあるものが 2 割弱であるが、「多少はある」も含めると 6 割となっている。

⑮ディスカッションの中で他者の意見をきちんと聞きながら自分の意見を述べることができるかについて

1 年生は低いが学年進行に伴って「よくできる」が増えているほか、全体的にできるが増える傾向がある。全体として 3 分の 1 は「ある程度できる」以上にできると回答している。他学科と比べて 経 営学部はやや「できる」と答えた割合が高いといえる。

⑯専門的知識を理解しているかどうかについて

学年進行による傾向は明瞭でないが全体として「ある程度理解している」以上に理解をしているものは 10 数%となっており、「多少は理解している」を含めて 6 割となっている。専門の内容が異なるので他学科と単純に比較するには限界があるが、経営学部は他学科に比べて数字としてやや低い。

⑰専門的知識を実際の場面で使うことができるかどうかについて

全体として「ある程度使える」以上に使えるとする者は 1 割程度で「多少は使える」を含めても 5

割となっている。

⑱専門的スキルが身についているかどうかについて

概して低く 4 年生でも「ある程度身にいている」以上に身についているものは 15%程度で、全体としては 1 割強となっている。他学科と比べて身についている割合がやや低いが他学科に比べて不明確だと考えられるせいとも考えられる。といえる。しかし、経営学部における専門スキルの意味内容について学生が抱く意味内容

⑲大学入学後に取得した専門分野に関する資格の取得について

「ある」が 13%あるが、6 割弱が「ない」と答えており、「目指している」が 3 割弱ある。学年進行に伴って当然に取得が増える傾向があり、4 年生では「ある」が 3 割弱まで増加している。他学科と比べると、専門資格取得には国際言語文化学科とともに熱心なほうであるといえる。

⑳「働く」とはどのようなことかイメージできているかどうかについて

学年進行に伴って「よくできている」が増加しており、4 年生では半分近くが「ある程度出来ている」以上にできているとするものがある。

㉑将来の進路が決まっているかどうかについて

当然にして 4 年生では決まっているものが多く、「ある程度決まっている」以上に決まっているものが 4 割を超えている。「多少は決まっている」を含めれば 7 割以上になる。他学科と比べて決まっていない割合はやや多いが、「進路」が決まっているという言葉の解釈が他学科と違う可能性もある。

㉒自ら目標に向かってものごとに粘り強く取り込むことができるかどうかについて

学年進行に伴ってできる割合は上昇し、「ある程度できる」以上にできると答えたものは 4 年生では 5 割を超え 6 割近くになっている。

㉓課題を見つけ出しそれに対する最善の方法を考えることができるかどうかについて

「ある程度できる」以上にできると回答したものは 3 分の 1 程度ある。

㉔さまざまな考えを持つ人々と意見を交換しながら働くことができるかについて

「ある程度できる」以上にできるとしたものが 5 割近くあり、これは学年進行に伴って上昇の傾向にあり、4 年生ではこれが 6 割近くになっている。

㉕自分自身の「ものの見方・考え方」をつくり上げることができたかどうかについて

「ある程度できている」以上にできているものが 3 割強となっている。4 年生ではこの割合が 5 割を超えている。

㉖自分の考えを文章や口頭で他者にきちんと説明することができるようになったかどうかについて

学年進行につれてできる割合が増えてきており、4 年では「ある程度出来ている」以上が 5 割弱となっている。「多少はできている」を含めればこれは 8 割を超えている。

㉗社会に出て仕事や社会的活動を行うために必要な力を身につけることができたかどうかについて

学年進行に従って「身についている」が増えている。「ある程度出来ている」以上の割合は 4 年でも半分以下だったがが、「多少は身についている」も含めると、これ以上「身についている」者は 80%以上となっている。

㉘他者とコミュニケーションを図りながら相互理解を深めることができるようになったかどうかについて

学年進行に従って「出来ている」が増え、4 年生になると「ある程度出来ている」以上にできている者が半数以上となっている。

㉙本学に入学して良かったとする者

「ある程度思っている」以上に評価するものは全体の 4 割強となっている。この割合は 1 年生では 6 割以上となっている。概して学年進行による傾向はなく、入学年度ごとに差があり、2 年生と 4 年生では「全く思ってない」ものが 7､8%あるのに対して 1 年生と 3 年生はこの回答がない。他学科と比べて良かったと思う割合が経営学部はやや少ないと見える。

（２）課題と対応

【学修行動】

・アルバイトは概して十条台の学部の時間が長いが、立地条件によりアルバイト先は豊富にあるかどうかで決まっているものと思われ、経営学部が特に長いというわけではないと考えられる。
・大学内での学修行動については、経営学部では特に 4 年生の登校日数が低い。就活に備えて計画的に単位を前倒しでとっている学生が多いことの反映と思われる。
・興味ある授業の割合の回答が低いことについては、授業の工夫が必要と思われる。
・授業自体の難易度が易しいのほうが難しいよりもやや多いのは、商業高校出身者が一定数いることも関係していると思われるが、正解は不明である。
・授業へ取り組みがやや他学科と比べても不足と言え学生を能動的に学習に向かわせる工夫がさらに必要といえる。

【学修成果】

・教育理念は十条台キャンパスではあまり浸透していないといえる。特に経営学部の専門との関係が分かりにくいことも関係していよう。
・外国語能力は経営学部については特に高くはないが、資格取得の意欲は高いことが特徴といえる。
・ICT リテラシーについては、経営学部は全般的に高く、学生の意欲及び学部の教育の重点の置き方が相まって成果を上げているとみられる。
・教養・基礎的スキルについて、大学生としての基礎的なスキルがやや低いように思われるが、他人とコミュニケーションをとって自分の意見を述べる能力は高いようである。
・専門知識・専門スキルについて専門知識、専門スキルが経営学部は低いように見えるが、経営学部の専門知識の性質が他学部に比べると一般常識的なものを含むことを考えるとそれほど低いとは言えないと考えられる。また、専門スキルというものも経営学部では何がスキルなのかが学生にとってはイメージしにくいのではないかと考えられ、低くなっている可能性がある。
・社会で活躍するための力について、基礎的な問題解決能力がやや不足していると思われるが、組織内でコミュニケーションをとって働く能力は高いようである。
・総合力について大学卒業者としての総合的な能力のうちコミュニケーションの能力は比較的高いとするものが多いようである。
・入学後の大学への評価について、良かったと思う割合がやや少ないように見えるのは、教育体制、内容を含めて今後の努力を行う必要がある点である。
・以上全体的に経営学部生は、資格取得意欲が高く、コミュニケーション能力には長けた学生が比較的多いことが特徴といえよう。

学修調査（行動・成果調査） 経営学科 【割合】

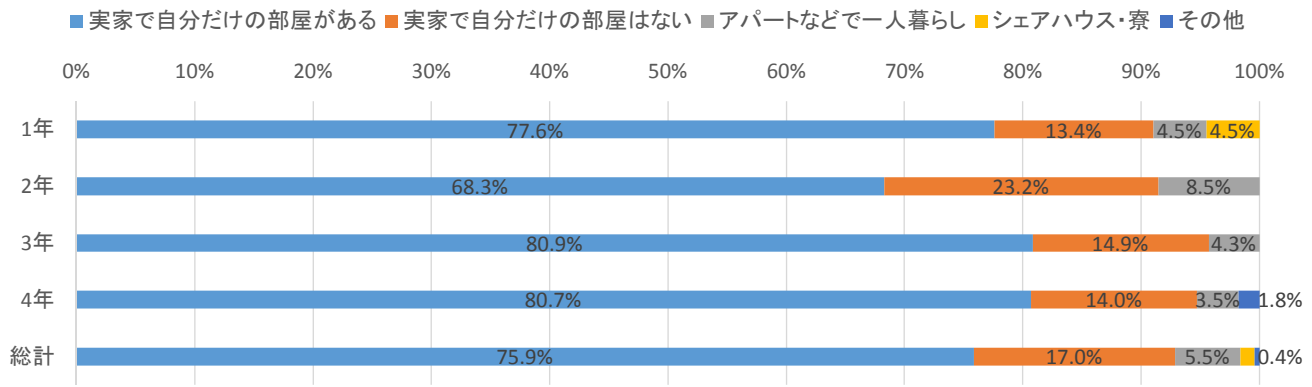
【回答者数】（人）

	男性	女性	計
1年	43	24	67
2年	56	26	82
3年	29	18	47
4年	35	22	57
計	163	90	253

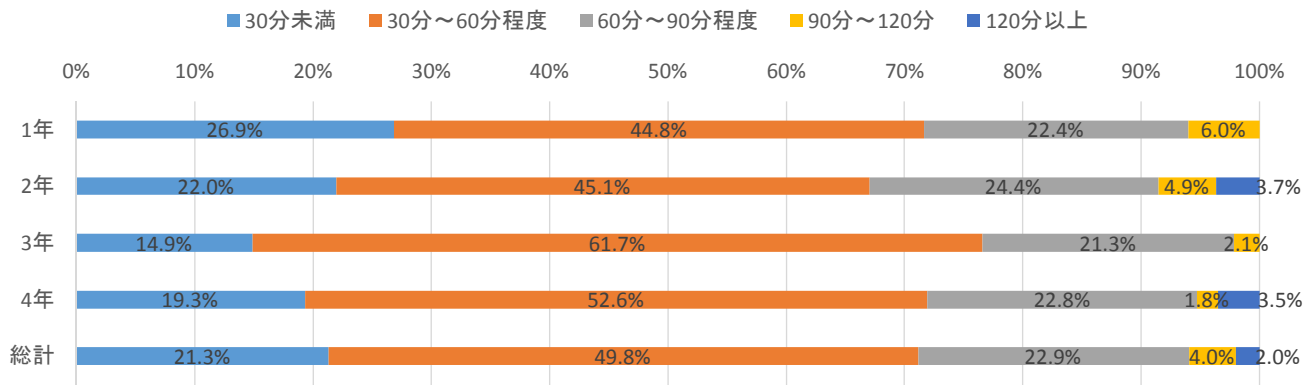
	AO	推薦（公募・指定）	一般	センター	社会人 外国人	編入	計
1年	27	26	14	0	0	0	67
2年	29	39	8	6	0	0	82
3年	12	25	5	5	0	0	47
4年	15	21	17	4	0	0	57
計	83	111	44	15	0	0	253

【学修行動調査】（%）

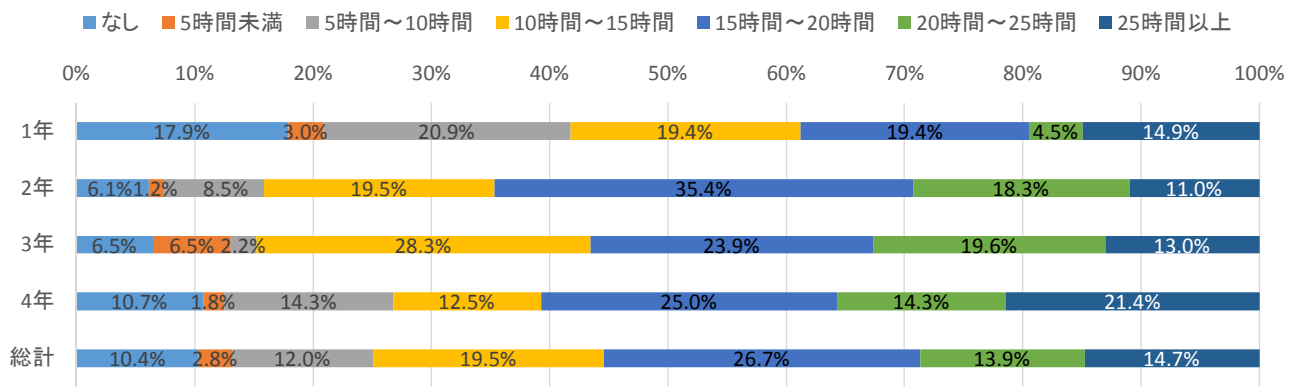
1.あなた自身について
(1)学修環境



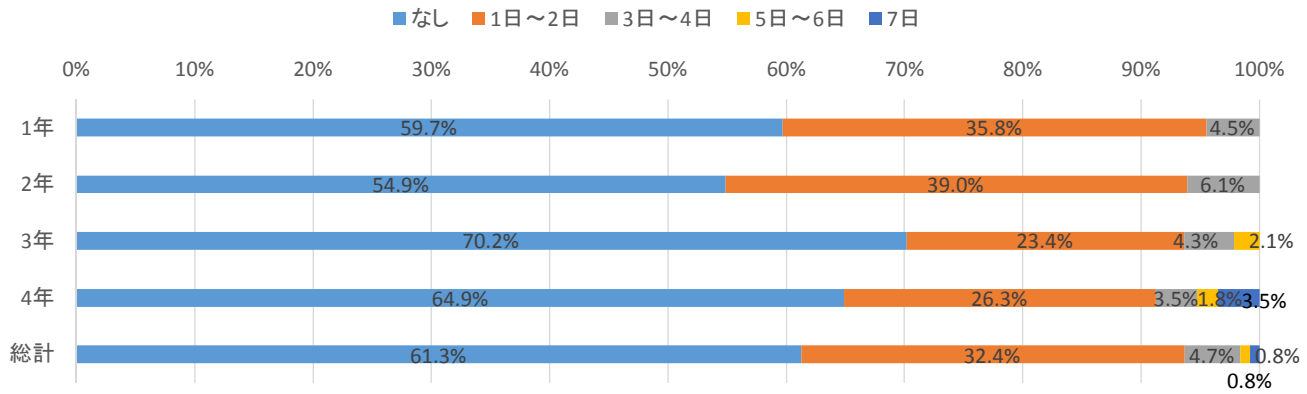
(2)通学時間（家から大学まで）



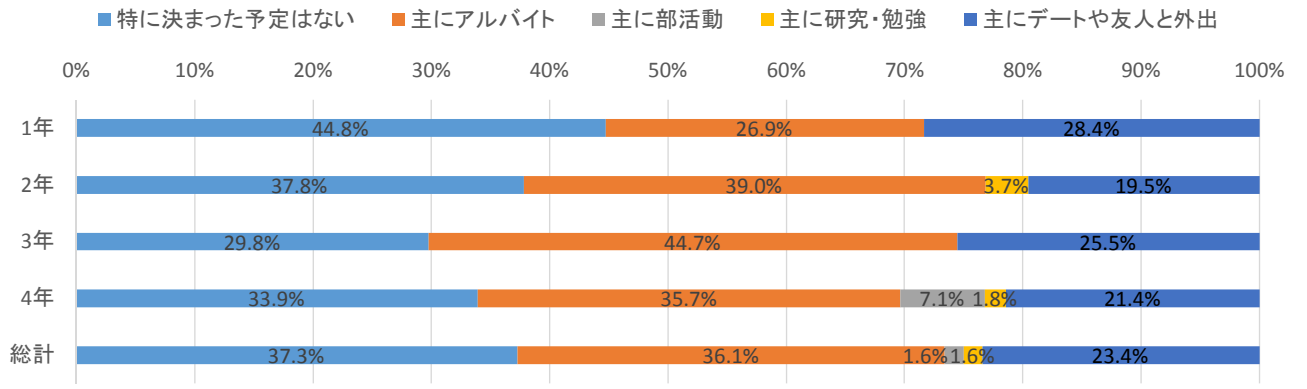
(3) 1週間あたりのアルバイト（時間）　（無効回答　3年：1　4年：1　）



(4)1週間あたりの部活・サークル活動や学外のクラブなどの活動

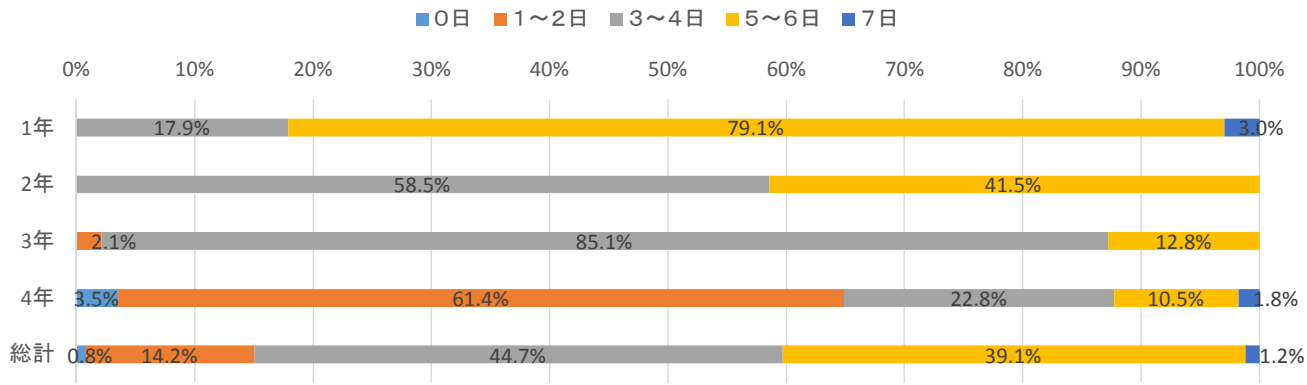


(5)休日の過ごし方　（無効回答　4年：1　）

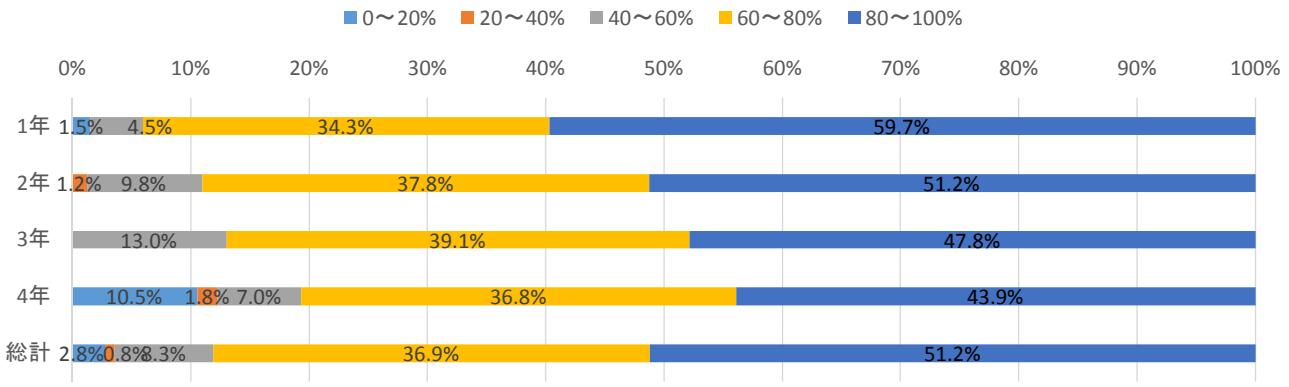


2. 1週間（平均的な）における大学内での学修について

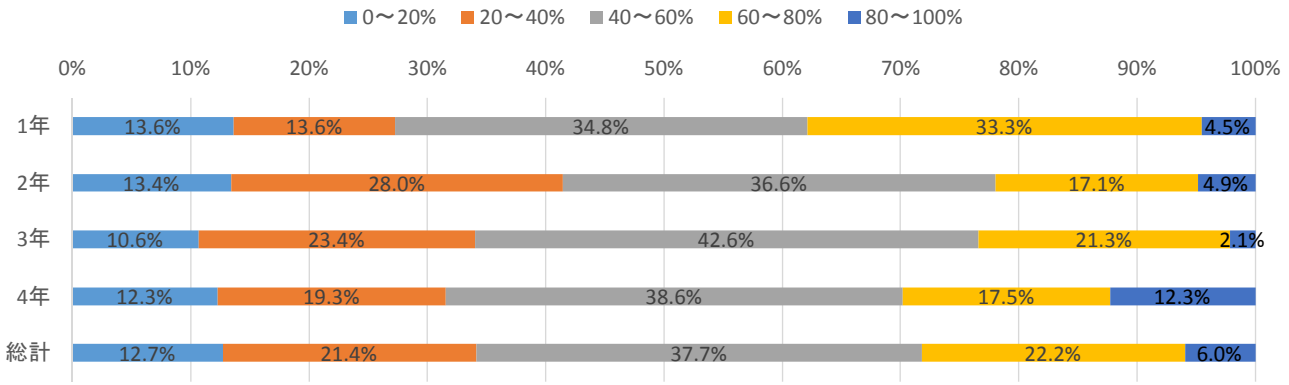
(6) 大学に何日登校しましたか



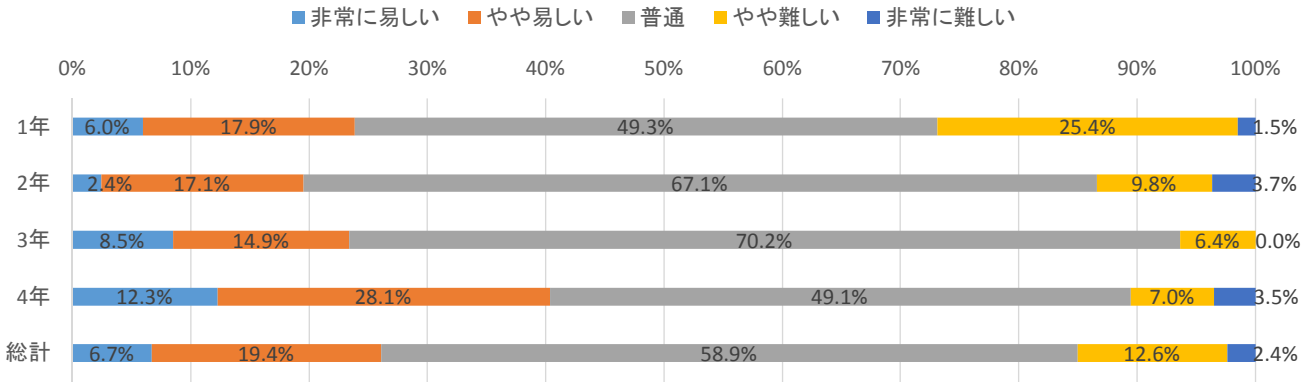
(7) 授業に出席した割合は　　（無効回答　3年：1　）



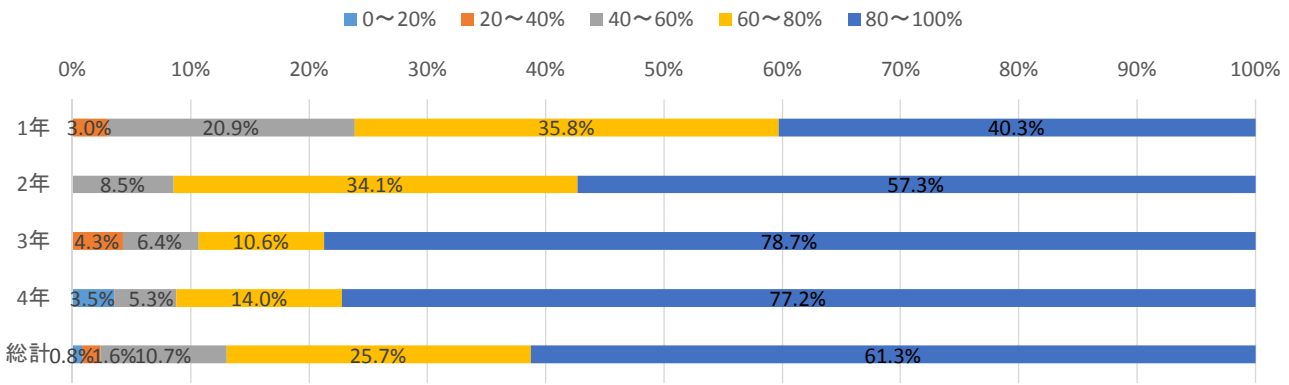
(8) 興味のある授業の割合は　　（無効回答　1年：1　）



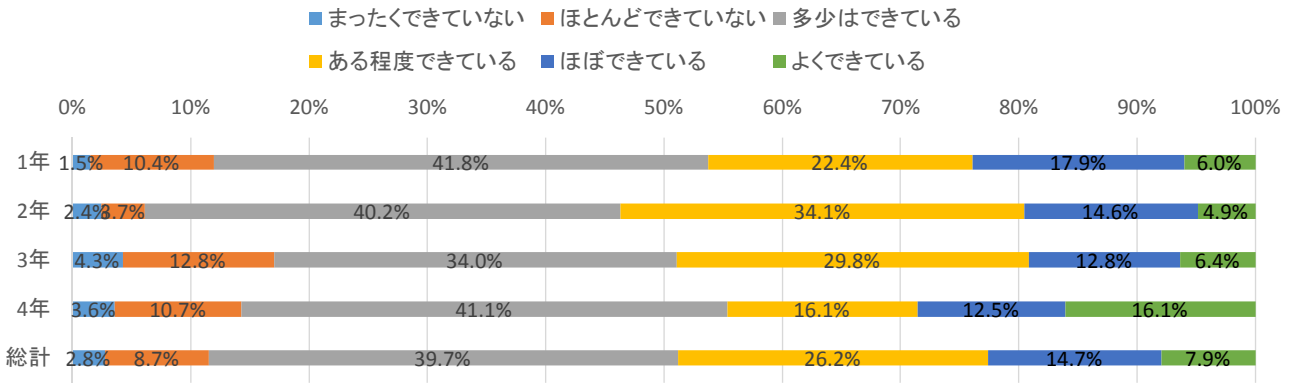
(9) 授業全体の難易度は



(10) 4年間で卒業できる自信は

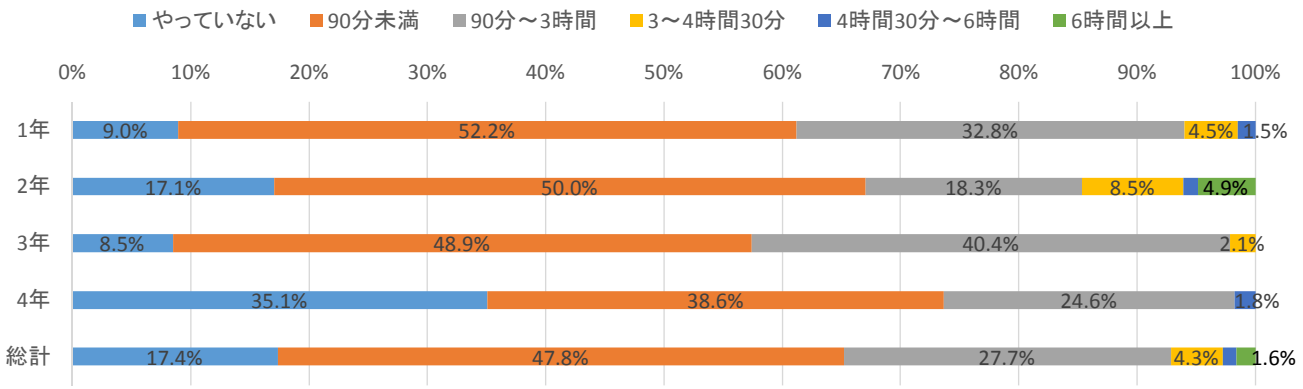


(11) 授業には積極的に取り組みましたか　　（無効回答　4年：1　）

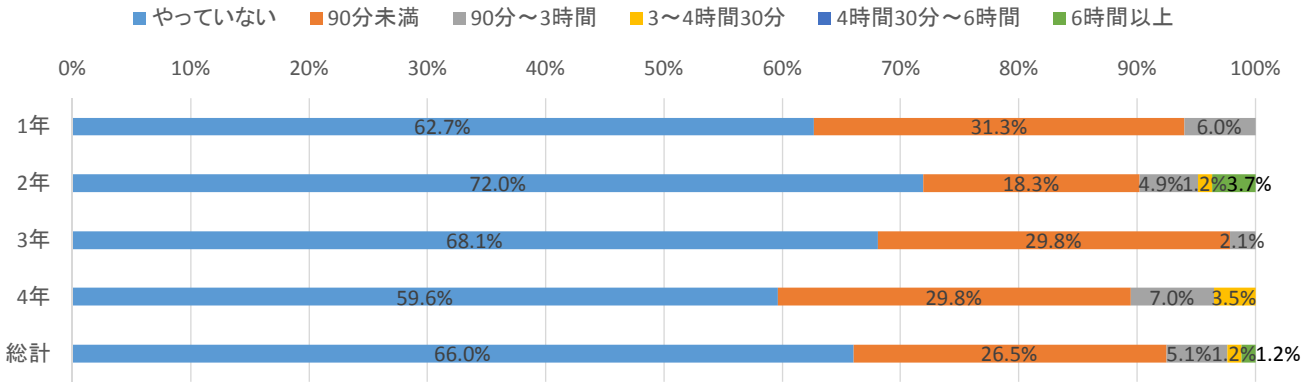


3. 1週間（平均的な）における教室外での学修時間について

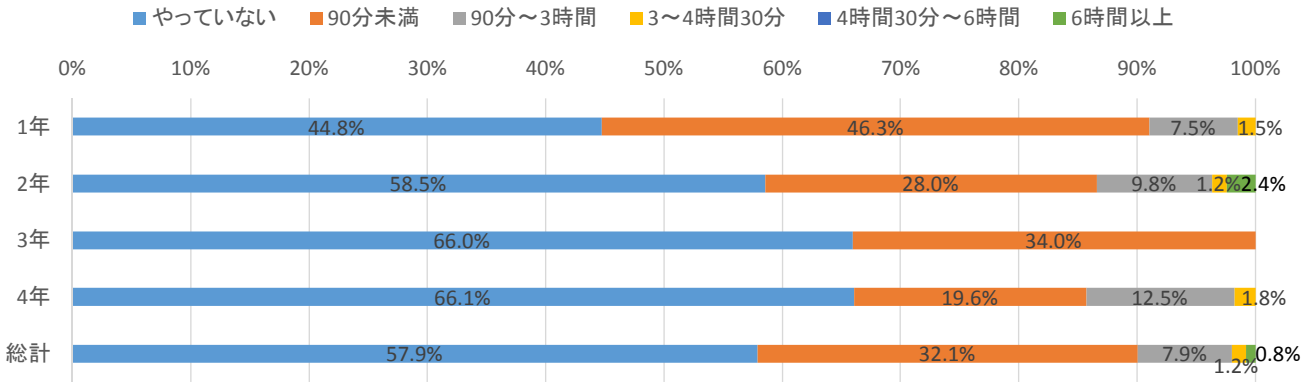
(12) 先生に指示された授業の発表の準備、課題やレポート、宿題を1週間合計



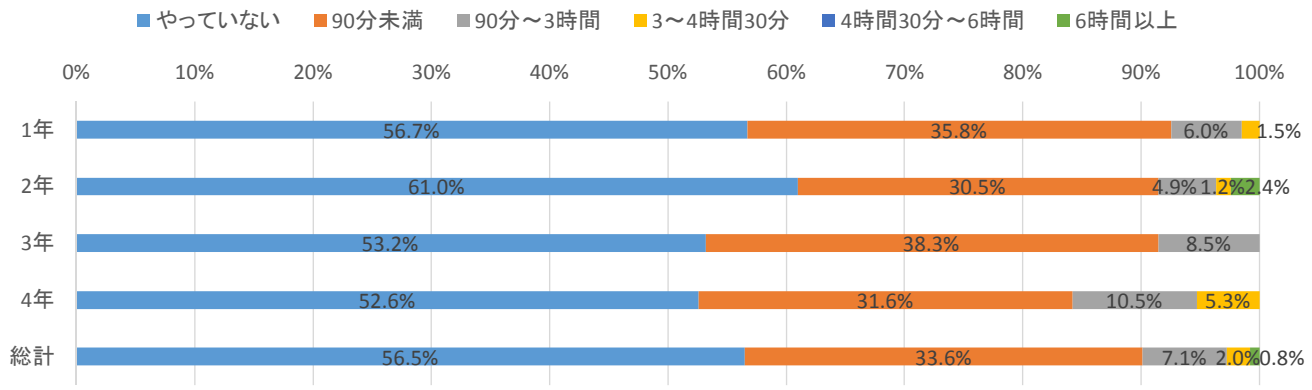
(13) 授業の予修を自発的に1週間合計でどのくらいやりましたか



(14) 授業のノートの整理や復修を自発的に1週間合計でどのくらいやりましたか　　（無効回答　4年：1　）

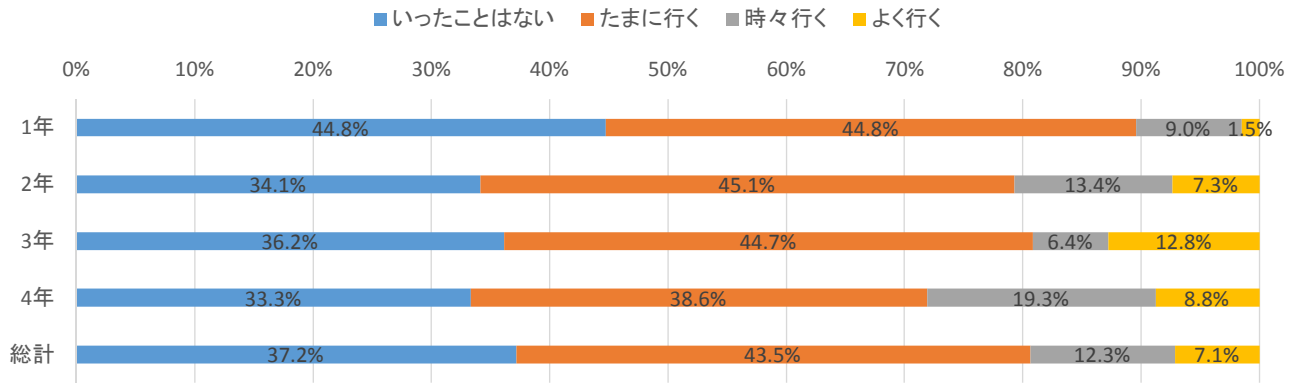


(15) 授業に関連する資料や本を探したり、調べたりすることを1週間合計でどの

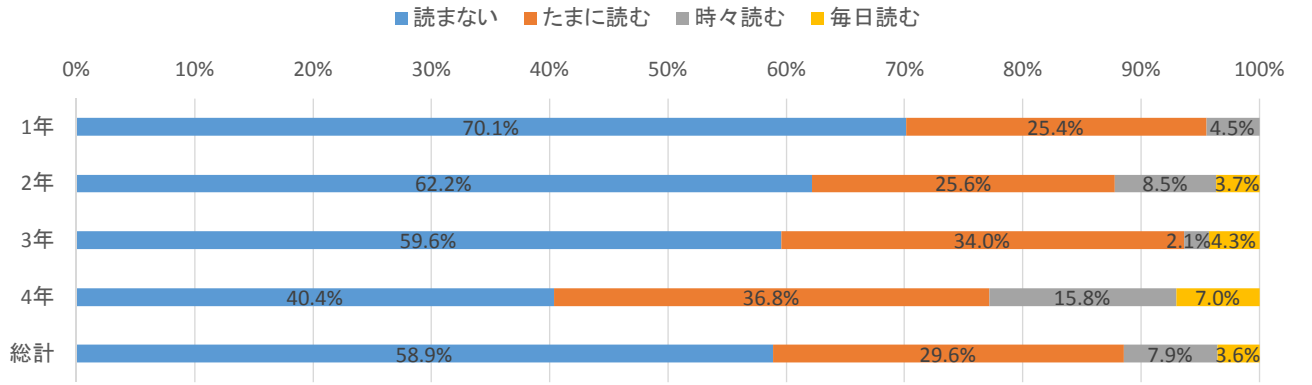


4. 授業以外の学修活動や普段の行動

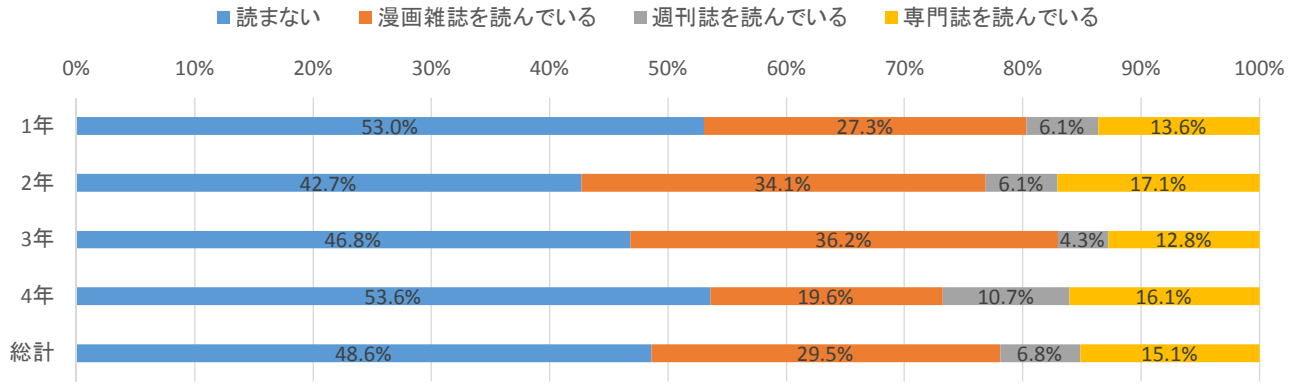
(16) 大学外の図書館や美術館・博物館等の文化施設、研修会・講演会などへ
スポーツの大会などや、サークル活動や授業以外でのボランティア活動に



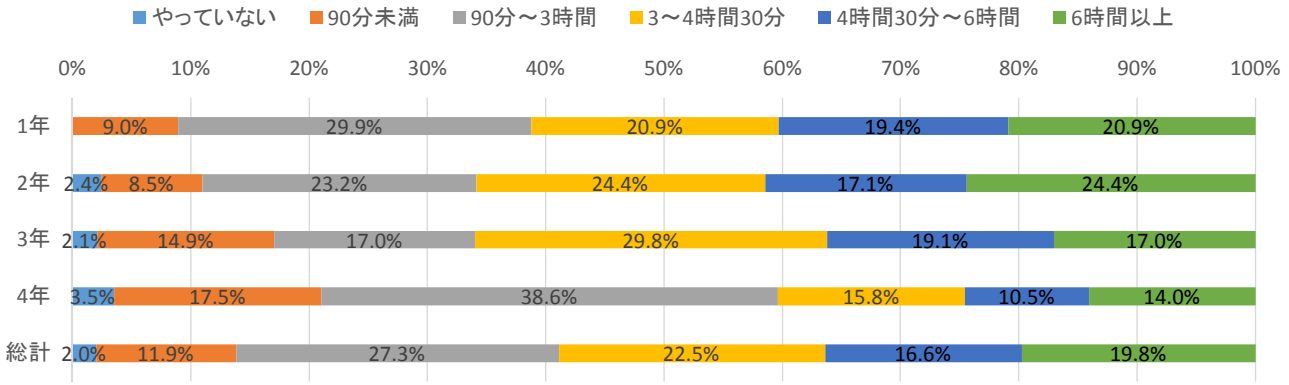
(17) 新聞を読んでいますか



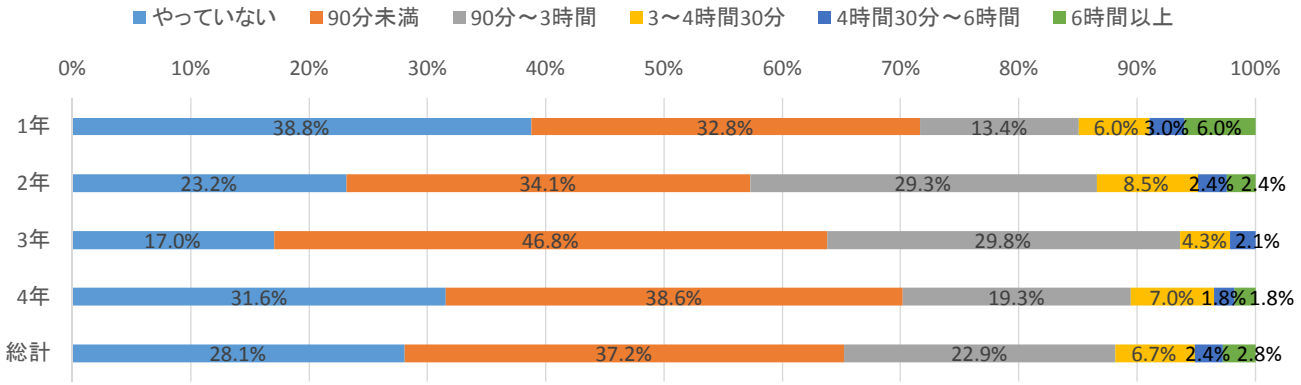
(18) 定期的に読んでいる雑誌、週刊誌は　　（無効回答　1年：1　4年：1　）



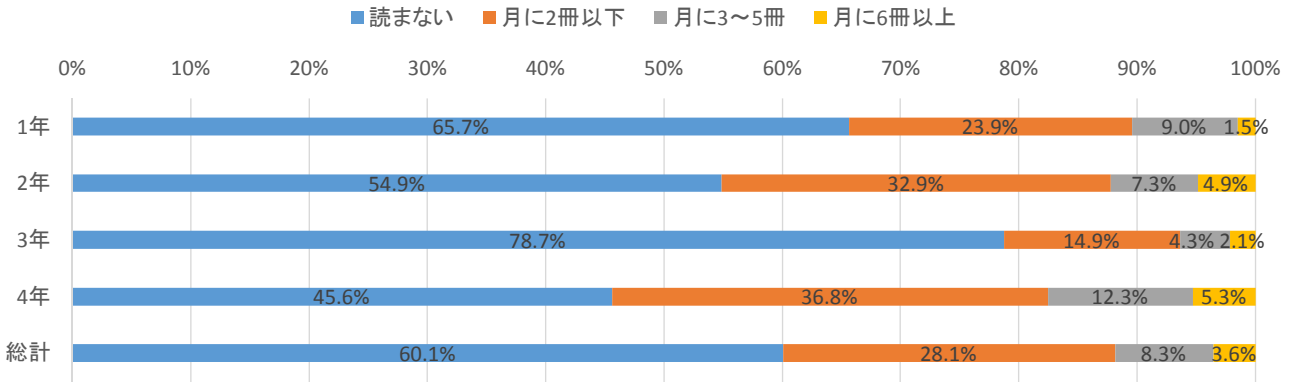
(19) インターネット（LINEやその他SNSを含む）を1日にどのくらい使っています;



(20) ゲーム（オンラインゲームを含む）を1日にどのくらいやっていますか



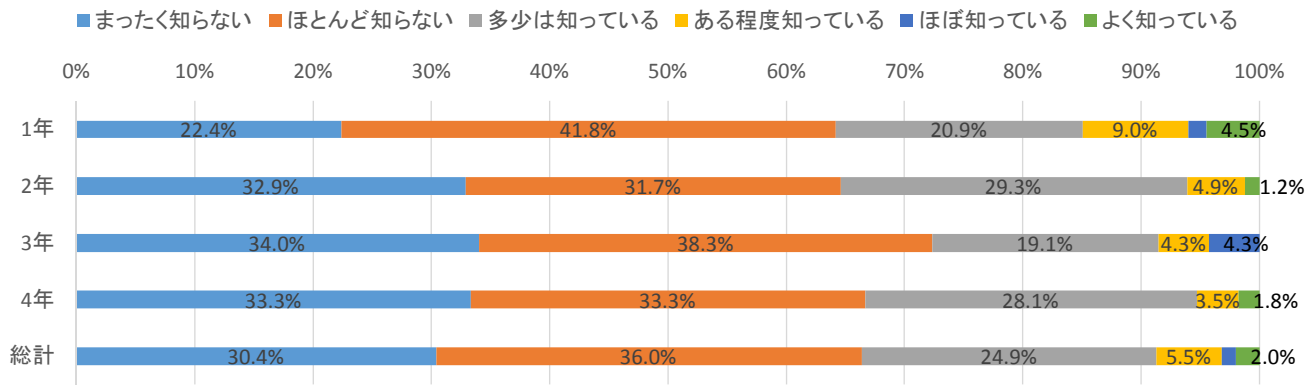
(21) 本をどのくらい読んでいますか



【学修成果調査】(%)

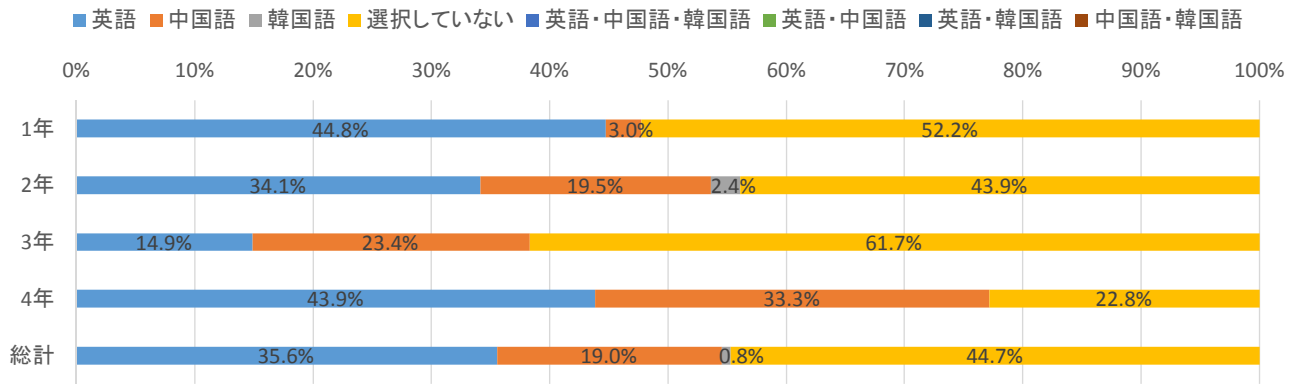
1. 教育理念について

(1)本学の教育の基本理念「共生とコミュニケーション」を知っていますか。

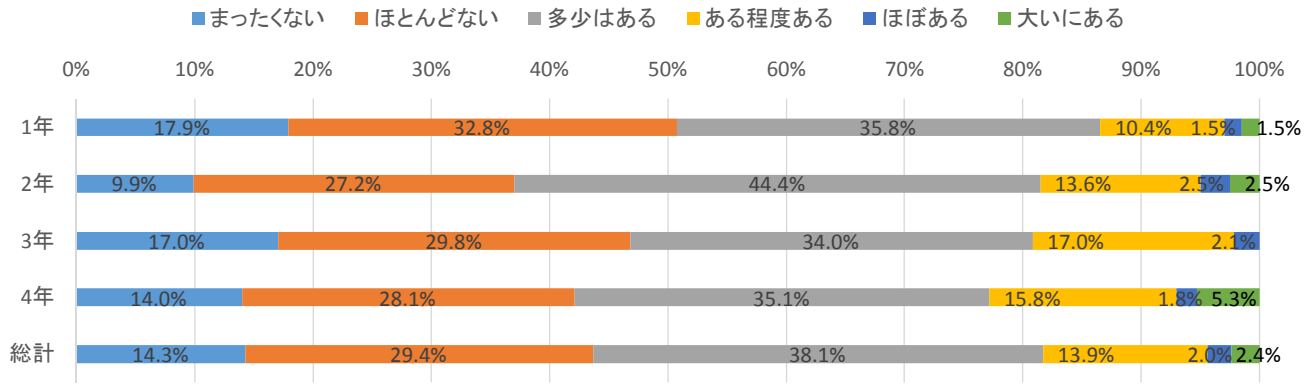


2. 外国語能力について

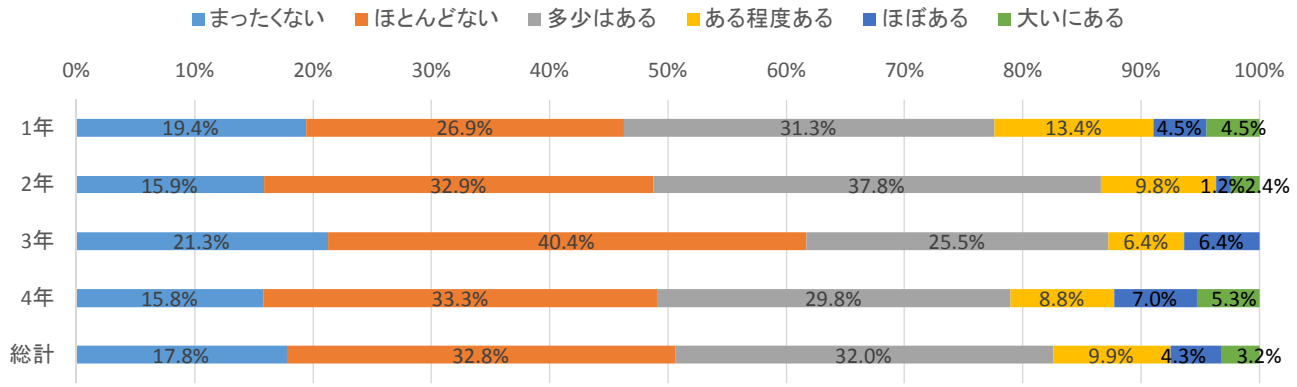
(2)外国語の授業を選択していますか・いましたか。



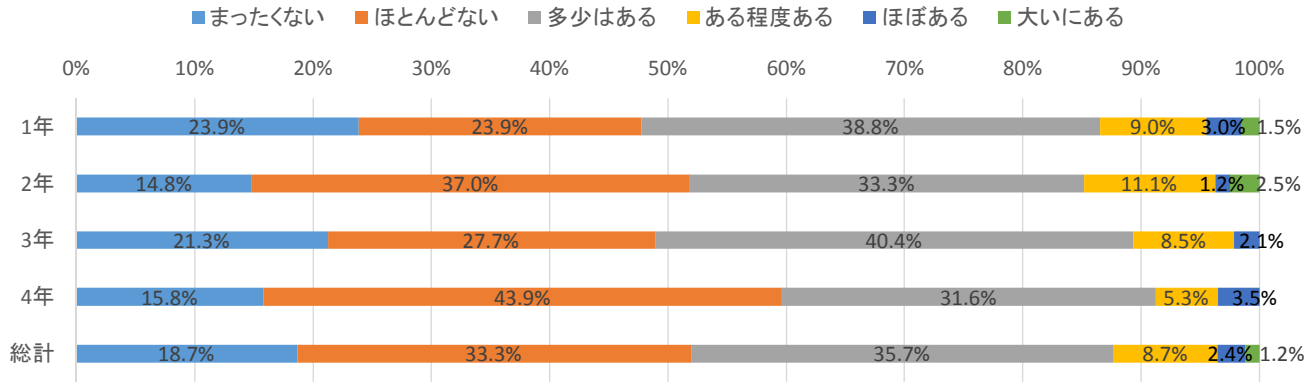
(3)読む力がある。　　(無効回答　2年:1　)



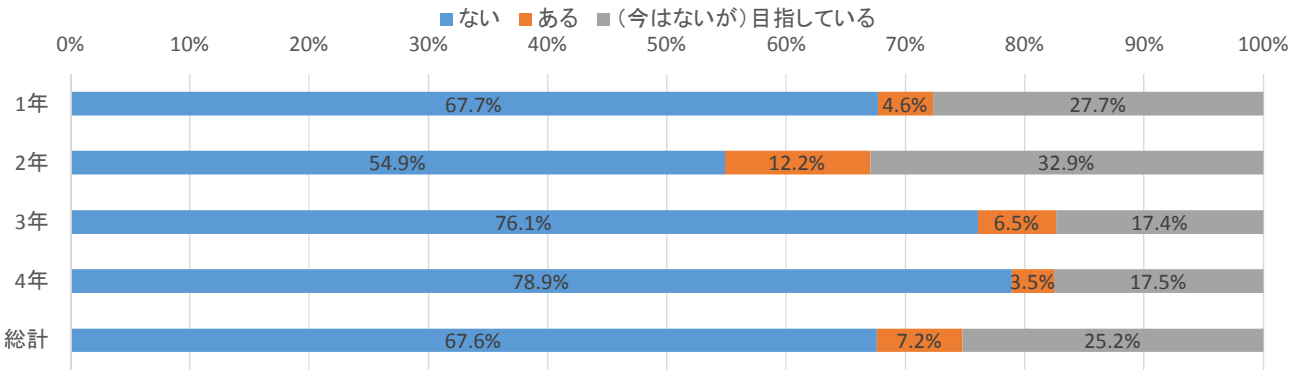
(4)会話力（話す、聞く）がある。



(5)書く力がある。　（無効回答　2年：1　）

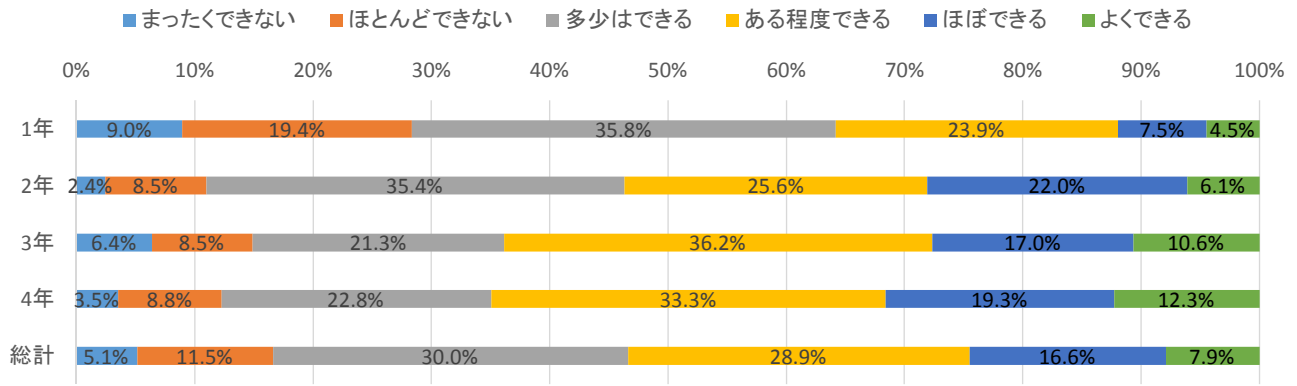


(6)大学入学後に取得した語学の資格がありますか、あるいは検定試験で一定の点数を取ったことがありますか。
（無効回答　1年：2　3年：1　）

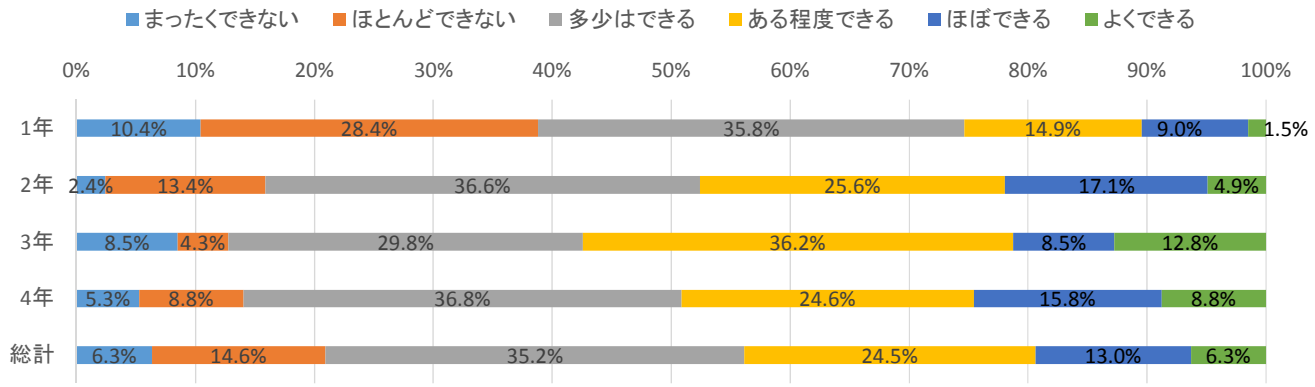


3. ICTリテラシー（＝情報機器やインターネットを使う能力）について

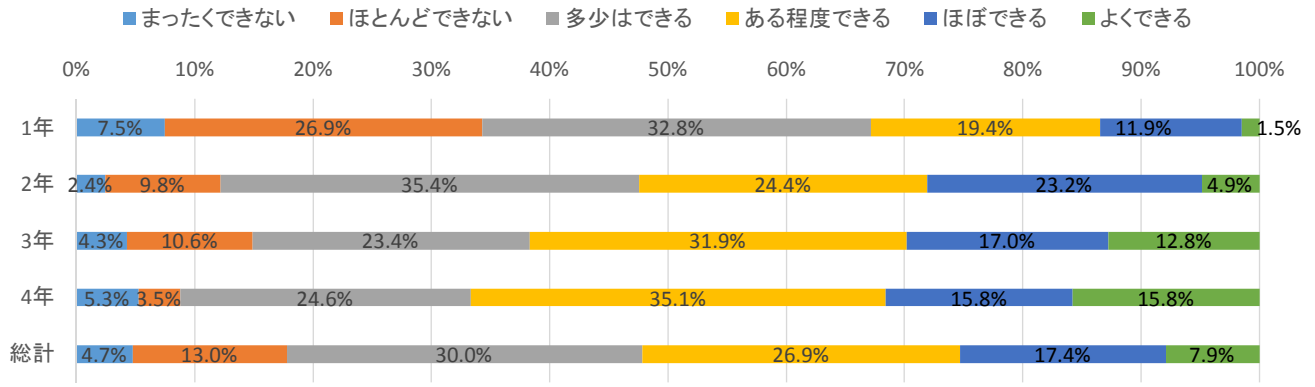
(7)文章作成ソフト（Wordなど）を使って文章を作成することができる。



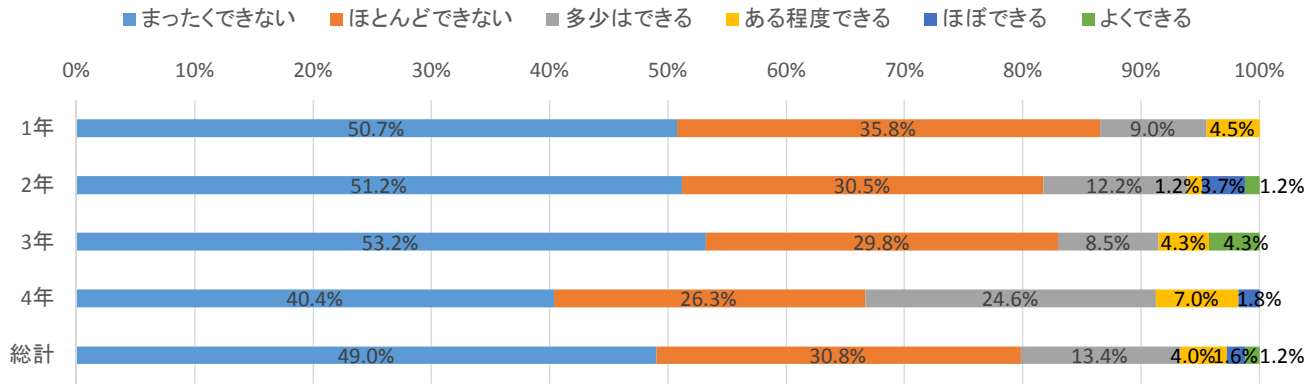
(8)表計算ソフト(Excelなど)を使って図表を作成することができる。



(9)プレゼンテーションソフト(Power Pointなど)を使ってプレゼンテーション用の

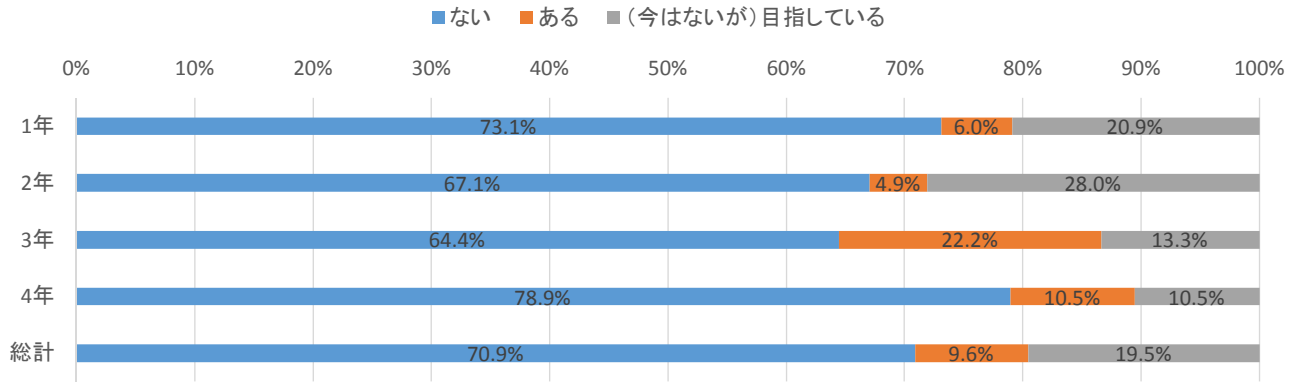


(10)アプリケーションソフトを作成することができる。



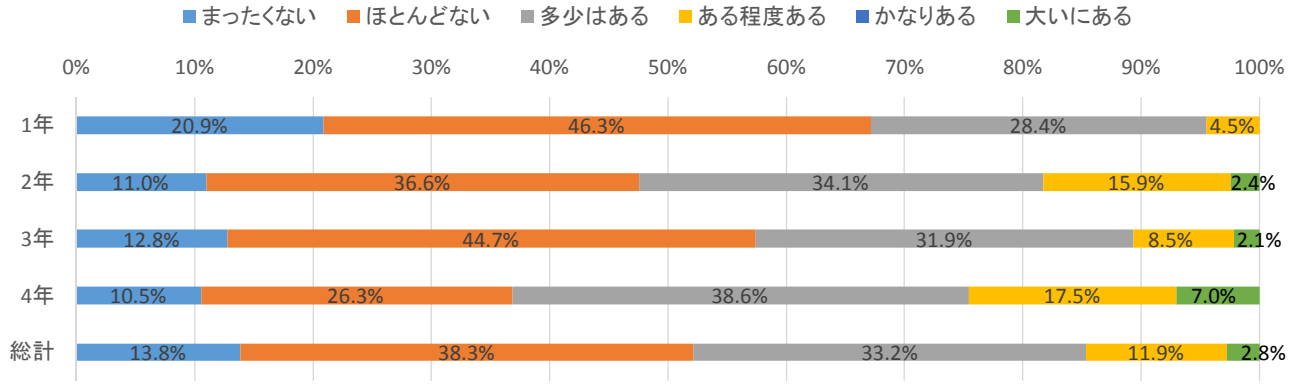
(11)大学入学後に取得したICT関連の資格がありますか、あるいは検定試験で一定の点数を取ったことがありますか。

(無効回答　3年:2　)

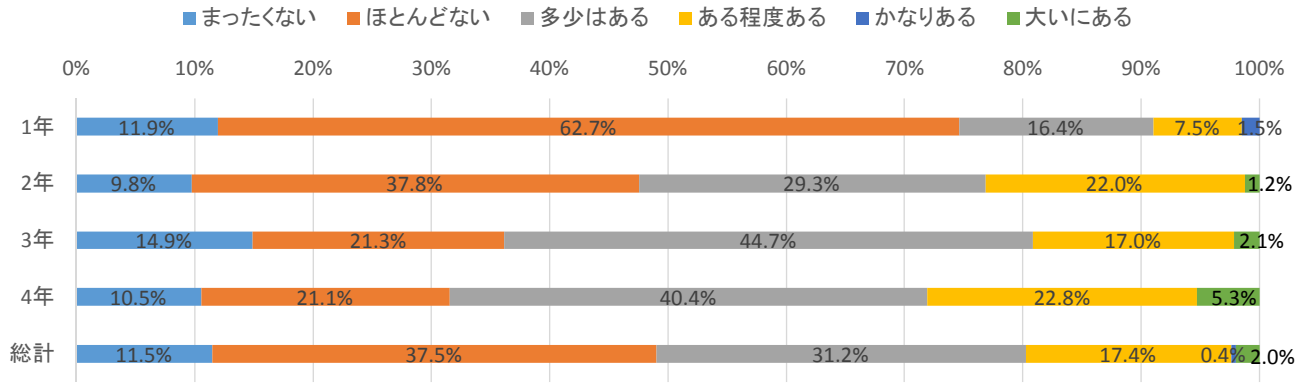


4. 教養・基礎的スキルについて

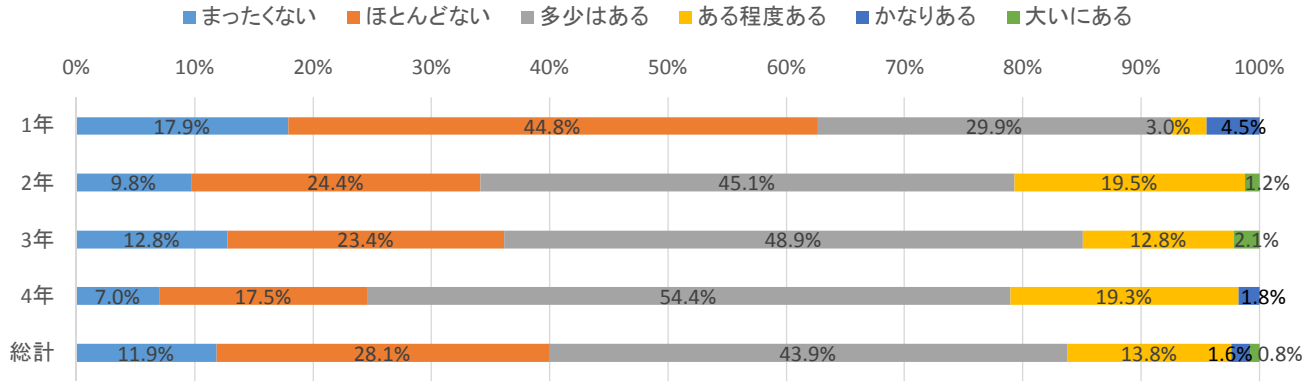
(12)専門分野の知識とは別に幅広い知識や教養がある。



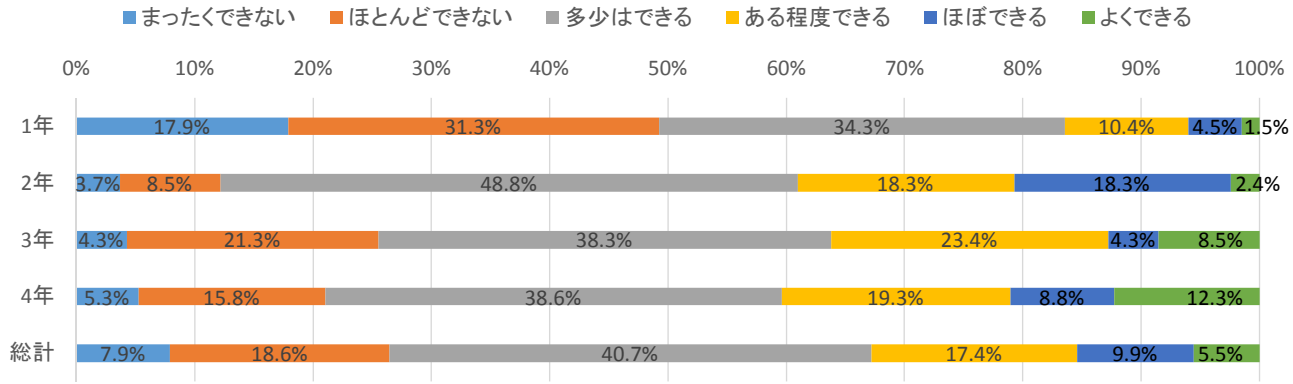
(13)レポートや論文作成に必要な情報収集のスキル(論文、文献、統計などの



(14)レポートや論文などを書くために必要なスキル(書式や作法など)がある。

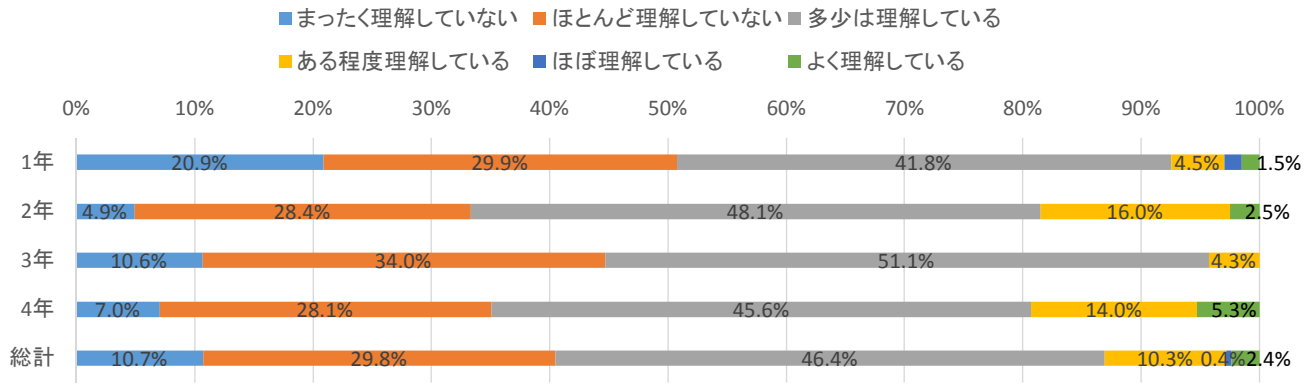


(15)ディスカッションの中で他者の意見をきちんと聞きながら自分の意見を述べ

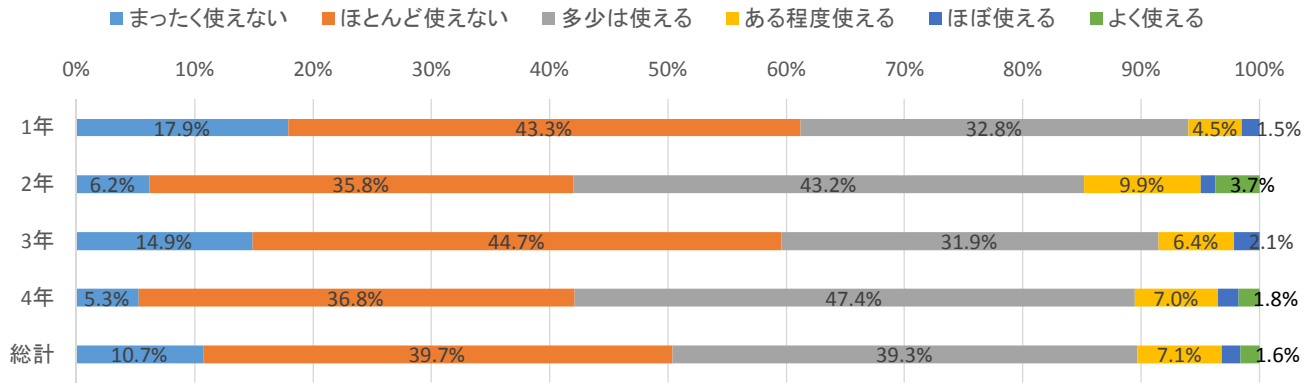


5. 専門知識・専門的スキルについて

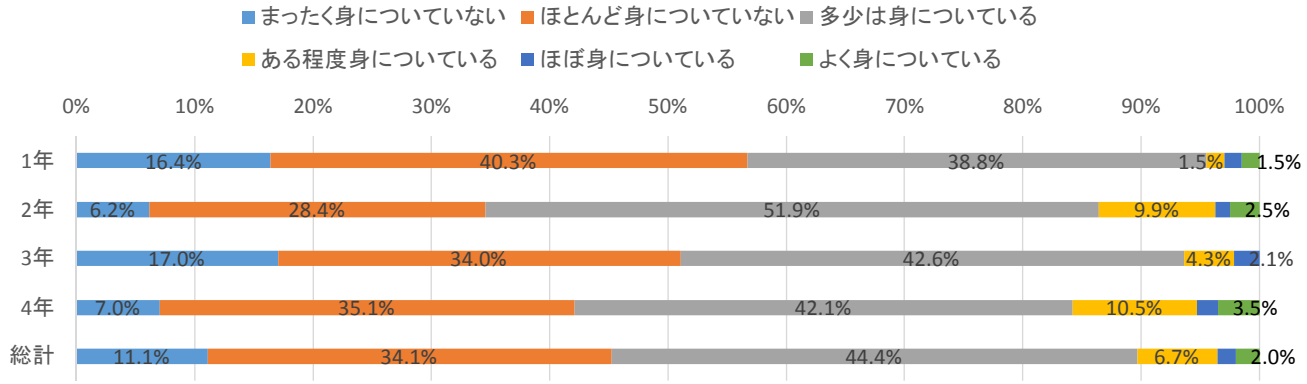
(16)専門知識を理解している。　（無効回答　2年：1　）



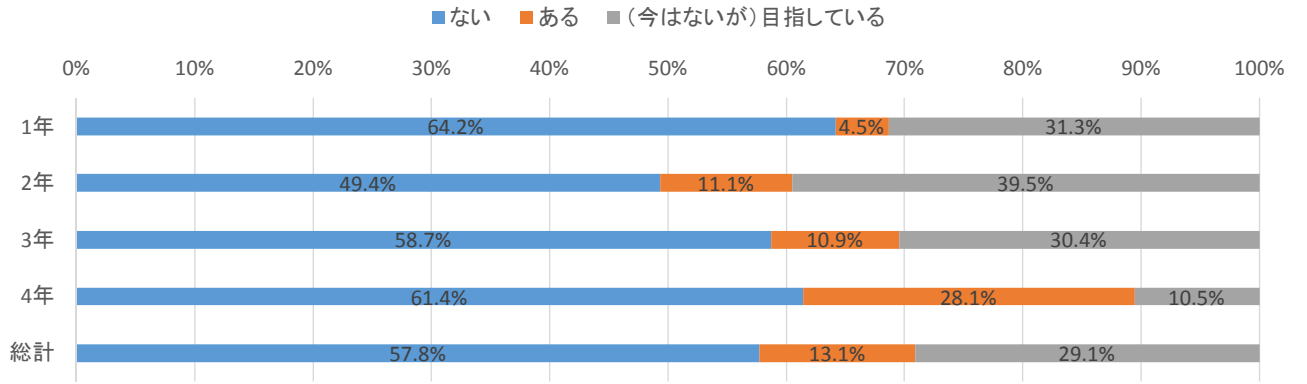
(17)専門知識を実際の場面で使うことができる。　（無効回答　2年：1　）



(18)専門的スキルが身についている。　（無効回答　2年：1　）

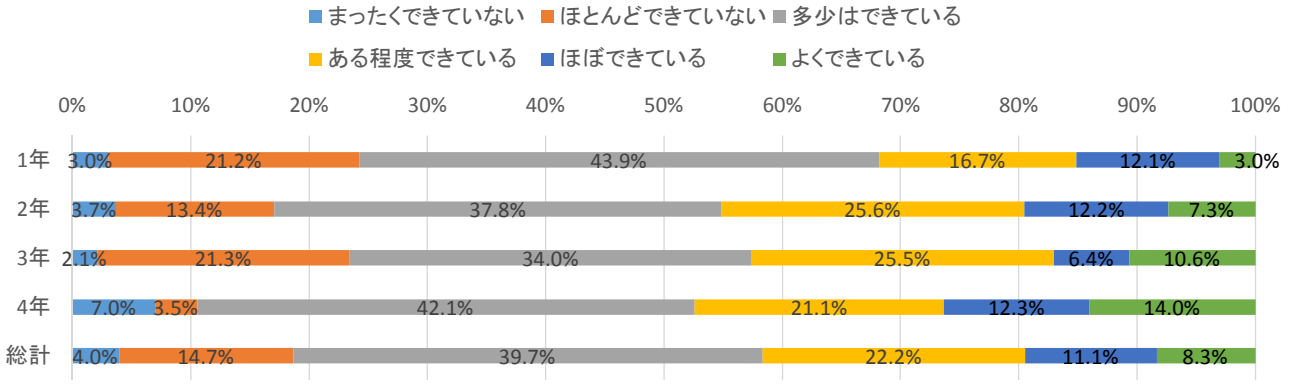


(19)大学入学後に取得した専門分野に関連する資格がありますか、あるいは検定試験で一定の点数を取ったことがありますか。　（無効回答　2年：1　3年：1　）

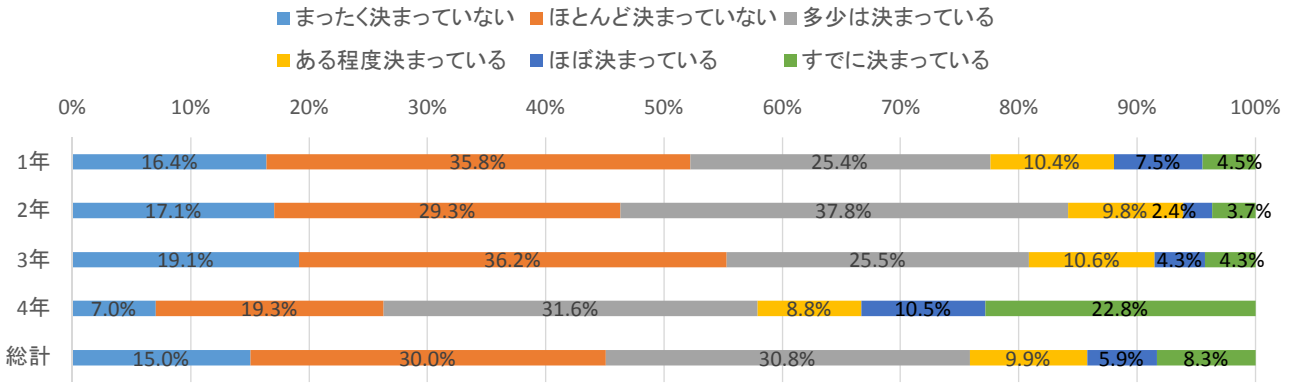


6. 社会で活躍するための力（キャリア教育、社会人基礎力）について

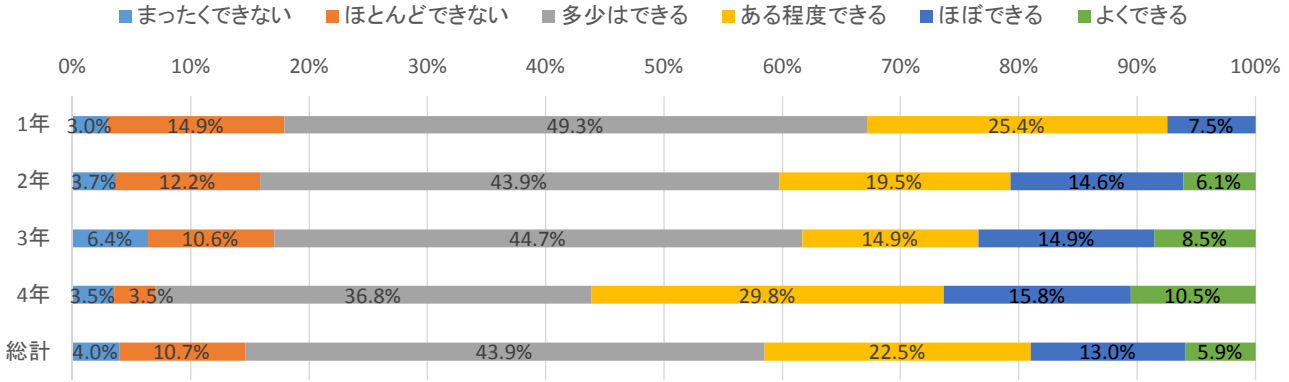
(20)「働く」とはどのようなことかイメージできている。　（無効回答　1年：1　）



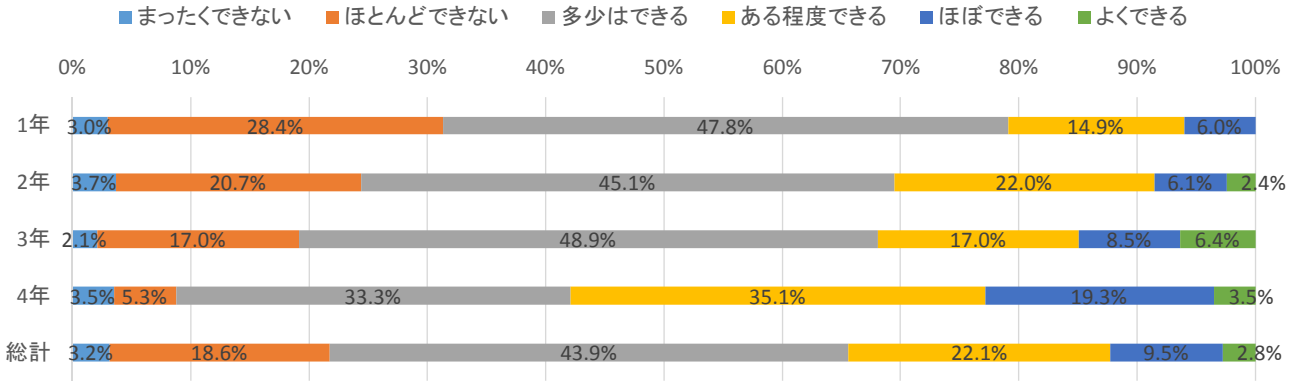
(21)将来の進路が決まっている。



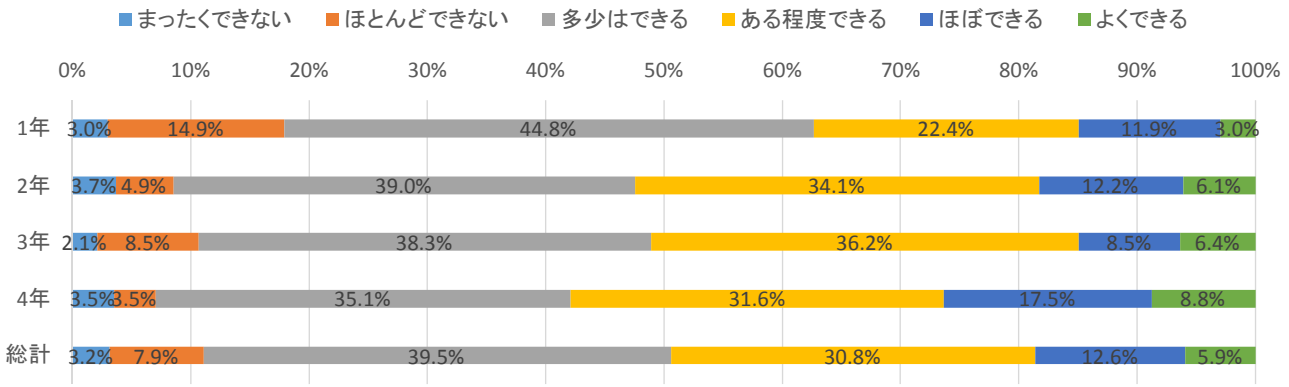
(22)自ら目標に向かってものごとに粘り強く取り組むことができる。



(23)課題を見つけ出しそれに対する最善の解決方法を考えることができる。



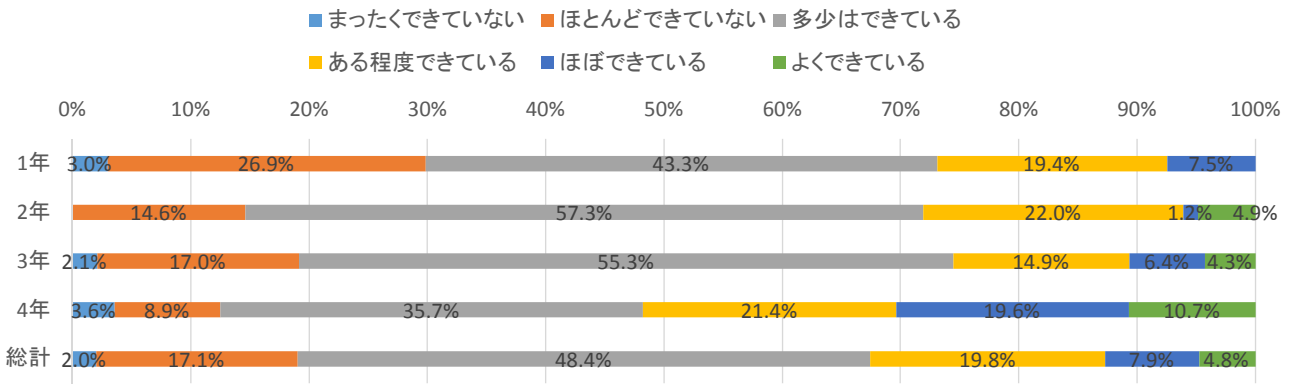
(24)さまざまな考えを持つ人々と意見を交換しながら力を合わせて働くことがで



7. 総合力について

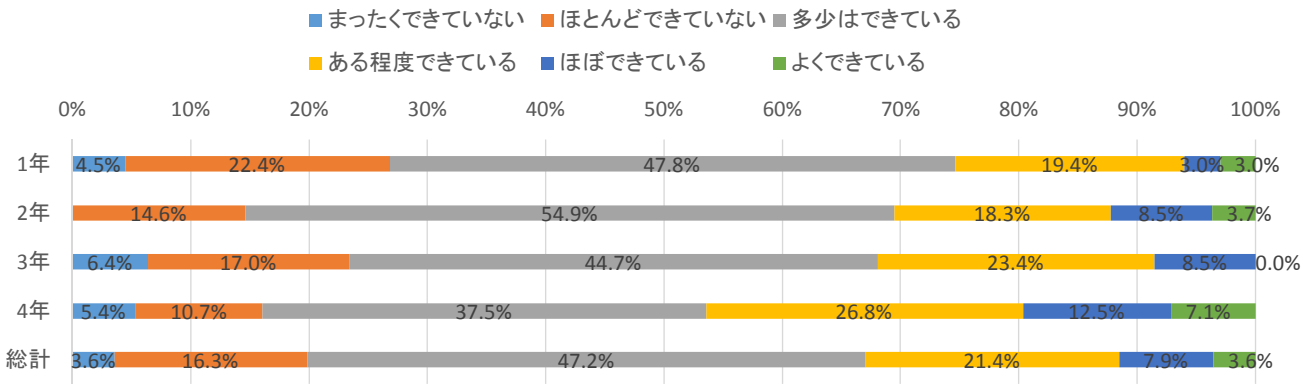
・上記の「2」～「6」の学びを通して、以下の力がどの程度身についていると思うかお答え下さい。

(25)自分自身の「ものの見方・考え方」をつくり上げることができた。 （無効回答　4年：1　）

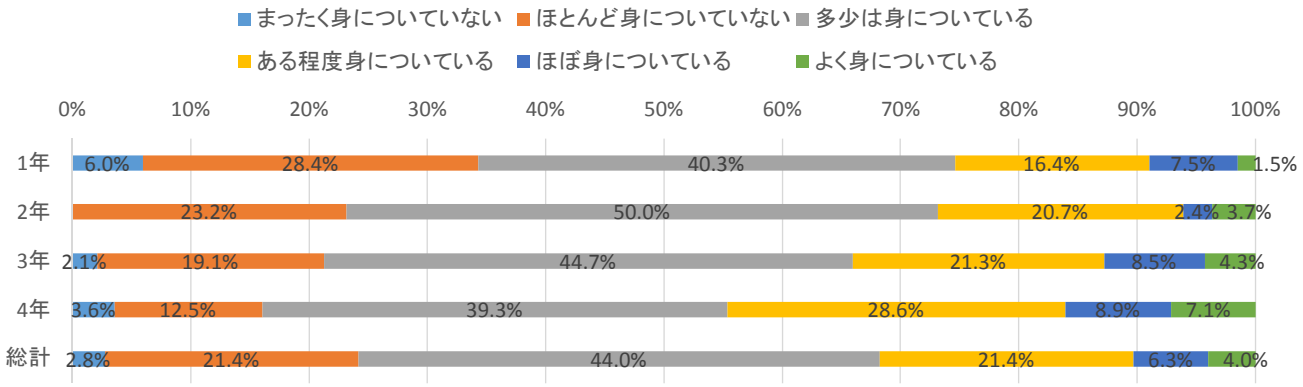


(26)自分の考えを文章や口頭で他者にきちんと説明することができるようになった。

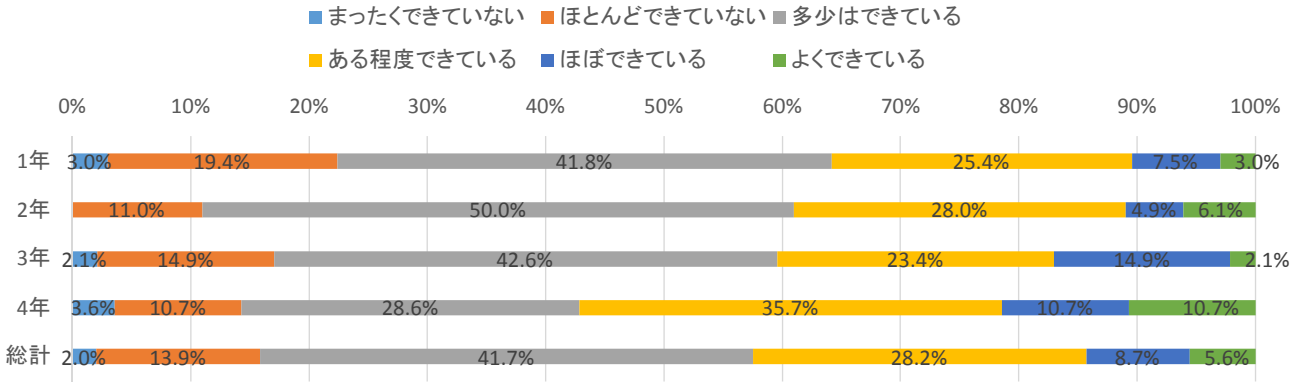
（無効回答　4年：1　）



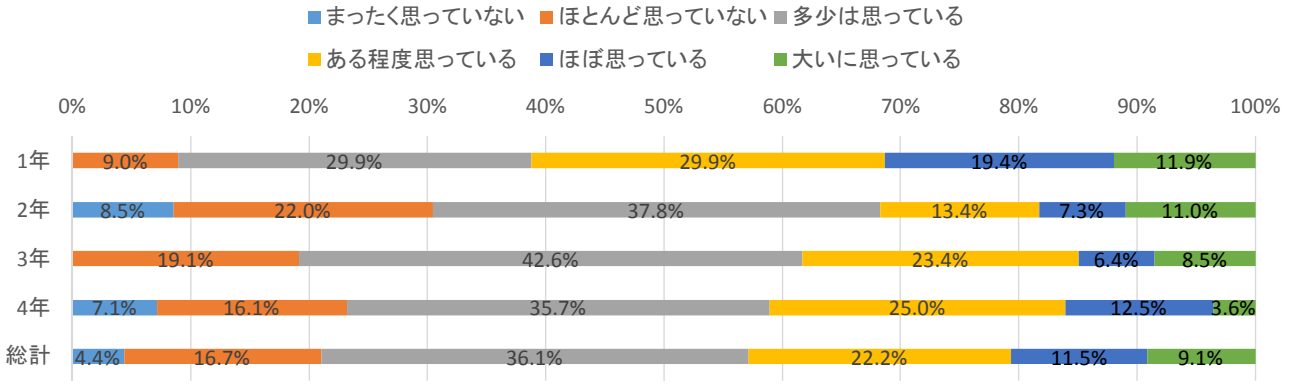
(27)社会に出て仕事や社会的活動を行うために必要な力を身につけることができた。　（無効回答　4年：1　）



(28)他者とコミュニケーションを図りながら相互理解を深めていくことができるようになった。　（無効回答　4年：1　）



(29)東京成徳大学に入学してよかったと思っていますか。　（無効回答　4年：1　）



Ⅲ　資料

1　アンケート票

学 修 調 査

本調査は、学生の学修行動と学修成果に関する実態を把握し、今後の教育の質向上に資する基礎資料を得ることを目的に行うものです。調査によって得られたデータはこの調査目的のみに使用するものであり、個人のデータを公表することはありません。

・担任またはゼミ担当教員名〔　　〕
・学籍番号〔　　〕
・氏名〔　　〕
・学科
①日本伝統文化学科　②国際言語文化学科　③観光文化学科　④福祉心理学科　⑤臨床心理学科
⑥健康・スポーツ心理学科　⑦子ども学科　⑧経営学科
・性別　①男性　②女性
・学年　①1 年　②2 年　③3 年　④4 年
・入試　①AO　②推薦・指定校推薦　③一般入試　④センター入試　⑤社会人・外国人入試　⑥編入

【学修行動調査】

1．あなた自身について
⑴学修環境
①実家で自分だけの部屋がある　②実家で自分だけの部屋はない　③アパートなどで一人暮らし
④シェアハウス・寮　⑤その他
⑵通学時間（家から大学まで）
①30 分未満　②30 分～60 分程度　③60 分～90 分程度　④90 分～120 分　⑤120 分以上
⑶ 1 週間あたりのアルバイト（時間）
①なし　②5 時間未満　③5 時間～10 時間　④10 時間～15 時間　⑤15 時間～20 時間　⑥20 時間～25 時間　⑦25 時間以上
⑷1 週間あたりの部活・サークル活動や学外のクラブなどの活動
①なし　②1 日～2 日　③3 日～4 日　④5 日～6 日　⑤7 日
⑸休日の過ごし方
①特に決まった予定はない　②主にアルバイト　③主に部活動　④主に研究・勉強　⑤主にデートや友人と外出

2．1 週間（平均的な）における大学内での学修について
⑹ 大学に何日登校しましたか
①0 日　②1 日～2 日　③3 日～4 日　④5 日～6 日　⑤7 日

(7) 授業に出席した割合は

①0～20%　②20～40%　③40～60%　④60～80%　⑤80～100%

(8) 興味のある授業の割合は

①0～20%　②20～40%　③40～60%　④60～80%　⑤80～100%

(9) 授業全体の難易度は

①非常に易しい　②やや易しい　③普通　④やや難しい　⑤非常に難しい

(10) 4 年間で卒業できる自信は

①0～20%　②20～40%　③40～60%　④60～80%　⑤80～100%

(11) 授業には積極的に取り組みましたか

①まったくできていない　②ほとんどできていない　③多少はできている　④ある程度できている

⑤ほぼできている　⑥よくできている

3．1 週間（平均的な）における教室外での学修時間について

(12) 先生に指示された授業の発表の準備、課題やレポート、宿題を 1 週間合計でどのくらいやりましたか

①やっていない　②90 分未満　③90 分～3 時間　④3～4 時間 30 分　⑤4 時間 30 分～6 時間　⑥6 時間以上

(13) 授業の予修を自発的に 1 週間合計でどのくらいやりましたか

①やっていない　②90 分未満　③90 分～3 時間　④3～4 時間 30 分　⑤4 時間 30 分～6 時間　⑥6 時間以上

(14) 授業のノートの整理や復修を自発的に 1 週間合計でどのくらいやりましたか

①やっていない　②90 分未満　③90 分～3 時間　④3～4 時間 30 分　⑤4 時間 30 分～6 時間　⑥6 時間以上

(15) 授業に関連する資料や本を探したり、調べたりすることを 1 週間合計でどのくらいやりましたか

①やっていない　②90 分未満　③90 分～3 時間　④3～4 時間 30 分　⑤4 時間 30 分～6 時間　⑥6 時間以上

4．授業以外の学修活動や普段の行動

(16) 大学外の図書館や美術館・博物館等の文化施設、研修会・講演会などへの参加、音楽会・コンサート、スポーツの大会などや、サークル活動や授業以外でのボランティア活動に

①いったことはない　②たまに行く　③時々行く　④よく行く

(17) 新聞を読んでいますか

①読まない　②たまに読む　③時々読む　④毎日読む

(18) 定期的に読んでいる雑誌、週刊誌は

①読まない　②漫画雑誌を読んでいる　③週刊誌を読んでいる　④専門誌を読んでいる

(19) インターネット（LINE やその他 SNS を含む）を 1 日にどのくらい使っていますか

①やっていない　②90 分未満　③90 分～3 時間　④3～4 時間 30 分　⑤4 時間 30 分～6 時間　⑥6 時間以上

(20) ゲーム（オンラインゲームを含む）を 1 日にどのくらいやっていますか

①やっていない　②90 分未満　③90 分～3 時間　④3～4 時間 30 分　⑤4 時間 30 分～6 時間　⑥6 時間以上

(21) 本をどのくらい読んでいますか

①読まない　②月に 2 冊以下　③月に 3～5 冊　④月に 6 冊以上

【学修成果調査】

1．教育理念について

⑴本学の教育の基本理念「共生とコミュニケーション」を知っていますか。

①まったく知らない　②ほとんど知らない　③多少は知っている　④ある程度知っている
⑤ほぼ知っている　⑥よく知っている

2．外国語能力について

⑵外国語の授業を選択していますか・いましたか。

①英語　②中国語　③韓国語　④選択していない

⑶読む力がある。

①まったくない　②ほとんどない　③多少はある　④ある程度ある　⑤ほぼある　⑥大いにある

⑷会話力（話す、聞く）がある。

①まったくない　②ほとんどない　③多少はある　④ある程度ある　⑤ほぼある　⑥大いにある

⑸書く力がある。

①まったくない　②ほとんどない　③多少はある　④ある程度ある　⑤ほぼある　⑥大いにある

⑹大学入学後に取得した語学の資格がありますか、あるいは検定試験で一定の点数を取ったことがありますか。

①ない　②ある　③（今はないが）目指している

※「②ある」を選んだ方は、取得した資格や検定試験の点数を教えて下さい。

例：英検準1級合格、TOEIC で 550 点など

3．ICT リテラシー（＝情報機器やインターネットを使う能力）について

⑺文章作成ソフト（Word など）を使って文章を作成することができる。

①まったくできない　②ほとんどできない　③多少はできる　④ある程度できる　⑤ほぼできる
⑥よくできる

⑻表計算ソフト（Excel など）を使って図表を作成することができる。

①まったくできない　②ほとんどできない　③多少はできる　④ある程度できる　⑤ほぼできる
⑥よくできる

⑼プレゼンテーションソフト（Power Point など）を使ってプレゼンテーション用の資料を作成することができる。

①まったくできない　②ほとんどできない　③多少はできる　④ある程度できる　⑤ほぼできる
⑥よくできる

⑽アプリケーションソフトを作成することができる。

①まったくできない　②ほとんどできない　③多少はできる　④ある程度できる　⑤ほぼできる
⑥よくできる

(11)大学入学後に取得したICT関連の資格がありますか、あるいは検定試験で一定の点数を取ったことがありますか。

①ない　②ある　③（今はないが）目指している

※「②ある」を選んだ方は、取得した資格や合格した検定の内容を教えて下さい。

例：日本語ワープロ検定試験２級合格、情報処理技能検定試験 表計算 ２級合格など

４．教養・基礎的スキルについて

(12)専門分野の知識とは別に幅広い知識や教養がある。

①まったくない　②ほとんどない　③多少はある　④ある程度ある　⑤かなりある　⑥大いにある

(13)レポートや論文作成に必要な情報収集のスキル（論文、文献、統計などの検索方法など）がある。

①まったくない　②ほとんどない　③多少はある　④ある程度ある　⑤かなりある　⑥大いにある

(14)レポートや論文などを書くために必要なスキル（書式や作法など）がある。

①まったくない　②ほとんどない　③多少はある　④ある程度ある　⑤かなりある　⑥大いにある

(15)ディスカッションの中で他者の意見をきちんと聞きながら自分の意見を述べることができる。

①まったくできない　②ほとんどできない　③多少はできる　④ある程度できる　⑤ほぼできる

⑥よくできる

５．専門知識・専門的スキルについて

(16)専門知識を理解している。

①まったく理解していない　②ほとんど理解していない　③多少は理解している　④ある程度理解している

⑤ほぼ理解している　⑥よく理解している

(17)専門知識を実際の場面で使うことができる。

①まったく使えない　②ほとんど使えない　③多少は使える　④ある程度使える　⑤ほぼ使える

⑥よく使える

(18)専門的スキルが身についている。

①まったく身についていない　②ほとんど身についていない　③多少は身についている

④ある程度身についている　⑤ほぼ身についている　⑥よく身についている

(19)大学入学後に取得した専門分野に関連する資格がありますか、あるいは検定試験で一定の点数を取ったことがありますか。

①ない　②ある　③（今はないが）目指している

※「②ある」を選んだ方は、取得した資格や合格した検定の内容を教えて下さい。

例：日本語ワープロ検定試験２級合格、情報処理技能検定試験 表計算 ２級合格など

６．社会で活躍するための力（キャリア教育、社会人基礎力）について

(20)「働く」とはどのようなことかイメージできている。

①まったくできていない　②ほとんどできていない　③多少はできている　④ある程度できている

⑤ほぼできている　⑥よくできている

(21)将来の進路が決まっている。

①まったく決まっていない　②ほとんど決まっていない　③多少は決まっている　④ある程度決まっている
⑤ほぼ決まっている　⑥すでに決まっている

(22)自ら目標に向かってものごとに粘り強く取り組むことができる。

①まったくできない　②ほとんどできない　③多少はできる　④ある程度できる　⑤ほぼできる　⑥よくできる

(23)課題を見つけ出しそれに対する最善の解決方法を考えることができる。

①まったくできない　②ほとんどできない　③多少はできる　④ある程度できる　⑤ほぼできる　⑥よくできる

(24)さまざまな考えを持つ人々と意見を交換しながら力を合わせて働くことができる。

①まったくできない　②ほとんどできない　③多少はできる　④ある程度できる　⑤ほぼできる　⑥よくできる

7．総合力について

・上記の「2」～「6」の学びを通して、以下の力がどの程度身についていると思うかお答え下さい。

(25)自分自身の「ものの見方・考え方」をつくり上げることができた。

①まったくできていない　②ほとんどできていない　③多少はできている　④ある程度できている
⑤ほぼできている　⑥よくできている

(26)自分の考えを文章や口頭で他者にきちんと説明することができるようになった。

①まったくできていない　②ほとんどできていない　③多少はできている　④ある程度できている
⑤ほぼできている　⑥よくできている

(27)社会に出て仕事や社会的活動を行うために必要な力を身につけることができた。

①まったく身についていない　②ほとんど身についていない　③多少は身についている
④ある程度身についている　⑤ほぼ身についている　⑥よく身についている

(28)他者とコミュニケーションを図りながら相互理解を深めていくことができるようになった。

①まったくできていない　②ほとんどできていない　③多少はできている　④ある程度できている
⑤ほぼできている　⑥よくできている

(29)東京成徳大学に入学してよかったと思っていますか。

①まったく思っていない　②ほとんど思っていない　③多少は思っている　④ある程度思っている
⑤ほぼ思っている　⑥大いに思っている

・アンケートに答えてみて、自分の学修活動について気づいたこと、考えたことを自由に記述して下さい。

2　回答用紙

担任またはゼミ担当教員名	
学籍番号	⓪ ①
	⓪ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
	Ⓑ Ⓒ Ⓗ Ⓘ Ⓙ Ⓚ Ⓣ Ⓦ ⑤ ⑧
	⓪ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
	⓪ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
	⓪ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
氏 名	
学 科	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧
性 別	① ②
学 年	① ② ③ ④
入 試	① ② ③ ④ ⑤ ⑥

【学修行動調査】

1．あなた自身について	
(1)	① ② ③ ④ ⑤
(2)	① ② ③ ④ ⑤
(3)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦
(4)	① ② ③ ④ ⑤
(5)	① ② ③ ④ ⑤
2．大学内での学修について	
(6)	① ② ③ ④ ⑤
(7)	① ② ③ ④ ⑤
(8)	① ② ③ ④ ⑤
(9)	① ② ③ ④ ⑤
(10)	① ② ③ ④ ⑤
(11)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
3．教室外での学修時間について	
(12)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
(13)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
(14)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
(15)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
4．授業以外の学修活動や普段の行動	
(16)	① ② ③ ④
(17)	① ② ③ ④
(18)	① ② ③ ④
(19)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
(20)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
(21)	① ② ③ ④

【学修成果調査】

1．教育理念について	
(1)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
2．外国語能力について	
(2)	① ② ③ ④
(3)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
(4)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
(5)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
(6)	① ② ③ ※②の人は裏面も記入
3．ICT リテラシーについて	
(7)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
(8)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
(9)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
(10)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
(11)	① ② ③ ※②の人は裏面も記入
4．教養・基礎的スキルについて	
(12)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
(13)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
(14)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
(15)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
5．専門知識・専門的スキルについて	
(16)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
(17)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
(18)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
(19)	① ② ③ ※②の人は裏面も記入
6．社会で活躍するための力について	
(20)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
(21)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
(22)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
(23)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
(24)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
7．総合力について	
(25)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
(26)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
(27)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
(28)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
(29)	① ② ③ ④ ⑤ ⑥
※　裏面の自由記述欄に記述してください	

【学修成果調査】

(6)で②を回答した方：　取得した資格や検定試験の点数を教えて下さい。 例：英検準1級合格、TOEICで550点など
(11)で②を回答した方：　取得した資格や合格した検定の内容を教えて下さい。 例：日本語ワープロ検定試験2級合格、情報処理技能検定試験 表計算 2級合格など
(19)で②を回答した方：　取得した資格や合格した検定の内容を教えて下さい。 例：日本語ワープロ検定試験2級合格、情報処理技能検定試験 表計算 2級合格など

アンケートに答えてみて、自分の学修活動について気づいたこと、考えたことを自由に記述して下さい。

3　回収状況

学部・学科	1年生			2年生		
	回収数	在籍者数	回収率	回収数	在籍者数	回収率
人文学部	38	50	76.0%	44	48	91.7%
日本伝統文化学科	19	26	73.1%	23	23	100.0%
国際言語文化学科	19	24	79.2%	21	25	84.0%
観光文化学科	－	－	－	－	－	－
応用心理学部	159	178	89.3%	95	115	82.6%
福祉心理学科	22	24	91.7%	19	21	90.5%
臨床心理学科	69	83	83.1%	38	50	76.0%
健康・スポーツ心理学科	68	71	95.8%	38	44	86.4%
子ども学部　子ども学科	117	152	77.0%	131	139	94.2%
経営学部　経営学科	67	95	70.5%	81	101	80.2%
計	381	475	80.2%	351	403	87.1%

学部・学科	3年生			4年生		
	回収数	在籍者数	回収率	回収数	在籍者数	回収率
人文学部	26	32	81.3%	38	54	70.4%
日本伝統文化学科	17	20	85.0%	18	26	69.2%
国際言語文化学科	9	12	75.0%	14	18	77.8%
観光文化学科	－	－	－	6	10	60.0%
応用心理学部	110	141	78.0%	131	182	72.0%
福祉心理学科	20	22	90.9%	34	42	81.0%
臨床心理学科	48	61	78.7%	42	70	60.0%
健康・スポーツ心理学科	42	58	72.4%	55	70	78.6%
子ども学部　子ども学科	120	143	83.9%	108	141	76.6%
経営学部　経営学科	48	59	81.4%	57	89	64.0%
計	304	375	81.1%	334	466	71.7%

学部・学科	合計		
	回収数	在籍者数	回収率
人文学部	146	184	79.3%
日本伝統文化学科	77	95	81.1%
国際言語文化学科	63	79	79.7%
観光文化学科	6	10	60.0%
応用心理学部	495	616	80.4%
福祉心理学科	95	109	87.2%
臨床心理学科	197	264	74.6%
健康・スポーツ心理学科	203	243	83.5%
子ども学部　子ども学科	476	575	82.8%
経営学部　経営学科	253	344	73.5%
計	1370	1719	79.7%